

妖怪学参考図書解題

山内 瑛一編

凡 例

一、この解題は井上円了の妖怪学関係の図書等を対象とした。

一、配列は書名等の五十音順とし、その書名等のつぎに以下の項目をあげた。読み・巻冊数・著編訳者名(生没年・肩書き・異称)・別書名(角書を含む)・成立年・版本刊行年・内容・複製本・活字本・国訳本・所蔵機関名・参照。

一、項目は以下の略号を用いた。(著)著・編者名、(訳)訳者名、(別)別書名、(成)成立年、(版)版本刊行年、(内)内容、(複)複製本、(活)活字本、(訳)国訳本、(蔵)所蔵機関名、↓参照。

一、書名とその読みはゴシック体で示し、著・編・訳者名には生没年を括弧でくくり、不明の場合は括弧内に未詳と記した。また、確認できなかった図書も書名をあげた。

一、訳者名は漢訳仏典の場合にのみ示し、また国訳本をあげた。一部図書で国訳本を示したものもある。

一、記述は明治以前の国書の記述方法(前記項目)を基本としたが、明治以降の図書等および漢籍については必ずしも同一の方法をとらなかった。

一、活字本がない場合は版本等の所蔵機関名をあげた。所蔵機関名は、井上円了の旧蔵書である「哲学堂文庫」(東洋大学附属図書館所蔵)にある場合は哲学堂文庫と記し、ない場合には他の所蔵機関名をあげた。

一、この解題作成にあたっては左記の図書を参照した。
国書解題(六台館、大正一五年)・国書人名辞典(岩波書店、一九九三—一九九九年)・国書総目録(岩波書店、一九八九—一九〇〇)・史籍解題辞典(東京堂出版、昭和六〇—六一年)・禅学大辞典(新版、大修館書店、一九八五年)・大漢和辞典(大修館書店、昭和三四年)・大蔵経全解説大事典(雄山閣出版、平成一〇年)・中国学芸大事典(大修館書店、昭和五三年)・中国史籍解題辞典(燎原書店、一九八九年)・中国人名事典(日外アソシエーツ、一九九三年)・中国思想辞典(研文出版、一九八四年)・中国仏教史辞典(東京堂出版、昭和五六年)・日本古典文学大辞典(岩波書店、一九八三—八五年)・日本思想史文献解題(角川書店、昭和四〇年)・日本随筆辞典(東京書籍、昭和六一年)・日本仏教人名辞典(法蔵館、一九九二年)・日本仏教典籍大事典(雄山閣出版、昭和六一年)・仏書解説大辞典(大東出版社、昭和四〇—四二年)・仏典解題事典(春秋社、一九七七年)等。(書名の五十音順)

(あ)

撞囊鈔 あいのうししょう 七巻(刊本は一五卷一五冊)。(註)行譽(未詳)室町時代の真言宗の僧。(註)一般的な問題を扱う「素問巻一」巻四が文安二(一四四五年)、仏教に関する問題を扱う「緇問」巻五―巻七が翌三(一四四六年)。(註)正保三(一六四六年)。(註)類書。事物の起源・語源・語義・仏教など、僧俗にかかわる事柄を五三六項目にわたり、多くの和漢の古典からの引用によって説明し、考証したもの。良胤(号は大円)著といわれる『塵袋』に書名および内容の範をとっている。のち天文元(一五三二年)、『塵袋』と『撞囊鈔』の二書の重複部分などを取捨選択して、『塵添撞囊鈔』(编者未詳)が成立し、『撞囊鈔』といえはこれを指すようになった。(註)『撞囊鈔』慶長一六年写。「原装影印版」増補古辞書叢刊「本」雄松堂、一九七八年。『塵添撞囊鈔・撞囊鈔』正保三年版、臨川、一九六八年。(註)『撞囊鈔』現代思潮社、一九七七年。これは昭和一年の『日本古典全集』の複製本。

青森新報 あおもりしんぼう 日刊。青森、青森新報社。明治三三(一九〇〇)年創刊。

赤星そうし あかほしそうし 三冊。(註)秋里離島(？)一八三〇(？)年(江戸後期の読本作者・俳人。姓は池田、名は舜福)字は湘夕、秋里離島は号、別号は離島軒。(註)『文化七(一八一〇)年』。(註)豊前沢田村奇談、平家蟹、大宰府の奇梅など、九州旅行中の見聞談二〇話を集めたもの。(註)哲学堂文庫。

曙新聞 あけぼのしんぶん ↓ 東京曙新聞 とうきょうあけぼのしんぶん

阿含経 あこんぎょう (註)ブッダ入滅後から紀元前一世紀ころまでに完成。(註)最古の原始仏教経典。ブッダの直接の説法を多く含んだ経蔵の総称で、パーリ語で書かれた南方仏教所伝の五部(長部・中部・相应部・増支部・小部)の経蔵と、北方仏教所伝の漢訳されて伝えられた四阿含(長阿含経・中阿含経・雜阿含経・増一阿含経)の二種が数えられる。両者は内容的に多く共通している。(註)『大正新脩大藏経』一(一・二六・九九・一二五)。(註)『国訳一切経』阿含部七・四一六・一〇三・八一〇。

東鑑 あずまかがみ ↓ 吾妻鏡 あずまかがみ

吾妻鏡 あずまかがみ 五二巻五一冊(北条本・島津本)または四七巻四七冊(吉川本)。(註)未詳。(註)『東鑑』。(註)鎌倉時代。(註)古活字版、慶長一〇(一六〇五年)。(註)歴史書。治承四(一一八〇)年の源頼政の挙兵から、文永三(一二六六年)年に六代將軍宗尊親王が辞任して京都に戻るまでの鎌倉幕府の歴史を、和風漢文をもって編年体で記述したもの。(註)『振り仮名つき吾妻鏡』寛永本、汲古書院、一九七六年。(註)『新訂増補国史大系』三二―三三、『吉川本吾妻鏡』(国書刊行会、一九二三年)、『全訳吾妻鏡』(人物往来社、一九七六―七七年)

愛宕宮筒 あたごみやげ 三巻四冊。(註)未詳。(註)『あたごみやげ』、『愛宕土産』。(註)元禄二(一一六九九)年。(註)愛宕参詣に託して火の用心のことについて述べ、戒めとしたもの。

熱海温泉記 あたまおんせんき 未詳。

熱海志 あたまし 一冊。○菊岡沾涼(一六八〇—一七四七年)江戸中期の著述家・俳人。名は光行、別号は南仙・独南齋など。○延享元(一七四四)年奥書。○内地誌。

アナーレン・デル・フィジーク・ウント・ケミー

Annalen der Physik und Chemie: ○内物理学と化学の年報。

阿難七夢経 あなんしちむきょう 一卷。○曇無蘭(未詳)東晋代の訳経僧。○『七夢経』。○内阿難の見た七つの悪夢を仏が解釈し、未来の悪世の相を示したものとした。○『大正新脩大藏経』二四(四九四)

アネロイド晴雨計詳説及用法

あねろいどせいいうけいし ようせつおよびようほう ○英国気象協会。水路部訳・刊、明治二五(一八九二年)、三二頁。付録として天気予知法が添付されている。

阿毘達磨俱舍論 あびだつまくしやろん 三〇巻。○世親(ヴァスバンドウ、五世紀ごろ)インドの仏教思想家。○玄奘(六〇二—六六四年)唐代の大翻訳家。○『対法論』、『聡明論』、『俱舍論』。○五世紀ごろ。○内阿毘達磨大毘婆沙論の

教理を整理して組織的・批評的に編成したもので、界・根・世間・業・随眠・賢聖・智・定の八品から成り、それに付録的な破我品がつき九章で構成されている。○『大正新脩大藏経』二九(二五五八)。

阿毘達磨俱舍論本頌 あびだつまくしやろんほんじゆ 一

卷。○世親(ヴァスバンドウ、五世紀ごろ)インドの仏教思想

家。○玄奘(六〇二—六六四年)唐代の大翻訳家。○『俱舍論本頌』、『俱舍論頌』、『俱舍頌』。○内阿毘達磨俱舍論の偈文の部分のみを集めたもの。○『大正新脩大藏経』二九(一五六〇)

阿毘達磨順正理論 あびだつまじゆんしやうりろん 八〇

卷。○衆賢(サンガバドラ、未詳)インドの説一切有部正統派の論師。○玄奘(六〇二—六六四年)唐代の大翻訳家。○『俱舍論』、『隨実論』、『順正理論』、『正理論』。○説一切有部の法相を詳説したもの。○『大正新脩大藏経』二九(一五六二)。

○『国訳一切経』毘曇部二七—三〇。

阿毘達磨大毘婆沙論 あびだつまだいびばしやろん 二〇

〇巻。○玄奘(六〇二—六六四年)唐代の大翻訳家。○二世紀ごろ。○説一切有部発智大毘婆沙論、『大毘婆沙論』、『婆沙論』。○内部派仏教の説一切有部の根本書である『發智論』の詳細な逐語訳の注解書。説一切有部の教学の集大成であるとともに、当時のインド思想界の百科全書的な性格をもつ論書。○『大正新脩大藏経』二七(一五四五)、『大日本校訂大藏経』四二—四三。○『国訳一切経』毘曇部七一—七七。

阿毘曇 あびどん ↓ 阿毘達磨大毘婆沙論 あびだつま

だいびばしやろん

安倍晴明物語 あべのせいめいものがたり 六巻七冊。○未詳。○『清明物語』、『安倍晴明記』。○寛文二(一六六二年)。

○内卷一—卷三は一代記と題簽に副題が記され、卷四、天文の巻、卷五、日取の巻、卷六(上・下)、人相の巻とあり、

各題簽の副題にそれぞれ秘伝と書かれている。卷一―卷三は二一話、卷四は一〇話、卷五は三七話、卷六は二三話(上と一四話(下)から成っている。なお、作者は浅井了意ともいう。㊟『仮名草子集成』一。

阿弥陀経 あみだきょう ↓ 仏説阿弥陀経 ぶつせつあみだきょう

安斎随筆 あんさいずいひつ 三〇卷三〇冊。㊟伊勢貞丈(二七一七―一八四年)江戸中期の故実家。号は安斎、俗に貞丈ぢょうたけという。㊟『安斎雜記』、『伊勢貞丈隨筆』、『安斎筆記』。

㊟江戸中期。㊟有職故実に関連する書籍類から雑多に項目を掲げて抄出し、批判や感想を記したもので、三二六項目から成る。貞丈の没後、門弟らが遺稿を整理して編集したものの。㊟『新訂増補 故実叢書』八一―九。

安斎漫筆 あんさいまんびつ ㊟伊勢貞丈(二七一七―一八四年)江戸中期の故実家。号は安斎、俗に貞史ていしという。㊟考証・雜記。㊟国立公文書館内閣文庫(写本)

晏子春秋 あんししゆんじゆう 八卷。㊟晏嬰(？―前五〇〇年)春秋末期の斉の政治家。字は平仲。晏子と称される。

㊟『晏子』。㊟晏嬰の言行を後人が録したもので、内編六、外編の八編から成り、二一五の説話を収めている。晏嬰が斉の靈公・莊公・景公の三君につかえて、君を諫め、民を治めたことなどを記している。

安政雜書万曆大成 あんせいざっしよばんれききたいせい ↓ 大雜書 おおざっしよ

安樂集 あんらくしゆう 二卷。㊟道緯(五六二―一六四五年)隋・唐代の僧。㊟『隋末唐初(六〇八―六四五年)』。㊟多くの仏教経典を引用して、『観無量寿経』の念仏思想を明らかにしようとしたもので、仏教を聖道門と浄土門に分け、末法の世における念仏の教えの正当性を主張している。この主張は弟子善導ぜんどうによって大成されて、日本浄土教に大きな影響を与えた。㊟『大正新脩大藏経』四七(一九五八)、『浄土宗全書』一。㊟『国訳一切経』諸宗部五。

[3]

云波草 いえはぐさ 五冊。㊟田中元陳(未詳)。㊟『いへは草』、『いえはぐさ』。㊟享保二〇(一七三五年)。㊟元文二(一七三七)年。㊟天地神明のことから人事百般にわたり、感じたことを教訓的に論じたもの。㊟国立国会図書館。

異苑 いえん 一〇卷。㊟劉敬叔(？―四六五または四七一年)六朝時代宋の文学者。㊟怪異な話を集めた志怪小説。三八〇余条から成る。㊟『学津討原』一六、『津逮秘書』一一、『說郛』一一七。

医学正伝 いがくしやうでん 八卷。㊟虞搏(未詳)。㊟朱震亨の医説の精髓を、張仲景・李杲などの説を参照して五二項目の問答形式で論述したもの。

伊香保温泉遊覧記 いかほおんせんゆうらんき 一冊。㊟編・正田治兵(未詳)。改正舎、明治二二(一八八九)年、二六頁。㊟紀行。

異魚図贊 いぎよずさん ①楊慎(二四八八一—一五五九年)明の学者・文学者。字は用修、号は升庵。②魚の図三卷計八七種、贊をなすもの八六首。海錯疏一卷計三五種、贊をなすもの三〇首を付している。

威儀略述 いぎりやくじゆつ 一冊。①祐海(未詳)。②享保一九(一七三四)年。③宝暦四(一七五四)年。④仏教。威儀・巡堂・旋遶・拝像・入門・出行・盛香・滅灯・著衣・献供・飯食・礼拝・合掌・問訊・曲躬・焼香・衣鉢・道場の八項について僧の威儀を述べたもの。⑤哲学堂文庫。

遺契 いけい 一三卷五冊。①服部南郭(一六八三—一七五九年)江戸中期の儒学者・漢詩人。名は元喬、字は子遷、別号は芙蓉館など。②『南郭随筆 遺契』、『南郭先生遺契』。③辞書。④国立国会図書館(写本)

夷堅志 いけんし 現存五〇卷。①洪邁(一一二三—一二〇二年)南宋の学者。字は景盧、号は容齋、諡は文敏。②神仙怪異の諸事を雑録したもの。書名を列子の「夷堅聞」而志之の語からとっている。③『新校輯補 夷堅志』(民国一六)医心方 いしんほう 三〇卷三〇冊。①丹波康賴(九一二—九九五年)平安中期の医家。②永観二(九八四)年。③安政元(一八五四)年。④中国の本草書や医書をもとに編述された、

現存する日本最古の医業総合事典。⑤『医心方』(仁和寺本、卷一・五・七・九・一〇)、荻野仲三郎、昭和一〇年。成實堂本、卷二二、昭和一二一年)。⑥『日本医学叢書』二、『日本古典全集』五期。

願生輯要 いせいしゆうよう 五卷。①貝原益軒(一六三〇—一七二四年)江戸前期の儒学者・本草家・教育思想家。名は篤信、字は子誠、別号は損軒。②『益軒先生養生論』、『養生論』。③正徳元(一七一一年)。④正徳四(一七一四年)。⑤保命長寿に関する事柄を諸書中より抄録し、その数百項におよぶものを、さらに一二門に分類した衛生保養のための書。

⑥『益軒全集』七。

伊勢鎮座記 いせちんざき 未詳。

伊勢万筆 いせまんびつ 五卷五冊。①伊勢貞丈(一七一七—一八四四年)江戸中期の故実家。号は安齋、俗に貞丈という。②有職故実。③国立公文書館内閣文庫(写本)

伊勢物語 いせものがたり ①未詳。②未詳。③慶長一三(一六〇八)年古活字版、寛永六(一六二九)年。④色好みの男を主人公にした歌物語。⑤『伊勢物語』(三条西家本、昭和二四年。伝東常縁筆武田本、昭和三四年)、『古典保存会』三期・四期、『古文学秘籍叢刊』、『続扶桑珠宝』。⑥『群書類従』物語、『校註国文叢書』六、『校註日本文学叢書』一〇、『校註日本文学大系』二、『古典文庫』(冷泉為和筆本、谷森本)、『日本古典全集』(伝一条兼良自筆本)、『日本古典文学大系』九、『日本文学全書』。

異端弁正 いたんべんせい 三卷。①詹陵(未詳)。字は雪厓。②嘉靖四(一五二五)年。③寛永二(一六四四)年。④各項目ごとに儒説を掲げて説明し、儒学の立場から、虚無や安易な悟りを説く老莊楊墨の説および釈氏の説を異端とし、と

くに教外別伝を説く禪を異端として排斥している。⑧哲学堂文庫。

一言集 いちごんしゅう→勇士物語 ゆうしものがり
一言雑筆 いちごんざうひつ 三卷三冊。⑨末詳。⑩童訓
心目一言雑筆。⑪⑫正徳元(一七一)年。⑬卷上「天地人仏
神一体同性一心のこと」など二二条、卷中「阿字伊字前後のこ
と」「亡魂子産のこと」など二〇条、卷下「心の色葉意趣利益の
こと」など二二条から成り、いろは歌にたくして仏教の教え
の心髄を述べている。⑭哲学堂文庫。

一条摂政御集 いちじょうせつしやうぎよしゆう 一冊。
⑮藤原伊尹(九二四—九七二年)平安中期の公家・歌人。伊
尹は名、「これただ」とも読む。三河公・一条摂政と称す。諡
は謙徳公。⑯「一条摂政集」、『豊景豊陰謙徳公集』。⑰歌集。
三部構成から成る家集。⑱「一条摂政御集」(尚古会、昭和一
二年)、「一条摂政御集」(松かげ会、昭和三三年)。⑲「王朝文
学」二〇、「国文学論攷」昭和九年、「私家集大成」中古一。

一葉抄 いちようしやう 一〇冊。⑳藤原正存(未詳)。㉑
『源氏物語一葉抄』、『源氏一葉』。㉒明応四(一四九五年)。㉓
『源氏物語』の注釈書。㉔『翻刻平安文学資料稿』第一期、『源
氏物語古注集成』九。

一話一言 いちわいちげん ⑳大田南畝(一七四九—一八二
三年)江戸中・後期の狂歌師・戯作者・幕臣。名は覃、別号
は蜀山人・四方赤良など。㉕安永四(一七七五年)ころから
文政五(一八二二)年ころまでの約五〇年間の筆録。㉖随筆。

学問や芸術、歴史、江戸の生活などの風俗、天災・巷談など
の時事に関するもの、および自身の行動記録など、森羅万象
にわたる関心事を雑多に記録したもの。㉗大田南畝全集「二
二—二六」、「蜀山人全集」四—五、「日本随筆大成」新版別巻一
—六(旧版一期別巻)

厳島宮路の枝折 いつくしまみやじのしおり 一冊。⑳
編・村田良穂(未詳)。広島、松村善介刊、明治一一(一八七
八)年、和二九丁。

逸周書 いっしゅうしやう 一〇巻。㉘末詳。㉙汲冢周
書。㉚周の時代の詔誓号令を録したもの。㉛漢魏叢書二
七—二八、「古今逸史」一四、「四部叢刊」二五二、「玉函山房
輯佚書」八〇。

一宵話 いっしやうわ→一宵話 ひとよばなし
遺伝論 いでんろん 一冊。㉜T. A. リボー (Ribot, T. A.
一八三九—一九一六年)フランスの心理学者・精神病理学
者・哲学者。㉝医学。[原書] *Lehrbuch*, 1873.

医道便易 いどうべんい ㉞平沢常知(未詳)。㉟「医学便易
大成」佐原村(千葉県)、正文堂、明治一四(一八八一年)、
和二冊(乾六〇、坤四五丁)

稻荷神社記秘訣 いなりじんじやくひけつ 一冊。㊱羽倉
広満(未詳)江戸前期の神職。広満は名。㊲神道家の憶断によ
って、稻荷の名義、神祭のこと、および狐神とが混合したこ
となどを論じている。㊳宮書(池底叢書一、写本)
稻荷神社考 いなりじんじやく 二冊。㊴前田夏蔭(一七

九三一—一八六四年)江戸後期の国学者。④(天保七(一八三六)年。⑤(建社原始、神名釈義並神像、神位次第など八項に分けて、稻荷神社に関する詳細な考証をなしたもの。⑥(国立国会図書館。

狗張子 いぬはりこ 七冊。⑦(浅井了意(一六一二—一七〇一年)江戸前期の僧・仮名草子作者。了意は法号、別号は瓢水子・松雲など。⑧(『狗波利子』、『犬はりこ』。⑨(元禄元(一六八八)年ころ。⑩(元禄五(一六九二)年。⑪(『剪刀余話』を中心に唐代の異聞・怪談を集めて翻案したもの。『御伽婢子』の続編。⑫(『仮名草子集成』四、『近代日本文学大系』『怪異小説集』、『徳川文芸類聚』四、『日本名著全集』『怪異小説集』。

稲生物怪録 いのうものけろく 三巻三冊。⑬(柏正甫(未詳)。⑭(『稲生妖怪語』、『絵入稲生逢妖談』、『稲生物語』。⑮(文化三(一八〇六)年。⑯(備後国三次(現在広島県三次市)の藩士の子、稲生平太郎(のち武太夫)が数え年一六歳(寛延二年(一七四九)年)のとき、平太郎をなまめまわす巨大な老婆、はね歩く田楽串しになった目のまるい小坊主の首、もえあがる行灯など奇想天外な化け物が現れ、一カ月の間、平太郎ひとりですれと闘い、最後に魔国の頭・山本五郎左衛門が平太郎の勇気をたたえ、木槌を授けて化け物一族をひきつれて空のかなたに消えていったという物語。⑰(『新修平田篤胤全集』九、『平田篤胤全集』三。

いはらき 日刊。水戸市。いはらき新聞社。明治二四(一八九二)年七月五日創刊。昭和一七(一九四二)年一月三二日、

統合紙『茨城新聞』となったが、同二年七月五日、「いはらき」に復題し継続している。

今吝語 いまさいかい 五巻・続志一巻・補遺一巻。⑱(古賀

侗庵(一七八八—一八四七年)江戸後期の儒学者。名は焯、字は季暉、別号は蠖屈。⑲(文化七(一八一〇)年初稿、同一三(一八一六)年成稿。⑳(見聞したところの怪異談二三八条を漢文で記したもの。㉑(国立国会図書館(写本)

因果経 いんがきょう→過去現在因果経 かごげんざい いんがきょう

因果物語 いんがものがたり 三巻三冊(片かな本)・六巻六冊(平かな本)。⑳(鈴木正三(一五七九—一六五五年)江戸前期の仮名草子作者・禅僧。㉑(寛文元(一六六一)年、片かな本が義雲・雲歩編で刊行。平かな本は寛文年間に増補されて三巻本から六巻本になった。㉒(正三が諸国を遍歴して書きとめたもので、怪異譚をかりて仏法の因果の理を伝えようとするもの。㉓(『古典文庫』『因果物語』(一)。(二)は片かな本。㉔(『仮名草子集成』四、『袖珍名著文庫』(片かな本)

淫祀論 いんしろん 一冊。㉕(近藤芳樹(一八〇一—一八〇年)江戸後期・明治前期の国学者。㉖(天保一四(一八四三年)。㉗(正社と淫祀の区別をして、淫祀の由来・沿革を述べ、淫祀の除くべきことを論じたもの。㉘(国立国会図書館(写本)

印度史 いんどし 一冊。㉙(J・ミル(Mil, J. 一七七三—一八三六年)イギリスの哲学者・経済学者。㉚(インドの歴史。(原書)History of British India, 1817.

印判秘決集 いんぱんひけつしゅう ⑤盛徳(せいとく) 二六六—一七四七年) 江戸中期の国学者・真言宗の僧。⑥(享保一七(一七三二)年) ④名字・印判・花押のことについて論じたもの。

「第一、三国流行並に相承伝来」から「第一〇、判形列位並に名乗帰納」まで一〇に分けて論じている。⑥(哲学堂文庫)寛保三(一七四三)年、増補版)

陰符経 いんぷけい 一卷。⑤未詳。④(道教の書)。「黄帝陰符経」という。神仙抱一演道・富国安民演法・強兵戦勝演術の三章、四四七字から成る道家の思想をとり入れた兵法の書。道家の修養法が中心となっている。⑥(重較説郛)、『広漢魏叢書』。

陰陽五要奇書 いんようごようきしよ ⑤(郭璞(かくはく) 二七六—三二四年)六朝・東晋の学者・文学者。字は景純/その他著。豊川村(大阪)、岸田佐右衛門、明治三二(一八八九)年、一八四・一六五頁。④(合冊本) 郭璞『元経』、趙載『璇璣経』、陳復心老人『陽明按索』、劉伯温『左元直指』、幕講『三白宝海』を収録している。

陰陽式 いんようしき 未詳。
陰陽方位便覧 いんようほういべんらん 三卷三冊。⑤(白井為賀(しらい) 未詳) 江戸後期の易学家。⑥(嘉永七(一八五四)年) ④(占卜) 森重勝纂輯本(文化一一年刊)の補訂。⑥(陰陽方位便覧) 明治二三・二七年)

(一)

宇治拾遺物語 うじしゅういものがたり 一五卷。⑤未詳。⑥(建暦二(一二二二年)―承久三(一二二二年)の間に成立し、のち増補された。⑥(八卷、寛永(一六二四—一四四年)ころ古活字版。一五卷、万治二(一六五九)年。④(説話) 靈驗譚・法力譚などの仏教説話、笑話、滑稽談、民話など一九七話を収録している。『今昔物語集』、『古事談』、『日本霊異記』などの先行諸書に依拠した説話が過半をしめている。⑥(笠間影印叢刊(書陵部本)、陽明叢書(陽明文庫本))、『宇治拾遺物語』(古活字版) ⑥(岩波文庫)、『角川文庫』、『校註日本文学大系』一〇、『新訂増補 国史大系』、『日本古典全書』、『日本古典文学全集』、『日本古典文学大系』二七。

宇治大納言物語 うじだいなごんものがたり 三卷。⑥(源(もと) 隆国(りゅうくに) 一〇〇四—七七七年)平安中期の公卿。宇治大納言と称される。④(説話集) 鎌倉末期には散逸したという。『今昔物語集』、『宇治拾遺物語』などの中世説話集と密接な関係があるとされる。室町—江戸期にはそれらとの混同がおこった。↓ 宇治拾遺物語、今昔物語集。

于周語單襄公語 うしゅうごたんじようこ 未詳。
有宗七十五法記 うしゅうしちじゅうごほうき 三卷三冊。⑤(宗禎(そうてん) 未詳) 江戸中期の僧。⑥(七十五法記) ⑥(享保一三(一七二八)年自序、同一五年跋。⑥(享保一七(一七三二)年。④(阿毘達磨俱舍論) などにもついた説一切有部の教義綱要

書。『七十五法名目』の不備を補う目的で著され、俱舍学の入門書として用いられたといわれる。㉔『大正新脩大藏經』七一(二三二五)、『仏教大系』七十五法・略述法相義。

雨窓閑話 うそうかんわ 三卷三冊。㉕松平定信(一七五八

—一八二九年)江戸後期の大名・学者・歌人。号は楽翁。㉖

『白河夜話』、『明君白河夜話』。㉗嘉永四(一八五二)年。㉘織田信長吝嗇のこと、秀吉奥方の素性、細川侯和歌のこと、感情の発句のことなど、三〇余条の古今の雑話を集めたもの。各条の終わりに勸戒の言を付記している。㉙『日本随筆全集』一九、『日本随筆大成』新版一期七(旧版一期四)、『百家説林』正編上。

仮寐夢 うたたねのゆめ 六卷六冊。㉚小崎智節未詳江戸

前期の人。別名は川西逸人・観海居士。㉛元禄六一(六九三)

年序。㉜漢文随筆。卷一「東山弄花」から卷六「解頰政嘲」まで

八二条。卷三に「鬼神」「天狗」、卷五に「妖由人興」「蘇生なら

びに輪廻」などがある。㉝哲学堂文庫(元禄六年、六卷二冊)

うつつほ物語 うつつほものがたり 二〇巻二〇冊。㉞未詳。複

数の作者により書き継がれたものと考えられている。㉟『空

穂物語』、『字津保物語』。㊱平安時代後期。㊲二〇巻三〇冊、

延宝五(一六七七)年。㊳文学史上最初の長編物語で、『竹取

物語』(伝奇的傾向)から『源氏物語』(写実的傾向)への中間に

位置する作品。貴宮をめぐる求婚物語、藤原仲忠一家の理想

的な生活と立太子をめぐる政治的情況、永遠を志向する音楽

美の世界などから成る。㊴俊景本字津保物語と研究・第一

巻資料篇「久曾神昇、一九八三年、翻刻併載。㊵『字津保物語
本文と索引・本文編』一九七三年、『校注古典叢書』一三一—
四、『日本古典全書』、『日本古典文学大系』二〇—二二。
空穂物語 うつつほものがたり→うつつほ物語 うつつほもの
がたり

海賦 うみのふ ㊶木玄虚(未詳)西晋の人。㊷海を詠んだ賦。

『文選』卷第二二所収。→文選。

羽翼原人論 うよくげんにんろん ㊸円通(一七五四—一八

三四年)江戸後期の天台宗の僧。号は普門・無外子。㊹略解

羽翼原人論。㊺『文政七(一八二四)年。㊻仏教。唐の圭峰

(しごう)の『原人論』の略解。付録として良遍の『自行思惟』を

付している。㊼『羽翼原人論』京都、法蔵館、明治一九(一八

八六)年。和三四丁。付・自行思惟(良遍)

孟蘭盆経 うらばんぎょう→仏説孟蘭盆経 ぶつせつう

らばんぎょう

孟蘭盆経疏新記 うらばんぎょうしよしんぎ 二巻。㊽『元

照』(一〇四八—一一六六年)宋代の僧。号は安忍子、字は湛

如。大智律師ともいう。㊾『新記』、『疏記』。㊿宗密(七八〇

—一八四一年)の『孟蘭盆経疏』の注釈書。㊽『卍字統蔵経』一・

三五—二。

雲臥紀談 うんがきだん→雲臥紀譚 うんがきだん

雲臥紀譚 うんがきだん 二巻。㊿『晚瑩(未詳)宋の高僧。

字は仲温。㊽『雲臥紀談』、『感山雲臥紀談』。㊾南宋紹興二

(一一五五)年。㊿閑居中に見聞した逸話や、修行上の警策と

すべき資料を収集し、五二章(上巻)と四四章(下巻)にまとめたもの。㊟『正字統蔵経』二・乙・二一・一。

雲斎録 うんさいろく 未詳。

雲室随筆 うんしつずいひつ ㊟雲室(二七五三—一八二七年)江戸後期の画僧。名は鴻漸、法名は了軌。㊟雲室道人筆記、『雲室筆記』。㊟未詳。㊟雲室の経歴を中心に、交遊のあった学者・詩人・画家など四〇余名の逸話や人物評を記したもので、伝記資料の典拠ともなっている。㊟少年必

讀日本文庫四、『芸苑叢書』、『日本画論大観』中。

運斗枢 うんとすう→春秋運斗枢 しゅんじゅううんとすう

雲萍雜志 うんぴょうざっし 四卷四冊。㊟未詳。㊟天保一四(一八四三年)㊟隨筆。多年の見聞の漫録で、全一六一項から成り、多くは志士・仁人などの言行をあげて、平易な和漢混交文で善を勧め悪を懲らそうとしたもの。多方面にわたる興味ある話題にあふれている。㊟『岩波文庫』、『日本随筆大成』新版二期四(旧版二期二)、『百家説林』正編下。

雲楽見聞書記 うんらくけんもんしよき 二卷一冊。㊟雲楽(未詳)。㊟『見聞書記』。㊟未詳。㊟『無銘の刀剣奇代のこと』から「人参自方間違のこと」まで二六の奇談・奇話を集めたもの。㊟哲学堂文庫(写本)

(え)

英華故事 えいがこじ 五卷二冊。㊟浅井了意(二六一—二一〇

ろ—一九一年)江戸前期の僧・仮名草子作者。了意は法号、別号は瓢水子・松雲など。㊟『賞花吟』、『賞華吟』。㊟宝暦一四(二七六四年)。㊟安永六(一七七七年)。㊟卷一「世間風流」など七編、卷二「仏道因縁」など五編、卷三「宝算を祝し奉る」など九編、卷四「諸人の目を悦ばしむる」など一編、卷五「妙香薫馥」など四編の計三六編から成る。花に関する故事と和歌でつづった花の随想。卷五の最後に「蜀州の紅梅女に化すること」白蓮花の精、美女となりて人に契りしこと」という中国の話が引かれている。貞享五(二六八八年)に成立し、享保二一(二七三六)年に刊行された『賞花吟』の改題本。㊟哲学堂文庫(安永六年)

栄花物語 えいがものがたり 四〇巻。㊟正編三〇巻は赤染衛門、続編二〇巻は平季信女(出羽弁)などの女性の執筆と考えられている。㊟『栄華物語』、『世継』、『世継物語』。㊟平安時代(一一世紀)。㊟古活字版二〇冊、元和・寛永(一六一—一四三三年)ころ。㊟宇多天皇から堀河天皇までの約二世紀にわたる宮廷を中心とする編年体の歴史物語。藤原道長の

栄華を物語文学の手法で記している。㊟『岩波文庫』、『校註国文叢書』一〇、『新訂増補 国史大系』一五、『史籍集覧』通記類、『日本古典文学大系』七五—七六、『栄華物語全注釈』(全八巻・別巻一、角川、一九六九—八二年)

盈進齋随筆 えいしんさいずいひつ→学山録 がくざんろく

营造宅経 えいぞうたくけい ㊟未詳。㊟占卜。

永代大雑書三世相 えいたいとおおざつしよさんせそう ㊦

未詳。㊦『永代雑書三世相』、『永代大雑書』。㊦『天保九(一八三八年)』。㊦『袁天綱』からはじまり、最後の『三体いろは』までの二〇八項目を掲げて、天文・暦・陰陽・家相・人相・男女相性・出産・夢判断・病氣養生・まじない秘伝など、生活上の雑多な事柄を記し、その吉凶禍福や善悪などを示したもの。㊦『哲学堂文庫』→大雑書。

永代重宝 えいたいちようほう 一冊。㊦未詳。㊦未詳。

㊦『居判形相性・日の出入り・男女相性・まじない・うらない・万宝家建雑書・手相明鑑・人相八相の図論・夢相金鏡録など、日常生活に役立つ雑多な知識を述べたもの。大雑書の類。㊦『哲学堂文庫』(書名は題簽。刊記なし)』

永代重宝記 えいたいちようほうき→永代重宝 えいた

いちようほう

易雅 えきが 未詳。

易学 えきがく 二卷。㊦『王湜(未詳)』宋の人。

易学啓蒙 えきがくけいもう 二卷。㊦『朱熹(一一三〇—

二〇〇年)南宋の思想家。朱子学を大成。字は元晦・仲晦、号は晦菴・晦翁。㊦『邵雍の『先天図』にもとづいて、①本二図書、②原三卦画、③明三著策』の三項に分けて説明している。

㊦『朱子遺書』。

易学啓蒙通釈 えきがくけいもうつうしゃく 二卷。㊦『胡

方平(未詳)』宋の人。号は玉齋。㊦『朱熹の『易学啓蒙』の解釈書。㊦『通志堂経解』三。

易学通解 えきがくつうかい 二冊。㊦『井田龜学(寛政(一七

九〇年代)ころ)江戸中・後期の易学者。名は長秀、龜学は号。㊦『文化六(一八〇九年)』。㊦『文化六年、嘉永四(一八五二年)』。㊦『易六四卦による占い方を述べたもの。㊦『易学通解』訂正三版。文玉圃、明治二三(一八九〇)年、和二冊(上四五、下四五四)』

易経 えきぎきょう ㊦未詳。㊦『易』、『周易』。㊦『上・下二卷

の経と十翼から成り、経は卦辞と爻辞、十翼は伝といわれ、象伝上・下、象伝上・下、繫辞伝上・下、文言伝、説卦伝、序卦伝、雑卦伝の一〇編から成る。このなかで「繫辞伝」は易の原理論にあたるとともに、形而上学的言説を含み、中国哲学史上からも重要とされる。八卦を伏羲が、これを重ねた六四卦を新農が、卦辞を周の文王が、爻辞を周公が、十翼を孔子が作ったといわれる。㊦『儒教の五経の一つ。宇宙間のあらゆる現象の理法を、陰陽二元を組み合わせた六四卦によって究明しようとするもので、人事百般を関連づけた倫理・道德の書、卜筮の書とされる。㊦『新釈漢文大系』二二—二四(上・中)、『全釈漢文大系』九—一〇。』

易大伝 えきだいでん→易伝 えきでん

易断 えきだん→高島易断 たかしまえきだん

易伝 えきでん ㊦『京房(前七七—前三七年)漢代の易学者。字は君明。㊦『周易大伝』。㊦『周易』の注釈書。』

関古随筆 えつこずいひつ 二卷二冊。㊦『穆文熙(未詳)』。㊦『随筆。㊦『哲学堂文庫』。

江戸塵拾 えどちりひろい (五巻)。著芝蘭室主人(未詳)。○
 「江都塵拾」。○明和四(一七六七)年自序。○「靈符の社」から
 「筆談」まで、江戸における種々の俗談を八二項目集めたも
 の。序に、「江戸砂子」の塵を拾って名づけたとある。○「燕
 石十種」五。

江戸名所図会 えどめいしよずえ 七巻二〇冊。著斎藤幸
 雄(一七三七—一九九年)江戸中期の国学者。号は松濤軒長秋/
 同幸孝(一七七一—一八一八年)江戸後期の国学者。号は莞齋
 /同幸成(一八〇四—一七八年)幕末・明治前期の国学者。号は
 月岑/画・長谷川雪且(一七七八—一八四三年)江戸後期の画
 家。○「東都名所図会」。○「天保五(一八三四)年一〇冊、同
 七(一八三六)年一〇冊。三代五〇年にわたって完成。○詳細
 な江戸の絵入り地誌で、江戸町内の神社・仏閣・名所古跡・
 地名などを、多くの絵をはさみ平易な文章で解説したもの。

○「大日本名所図会二」、「日本図会全集」一期一—四。
 淮南鴻烈解 えなんこうれつつかい 二二巻。著高誘(未詳)後
 漢の学者。○「淮南子」の注釈書。

淮南子 えなんじ 現存二二巻。著劉安(前一七九—前一二
 二)前漢高祖の孫。文帝の一六(前一六四年、淮南王)となる。
 ○原名は「淮南鴻烈」という。○道家・陰陽家・法家などの諸
 学派の説を網羅して、古今の治乱興亡・吉凶禍福・奇聞逸話
 などを論じた百科全書的な著作。○「新釈漢文大系」五三一—五
 四・六一。

絵本朝鮮征伐記 えほんちやうせんせいばつき 二〇巻二

〇冊。著鶴峰戊申(一七八八—一八五九年)江戸後期の国学
 者。戊申は名、字は世靈・季尼、号は皇舎・海西/画・橋本
 貞秀(一八〇七—?)年)江戸後期・明治前期の絵師・戯作者。
 橋本貞秀は号、別号は歌川貞秀・玉蘭齋など。○「朝鮮征伐
 記」。○嘉永七(一八五四)年。○実録体小説。絵入り。豊臣
 秀吉の朝鮮の役を書いたもの。○蔵哲学堂文庫。

絵本百物語 えほんひやくものがたり 五巻五冊。著作・桃
 花園三千磨(未詳)江戸後期の人。別号は三寿・桃山人・桃華
 山人/画・竹原春泉齋未詳)江戸後期の絵師。姓は松本氏、
 竹原春泉齋は号、別号は春泉・清秀。○「桃山人夜話」。○「
 天保一二(一八四一)年。○卷一「白蔵主」から卷五「舞首」まで
 四四話から成り、一話ごとに妖怪の挿画がある。○「古典文
 庫」六二七「怪談百物語」。

煙霞綺談 えんかきだん 著西村白鳥(一七八三年)江戸
 中期の易学者。白鳥は号。○明和七(一七七〇)年序。○「安永
 二(一七七三年。○諸国を遊歴中に見聞した市井の奇談・怪
 説を集録し、私見をも加えたもの。○「日本随筆大成」新版一
 期四(旧版二期二)

円覚経 えんがくききょう ↓ 大方広円覚修多羅了義経
 だいほうこうえんがくしゆたらりようぎきょう
 淵鑑類函 えんかんるいかん 四五〇巻。著編・張英(一六
 三七—一七〇八)清代の学者。字は夢敦、号は菜園/その他
 編。○「康熙四九(一七一〇)年。○類書。清の康熙帝の命によ
 り、明の俞安期的「唐類函」にもとづいて、古今の故事来歴を

明らかにするために、唐・宋・元・明の諸書より詩文・事跡を集め、全体を四四部門に分類して編纂したものの。故事を検索するのに便利といわれる。

延喜式 えんぎしき 五〇巻五〇冊。㊦藤原時平(八七一—

九〇九年)平安前期の公卿／同忠平(八八〇—九四九年)平安中期の公卿／その他著。㊦延長五(九二七)年。㊦正保四(一六四七年)。㊦律・令・格の施行細則を集成した法典。これ以前の『弘仁式』、『貞観式』を集成し、三千数百条の条文を二官八省の役所ごとに編成したものを。平安時代の公家制度万般を知る資料で、巻一一巻一〇は神祇制度について詳しく記され、なかの祝詞は信仰・思想史研究上の根本資料の一つとされる。また、公家社会の公事・年中行事の典拠とされた。㊦『校訂延喜式』皇典講究所編、昭和四一七(一九二九—三二)年。『新註 皇学叢書』三、『新訂増補 国史大系』二六、『日本古典全集』二期、『日本精神文化大系』三。

役君形生記 えんくんぎようしよき 二巻二冊。㊦秀高

(未詳)。㊦『修験役君形生記』。㊦天和四(一六八四)年。㊦元禄六(一六九三年)。㊦修験道の祖、役行者の伝記。行者の前生より入寂にいたる一代の行跡を賛嘆したもの。上巻に証誠行者、過去契約、小角誕生、幼稚遊戯、悪鬼随逐、箕面入滝の六項、下巻に大峰修行、金峰修行、葛城修行、久米路橋、豆州配流、勅許帰洛、慈父報恩、新羅帰入、異類化度の七項を記している。㊦『増補改訂 日本大藏経』九四『修験道章疏』三。

艶遣通鑑 えんけんつうかん 未詳。

燕石雜志 えんせきざつし 五巻六冊。㊦滝沢馬琴(一七六

七—一八四八年)江戸後期の戯作者。名は解、字は琅吉、馬琴は号、別号は曲亭、著作堂主人・蓑笠魚隠など。㊦文化六

(一八〇九年)。㊦文化八(一八一一年)。㊦随筆。古今の事物につき、和漢の書を博搜引証し、また自らの考えを述べたもの。鬼神論、鬼神余論、俗呪方、田之怪などがある。㊦『日本随筆全集』五、『日本随筆大成』新版二期一九(旧版二期一

〇)、『有朋堂文庫』『骨董集・燕石雜志・用捨箱』。

猿著聞集 えんちよもんじゆう 猿著聞集 さるちよもんじゆう

燕南記譚 えんなんきたん 前集三巻・後集三巻六冊。㊦天

嶺性空(一六六九—一七四〇年)江戸中期の臨濟宗の僧。法諱は性空、道号は天嶺。㊦前集は享保一〇(一七二五年)、後集は同一七(一七三二)年自序。㊦随筆。木魚、修福偈、大

黒神・鬼子母神安厨家・跳魚入船、治・齒痛・心経撰災、禍福自召、夢中偈、枯井有_レ毒などから成る。㊦哲学堂文庫

(享保一〇年、三巻一冊)

遠碧軒記 えんぺきけんき 二巻四冊。㊦黒川道祐(一

六九一年)江戸前期の医者・地誌家。名は玄逸、字は道祐、号は静庵・梅庵・遠碧軒。㊦『遠碧軒随筆』。㊦延宝三(一六七五年)。㊦随筆。天象・神祇・寺院・人倫・人事・典籍・

器財など二〇部門に分類(全七四三条)し、地誌・故実・見聞などを記している。宝暦六(一七五六)年に難波宗建が、今は

その存在が不明の多くの冊数から成る『遠碧軒随筆』から抄記し、分類・編集したもの。㊦『随筆大観』三、『日本随筆全集』一九、『日本随筆大成』新版一期一〇(旧版一期五)

延命地藏経 えんめいじぞうきょう ↓ 延命地藏菩薩経 えんめいじぞうぼさつきょう

延命地藏菩薩経 えんめいじぞうぼさつきょう 一卷。㊦不空(アモーガヴァジュラ、七〇五―七七四年)唐代の密教訳経僧。㊧民間に信仰のあつた延命菩薩の利益を説いている。日本撰述の偽経ともいわれる。㊨『訓読 延命地藏菩薩経』(明治四四年)

延命地藏菩薩経直談鈔 えんめいじぞうぼさつきょうじきだんしょう 一二巻一二冊。㊩必夢(未詳)。㊪『仏説延命地藏菩薩経直談鈔』、『説法因縁地藏経鼓吹』、『地藏経鼓吹』。

㊫元禄一〇(二六九七年)。㊬『延命地藏菩薩経』の注釈書。㊭哲学堂文庫。

桜陰腐談 おういんふだん 二巻二冊。㊮『じっかん?』一七二〇年)江戸前期の真言宗の僧。字は泰音、号は梅国。㊯宝永七(二七一〇)年。㊰正徳二(二七二二年)。㊱随筆。和漢の事物の起源、古諺・物名の由来、その他世俗の行事などを漢文により問答的に記述・解説したもの。㊲『仙台叢書』一。

奥羽日日新聞 おううにちにちしんぶん 日刊。仙台、奥羽新聞社。明治一六(一八八三年)一月五日、『陸羽日日新聞』

〔お〕

(明治一三(一八八〇)年六月、『仙台日日新聞』を改題・追号)を改題・追号した。明治三六(一九〇三年)一月一日、『奥羽新聞』と改題・追号した。㊲時事。おもな関係者―友部鉄軒。

王氏易学 おうしえきがく ↓ 易学 えきがく
王氏農書 おうしのうしよ ↓ 農書 のうしよ

王充論衡 おうじゅうろんこう ↓ 論衡 ろんこう
往生要集 おうじょうようしゅう 三巻。㊳源信(九四二―一〇一七年)平安中期の天台宗の僧。通称は恵心僧都。㊴『地獄物語』。㊵寛和元(九八五年)。㊶承元四(一二二〇)年。㊷念仏往生を勧めた書。往生するための教理と実践について、経論の要文を集めて、一〇門(一、厭離穢土、二、欣求浄土、三、極楽の証拠、四、正修念仏、五、助念の方法、六、別時念仏、七、念仏の利益、八、念仏の証拠、九、往生の諸行、一〇、問答料簡)に分けて詳細に論述している。念仏に対する独自の体系を構築し、日本浄土教を開く大きな礎石となった。また、地獄思想を広め、文学・美術などに大きな影響を与えた。㊸『最明寺本 往生要集』影印編・訳文編 築島裕ほか編、汲古書院、一九八八・九二年。㊹『岩波文庫』、『恵心僧都全集』一、『原本校註・漢和対照 往生要集』花山信勝校訂・訳註、小山書店、昭和一二(一九三七年)、『浄土宗全書』一五、『大正新脩大藏経』八四(二六八二)、『東洋文庫』八・二一、『日本思想大系』六。

往生要集指麾鈔 おうじょうようしゅうしきしょう 二五巻二五冊。㊺遊安(一六九五年)江戸前期の浄土宗の僧。

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

一

二

字は廓瑩・廓榮、法名は明普・念称。㊦天和三(一六八三)年。㊦源信「往生要集」の注釈書。㊦哲学堂文庫。

王代一覽 おうだいいちらん→日本王代一覽 にほんおうだいいちらん

欧米各国政教日記 おうべいかっこくせいきょうにっき

二編二冊。㊦井上円了(一八五八—一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育者。号は甫水。不思議庵主人と称す。東京、哲学書院、上編明治二二(一八八九)年八月、下編同年一

二月、一〇六・七六頁、索引六・付宗派名称七頁。㊦西欧各国の宗教・風俗・教育に関して見聞したことを記したもの。

大磯名勝誌 おおいそめいしょうし ㊦一囊一筈道人(未詳)。「大磯名勝誌・相州大山記」のうちの一つ。天籟書店、明治二二(一八八九)年、四八・二三頁(合本版)。㊦地誌。

大江広元日記 おおえのひろもとにっき 三九冊。㊦大江広元(一一四八—一二三五年)鎌倉前期の幕府官僚。㊦日記。

㊦東京大学史料編纂所。

大岡仁政録 おおおかじんせいりく 二〇巻冊数不定。㊦未詳。㊦実録。享保二二(一七一七)年から元文元(一七三二)年の

間、江戸町奉行として令名のあった大岡越前守忠相のさばきを扱った実録体小説。寛政年間(一七八九—一八一〇)前後

に出た「大岡政要実録」(二〇巻、冊数不定)とほぼ等しいとい

う。㊦東北大学附属図書館。

大鏡 おおかがみ 三巻・六巻・八巻本がある。㊦未詳。㊦「世継」、「世継翁」、「世継物語」。㊦平安中期—後期。㊦慶

長、元和ころ古活字版。㊦物語風歴史書。文徳天皇から後一条天皇の時代におよぶが、藤原道長一代の権勢を描こうとしたもので、その裏面にひそむ策謀を暴露し、道長に対しても厳正な批判を試みている。同時代を扱う「栄花物語」が編年体であるのに対して紀伝体で描かれている。㊦「影印校注古典叢書」九・三〇、「貴重古典籍刊行会叢書」二期・二期、「古典保存会複製書」二期・五期。㊦「岩波文庫」、「校註国文叢書」九、「校註日本文学大系」二二—二三、「古典文庫」、「新訂増補 国史大系」二一、「日本古典文学大系」二二、「日本文学全書」二二、「有朋堂文庫」、「校定大鏡」(明治三〇年)

大系図 おおけいず→尊卑分脈 そんびぶんみやく

大阪朝日新聞 おおさかあさひしんぶん 日刊。大阪、大阪朝日新聞社。創刊の明治二二(一八七九)年一月二五日から

同二年一月三日までは「朝日新聞」の紙名。明治二二

(一八八九)年一月三日に紙名変更した(明治二二年七月一〇

日、「東京朝日新聞」が創刊された)。昭和一五(一九四〇)年

九月一日、東京・大阪の紙名を統一して「朝日新聞」と改題した。㊦時事。おもな関係者→村山竜平・上野理一。

大阪新報 おおさかしんぼう 日刊。大阪、大阪新報社。明治三三(一九〇〇)年一〇月、「大阪商業新報」を改題・追号した。大正二二(一九三三)年二月一日、「大阪都新聞」と改題

した。おもな関係者→原敬・加藤恒忠。

大阪毎日新聞 おおさかまいにちしんぶん 日刊。大阪、大阪毎日新聞社。「大阪日報」(明治一八(一八八五)年九月一

日、『日本立憲政党新聞』を改題・追号)を改題・追号して、明治二二(一八八八)年一月二二日発行した。明治四四(一九一一年)、『東京日日新聞』を合併して商法上の支社とした。昭和一八(一九四三年)一月一日、東京・大阪の紙名を統一して『毎日新聞』と改題した。④時事。おもな関係者―柴四郎・本山彦一。

大雑書 おおざっしょ 日の吉凶や方角の善悪などを記した曆注の本に、三世相、種々の占い、故事などを加えて編集した。寛永一三(一六三六)年に、それまでの万年曆を改訂した『大雑書』が刊行されて、陰陽・曆・天文などの事項のほかに、家相・人相・男女相性・出産・命名・夢判断・まじない・商売・病氣養生など、日常生活にかかわる雑多な項目が次第に取り入れられるようになった。日常生活の諸相が吉凶禍福を根底にして記述されている。江戸期のものに『新撰大永曆雑書天文成綱目』天保六(一八三五)年、『三世相解嘉永大雑書』嘉永四(一八五二)年など、明治期のものに『三世相安政雑書万曆大成』明治一六(一八八三年)、『永代大雑書三世相(民家必用)』明治二三(一八九〇)年、『永代三世相万曆大雑書』明治二五(一八九二年)など多くの類本がある。

三世相 おおざっしょさんぜそう→永代大雑書

三世相 えいたいおおざっしょさんぜそう

鋸屑譚 おがくずばなし 二巻二冊。⑤谷川土清(一七〇九―一七六九)江戸中期の国学者。名は昇、字は公介、号は淡斎、医名は養順・昇卯。⑥未詳。⑦古今の書に記載の事物につい

て、その字義、語源、起源、その他歴史、地理、歌詩など一二七項目にわたり考証し、それぞれの出典を示すとともに自己の見解を述べている。⑧『日本随筆大成』新版一期六(旧版一期三)、『百家説林』正編上。

桶狭間の役 おけはざまのえき 未詳。

小田原記 おだわらき ⑧未詳。⑨『異本相州兵乱記』。⑩未詳。⑪戦記物。小田原城を本拠とした戦国大名・北条氏五代の歴史を書いたもの。⑫『国史叢書』室町殿物語・足利治乱記・異本小田原記、『統群書類従』二一輯上。

落穂集 おちぼしゅう ⑬『大道寺友山』(一六三九―一七三〇年)江戸前・中期の兵学者。名は重祐、別号は知足軒。⑭享保一三(一七二八年)。⑮延享元(一七四四年)。⑯見聞記。江戸城築造、初期幕政、幕閣および諸大名の逸話、島原の乱、明暦の大火など多岐にわたっている。徳川家康の一代記である『落穂集』とは別であり、『落穂集追加』といわれるもので、「追加」の語が抜け落ちて流布したという。⑰改定。史籍集覧一〇、『大日本思想全集』三。

御伽厚化粧 おとぎあつけしゅう 五巻五冊。⑱作・画、筆天斎(未詳)江戸中期の説本作者。⑲享保一九(一七三四)年。⑳怪異小説。芭蕉の妖精、大鯰の怪、化け猫などの動植物に関する怪異談のほか、「赤閑留幽鬼」などの幽霊説話を収めている。全一五話から成る。㉑『徳川文芸類聚』四。

御伽空穂猿 おとぎうつぶざる 五巻五冊。㉒静観房好阿(一六九八―一七六九年)江戸中期の談義本作者。別号は静観

堂・摩志田好話・西向庵。㊤元文五(一七四〇)年。㊦怪異談。卷一「猿に盗を教えて渡世とせし事」など三話、卷二「慳の富商悪疾を請し事」など三話、卷三「盗賊人を欺き敵討と偽りし事」など三話、卷四「一言観世音利生の事」など三話、卷五「秩父慈眼寺の観音靈験の事」など四話の計一六話から成る。㊧徳川文芸類聚「四」。

御伽婢子 おとぎばうこ 一三卷一三冊。㊨浅井了意(一六一二)ころ—九一年江戸前期の僧・仮名草子作者。了意は法号、別号は瓢水子・松雲など。㊩御婢子。㊪寛文六(一六六六年)。㊫中国の怪異小説「剪刀新話」や「剪刀余話」などから翻案して六七編の怪異譚としてまとめたもの。㊬近世文芸叢書「三」、『近代日本文学大系』怪異小説集、「日本名著全集」怪談名作集。

御伽反故 おとぎぼこ 未詳。

御文五帖 一節示珠指 おふみこじよういちぶじしゆし 九

卷九冊。㊭嚴蔵(未詳)江戸中期の真宗の僧。号は教応・暁

応。㊮天明五(一七八五)年。㊯御文の注釈書。㊰大谷大学。

於茂秘伝草 おもいでぐさ 一冊。㊱伴林光平(一八一三—

六四年)幕末の国学者・歌人・志士。名は光衡・光平、号は

蒿斎・岡陵・斑鳩隱士など。「ばんばやし」ともいう。㊲「お

もひ出草」、「於母比伝舛」。㊳文久二(一八六二)年。㊴随筆。

自ら奉ずる古学の立場から国体の重んずべきことなどを、四

字題で述べている。以筆換筆・学問要略・君臣名義・湯

武弑奪から忠逆反名・妖怪神異・死生随神・家狗噉主

まで、全二一項目から成る。㊵畑中家蔵 伴林光平遺稿集、「日本精神文化大系」一〇(抄)、「武士道全書」七、「武士道叢書」下(抄)、「やまと叢誌」五。

思出草紙 おもいでそうし 一〇巻。㊶東随舎(未詳)江戸後期の戯作者・狂歌作者。姓は栗原氏、通称は幸十郎、別号は二流間主・青雲軒主人・松寿館主人。㊷古今雜誌思出草紙。㊸狐人に化したること・通悪魔がこと・情ありて立身せしこと・北国の飛脚死霊のために乱心すること・夢に一首の歌を得しことなど、古今にわたる諸国の奇談・珍説を記したものの。㊹日本随筆大成「新版三期四(旧版三期二年)」。㊺哲学堂文庫(写本。三卷二冊。天保七(一八三六)年)

織唐衣 おるからきぬ 六卷六冊。㊻未詳。㊼和歌絵入

緒留加羅幾怒。㊽宝永二(一七〇五)年序。㊾宝永三年。㊿

卷一「教の巻」、卷二「倫の巻」、卷三「敬の巻」、卷四

「稽の巻」、卷五「言の巻」、卷六「行の巻」に分けて、中

国古典を引用して説いた教訓書。㊽哲学堂文庫。

温故要略 おんこよりやく 五卷五冊。㊿盤察(？)一七

三〇年浄土宗の布教僧。号は厚普・不絶。㊽三國事蹟

故要略。㊾享保七(一七二二)年。㊿俗間のご事・但諺の典

拠などを考説したもの。㊽哲学堂文庫。

温知叢書 おんちそうしよ 一二冊。㊽編・岸本操(未詳)、

標註・内藤耻叟、小宮山綏介。㊿近古文芸温知叢書。東

京、博文館、明治二四(一八九二)年—二五(一八九二)年。㊿

叢書。『近代世事談』(第三編)、『近世奇跡考』(第八編)、『牛

馬問、「近世事物考」(第二編)を収録。

陰陽外伝警戸開 おんようがいいでんいわたひらき 一〇巻。

⑧賀茂規清(二七九八—一八六一年)江戸後期の神道家。烏伝神道の開祖。家名は梅辻、賀茂は本姓。⑨理・事・物・無心の感・有心の感・譬諭・間違伝などの部に分け、因縁説・奇法・妖術などを論弁し、合理的な解釈を加えたもの。⑩「陰陽外伝警戸開」長谷川正信刊、明治二(一八六九)年。他に柏廼舎刊、明治六(一八七三年)、和二冊(上四九、下四六丁)。井上勝五郎刊、明治二四(一八九一年)、四四〇頁。

〔か〕

怪異談叢 かいいだんそう 五巻五冊。⑪伊丹椿園(？)——

七八一年)江戸中期の読本作者。名は好寛・源曹、椿園は号。別号は雲盈・観笑処士。⑫「古今奇談 毒草紙」、怪異譚叢。⑬安永八(一七七九)年自序。⑭天明元(一七八一)年。⑮「太平広記」、「宣室志」など、中国の怪異小説一四部のなかから二〇編を選び翻訳したもの。林羅山の「怪談全書」の続編として著すとしている。⑯哲学堂文庫。

怪異弁断 かいいべんだん 八巻八冊。⑰西川如見(一六四

八一—一七二四年)江戸前・中期の天文曆算家・地理学者。名は忠英、別号は恕軒・求林斎など。⑱「和漢変象怪異弁断天文精要」、「万物怪異弁断」。⑲「正徳四—五(一七一四—一五)年。⑳天文・占卜。巻一から巻四までを天異編、巻五から巻八までを地異編とし、和漢古今の書から怪異に関する事実を

抽出して、それに自己の見解を加えて述べたもの。⑳「西川如見遺書」五。

海外怪妖記 かいがいかいようき 未詳。

海外経 かいがいきよう——山海経 せんがいきよう

海嶠志 かいきようし 未詳。

開元遺事 かいげんいじ——開元天宝遺事 かいげんてん

ぼういじ

開元天宝遺事 かいげんてんぼういじ 四巻。㉑王仁裕未

詳)五代の人。㉒「開元遺事」。㉓唐代の遺事を拾い集めたもの。遺事一五九条。㉔「百川学海」、「顧氏文房小説」、「五朝小説」、「說郛」、「唐人說薈」、「和刻本漢籍隨筆集」。

海国日報 かいこくにつほう 日刊。東京、海国日報社。明

治三八(一九〇五)年二月一日—大正三(一九一四)年七月一

五日。以後「亜細亜日報」と改題。

怪談 かいいだん——怪談全書 かいだんぜんしよ

怪談御伽棧 かいだんおとぎざくら 五巻五冊。㉕雲峰(一

六七八一—一七四八年)江戸中期の俳人。号は雲峰・年々翁・

花洛俳林・都塵舎。㉖「飯元文(二七三六—一四)ころ。㉗浮

世草子。㉘「未刊珍本集成」。

怪談御伽童 かいだんおとぎわらわ 五巻五冊。㉙静観房

好阿(一六九八一—一七六九年)江戸中期の談義本作者。別号は

静観堂・摩志田好話・西向庵。㉚「古今実説 怪談御伽童」。

㉛「飯明和九(二七七二年)。㉜「読本。巻二「速靈神の来由の事」

ほか二話、巻二「八千代稻荷靈験の事」ほか二話、巻三「安房

国浪人横難を通るゝこと」巻四「三州八名郡山伏の死霊のこと」ほか一話、巻五「城ノ主水谷川に奇情の事」まで一〇話から成る。㊦『古典文庫』五五一「近世怪奇談」。

怪談故事 かいだんこじ 未詳。

怪談実録 かいだんじつろく

五卷五冊。㊧『紀常因』未詳。江戸中期の怪談作者。名は常因、号は浪花軒・浪華亭。㊨『近世怪談実録』、『古今奇聞怪談実録』。㊩『明和』三(一七六六)年。

㊪卷一「奥州の土、奇女を娶る」妾の怨念、妻の一言に服す「人の肉を食いし僧」浅香山、怪物を捕う、巻二「女の怒り、生きながら祟をなす」晝屋某家の怪異「亡魂改葬を願う」、巻三「清道白雲、武術を争う」医師怪物を見現す「越後の霊火、付糞虫、鎌鼬」、巻四「東漸寺の老狸」猫満太正宗、巻五「回国老僧の話」「医工、欺かれて辱しめを受く」まで一四話から成る。㊫『哲学堂文庫』(文政七年)怪談諸国譚 かいだんしよこくたん 未詳。

怪談諸国物語 かいだんしよこくものがたり

五卷五冊。㊬北条団水(一六六三—一七一一年)江戸前・中期の俳人・浮世草子作者。名は義延、別号は団粹・白眼居士など。㊭『享保二一(一七二六)年』

㊮「離魂病の娘」「恩を忘れぬ狐の働」「隠れ里の美女」など二七話の奇事異聞集。「一夜船」(正徳二年)の改題再版本。㊯『帝国文庫』『珍本全集』前。

怪談全書 かいだんぜんしよ

五卷五冊。㊰『林羅山』(一五八三—一六五七年)江戸前期の儒学者。名は信勝、字は子信、剃髪して道春。㊱『怪談』、『怪談録』。㊲『元禄一』(一六九八)

年。㊳中国の怪異説話の抄訳書で、「搜神記」、「幽冥録」などの志怪・伝奇の書を、多く『太平広記』、『古今事文類聚』などの類書を通して翻訳したもの。絵入り。なお、古写本「怪談録」は哲学堂文庫に所蔵(二巻二冊)されている。㊴『仮名草子集成』二二、『日本名著全集』怪談名作集。

怪談旅之曙 かいだんたびのあけぼの

四卷四冊。㊵『作・波天奈志小浮禰』未詳、画「岡田玉山」?一八〇八)江戸中・後期の絵師。名は尚友、字は子徳、別号は金陵斎。㊶『寛政八(一七九六)年』

㊷卷一「嫉妬之上成」、巻二「鬘之執心」「川殺生の報」、巻三「木地ひきの廻国」、巻四「無題」「髮切乳女」の全六編から成る。㊸『哲学堂文庫』怪談登志男 かいだんとしおとこ

五卷一冊。㊹『愍雪舎素及』未詳。㊺『寛延三』(一七五〇)年。㊻『浮世草子』素及子著『怪談実録』の要をとって五巻にまとめた怪異小説。全二七話から成る。動植物に関する奇談や幽霊説話などのほかに、孝子譚や実録風の話など怪談と関係ないものも混在している。㊼『徳川文芸類聚』四。

怪談どのいぶくろ がいだんどのいぶくろ

怪談殿居囊 かいだんどのいぶくろ

五卷五冊。㊽『大江文坡』(一七九〇)年

江戸中期の読本作者・神道家。名は匠弼、号は菊丘臥山人・臥仙子など。文坡は字。㊾『怪談どのいぶくろ』、『どのいぶくろ袋』、『古今怪談殿居囊』。㊿『明和五』(一七六八)年。㊽『読本』。㊾『哲学堂文庫』。

怪談弁述鈔 かいだんべんじゆつしよう ↓ 扶桑怪談弁述

鈔 ふそうかいだんべんじゆつしよう

怪談弁妄録 かいだんべんもうろく 五卷一冊。⑤丹羽桃溪

(一七六〇—一八三三年)江戸後期の絵師。修姓して丹、名は元国、別号は桃溪山人。⑥寛政二(一八〇〇)年。⑦読本。

巻一・四話、巻二・三話、巻三・四話、巻四・三話、巻五・

五話の計一九話から成る。各話の終わりに見解を述べてい

る。書生鬼のために殺さる・野狐侠客をあざむく・天狗老婆

をいざなう・美丈夫二婦に恋せらる・色を好みて古狸に災

いせらる、などの怪異談。⑧哲学堂文庫。

怪談藻塩草 かいだんもしおぐさ 五卷五冊。⑨作・画、速

水春 暁齋(初世、一七六七—一八三三年)江戸後期の絵師。

名は恒信のちに恒章、別号は春暁。⑩絵本怪談藻塩草。⑪

寛政一三(一八〇二年)。⑫矢部が靈神に崇る話「戸浪

山怪異の話」「出羽の怪女が話」「明家の怪異の話」「狐僧と成る

話」など、全一二話から成る怪異談。⑬哲学堂文庫。

怪談破几帳 かいだんやれきちよう 五卷五冊。⑭作・流

電窓広住(未詳)江戸後期の読本作者・狂家作者。姓は山田、

通称は彦六、別号は山家広住・山家人・流霞窓主人/画・赤

松亭秀成。⑮『野史種百章 破几帳』、『奇談百章 破几帳』、

『破几帳』。⑯寛政二(一八〇〇)年。⑰『古寺』江州幽霊

「那須野怪物」妖怪屋敷「古物怪」大蛇など、全一二話から

成る怪異談。⑱哲学堂文庫。

怪談録 かいだんろく ↓ 怪談全書 かいだんぜんしょ

海潮賦 かいちようふ ⑲盧肇(唐の人)

海南新聞 かいなんしんぶん 日刊。松山、海南新聞株式会

社。明治一〇(一八七七)年四月二八日、『愛媛新聞』明治九

(一八七六)年九月一日創刊を改題した。昭和一六(一九四

一年)二月一日、戦時合併により『南予時事新聞』および『伊

予新報』の二紙と統合して『愛媛合同新聞』となる。⑳時事

自由党・政友会機関紙。

貝原養生訓 かいはらようじようくん ↓ 養生訓 ようじ

ようくん

怪物輿論 かいぶつよろん 五卷五冊。㉑十返舎一九(一七

六五—一八三一年)江戸後期の戯作者。本名は重田貞一、別

号は醉齋。㉒享和三(一八〇三年)。㉓読本。巻一「斉念、

魔鬼となつて私怨をひく話」、巻二「妖火は憎持の方金を護る

話」「狗の霊、形を変じて両子を啖らう話」、巻四「轆轤首が怖

念、かえつて福を報う話」、巻五「岩倉少女、淫欲に逼つて

鬼となる話」の五話から成る。㉔『古典文庫』四九七「怪物輿

論」。

怪物論 かいぶつろん ㉕ヒツパート(未詳)

怪妖故事談 かいようこじだん 五卷五冊。㉖下津寿泉(未

詳)江戸中期の医者。寿泉・春抱と称す。㉗安永三(一七七

四年)。㉘『斉諧記』、『異苑』、『捜神記』、『本草綱目』、『医

説』などの書籍から身体にかかわる怪異を集めたもの。巻一

の「乳中より雉出ること」から巻五の「目に物を曲がるごとく

に見ること」まで、一五五話を収録している。『奇疾便覧』の

改題本。㊦哲学堂文庫。

海録雜事 かいろくざつじ 南宋の葉廷珪の『海録碎事』のこ
とか。二二卷。㊦類書。

河海抄 かかいしやう 二〇卷。㊦四辻善成(一三二六—一
四〇二年)南北朝時代の公卿・歌人・古典学者。法名は常勝。

㊦『源氏物語河海抄』。㊦貞治年間(一三六二—一三八八)。

㊦『源氏物語』の最初の本格的な注釈書。『源氏物語』著作の由
来、名称、作者、旧跡、漢詩文の引用出典、用語の典拠など
を明らかにしている。㊦『国文註釈全書』三、『紫明抄・河海
抄』(石田穰二校訂、昭和四三年)

下学集 かかくしゆう 二卷。㊦東麓破衲(はりや)。
元(一四四四年)。㊦元和三(一六一七)年。㊦国語辞書。天地

門から畳字門まで一八門に分類して漢字をあげ、それに片仮
名で和訓をつけ、漢文で注をつけている。その和訓および注
解は室町時代の国語資料として貴重とされる。寛文九(一六
六九)年に山脇道円による『増補下学集』(五卷二冊)が出版さ
れている。㊦『古辞書叢刊』第二(元和三年版、昭和四三年)。

㊦『岩波文庫』。

化学書 かかくしよ 一冊。㊦吉田彦六郎(一八五九—一
九二九年)明治期の化学者。

垣根草 かきねぐさ 五卷五冊。㊦都賀庭鐘(一七一八—
一七九一年)江戸中期の医者・儒学者・説本作者。庭鐘は名、字は公

声、号は草官散人・菓庵・葦莢館など。㊦『席上奇観 垣根
草』、『古今奇談垣根草』。㊦『明和七(一七七〇)年』。㊦説本。

全一三話から成る。中国小説の翻案で、作中に作者の意見や
教訓をもち込み、淫祀批判や文武両道の主張なども述べてい
る。㊦『日本名著全集』「怪談名作集」。

郭躬伝 かくきゆうでん ㊦『後漢書』七六所載。郭躬は後漢
の人。↓後漢書。

学芸志林 がくげいしりん 日本最初の総合的な学術雑誌。

一創刊第一巻第一冊(明治一〇(一八七七)年八月)―終刊第一七
巻第一〇〇冊(明治一八(一八八五)年一月)。東京大学の
法・理・文三学部の紀要的な性格をもち、付録三冊とともに
計一〇三冊が発行された。明治一九年の東京帝国大学発足の
ために廃刊となった。㊦『学芸志林』(全一八巻、原書房、昭

和五二年)

学山録 がくざんろく 六卷六冊。㊦中村蘭林(一六九七—
一七六一年)江戸中期の儒学者。名は明遠、字は子晦、別号
は盈進齋。㊦『盈進齋隨筆』。㊦寛延三(一七五〇)年序。㊦寛
延四年。㊦隨筆。卷一「天地部」、卷二「事物部」、卷三「言論
部」・「行事物」、卷四「芸文部」・「靈異部」、卷五「文辞部」、卷六
「称谓部」・「字義部」から成る。㊦『哲学堂文庫』(六卷二冊)

格致艸 かくちそう 未詳。

格致叢書 かくちそうしよ ㊦編・胡文煥(ふぶんげん)の
字は德甫、号は全菴。㊦叢書。経訓・総経訓・小学・韻学・史
学・掌故など三七類に分けて、一類ごとに数部、全部で三四
六種を取めている。格致は『大学』の「格物致知」の意。

角毛偶語 かくもうぐう 五卷五冊。㊦南溪(なんけい)一

一八六八年)江戸後期の浄土真宗本願寺派の学僧。号は准水。
 ④弘化元(一八四四年) ⑤仏教。中井積善竹山『草茅危言』
 の排仏論に対する論駁の書。⑥哲学堂文庫。

鶴林玉露 かくりんぎよくろ 一八巻。⑦羅大經(未詳)南宋
 の人、字は景綸。⑧天地人の三集に分け、一集に各六巻をあ
 てて、南宋の社会・経済・官制・文学・人物に関する逸聞を
 記し、朱熹・張栻・陸象山・蘇軾などから多く引いている。

⑨『說郛』二二、『和刻本漢籍隨筆集』八。

花月新誌 かげつしんし 雑誌。東京、花月社。明治一〇
 (一八七七)年一月四日創刊第一号を發行し、明治一七(一八
 八四年)一〇月三十一日第一五五号をもって廃刊した。明治二

四(一八九二年)三月一四日に同名の雑誌が創刊されている。

花月草紙 かげつそうし 六巻六冊。⑩松平定信(一七五八

—一八二九年)江戸後期の大名・学者・歌人。号は葉翁。⑪

『花月双紙』。⑫文政元(一八一八年) ⑬隨筆。花のこと・月
 のこと・学問のこと・観前の論・虫の名・老農のこと・禍
 福・老鯉・ねぎめの床など一五六章から成る。⑭『岩波文

庫』、『日本隨筆全集』二三、『日本隨筆大成』新版三期(旧版
 三期一)、『百家説林』正編下、『有朋堂文庫』。

過去現在因果経 かこげんざいいんがきょう 四巻。⑮求

那跋陀羅(ナパドゥラ、三九四—四六八年)劉宋代の僧。⑯

『因果経』。⑰釈尊自らの過去世(原因)から現在(結果)にいた
 る経歴を説く仏伝。⑱『大正新脩大藏経』三(一八九)。⑲『国
 訳一切経』本縁部四。

鹿兒島朝日新聞 かこしまあさひしんぶん 大正二(一九

一三年)一月、『鹿兒島実業新聞』明治三三(一九〇〇)年一
 月二七日創刊を改題し、昭和一七(一九四二年)一月末日、
 『鹿兒島新聞』と戦時合併した。同年二月一日から『鹿兒島
 日報』と改題して発行し、昭和二二年二月一日、『南日本新
 聞』と改題して現在にいたる。⑲時事。

花史左編 かしさへん 未詳。

華実年浪草三余抄 かじつとしなみぐささんよししょう 一

二巻一五冊。⑳龜文(未詳)江戸中期の俳人。姓は鶴川氏、名
 は政明、号は建溪・三余齋など、龜文は字。㉑『俳諧三余

抄』、『華実年浪三余抄』、『華実年浪草』。㉒天明三(一七八
 三年)。㉓『俳諧歳時記』季語二七六〇余を四季に配列して考
 証解説したもの。㉔『哲学堂文庫』。

夏小正 かしょうせい 一卷。㉕戴德(未詳)前漢の学者。字

は延君。㉖もと戴徳の『大戴礼』中の編名。毎月の物候を記し
 ている。上代に四時の行事を民に指示したもの。㉗『說郛』

四。→大戴礼。

家相図説 かそうずせつ→家相図説大全 かそうずせつ

たいぜん

家相図説大全 かそうずせつたいぜん 三巻三冊。㉘松浦

東鶏(未詳)江戸後期の易占家。名は久信・庸信、字は子実、

東鶏は号。㉙『図説教授 家相大全』。㉚享和元(一八〇二)
 年。㉛相法。家相に関する一切について、その吉凶を解説・
 図示したもの。発端・宅地曲直吉凶の図解・家宅の備吉凶の

図解・宅外の備各吉凶の弁・宅内の備各吉凶の弁・付録・追加などから成る。㊦哲学堂文庫。

家相秘伝集 かそうひでんしゅう 二卷二冊。㊦松浦琴鶴

(未詳、天保年代の人)江戸後期の易占家。名は純逸、琴鶴は号、別号は観濤閣。㊦松浦東鶏貫秘 家相秘伝集。㊦天保

一一(一八四〇)年。㊦相法。中国の「黄帝宅経」、「营造宅経」、「象吉通書」などの古書の家相に関する部分を抽出して

和解したもの。「地理宅相の大意など百数十余項について詳説し、経験的口伝をも付している。㊦家相秘伝集誠之堂、

明治二(一八八八)年、和二冊(上四六・下四五丁)、他に文魁堂(明治二六年)、谷沢光吉刊(同)、文陽堂(明治二七年)

家相秘録 かそうひろく 二卷二冊。㊦疋田慶明(未詳)江戸中期の相法家。㊦天明三(一七八三)年。㊦相法。家相に関する諸件を解説したもので、家相総論から相宅付説四則まで、

上・下あわせて三九項目をあげて、簡条的に家相にかかわる事柄の吉凶を述べている。㊦哲学堂文庫。

嘉多比沙志 かたびさし→傍廂 かたびさし 傍廂 かたびさし 前集三卷・後集三卷六冊。㊦齋藤彦磨(一

七六八―一八五四年)江戸後期の国学者。字は可怜、号は宮川舎・葦仮庵。㊦嘉多比沙志、「蘆仮庵拔書傍廂」。㊦万

延二(一八六一)年。㊦随筆。多年、傍廂と名づけた住居において書き集めておいた、「ひめはじめ」以下二百余項目のさま

ざまな論説を集録したもの。㊦日本随筆大成「新版三期一(旧版三期一)」、「百家説林」正編上。

華鳥百談 かちようひやくだん 五卷五冊。㊦静観房好阿

(一六九八―一七六九年)江戸中期の談義本作者。別号は静観堂・摩志田好話・西向庵。㊦延享五(一七四八)年。㊦北野

の比丘尼相撲のこと・果心居士幻術をなすこと・長崎の卜意占いの妙を摸しこと・上総の船人天狗に取られしこと・熊坂

が霊里人に崇りしこと・由良の浜にて竜神碁を打ちしこと・大磯の宿化地藏のこと・談義坊主鯨に生まれしことなど、全

二一話から成る。㊦哲学堂文庫。

花鳥余情 かちようよせい 三〇巻。㊦一条兼良(一四〇二―一八一年)室町時代の公卿・学者。桃華老人ともいう。㊦文明四(一四七二)年。㊦源氏物語の注釈書。㊦国文註釈全集「三」。

学海余滴 がっかいよてき 一〇巻一〇冊。㊦日達(一六七四―一七四七年)江戸中期の日蓮宗の僧。字は智鳩、号は了

義院。㊦寛保元(一七四二)年。㊦仏教。㊦哲学堂文庫。

勝五郎再生記聞 かつごろうさいせいきぶん 一冊。㊦平田篤胤(一七七六―一八四三年)江戸後期の国学者。㊦文政

三年奥書。㊦武蔵国多摩郡程窪村、藤五郎の子藤蔵が文化七(一八一〇)年に病死し、同一二年同郡の中野村、源蔵の家

に再生して勝五郎と名づけたことを記した。文政六年四月の「届書」と平田篤胤の五月の「記」があり、勝五郎父子からの聞き取りの談話と、再生についての和漢の例と、神仏本述

のことを論及している。㊦新修平田篤胤全集「九(名著出

版、「平田篤胤全集」三(平田学会)、「平田篤胤全集」八(内外書籍)

活版節用集 かつぱんせつようしゅう 未詳。④節用集は室町時代、文安元(一四四四)年以後、文明(一四六九—一八七一年)ころまでに成立した国語辞書の汎称。近世中期以後、世間一般の用に供せられるようになった。

合璧書類 がつべきじるい 三六〇巻。⑤謝維新(未詳)宋の人。字は去咎。④類書。宋人の遺文・雑事を集めている。

月令 がつりょう ④「礼記」の編名。年中行事。一二月月の氣候とその月々におこなう政令とを記したものの。

月令広義 がつりょうこうぎ 二五巻。⑤馮応京(一五五五—一六〇六年)明末の政治家・学者。字は可大、号は慕明。

④年中行事。原本は一卷のみであったが、それを戴任が二五巻本に作つた。その目は月令統紀・歳令・毎月令・春令・正月令・二月令より閏月令・昼夜令・時令まで二三日で、巻首に序由・編端・図説がある。

月令章句 がつりょうしょうく 一卷。⑤蔡邕(一三二—一九二年)後漢の学者・文学者・書家。④年中行事。一二巻あつたが散逸し、『玉函山房輯佚書』に一卷を残すのみである。

夏鼎志 かにいし 未詳。

河図 かと→河図洛書 かとらくしよ

河図括地象図 かとかつちしようず ④河図に関する緯書の一。

河図洛書 かとらくしよ ④「周易」(「易経」)と洪範九疇

(「書経」の「洪範」に記された禹の定めた政治道徳に関する九原則)との根元となる図書。河図は中国古代の伝説で、伏羲のとき、黄河から出た竜馬の背に書いてあつたという図、洛書は禹が洪水を治めたとき、洛水(川の名)から出た神龜の背にあつたという文字。伏羲は河図によって八卦を画し、禹は洛書によって洪範九疇を作つたという。

河図洛書示蒙鈔 かとらくしよじもうしゅう 一冊。⑤高

井蘭山(一七六一—一八三八年)江戸後期の戯作者。名は伴寛、字は思明(字明とも)、別号は三遷・晒我・宝雪庵。④「易道根元河図洛書示蒙鈔」。④未詳。④占卜。「河図洛書

弁」六十甲子納音弁」「五行相生相剋の弁」「男女相性弁」「干支弁」「掌中に男女生年の支を操」「同男女生れ年の十干を操」「同男女生れ性を操」から成る。④哲学堂文庫。

仮名世説 かなせせつ 二巻二冊。⑤大田南畝(一七四九—

一八三三年)江戸中・後期の狂歌師・戯作者・幕臣。名は覃、別号は蜀山人・四方赤良など。④文成七(一八二四)年序。

④同八年。④官位の高い人の言行や逸話および見聞などを二七条に類別し、一四九項目について記述したもの。中国の「世説」にならう。⑤「大田南畝全集」一〇、「新百家説林」三、「日本随筆全集」一三。「日本随筆大成」新版二期(旧版二期

一)、「百家説林」正編上、「有朋堂文庫」大田南畝集。

河北新報 かほくしんぽう 日刊。仙台、河北新報社。明治三〇(一八九七)年一月七日、「東北日報」を改題して創刊。現在まで継続している。④時事。おもな関係者—一力健治郎。

電神邪説弁 かまどがみじやせつべん 一冊。㊦佐々木高成(未詳)。㊧元文三(一七三八)年序。㊨かまど神の由来を述べて、かまど神についての邪説を駁したものの。㊩哲学堂文庫(写本)

漢事始 からことはじめ→中華事始 ちゅうかことはじめ
伽藍雜記 がらんざつき→洞上加藍雜記 どうじょうがらんざつき

画論 がるん 郭若虚(くわくじやく)宋(そう)の人の「図画見聞志」のことか。この書は五代から熙寧にいたる名人・芸士の流派本末を述べたもの。

河社 かわやしろ 五卷五冊。㊦契沖(けいちゆう)一六四〇—一七〇一年(江戸前期の国学者・真言宗の僧。字は空心。㊧寛政九(一七九七年)。㊨歌についての研究随筆を含む三四四条から成る。巻頭の条から題名はとられており、夏神楽のこと。㊩「契沖全集」八、「日本随筆全集」二、「日本随筆大成」新版二期一三(旧版二期七)、「百家説林」続編上。
寒温奇談 一二期 かんおんきだんひとふたくさ 五冊。㊦振鷲亭(？)一八一九(？)年(江戸後期の戯作者。本名は猪狩貞居、別号は魚米庵・関東米・金竜山下隠士など。㊧「奇談一二期」)。㊨寛政七(一七九五)年。㊩熊谷直純(なんざ)南山乃花精と暦代を論ずる話」などから成る奇話読本。㊪哲学堂文庫(四卷四冊、写本)

神明憑談 かんがかり 二卷二冊。㊦多田南嶺(ただなれい)一六九八—一七五〇年(江戸中期の神道家・浮世草子作者。本姓は源の

ち桂、名は義俊(よしのぶ)など、南嶺は号、別号は興先・春塘・秋斎など。㊧享保一九(一七三四年)序。㊨宝曆五(一七五五年)。㊩神道。上巻「神代人代の差別」「日本書紀を撰する趣旨」「日本書紀を読む用意」「両部唯一ならびに神秘のこと」「神国忌」「肉哉考」(下巻「神紀を読むに習あり」「和訓考」「忠臣忌部職掌考」「木綿襪の考」「異国の産物、神社に納むべきやの考」それに「随筆少々」(天狗の説など)。㊪哲学堂文庫(安政三年)漢官儀 かんかんぎ 三巻。㊦応劭(おうせう)(未詳)後漢の学者。字は仲遠。㊨漢の官制を記したものの。原本は逸して伝わらない。㊩「平津館叢書」四、「続古逸叢書」四二、「後知不足齋叢書」五二。

漢紀 かんき 三〇巻。㊦荀悦(じゆんえつ)(一四八—二〇九年)後漢の学者。字は仲予。㊨漢の高祖から王莽までの二四三年間のことを記し、「漢書」の誤謬を校証している。

閑際筆記 かんさいひつき 三巻七冊。㊦藤井懶斎(ふじいらんさい)一六二六—一七〇七年(江戸前期の儒学者・医者。名は臧。㊧正徳五(一七二五年)。㊨和漢の史実や古人の言行を記述し、批判を加え、また仏教を論難している。改題本に「和漢太平広記」がある。㊩「日本随筆全集」一〇、「日本随筆大成」一期一七(旧版一期九)

元三大師百籤和解 がんざんだいしひやくせんわけ 一冊。㊦忍鑑(にんかん)一六七五—一七四七年(江戸中期の天台宗の僧。㊧享保一四(一七二九年)序。㊨「第一大吉から」第一〇〇「」までの一〇〇籤について解説したもの。㊩哲学堂文庫。

元三大師御鬮判断 がんざんだいしきみくじはんだん 一冊。

⑧未詳。⑨「元三大師百籤判断抄」、「百籤鈔」。⑩占いの法を知ること、元三大師御伝記、それに「第一大吉」から「第一〇凶」までのおみくじの判断を述べている。⑪哲学堂文庫。

閑散余録 かんさんよろく 二巻二冊。⑫南川金溪（一七三

二一八一年）江戸中期の儒学者。名は維遷、字は士長・文瓊など、金溪は号。⑬明和七（一七七〇）年。⑭安永六（一七七

七年。⑮上巻三七項、下巻七五項の計一二二項から成り、荻生徂徠・伊藤仁齋・伊藤東涯・新井白石・山崎闇斎・中江藤樹など、儒林に名のある者の言行・事跡を拾い集め、交遊をもった儒者たちから見聞したことを記したもの。⑯「日本

隨筆大成二期二〇（旧版二期一〇）、「日本文庫」一。漢史 かんし ⑰「漢書」の別称。→漢書。

管子 かんし 二四巻。⑱管仲（？一前六四五年）春秋時代の齊の宰相・思想家。名は夷吾、仲は字。⑲戦国期一前漢期。

⑳後世の政論家たちが管仲になぞらえて書いた論説や警句に、管仲説話や他書からの論考をまじえて成ったもの。はじめ八六編あったが現行は七六編。道家・農家・陰陽家などさまざまな思想が混在しているが、主調をなしているのは法家

の思想で、法による賞罰の励行と経済生活の向上による国家の富強を説いている。㉑「新釈漢文大系」四二一四三・五二。

韓詩外伝 かんしがいでん 一〇巻。㉒韓嬰（未詳）漢初の学者。㉓雑多な故事を引いて、「詩経」の章句をもって説明したもの。先秦に関するものが多い。㉔「学津討原」二、「漢魏叢

書」、「四部叢刊」、「津逮秘書」二、「說郛」。

顔氏家訓 がんしかくん 七巻。⑳顔之推（五三一—六〇二（六〇三）年）南北朝末、隋初の思想家。字は介。㉑隋の開皇一〇（五九〇）年ころ。㉒子孫のために書き残した教訓書。道

徳・学問・経済生活・風俗・言語・雑芸などを体験にもとづく具体的事例をあげて、質実な人生観と現実的な生活態度を説いている。老荘の非実用性を排して、儒仏の調和をとえ

た。㉓「漢魏叢書」、「五朝小説」、「四部叢刊」、「重較說郛」、「知不足齋叢書」、「抱經堂叢書」。

漢書 かんじよ 一〇〇巻。㉔班固（三二—九二）後漢初の歴史家・文学者。字は孟堅。㉕「前漢書」。㉖八〇年前後。㉗前漢一代二三〇年間の歴史を叙述した正史の一つ。帝紀一二

巻、表八巻、志一〇巻、列伝七〇巻から成る。地理志のなかに、二〇字の倭人に関する記述がある。志には礼楽志・律曆

志・食貨志・郊祀志・天文志などある。漢上易集伝 かんじようえきしゅうでん 一一巻。㉘朱震

（未詳）宋の人。字は子発。漢上先生と称す。㉙卦圖三巻・叢

説一卷。易に関する書。観象玩占 かんじようがんせん 未詳。灌頂経 かんじようきょう →仏説灌頂経 ぶつせつかん

じょうきょう 願成就之記 がんじようじゆのき 未詳。漢書郊祀志 かんじよこうしし ⑳「漢書」二〇志の一。→漢書。

漢志歴代之史 かんしれきだいのし 未詳。

閑聖漫録 かんせいまんろく 一冊。会沢正志齋(一七八二

—一八六三年)江戸後期の儒学者。名は安、字は伯民、別号は欣賞齋など。㊦刊文久三(一八六三年)。㊦水戸学による五

倫、神社、儒道に関する随筆。陰陽五行・稻荷社・功烈神祠・天命・尊王攘夷など、全二七条から成る。㊦『修養文庫』

儒仏訓下、『破邪叢書』一。

勸善懲惡集 かんぜんちようあくしゆう 七巻七冊。㊦慧灯

(未詳)。㊦享保一三(一七二八年)。㊦因果応報の話を漢籍から集めて、善を勧め、悪を懲らしめる教訓にしようとしたもの。㊦哲学堂文庫。

観相奇術 かんそうきじゆつ 一冊。㊦未詳。井上勝五郎

刊、明治二三(一八九〇)年、和一九丁。㊦占卜。

閑窓瑣談 かんそうさだん 四巻四冊。㊦為永春水(二七九

〇—一八四三年)江戸後期の戯作者。本名は鶴鶴(佐々木)貞高、別号は二代目振鷲亭主人・二世南仙笑楚満人・狂訓亭主人など。㊦『晩進魯筆 閑窓瑣談』。㊦天保一二(一八四

一)年序。㊦人麿の奇説や俚俗の異説など、古代から近世にいたる逸話・奇談の類が五六条集録されている。絵入り。㊦

『日本随筆全集』九、『日本随筆大成』新版一期一二(旧版一期六一七)

閑窓倭筆 かんそうわひつ 二巻二冊。㊦惠空(一六四三—

九一年)江戸前期の天台宗の僧。㊦延宝七(一六七九年)。㊦随筆。卷上「徳をもつて怨に報ず」から「誦咒闍路を照す」まで

二五項、卷下「禽獸能言」から「聖衆來迎」まで三八項の計六三

項から成る。㊦哲学堂文庫(二巻一冊)

閑田耕筆 かんでんこうひつ 四巻四冊。㊦伴蒿蹊(一七三

三—一八〇六年)江戸中・後期の国学者。名は資芳、別号は閑田子。㊦寛政一一(一七九九)年自序。㊦享和元(一八〇二)

年。㊦随筆。内容を『五雜俎』にならない天地・人・物・事の四部に分け、見聞した異聞・珍説などを和漢の書によって考証

している。㊦『日本随筆全集』六、『日本随筆大成』新版一期一

八(旧版二期九)、『百家説林』続編下一、『有朋堂文庫』。

広東通志 かんとうつうし 六四巻。㊦郝玉麟(未詳)。㊦雍正九(一七三二)年。㊦明代に修めた広東の地誌を清の康熙

二二(一六八四)年に続修したもので、風俗・物産・古跡など三五門から成る。

感応編 かのうへん→太上感応篇 たいじょうかんのうへん

韓非子 かんぴし 二〇巻。㊦韓非(前二八〇ころ—前二三三年)中国戦国時代末期の思想家。法家思想の集大成者。㊦

法家の思想を述べた書で、韓非とそその一派の論著五五編を集めたもの。㊦『新釈漢文大系』一一—一二、『全釈漢文大成』二〇—二一。

閑秘録 かんひろく 八巻八冊。㊦未詳。㊦故実・和歌などを主とした随筆で、壺井義知(一六五七—一七三五年、江戸

中期の有職故実家)・新井白石・北島永以の説を中心に自らの考証を加えている。㊦『随筆大観』六、『日本随筆全集』一

九、「日本隨筆大成」新版三期一〇(旧版三期五)
管蠡数恬略 かんれいすうこうりやく 三卷三冊。㊦山梨和
貴未詳。㊦寛成五(一七九三年)。㊦上・中巻は鶴飼信興
の『和漢珍書考』(『和漢雜笈或問』)の説に対して、「蟬丸の説
を弁ず」から「当摩中将姫の説を弁ず」まで二三条を立てて反
論し、下巻は易の数について「数象で論じ」、「桶箱問答」「漏
釣瓶」「秘事」「過言」の計二十八条について論じている。㊦哲学
堂文庫。

〔き〕
紀 き → 日本書紀 にほんしよき
奇異雑談 きいぞうだん → 奇異雑談集 きいぞうだんし
ゆ

奇異雑談集 きいぞうだんしゆ 六卷六冊。㊦中村某(未
詳)。㊦『奇異雑談』。㊦室町時代。㊦貞享四(一六八七年)。
㊦各地の怪談・奇説を集めたもの。三一話。中国の小説『剪
灯新話』のなから三話を訳出しているという。㊦『近世文芸
資料』近世怪異小説。

紀伊国名所図会 きいのくにめいしよすえ 初・二編六卷
一〇冊・三編六卷七冊・後編六卷六冊。㊦高市志友(たけいちしゆう)
一八一八二三年)江戸後期の書肆・俳人。名は伊兵次、別号
は青霞堂・春樹庵/その他著。画・西村中和/その他画。㊦
『紀伊名所図会』㊦初・二編は文化九(一八一二年)、三編は
天保九(一八三八年)、後編は嘉永四(一八五二年)。㊦地誌。

㊦『紀伊国名所図会 後編(昭和一一一二二年)。㊦『大日本
名所図会』。

紀伊毎日新聞 きいまいにちしんぶん 日刊。和歌山、紀
伊毎日新聞社。明治二六(一八九三年)五月一日創刊、大正二
(一九一三年)六月六日、六〇〇〇号記念号を発行した。昭和
六(一九三一年)まで存続した。㊦時事。
奇応記 きおうき → 靈験奇応記 れいげんきおうき
記憶術 きおくじゆつ → 記憶術講義 きおくじゆつこう
ぎ

記憶術講義 きおくじゆつこうぎ 一冊。㊦井上円了(いのうえまこと)
五八一(一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育者。号は甫
水。不思議庵主人と称す。東京、哲学館、明治二七(一八九
四)年二月、八二頁(第三版から付録を増補して九二頁)。㊦
記憶の方法を身心関係から述べている。付録として『物覚秘
伝』を掲載。

記憶新法 きおくしんぽう 未詳。
記憶の病症 きおくのびょうしよ 一冊。㊦T・A・リボ
ー(Ribot, T. A. 一八三九—一九一六年)フランスの心理学
者・精神病理学者・哲学者。㊦医学。〔原書〕Les maladies
de la mémoire, 1881. [英訳] Disease of Memory.
義経記 ぎけいき 八卷八冊。㊦未詳。㊦『判官物語』、『牛
若物語』、『義経物語』。㊦室町中期。㊦元和古活字版。㊦軍
記物。源義経の一代記。前半は幼少時代、後半は没落譚とな
っている。㊦『岩波文庫』、『校註日本文学大系』二三、『日本

古典全集二期、『日本古典文学大系』三七、『日本精神文化大系』五、『有朋堂文庫』。

窺原抄 きげんしょう 六二冊。⑥石出常軒(二六一五—八九九)江戸前期の国学者。名は吉深。⑦温故知新抄。⑧延宝七—貞享二(一六七九—一八五)年。⑨源氏物語の注釈書。

⑩国立公文書館内閣文庫(写本)

擬山海経 ぎさんかいきょう 五巻五冊。⑪独庵玄光(一六三〇—一八八)江戸前期の曹洞宗の僧。玄光は法諱、道号は

象山、号は睡庵・独庵。⑫元禄一五(一七〇二)年。⑬巻一は勸学・密呪功德・六即仏など二八条、巻二は崔広宗・画工・陳武振など二五条、巻三は沈東美・太原小兒など五条、

巻四は臨准将・楊邁・謝邈之など二三条、巻五は選将・盧嗣宗・李仲呂など三〇条から成る。⑭哲学堂文庫。

魏志 ぎし 未詳。

揮塵後録 きしゆこうろく 揮塵録 きしゆろく

奇術秘法 きじゆつひほう ⑮未詳。東雲堂、明治二四(一八九二)年、六二頁。⑯まじない。

揮塵録 きしゆろく 前録四巻・後録一巻・三録三巻・余話二巻。⑰王明清(一一二七—?年)南宋の人。⑱史事旧聞を

集めたもので、北宋末・南宋初の政治社会状況を知る参考となる。⑲『四部叢刊統編』、『津逮秘書』、『叢書集成初編』。

気象学 きしょうがく 一冊。⑳『叢書集成初編』、『叢書集成初編』。

京、寛裕舎、明治三三(一八九〇)年、一三四・二五二頁(上下合本)

鬼情談 きじょうだん 三巻三冊。㉑作・秉心堂主人(未詳)／画・冀竜、一鷗。㉒奇事詳説 鬼情談。㉓文化六

(一八〇九)年。㉔卷二「相馬妙見宮の話」ほか九話、卷二「稻荷社の話」ほか六話、卷三「正覚僧正の話」ほか八話、計二六話から成る。㉕哲学堂文庫。

癸辛雜識 きしんざつしき 前集一卷・後集一卷・続集二

卷・別集二巻。㉖周密(一二三—一九八)南宋末の文学者。字は公謹、号は嘯翁・草窗・四水潛夫など。㉗瑣事・雜言を記したもので、考証上の参考資料となるものが多いという。

鬼神集説 きしんしゅうせつ 一冊。㉘佐藤直方(一六五〇—一七一九)江戸前期の儒学者。㉙元禄二(一六八九)年。

㉚『佐藤直方全集』。

鬼神新論 きしんしろん 一冊。㉛平田篤胤(一七七六—一八四三)江戸後期の国学者。㉜文化二(一八〇五)年。㉝

文政三(一八二〇)年訂補。㉞和漢古今の儒者たちの鬼神論の不徹底さを批判・詳論して、神の实在を論証しようとしたもの。㉟『新修平田篤胤全集』九(名著出版)、『新註皇学叢書』一、『平田篤胤全集』三(平田学会)、『平田篤胤全集』八(内外

書籍)、『日本思想大系』五〇(『新鬼神論』)

鬼神俚諺鈔 きしんりげんしょう 三巻。㊱無揮塵 未詳。㊲『靈話』。㊳貞享四(一六八七)年。㊴鬼神・靈魂・神儒仏に

関することなどを問答形式で論じている。㊵哲学堂文庫。

鬼神論 きしんろん 四巻一冊。㊶新井白石(一六五七—一七二五)江戸中期の儒学者・政治家。名は君美。㊷寛政一

二二八〇〇)年。(四)元・亨・利・貞の四集から成り、鬼神の本質、妖怪現象の種々相の根源・由来、淫祀と正祀の別などを、儒仏の対比において明らかにしたものの。(五)「新井白石全集」六、「日本思想大系」三五、「日本思想論叢史料」三、「日本哲学思想全書」八、「日本哲学全書」二一。

鬼神論 きしんろん 一冊。(六)南孝温(未詳)朝鮮李朝の人。字は伯恭、号は秋江、諡は文貞。(七)「南秋江鬼神論」。(八)宝曆一(一七六一)年。(九)鬼神について論じたもの。

帰正漫録 きせいまんろく 一冊。(十)安井真祐(未詳)。(十一)「弁道漫録」。(十二)元禄二(一六八九)年。(十三)宋明において仏老を論じた儒者たちの論説を抄出したもの。(十四)哲学堂文庫。

起世因本経 きせいんほんきょう 一〇巻。(十五)達磨笈多(ダールマゴプタ、?一六一九年)隋代の訳経僧。(十六)紀元後。(十七)世界の生起・形状などを説明した宇宙論。(十八)大正新脩大藏經一(一二五)

奇説集州 きせつあつめぐさ 三冊。(十九)未詳。(二十)国立国会図書館(写本)

奇説雑談集 後編 きせつざうだんしゅう こうへん 五卷五冊。(二十一)未詳。(二十二)芝居由緒の談「新吉原根元の大概」、卷二「坂陽任俠文七談話」、卷三「武州靈教寺に徘徊せし桑門定西が談」、卷四「西国浪人今田氏が談話」「市森氏芸術の談話」「予州松山農人の女房怪を産の談」、卷五「未然を語る僧の談」「岡野氏が談話」「永井善左衛門が談話」から成る。(二十三)哲学堂文庫(写本)

奇説者聞集 きせつちよもんしゅう 五卷五冊。(二十四)大藏永常(二七六八―一八六〇?年)江戸後期の農学者/画・蹄齋北馬。(二十五)「田家茶話」。(二十六)文政二(一八二九年)。(二十七)奇話・異聞三八話を集めたもの。(二十八)哲学堂文庫(写本)

木曾路名所図会 きそじめいしよずえ 六卷七冊。(二十九)作・秋里籬島(?!一八三〇?年)江戸後期の読本作者・俳人。姓は池田、名は舜福、字は湘夕、秋里籬島は号、別号は籬島軒/画・西村中和(?!一八三〇?年)中和は名、字は士達、号は梅溪・樸溪。(三十)文化元(一八〇四)年自序。(三十一)文化二(一八〇五年)。(三十二)「大日本地誌大系」二・一四、「大日本名所図会」。

義楚六帖 きそろくじょう 二四巻。(三十三)義楚(未詳)五代・北宋時代の僧。(三十四)後周の世宗の顯徳元(九五四年)。(三十五)「崇寧二(一一〇三年)九七三年の開宝六年版は残されていない」。(三十六)「釈氏纂要六帖」、(三十七)「釈氏六帖」。(三十八)白居易の「白氏六帖」に擬して、仏教の義理・文章・庶事・群品を五〇部四四〇門に細分し、類集した百科事典的な書。五代後晋の出帝の開運二(九四五年)から約一〇年の歳月をかけて完成した。(三十九)「義楚六帖」(「古典叢刊之二」、朋友書店、一九七九年)

北山医話 きたやまいわ 三卷三冊。(四十)北山寿安(?!一七〇一年)江戸前期の医家。名は道長、号は友松・仁寿庵・逃禅堂、寿安は通称。(四十一)「正徳三(一七一三年)。(四十二)内医学」。(四十三)大阪府立中之島図書館。

奇談諸国便覧 きだんしよこくべんらん ↓ 諸国便覧 し

よこべんらん

奇談新編 きだんしんべん 一冊。著淡山子(未詳)。天保

一三(一八四二)年序。内外の滑稽奇談を漢文でつづつたもの。数十条、批評を加えたものもある。蔵哲学堂文庫。

熙朝樂事 きちようらくじ 一冊。著田汝成(未詳)。内明朝

の年中行事を記したもの。安永元(一七七二)年刊行の和刻本(大沢弘記がある)。蔵国立国会図書館。

橋庵漫筆 きつあんまんびつ 二編一〇巻一〇冊。著田宮仲

宣(一七五三?—一八一五年)江戸中・後期の洒落本作者。名は純または悠、仲宣は字、号は廬橋庵。別「東彌子」。蔵初

編享和元(一八〇二)年序、同三(一八〇三)年刊、二編文化二

(一八〇五)年序。内和漢古今の風俗・言語などを一五〇余項の広範囲にわたり考証または批判したもの。「東彌子」と「嗚呼矣草」を一緒にして『橋庵漫筆』前・後編とした。蔵『日本随

筆全集』、『日本随筆大成』新版一期一九旧版一期一〇) 吉凶開示 きつきようかいじ 著鈴木左膳(未詳)。三田村寅

次郎刊、明治一三(一八八〇)年、和二三・二三丁(二冊合本) 狐講釈 きつねこうしゃく 五冊。著高古堂主人(未詳)。別

『千歳 狐講釈』。蔵『明和七(一七七〇)年。内卷一「亀右衛門狐と語る事」源頼光蜘蛛の怪の事」、卷二「喜撰法師が行状」

「安倍保名狐と通して子を儲し事」、卷三「大江山酒呑童子の説」長者鷹犬の難を語る事」、卷四「松風村雨の説」不孝成娘

夢に地獄に墮る事」、卷五「志ろうるりの説」長者鷹名方を伝える事」から成る。蔵哲学堂文庫。

祈禱感應録 きとうかんのうろく 一冊。著良全(未詳)。別

「感應録」。蔵寛政四(一七九二)年序。内「維摩經」をもとに修行得験のために書かれたもの。蔵哲学堂文庫。

帰納法論理学 きのうほうろんりがく 著清野勉(一八五

三—一八〇四年)明治期の哲学者。東京、哲学書院、明治二二(一八八九)年、二冊(上下六〇五頁)。内論理学。

奇病便覧 きびょうべんらん 怪妖故事談 かいうこじだん

岐阜日日新聞 きぶにちにしんぶん 日刊。岐阜、岐阜日日新聞社。明治一四(一八八二)年二月一日、「岐阜新聞

(明治一二(一八七九)年一月三日創刊)を改題・継承して創刊された。戦時統合により昭和一七(一九四二)年一月五日、「岐阜合同新聞」と改題し、昭和二二(一九四六)年二月一日、統合解消により「岐阜タイムス」と改題して、昭和三五

(一九六〇)年一月一日、「岐阜日日新聞」に復題した。 紀聞 きぶん 一〇巻。著牛肅(未詳)唐の人。内唐の神怪

異聞などを記した伝奇集。 亀卜秘伝 きぼくひでん 一冊。著未詳。内占卜。蔵国立国会図書館。

笈埃隨筆 きゅうあいずいひつ 一二巻一二冊。著百井塘雨

(?—一七九四年)江戸中期の商家・随筆家。号は塘雨・五井。内紀行文。諸国を漫遊して見聞した名勝古跡、風俗習慣、奇談珍説などを詳細に記録し、または評論したもの。蔵

『日本随筆大成』新版二期一二(旧版二期六)

旧紀 きゅうき ↓ 先代旧事本紀 せんだいこくじほんき

救急摘方 きゅうききゅうてきほう 正統編二巻二冊。⑤平野

元良(？)一八六七(？)年。江戸後期の医者。名は重誠、字は子

公、元良は通称、号は革谿・桜寧・無適道人など。⑥「軍陣

備要 救急摘方」。⑦正編は嘉永四(一八五二)年ころ。続編

は安政三(一八五〇)年。⑧医学。

救荒事宜 きゅうこうじぎ 一冊。⑨齋藤拙堂(一七九七-

一八六五年)江戸後期の儒学者。名は正謙、字は有終、別号

は鉄研字人・辞官後拙斎。⑩「増補救荒事宜」。⑪天保二(一

八三二)年。⑫文久元(一八六一)年。⑬古来の飢饉の年度や

前兆などをもとに、予備や救済などの方法を講究したもの。

⑭「日本経済大典」四六。

嬉遊笑覧 きゅうしやうらん 一二巻・付録一卷一六冊。⑮

喜多村信節(一七八三-一八五六年)江戸後期の考証学者。号

は筠庭・筠居・静斎。節信ともいう。⑯文政一三(一八三〇)

年自序。⑰民間風俗、市井雑事に関して和漢の典籍を用いて

考証したもの。⑱「我自刊我書」、「存採叢書」、「日本芸林叢

書」、「日本随筆大成」新版別巻七一〇(旧版二期別巻)、「嬉

遊笑覧」(明治一五年、三六年、大正五年、昭和三年)

九星方位早操便覧 きゅうせいほういはやくりべんらん

⑲未詳。井上勝五郎刊、明治一三(一八八〇)年、和一帖。⑳

占卜。

奇遊談 きゆうだん 三巻四冊。㉑川口好和未詳。㉒「諸

国奇遊談」。㉓寛政一一(一七九九)年。㉔山城国(京都)内

で見聞した珍奇な事柄や故事来歴、物産、諸行事などを記したもので、全六六項から成る。㉕「日本随筆大成」新版二期二

三(旧版一期一一)

九鼎記 きゅうていぎ ㉖「抱朴子」にある道教の書。

牛馬問 きゅうばもん 四巻四冊。㉗新井白蛾(一七一五-

九二年)江戸中期の儒学者・易断家。名は祐登、字は謙吉、

別号は古易館。㉘「宝曆五(一七五五)年自序、同六年刊。

㉙随筆。一二二項目から成り、和漢にわたる雑纂(字義・俗

説・伝承・芸談・古典など)について考証したもの。㉚「温知

叢書」二二、「日本随筆大成」新版三期一〇(旧版三期五)、「白

蛾全書」。

窮理 きゅうり ↓ 窮理隠語 きゅうりいんご

窮理隠語(児女必解) きゅうりいんご(じじよひつかい)

㉛清原道彦(未詳)。万笈閣、明治五(一八七二)年、和二冊

(上二八・下三二)。

㉜「訓蒙窮理隠語」。㉝物理の教科書。

教苑摘要 きょうおんてきやう 二巻。㉞真流(一七一-

一?年)江戸中期の天台宗の僧。㉟「天明和九(一七七二)年序。

㊱天台・禅・密三宗の一致が日本天台宗であると主張する論

を中心にした論文集。㊲「哲学堂文庫」

教行信証 きょうぎょうしんしょう ↓ 顕浄土真実教行

証文類 けんじょうどしんじつきょうぎょうしんしょうもんる

強識略 きょうしきりやく 未詳。

狂草 きょうそう ㊳「雨森芳洲」(二六六八-一七五五年)江

戸中期の儒学者。名は俊良・誠清、字は伯陽、別号は尚綱齋。④『妖怪学講義』では亀卜の部分が引かれているが、書名は確認できない。

京都日出新聞 きょうとひのでしんぶん 日刊。京都、日出新聞社。明治三〇(一八九七年七月一日)、『日出新聞』(明治一八(一八八五年)四月一〇日創刊)を改題・追号した。昭和一二(一九四二年)四月一日、『京都日日新聞』などと合併して、『京都新聞』と改題し継続している。

経律異相 きょうりついついそう 五〇巻。⑤宝唱(未詳)中国南北朝時代の僧。⑥梁の天監一五(五一六年)。⑦一種の仏教事典。経律から事項を採取し、それを天・地・仏・菩薩・声聞・国王・王夫人・太子・王女・長者・優婆塞・優婆夷・外道仙人・梵志婆羅門・居士・賈客・庶人・鬼神・雜獸畜生・地獄の部門を立てて分類し、さらにそれを細目に分けて整理している。引用経典で今日に伝わらないものもあるため、經典研究の重要な資料といわれる。⑧『大正新脩大藏經』五三(二二二二)

竟陵王誕伝 きょうりょうおうたんてん ④『宋書』のなかの編。→宋書。

玉山画譜 きよくざんがふ 五巻二冊。⑤画・岡田玉山(？)一八〇八)江戸中・後期の絵師。名は尚友、字は子徳、別号は金陵齋。⑥『絵本妖怪奇談』、『法橋 玉山画譜』。⑦見開きの絵に文章が入った妖怪奇談画集。四八画から成る。⑧哲学堂文庫。

玉石雜誌 きよくとせきざつし 正編九巻・続編五巻二〇冊。

⑨栗原信充(二七九四—一八七〇年)江戸後期の故実家。号は柳菴庵・闇。又楽。晩年、武田信充と称す/画・栗原信兆。⑩『先進繡像 玉石雜誌』。⑪天保一四(一八四三年)。⑫嘉永元(一八四八年)。⑬北畠親房から藤原為子にいたる二四人の肖像を模写し、その小伝を記したもの。⑭『日本随筆大成』新版二期九(旧版二期五)

玉兔集 きよくとしゅう→簠簋内伝金烏玉兔集 ほきないでんきんうぎよくとしゅう

玉篇 きよくへん 三〇巻。⑮顧野王(未詳)南朝の梁の学者。字は希鴻。⑯五三五—五五一年間。⑰字書。成立後に蕭愷らが改削し、唐の孫強が増字し(上元本という)、宋の陳彭年らが上元本によって重修・増字し、これが『大広益会玉篇』、または『重訂玉篇』といわれる現行のものである。⑱『古逸叢書』、『小学彙函』。

居行子 きょこうし 五巻五冊。⑲西村遠里(一二二六?—一八七七年)江戸中期の暦学者。名は得一、号は居行。⑳明和九(一七七二年)序。㉑安永四(一七七五年)。㉒種々の事柄について弁論・考証したもの。巻一「人相の弁」など五項、巻二「長生の弁」など五項、巻三「儒者之説」など三項、巻四「花見のことば」など六項、巻五「俗文鬼神論」から成る。㉓『哲学堂文庫』享和三(一八〇三年)、五巻一冊)

居行子外篇 きょこうしがいへん 五巻五冊。⑳西村遠里(一二二六?—一八七七年)江戸中期の暦学者。名は得一、号は居

行。④天明六（一七八六）年序。⑤天明八（一七八八）年。⑥卷一「嘘の世中」ほか三項、卷二「鶴問答」ほか二項、卷三「和歌六体之弁」ほか二項、卷四「詠歌題之正誤」ほか三項、卷五「伊呂波国字之説」ほか一項から成る。⑦哲学堂文庫（五卷一冊）

居行子後篇 きよこうしこうへん 五卷五冊。⑧西村遠里（一七二六？—一七七年）江戸中期の曆学者。名は得一、号は居行。⑨安永五（一七七六）年跋。⑩安永八（一七七九年）。⑪「鬼門之弁」（卷一）、「一角木乃伊之説」（卷二）、「妖怪之説」（卷四）、「年号改元附入梅之説」（卷五）など、全二〇項から成る。⑫哲学堂文庫（五卷一冊）

虚実雑談集 きよじつぞうだんしゅう 五卷五冊。⑬瑞竜軒恕翁（一六八七—一七八四年）江戸中期の講釈師。姓は滋野氏、名は茂雅、瑞竜軒恕翁は号。⑭寛延二（一七四九年）。

⑮各卷一九条で全九五条から成り、「川太郎の事」仙人を見たる事、「人丸赤人の社の事」大地震津浪の事、「情を志らぬ人の事」豆州熱海怪異の事「鷹の礼の事」など怪異奇談を集めたもの。⑯哲学堂文庫。

曲肱漫筆 きよこくまんびつ 四卷一冊。⑰春樹閑民（未詳）。⑱天保一三（一八四二年）。⑲卷一「窓の月」傾城の弁」、卷二「易学の弁」仙人の説」、卷三「酒茗論」春四に奢の弁」夜話の三笑」の七項について、経史百家の説をあげて論じたもの。⑳「日本随筆大成」新版二期一八（旧版二期九）

希臘神代史 きりしあじんだいし 未詳。

金匱経 きんききょう 未詳。

金匱要略 きんききょうりやく 二四卷。㉑張機（未詳）。⑳古医書の名で、「医学五経の一。もと「金匱玉函方」または「傷寒雜病論」と題されたものから六編に編次した「傷寒論」（晋の王叔和編）と、宋の林億らの編による本書が作られた。㉒医学正脈全書」、「四部叢刊」、「高注金匱要略」（上海衛生出版社、一九五六）。㉓「全訳傷寒論」明德出版社、昭和四〇年）

今古未発日時九星弁 きんこみはつにちじきゅうせいべん 一冊。㉔川辺養神（未詳）。愛静堂、明治一七（一八八四年）和二四丁。㉕占卜。

禁祠要略 きんしゅうりやく 未詳。

近思録 きんしろうく 一四卷。㉖編・朱熹（一一三〇—一一二〇）年南宋の思想家。朱子学を大成。字は元晦・仲晦、号は晦菴・晦翁／呂祖謙（一一三二—一一八一年）宋の儒者。字は伯恭。東萊先生と敬称された。㉗淳熙三（一一七六）年。㉘朱熹の先駆者、周濂溪（敦頤）・程明道（顥）・程伊川（頤）・張橫渠（載）の著作や語録のなから、学問や日常の道に関するものおよび哲学説六二二条を選んで編集し、初学者の入門書としたもの。㉙「岩波文庫」、「新釈漢文大系」三七。

今奇諧 きんせいかい 今奇諧 いまさいかい

近世奇跡考 きんせいきせきこう 五卷五冊。㉚山東京伝（一七六一—一八二六年）江戸後期の戯作者・浮世絵師。本名は岩瀬醒、字は西星、別号は山東庵・醒齋・菊亭、画号は北尾政演／画・喜多武清（一七七六—一八五六年）江戸後期の絵師。名は武清、字は子慎。㉛「続骨董集」。㉜「文化元（一

八〇四年序。④近世初期の市井の風俗、巷談雑話、人物の逸事などについて考証した隨筆。⑤『温知叢書』八、『日本隨筆全集』一一、『日本隨筆大成』新版二期六(旧版二期三)

近世拾遺物語 きんせいしゅういものがたり 七卷七冊。

⑥未詳。⑦『本朝 近世拾遺物語』、『本朝 今昔拾遺物語』。

⑧文政八(一八二五)年。⑨怪異談。『大和怪異記』の改題本。

↓大和怪異記。

近世世事談 きんせいせじだん→世事談 せじだん

近世百物語 きんせいひやくものがたり 四卷四冊。⑩庭仙(未詳)。⑪「一母十五男」から「百歲婆慕主」まで、全五〇話。「夢ユメと神カミと歌ウタ」「夜鬼清古墳ヨケイキヨコノミ」「天狗忌奇器テングイキキ」「悪報墮アクホウダ」地獄ジゴク」「幽靈ユウレイ・饋クハ・愛妓アイキ」などから成る奇談怪異集。絵入り。

⑫哲学堂文庫(写本、四卷二冊)

近世聞見録 きんせいぶんけんろく 二卷二冊。⑬紀実(未詳)。⑭卷一は明和四(一七六七)年から弘化四(一八四七)年

までの世相記録三〇条、卷二は文芸作品の抄録その他二七条から成る見聞録。⑮西尾市立図書館岩瀬文庫。

近世説美少年録 きんせいせつびしょうねんろく 四輯二〇冊。⑯滝沢馬琴(一七六七—一八四八年)江戸後期の戯作者。

名は解、字は瑣吉、馬琴は号、別号は曲亭・著作堂主人・蓑笠魚隠など。画・歌川国貞(初代・一七八六—一八六四年)江

前後期の浮世絵師。岩窪北溪。⑰『美少年録』。⑱初輯文政一(一八二八)年、二輯同一二年、三輯天保二(一八三一)年、四輯同五年。⑲読本。悪と善の二人の美少年の物語。四

輯の続編に「玉石童子訓」がある。⑳『昭和版帝国文庫』、『続国民文庫』、『続帝国文庫』、『有朋堂文庫』、『訂正増補美少年録』(明治二〇年)

近代世事談 きんだいせじだん→本朝世事談綺 ほんちようせいじだんき

禁中日中行事 きんちゅうにっちゅうぎようじ→日中行事 にっちゅうぎようじ

錦囊智術全書 きんのうちじゆつぜんしよ 目録ともに一三卷七冊。㉑嘉永四(一八五二)年再版。㉒叢書。『百工秘術

前編』、『拾玉統智恵海』、『拾玉新智恵海』、『増補拾玉智恵海』から成る。㉓国立国会図書館(刊年不明)

禁秘抄 きんぴししょう 三卷三冊。㉔順徳天皇(一一九七—一二四二年)。㉕『禁中抄』、『禁中御抄』、『禁秘御抄』、『建曆

御記』。㉖建曆三(一二一三)年。㉗正保版。㉘有職故実。宮中における有職作法の心得を漢文体で記したものの。㉙『群書類従』雑、『新註皇学叢書』五、『日本精神文化大系』一、『列聖

全集』御撰集六。

近聞寓筆 きんぶんぐうひつ 四卷・付録一卷四冊。㉚吉田

篁墩(一七四五—一八二三年)江戸後期の儒学者。名は漢宦、字は

学生、篁墩は号。㉛『文政六(一八二三)年。㉜漢文隨筆。種々の書物のなから奇事・異聞を抜粹したもの。㉝『統日本儒林叢書』一。

訓蒙図彙 きんもうざい 二〇卷・目録二卷。㉞中村惕斎(一六二九—一七〇二年)江戸前期の儒学者。名は之欽、字は

敬甫。⑧『頭書増補訓蒙図彙』、『増補頭書訓蒙図彙大成』。⑨寛文六(一六六六)年。⑩絵入り百科事典。卷一「天文」から卷二「花草」まで二八項にわたり、事物の名称を記し、その形状を図示している。⑪『訓蒙図彙』昭和五〇年、早稲田大学出版部。『訓蒙図彙』(近世文学資料類従)参考文献編四)

金葉集 きんようしゅう→金葉和歌集 きんようわかしゅう

金葉抄 きんようしゅう 未詳。

金葉和歌集 きんようわかしゅう 一〇巻一冊または二冊。

⑧編・源俊賴(一〇五五?—一二九九年)平安後期の歌人。

⑨『金葉集』。⑩初奏本天治元(一二二四年)、再奏本同二年、三奏本大治二(一二二七年)。⑪天保九(一八三八年)。⑫歌集。春・夏・秋・冬・賀・別離・恋(上下)・雑(上下)に分

け、雑の下に連歌一九首を収める。作者は二七人。⑬『三奏本金葉和歌集』(国民精神文化文獻)、『初奏本金葉和歌集』(昭和三年)。⑭『岩波文庫』(三奏本)、『校註国歌大系』四、

『国歌大観』、『日本歌学全書』五、『日本古典全書』三期、『八代集全註』、『有朋堂文庫』、『校訂金葉集』(明治四二年)

〔く〕

空華随筆 くうげずいひつ 二巻二冊。⑧諦忍(一七〇五—

八六年)江戸中期の真言宗の僧。名は妙竜。号は雲蓮社空華。⑨寛保元(一七四一年)。⑩漢文随筆。道徳・故実などに

ついて、道儒仏の三教およびインド・中国・日本の三国における伝説や事例を論じたもの。⑪哲学堂文庫(刊年不明)

空華談叢 くうげだんそう 四巻四冊。諦忍(一七〇五—八

六年)江戸中期の真言宗の僧。名は妙竜、号は雲蓮社空華。

⑧『空華譚叢』。⑨宝暦版。⑩神儒仏三道に関する事物や伝説

など一九〇余項について記した。⑪『大日本仏教全書』九四、『空華談叢』(明治三一年)

愚管抄 ぐかんしょう 六巻・付一卷七冊。⑧慈円(一一五

五—一二二五年)鎌倉前期の天台宗の僧。⑨承久二(一二二

〇)年。⑩歴史書。神武天皇から順徳天皇にいたる歴史を片

仮名まじり文で論述したもので、歴史の流れを道理の現れと

してみている。⑪『岩波文庫』、『改定』史籍集覧二、『新訂

増補 国史大系』二九、『日本古典文学大系』八六、『日本精神文化大系』四。

公卿補任 きぎょうぶにん ⑧未詳。⑨最古の写本は平安

末・鎌倉初期。⑩摂政・関白以下参議以上の現官と、三位以

上の有位者を列挙した公卿の名簿。各人につき父母・経歴・

本官・位階・年齢・兼官などを記している。書き継がれて明

治元(一八六八)年におよんでいる。⑪『新訂増補 国史大系』。

旧事記 くじき→先代旧事本紀 せんたいくじほんぎ

公事根源 くじこんげん ⑧一条兼良(一四〇二—一八一

年)室町時代の公卿・学者。桃華老人ともいう。⑨応永二九(一

四二二)年。⑩元和古活字版(三巻三冊)。⑪有職故実。朝廷

の公事の基本を記した儀式書でそれぞれの行事を月ごとに掲げ、その起源・沿革・特質などについて詳述している。「建武年中行事」が基本資料となっている。⑤『新註皇学叢書』五、『日本文学全書』二二。

旧事本紀 くじほんぎ→先代旧事本紀 せんだいくじほんぎ

奇魂 くしみたま 二卷二冊。⑥佐藤鶴城(未詳)江戸後期の医者・国学者。本姓は藤原、名は方定のち神符満・東貞・本樹、別号は大鳥舎。⑦『尚古医典』。⑧天保二(一八三一)年。⑨医学。⑩『杏林叢書』四。

孔雀経 くじやくきょう→仏母大孔雀明王経 ぶつもだいくじやくみょうおうきょう

孔雀桜筆記 くじやくろうひつき 四冊。⑪清田儵叟(一七一九—一八五年)江戸中期の儒学者。名は絢、字は君錦、別号は千秋斎・孔雀桜。⑫『明和五(一七六八)年』。⑬各方面にわたる佳話・奇話に富んだ随筆。⑭『日本古典文学大系』九六。

俱舍頌 くしやじゅ→阿毘達磨俱舍論本頌 あびだつまくしやろんほんじゅ

俱舍頌疏麟記 くしやじゅしよりんぎ 未詳。俱舍世間品日行道図解 くしやせけんほんにちがつぎょうどうずげ 一冊。⑮宥範(未詳)江戸前期の僧。⑯『俱舍世間品』。⑰元禄一三(一七〇〇)年。⑱仏教。⑲大谷大学。

俱舍論 くしやろん→阿毘達磨俱舍論 あびだつまくしやろん

やろん

俱舍論記 くしやろんぎ 三〇卷。⑳普光(未詳)唐代の僧。

⑲『阿毘達磨俱舍論記』、『俱舍論光記』、『光記』。㉑六五四年ころ。㉒『阿毘達磨俱舍論』の注釈書。㉓『大正新脩大藏經』四一(一八二二)。㉔『国訳一切経』論疏部一一五。

俱舍論頌疏 くしやろんじゅしよ 三〇卷。㉕円暉(未詳)中唐の俱舍学者。㉖『阿毘達磨俱舍論頌疏論本』、『俱舍論頌疏』、『頌疏』、『俱舍論頌積』。㉗『俱舍論記』や『俱舍論疏』の後。㉘『阿毘達磨俱舍論』の頌のみに注釈を施したもの。俱舍論研究の入門書。㉙『大正新脩大藏經』四一(一八二二)

孔叢子 くぞうし 三卷。㉚孔鮒(前二六四—前二〇八年)秦末の学者。字は甲。㉛仲尼・子思・子上・子高・子順の言行を収集したもの(二二編)に、のち孔臧がその書『連叢上下篇』にそれを付して『孔叢子』といったとされる。

弘明集 ぐみょうしゅう 一四卷。㉜僧祐(四四五—五一八年)南齊・梁代の律僧。㉝五—六世紀。㉞東晋より遠にいたる五〇〇余年間に、国家や儒教・道教によってなされた仏教への干渉に対する反論や主張を集めたもの。巻一に『牟子理惑論』、巻二に『明仏論』、巻四に『達性論』、巻五に『神不滅論』がある。㉟『大正新脩大藏經』五二(二二〇二)。㊱『国訳一切経』護教部一、『弘明集研究』(京都大学人文科学研究所)

蜘蛛の糸巻 くものいとまき 二卷二冊。㊲山東京山(一七六九—一八五八年)江戸後期の戯作者。本名は岩瀬百樹、字は鉄梅、別号は鑿山・涼仙など。㊳『蜘蛛の糸巻』。㊴弘化三(一八四六)年。㊵随筆。見聞した江戸市井の風俗などを記し

たもの。全五一条から成る。⑤『燕石十種』一、『統帝国文庫』
「名家漫筆集」、『日本随筆全集』一四、『日本随筆大成』新版二
期七(旧版二期四)、『百家説林』正編上。

群印宝鑑 ぐんいんぼうかん→和漢印尽 わかんいんづ
くし

群疑論 ぐんぎろん 七卷。⑤懐感(未詳)。⑥『釈浄土群疑
論』。⑦称名念仏によつて浄土に往生するという教説に対す
る非難に反論したもの。⑧『浄土宗全書』六、『大正新脩大藏
経』四七(一九六〇)

群碎録 ぐんさいろく 三卷。⑤沢田訥齋(一六二四—一七
〇七年)江戸前期の儒学者。名は貞三・貞、字は宗堅、訥齋
は号。⑥未詳。

群書類従 ぐんしよるいじゆう 五三〇巻六六五冊・目録一
冊。⑤編・塙保己一(一七四六—一八二二年)江戸中・後期
の国学者。本姓は荻野、号は水母子、堂号は温古堂。⑥天明
六(一七八六)—文政二(一八一九)年。⑦叢書。安永八(一七
七九年)に編纂に着手し、幕臣を中心とする屋代弘賢・大田
南畝などの参加を得て、およそ江戸時代初期までの文献一二
七〇点を「神祇」から「雑」まで二五部に分類・収録している。
⑧『群書類従』(一九冊、明治二六—二七年。二九冊。昭和三
四—三五年)、『新校群書類従』(二四冊。昭和三一—三三年)
群芳譜 ぐんぼうふ 三〇巻。⑤王象晋(未詳)明の人。⑥
天譜・歳譜・蔬譜・果譜・茶竹譜・桑麻葛苧譜・菓譜・木
譜・花譜・卉譜・鶴魚譜の一二種に分けている。

群芳曆 ぐんぼうれき 一冊。⑤北野鞠塙(一七六二—一八
三一年)江戸後期の本草家・文人。名は秋芳、号は梅隱居士、
俳号は春秋庵・梁夢庵。⑥古事記・万葉集・本草綱目などの
書物にある草木の名を正して、一年三六〇日に分配し、一月
より一二月にいたる草木の季節を記したもの。⑦国立国会図
書館(版本)

訓蒙浅語 くんもうせんご 二巻二冊。⑤大田晴軒(一七九
五—一八七三年)幕末・明治の儒学者。名は敦、字は叔復、
晴軒は号。⑥慶応元(一八六五)年。⑦四書五経、諸子百家な
どを引用し、その注釈と処世的教訓を述べたもの。⑧『日本
随筆大成』新版三期八(旧版三期四)、『百家説林』正編下。
訓蒙天地弁 くんもうてんちべん 三巻三冊。⑤高井蘭山
(一七六一—一八三八年)江戸後期の戯作者。名は伴寛、字は
思明(字明とも)、別号は三遷・晒我・宝雪庵。⑥寛政三
(一七九二)年。⑦天文。⑧哲学堂文庫。

(け)

秋苑日涉 げいえんにっしよ 一二巻一二冊。⑤村瀬栲亭
(一七四四(一七四六)—一八一八年)江戸中・後期の儒学者。
名は之熙、字は君績、別号は小華陽・神州・土岐中書。⑥
『芸苑日涉』。⑦文化四(一八〇七)年。⑧漢文で書かれた考証
随筆。名称・言語・儀礼・風俗・奇事・音楽・遊戯・食物・
衣類・器物など、和漢の事物・風俗に関して和漢の典籍を涉
猟し、精細に考証している。⑨『日本随筆全集』一。

景行紀 けいこうき ㊦『日本書紀』卷第七「大足彦忍代別

天皇」(景行天皇のこと。→日本書紀。

經濟錄 けいざいろく 一〇卷。㊧太宰春台(一六八〇—

七四七年)江戸中期の儒学者。名は純、字は徳夫、別号は紫芝園。㊨享保一四(一七二九)年序。㊩政治・經濟・社会・制度・法令など、広い意味での経世済民について論じたもの。

㊪『近世社会経済学説大系』太宰春台集、『大日本思想全集』七、『日本經濟叢書』六、『日本經濟大典』九、『日本思想闊諍史料』六。

繫辭(伝) けいじ(でん) ㊫『易経』一〇翼の一、上下二編。

易の原理論で、形而上学・自然哲学に関する言説は中国哲学史上に重要な位置を占めている。→易経。

経世衍義 けいせいえんぎ 未詳。

荆楚歲時記 けいそさいじき 一卷。㊬宗懐(四九八—五六

一)(五〇二—五六四年)南北朝末期の官吏・学者。字は元懐/注・杜公瞻。㊭楚國(湖北・湖南地方)の一年間の年中行事や風物について、元旦から除夜まで三七条にわたり記したも。六八部にのぼる經典・俗伝の引用により、古代の神話や民俗を知るうえでの貴重な書となっている。㊮『漢魏叢書』

八〇、『五朝小説』五、『說郛』二九、『和刻本漢籍隨筆集』一一、『校注荆楚歲時記』(昭和二五年)。㊯『東洋文庫』三二四。

景德伝灯録 けいとくでんとうろく 三〇卷。㊰道原(未詳)宋代の禅僧。㊱インドの禅と中国の禅の系譜を明らかにし、一七〇一人にのぼる禅宗の法系を述べたもの。また、一七〇

〇則の公案が集録された語録集でもある。㊲『大正新脩大藏經』五一(二〇七六)。㊳『国訳一切経』史伝部一四—一五。

啓蒙雜記 けいもうざつき 一冊。㊴聞証(一六三四—一八

年)江戸前期の浄土宗の僧。字は良光・誠観。㊵元禄七(二六九四)年。㊶『菰迷廬山』から『菩薩成道』まで五六項の名目について注釈したもの。㊷哲学堂文庫(正徳三二(一七三三)年)

啓蒙隨録 けいもうずいろく 二卷二冊。㊸大雲(一八一七

—一七六年)江戸後期・明治前期の浄土宗の僧。号は興蓮社・法普・仁阿。明治五一(一八七二)年刊。初編一は三三丁、初編二は三八丁。㊹竜山必夢の『浄土諸回宝鑑』(五卷、一六九八年)の誤謬を正し、僧侶の日常に必要な名目や法要などの諸行事に関して典拠を示して解説したもの。㊺

『明治仏教思想資料集成』二。

芸文類聚 げいもんるいじゅう 一〇〇卷。㊻歐陽詢(五五

七—六四一年)唐初の著名な書家。字は信本。㊼『古今芸文類聚』。㊽類書。奉勅撰。天・歳時・地・州・郡・山・水・符命・帝王など、全五七部に分けて事実を記載したあとに、それに関する詩文を記している。㊾『芸文類聚』中華書局、一九六六年)

桂林漫録 けいりんまんろく 二卷二冊。㊿森島中良(一

七五四—一八〇八年)江戸中・後期の蘭学者・戯作者。字は貞臣、号は桂林、戯号狂号は森羅万象など、森島中良は本姓、のち中原中良とも称す。㊽寛政二(一八〇〇)年。㊿考証隨筆。碑銘・武具・書画・書籍・古印などについて、和漢

の典籍によって考証を加えたもの。全八〇条から成る。㉔『影印日本随筆集成』七。㉕『日本随筆全集』一八、『日本随筆大成』新版一期二(旧版一期二)、『百家説林』正編上。

芸林蒙求 げいりんもうぎゆう 六卷六冊。㉖松田松廬(一七八三—一八五二年)江戸後期の儒学者。名は順之、別号は迂仙・蓼庵舎。㉗『芸林蒙求初編』。㉘『嘉永四(一八五二)年。』㉙『哲学堂文庫』。

家語 けご→孔子家語 こうしけご

華嚴 けごん→大方広華嚴經 だいほうこうぶつけごんぎょう

華嚴經 けごんぎょう→大方広華嚴經 だいほうこうぶつけごんぎょう

解脱論 げだつろん 未詳。

決疑弁蒙 けつきべんもう 四卷四冊。㉚梅麩舎鴻齋(未詳)。㉛『天変地妖 決疑弁蒙』。㉜『安政三(一八五二)年序』。

㉝和漢の歴史および群書のなかに載せている天変地妖(日食・月食・流星・地震・津浪など)をあげて、それについての見解を述べて人々の疑惑をほらし、災異の備えとしたもの。㉞『哲学堂文庫』。

月桂詩 げつげいし ㉟『慈雲式公(未詳)後宋の人』。

欠唇物語 けつしんものがたり 未詳。

護園遺編 けんえんいへん 二〇卷五冊。㊱荻生徂徠(一六六一—一七二八年)江戸中期の儒学者。名は双松、字は茂卿。徂徠は号、別号は護園、本姓の物部氏をとって物徂徠・物茂

卿とも称す。㊲鄙語・俚言から雑事にいたるまで、著者の諸説を門人たちが筆記したもの。㊳国立公文書館内閣文庫。

護園十筆 けんえんじゅうびつ 一〇巻。㊴荻生徂徠(一六六一—一七二八年)江戸中期の儒学者。名は双松、字は茂卿、徂徠は号、別号は護園、本姓の物部氏をとって物徂徠・物茂卿とも称す。㊵さまさまな経書について考えを述べたもの。㊶『荻生徂徠全集』(河出書房新社)、『荻生徂徠全集』一七(みすず書房)、『続日本儒林叢書』一、『日本儒林叢書』七。

言海 げんかい 四冊。㊷『大槻文彦(一八四七—一九二八年)明治・大正期の国語学者。大槻文彦刊、明治二二—二四(一八八九—一九二一年、一二四〇頁。㊸国語辞典。各語について

発音・語別・語源・語釈・出典を完備した近代辞書。

見外白宇瑠璃 けんがいしろうるり 五卷五冊。㊹舎楽斎鈍草子(未詳)。㊺『見外白得利』、『見外白字瑠璃』。㊻『宝暦八(一七五八)年。』㊼『滑稽本。見たいものなら何でも見える思見鏡という眼鏡を山神からもらった草庵の禪師が、蟻の世界や天狗の世界などを見るなどして、最後

は夢から覚める話。』㊽『滑稽文学全集』七。

原鬼 げんき ㊾『唐の韓愈(七六八—八二四年、唐代中期の文

章家・詩人。昌黎といわれる)作の文章の名。鬼の根原を論じた文章。唐代の人間論として注目される』『五原』(原道・原性・原人・原鬼・原毀)という原と名づけられた韓愈の文章の一つ。その思想は宋学の先駆をなすとともに仏教者の反発を呼び起こすなど、後代に大きな影響を与えた。』㊿『朱文公

校昌黎先生集「一」、『唐宋八大家文読本』一。

原鬼論 げんきろん→原鬼 げんき

元元集 げんげんしゅう 八巻八冊。⑧北畠親房(一二九三

—一三五四年)南北朝時代の公卿・南朝の思想的指導者。⑨

延元二(一二三三—一二三三)年ころ。⑩承応二(一六五三

年。⑪日本の根元を明らかにするために、その材料を収集し

て編纂したもので、ほとんど全編が引用文であるが、親房の

神道観も述べられている。⑫『元元集の研究』平田俊春、山一

書房、昭和一九(一九四四年)、『日本古典全集』五期。

玄黄経 げんこうきょう 未詳。

元亨釈書 げんこうしゃくしょ 三〇巻・目錄一卷。⑬虎関

師練(一二七八—一三四六年)臨済宗の学僧。虎関は号、通称

は海蔵和尚。⑭元亨二(一二三二年)。⑮貞治三(一三六四)年

—永和三(一三七七年)、五山版として版行。⑯日本最初の漢

文で書かれた高僧伝・仏教通史。伝(巻一—巻一九)、表(巻

二〇—巻二六)、志(巻二七—巻三〇)から成り、伝では四一

六名の仏教者の伝記、表では仏教史、志では仏教文化などが

紀伝体で叙述されている。⑰『新訂増補 国史大系』三一、

『大日本仏教全書』六二。

元史 げんし 二二〇巻。⑱宋濂(一二三〇—一八一年)元末・

明初の文学者・政治家。字は景濂。⑲奉勅撰。元一代の歴史

を記したもので、本記四七巻・志五三巻・表六巻・列伝九七巻

から成る。正史の一。

頭識経 けんじききょう 未詳。

源氏物語 げんじものがたり 五四巻。⑳紫式部(九七八

—?年)平安中期の物語作者・歌人。㉑未詳。㉒光源氏の生

涯を中心にした平安中期の長編物語。㉓京都帝国大学文科

大学叢書「五(平瀬本)、『古典影印叢書』三条西家本、『源氏

物語』尾州家河内本、昭和九年)。㉔岩波文庫、『源氏物語

大成』校異篇、『日本古典全集』二期、『日本古典全書』、『日本

古典文学大系』二四—一八、『日本文学全書』八一—二。

源氏物語抄 げんじものがたりしゅう 二〇巻二〇冊。㉕

紹(一五二五—一六〇二年)戦国・織豊時代の連歌師。里

村北家の祖。㉖『源氏抄』、『源氏二十巻抄』、『源氏物語称名

院抄』、『源流臨江抄』、『紹巴抄』、『源氏物語紹巴抄』、『水源

紫明抄』。㉗永禄六(一五六三)年ころ。㉘寛永古活字版。㉙

『源氏物語』の注釈書。

源氏物語紹巴抄 げんじものがたりしゅうはしゅう→

源氏物語抄 げんじものがたりしゅう

源氏物語新釈 げんじものがたりしんしゃく 五四巻五四

冊。㉚賀茂真淵(二六九七—一七六九年)江戸中期の国学者・

歌人。㉛『源語新釈』。㉜宝暦八(一七五八)年。㉝『源氏物語

』の注釈書。㉞『賀茂真淵全集』五、『増訂賀茂真淵全集』八一

九。

源氏物語提要 げんじものがたりていよう 六巻六冊。㉟

今川範政(一三六四—一四三三年)室町時代の武将。㊱永享四

(一四三二年)。㊲『源氏物語』の注釈書。㊳東京大学(六巻一

二冊、写本)

賢首 げんじゅ→仏説賢首經 ぶつせつげんじゅきよう
儼熟集 げんじゆくしゅう 一〇巻一〇冊。㊦尚謙(一六

五三—一七二二年)江戸前・中期の儒学者。字は利涉、号は復庵・不染居士。㊦元禄一(一六九八年)自序。㊦宝永三(一七〇六年)。㊦漢詩文。巻一から巻五までは論・書・記・賦・辞・雑書など、巻六から巻一〇までは詩および紀行など、最後に自伝を付している。儼塾は塾名(儼若思)の略称。

㊦東洋大学附属図書館。

顯浄土真実教行証文類

けんじょうとしんじつきようぎょうしゅうもんるい 六巻。㊦親鸞(一一七三—一二六二年)鎌

倉前・中期の僧。浄土真宗の宗祖。㊦教行信証、教行信証文類、教行証文類、浄土文類、広文類、広本、広書、本典、本書。㊦元仁元(一二二四年)。㊦寛永一三(一六三〇)年。㊦浄土真宗の教義を明らかにした根本聖典。真実教・真実行・真実信・真実証・真仏土・化身土の六部から成る。㊦教行信証(坂東本、本願寺真蹟本)。㊦岩波文庫、㊦愚禿親鸞全集、㊦高僧名著全集六、㊦真宗聖教全書宗祖部、㊦真宗聖教大全上、㊦真宗聖典全書漢文之部、

㊦親鸞聖人全集上(文明堂、下(新潮社)、大正新脩大藏經八三(二六四六)、㊦仏教大系、㊦有朋堂文庫親鸞聖人文集、㊦教行信証(明治一三年、一四年、四五年、大正九年、一〇年、一二年)

現世利益弁 げんぜりやくべん 三巻三冊。㊦粟津義圭(一七九九年)江戸中期の浄土真宗の僧。㊦安永五(一七〇

八)年。㊦現世の利益について述べたもの。㊦東洋大学附属図書館。

玄中記 げんちゅうぎ ㊦未詳。㊦神怪物異のことを記している。㊦玉函山房輯佚書、説郛、太平広記。

源註拾遺 げんちゅうしゅうい 七巻・大意一巻八冊。㊦契

沖(一六四〇—一七〇一年)江戸前期の国学者・真言宗の僧。

㊦源氏拾遺、源註拾遺。㊦元禄九(一六九六年)年。㊦源氏物語の注釈書。㊦契沖全集六、国文註釈全書一五。

玄同放言 げんどうほうげん 一集二巻三冊・二集一巻三冊。㊦滝沢馬琴(一七六七—一八四八年)江戸後期の戯作者。

名は解、字は瑣吉、馬琴は号、別号は曲亭。㊦一集文政元(一八一八年)、二集同三年。㊦考証随筆。天部・地部・征

動部・人事部・器用部・動物部・雑部の全八五条から成る。

和漢・仏書など一九〇部の引用書をあげて、事物の異同・善

悪・精粗を論証している。㊦統帝国文庫「名家漫筆集」、

㊦昭和版帝国文庫「名家漫筆集」、日本随筆大成「新版一期七(旧版一期三)、『百家説林』正編上。

謙徳公家集 けんとくこうかしゅう→一条撰政御集 い

ちじょうせつしゅうぎよしゅう

原人論 げんにんろん 一巻。㊦宗密(七八〇—八四一年)唐

代の華嚴宗の僧。㊦華嚴原人論。㊦九世紀前半。㊦斥迷

執、斥偏淺、直顯真源、会通本末の四編から成り、仏教の立

場から人間の本性を解明しようとするもの。㊦大正新脩大

藏經「四五(一八八六)。㊦国訳一切経「諸宗部四。

源平盛衰記 げんべいじょうすいき 四八巻。⑤未詳。⑥鎌

倉時代後期以降。⑦慶長古活字版。⑧軍記物。平氏の台頭から源頼朝の勝利までを描いた物語。⑨岩波文庫、「校註国文叢書」七一八、「校註日本文学大系」五一・一六、「国民文庫」、「有朋堂文庫」。

源平盛衰記 げんべいせいすいき → 源平盛衰記 げんべいじょうすいき

顕密威儀便覧 けんみついきべんらん 二巻二冊。⑤亮快(りょうかいか) (一六六一—一七四六年)江戸中期の真義真言宗の僧。字は存心。⑥享保二〇(一七二五年)自序。⑦元文五(一七四〇年)。

⑧仏教儀礼。⑨「大日本仏教全書」『服具叢書』一。

元明史略 げんみんしりやく 四巻。⑤編・後藤芝山(ごとうしばさん) (一七二一—一八二二年)江戸中期の儒学者。名は世鈞、字は守中、別号は竹風・玉来山人。増補・山本清溪(やまもとせいきい) (一七五四—一八二三年)江戸中・後期の官人・国学者。名は正臣、字は欽若、清溪は号。⑥明の舒弘譚の『古今全史』の元明二代を基礎に、薛

応旂の『宋元通鑑』、袁了凡の『綱鑑』、その他『十九史略』、『明史紀事』、『明季遺聞』、『名山藏』などの書を参照して、元の曾先之の『十八史略』の続編にしようとしたもの。

幻妄論 げんもうろん 一冊。⑤J・サリ(Sally, J.) 一八四二—一九二三年)イギリスの心理学者・美学者。⑥心理学。

⑦『原書』Illusions。

見聞書記 けんもんしよき → 雲楽見聞書記 うんらくけ

けんもんしよき

頭幽順考論 けんゆうじゆんこうろん 五巻五冊。⑤六人部

是香(一八〇六—一八六三年)江戸後期の国学者・神職。名は惟篤、是香は号、別号は葵舎・一翁など。⑥神道。巻二「太古大綱」造化妙合「君臣大義」経世綱紀「彝倫之叙」、巻三「幽政概略」、巻三「人身製造精神賦与」、巻四・巻五「神靈鎮定」から成る。⑦「国民道德叢書」三、「神道叢書」三一七、「やまと叢誌」一四。

(一)

広異記 こういき ⑤戴孚(未詳)。⑥唐の伝奇集。⑦「重較

說郭」、「竜威秘書」、「旧小説」(商務印書館)。⑧「中国古典文学大系」六朝唐宋小説選、「東洋文庫」唐宋伝奇集。

江陰県志 こういんけんし 未詳。

広益俗説弁 こうえきぞくせつべん 序目一卷・正編二〇

巻・後編五巻・遺編五巻・付編七巻・残編八巻四六冊。⑤井沢蟠竜(ざわばんりゅう) (一六六八—一七三〇年)江戸中期の神道家。名は長秀、別号は蟠竜子・亨斎。⑥正編正徳五(一七二五)年序。⑦享保二(一七二七年)後編同二年。遺編同二年序。付編同四年序。残編同二(一七二七年)年。⑧人事や自然に関する事柄について、しかるべき文献によって俗説を正そうとしたもの。また、一方では説話の宝庫でもある。⑨「統国民文庫」、『東洋文庫』五〇三。

広益秘事大全 こうえきひじたいぜん 三巻五冊。⑤三松

館主人(未詳)。⑥「民家日用 公益秘事大全」。⑦「嘉永四

三

(一八五二)年。④書物の虫よけからはじまり白柿のたくわえ方まで、日常生活上のさまざまな事柄・事態への対処方法(秘事)、食物・出産・病気に関すること、植物の生育方法等々、数百項目にわたり記されている。⑤哲学堂文庫。

甲乙経 こうおつけい 八巻。⑥皇甫諡(二一五―二八二年)

西晋の学者。字は士安、号は玄晏先生。⑦鍼灸甲乙経。⑧針灸の法を詳論したもの。『鍼経素問』、『明堂孔穴』、『針灸治要』の三書の精要を採ったものという。

孝感冥祥録 こうかんめいしようろく 二巻二冊。⑨伝阿(未詳)。⑩敬享保一九(二七三四年)。⑪孝子の者が信心により地蔵尊の感應をこうむり、地獄極楽を感じた話。⑫哲学堂文庫。

光記 こうき ↓ 俱舎論記 くしやろんぎ

孝経 こうきよう 一卷。⑬未詳。⑭未詳、前漢ころか。⑮十三経の一。孝について、孔子と曾子(曾参)との問答体で述べた書。家族の道德的・宗教的基盤であった孝を君につかえることと結びつけ、社会の道德とし、各階層における孝のあり方を明らかにしている。孝の観念についての集大成となっている。二二章から成る「古文孝経」と一八章から成る「今文孝経」の二系統がある。⑯『新釈漢文大系』三三五。

講義録 こうぎろく ↓ 哲学館講義録 てつがくかんこう

ざろく

広弘明集 こうぐみようしゅう 三〇巻。⑰道宣(五九六―

六六七)年)唐初の僧。南山大師ともいう。⑱唐の麟徳元(六六

四)年。⑲僧祐の『弘明集』のあとを継いだもので、仏教初伝から唐初にいたるまでの二九六編の資料を収録している。儒仏道の三教交渉史に関する重要な記録の集成となっている。⑳『大正新脩大蔵経』五二(二一〇三)。㉑『国訳一切経』護教部一―三。

高麗図経 こうくりずけい 未詳。

工芸志料 こうげいしりょう 七巻一冊。㉒黒川真頼(一八

二九―一九〇六年)幕末・明治期の国学者。㉓明治一〇(一八七七年)年。明治二二(一八八八年)年増訂、有隣堂、二六三頁。

⑲織工から漆工まで七つの工芸についてその起源と沿革を述べたもの。㉔『黒川真頼全集』三。

江家次第 こうけしだい 二二巻。㉕大江匡房(一〇四一―

一一二一年)平安後期の公卿・学者。㉖『江次第』。㉗承応二(二六五三年)。㉘有職故実。平安末期の堀河天皇のころの行事・儀式・礼法などを詳述したもの。巻一六諸事行幸、巻二一凶事が早くから散逸している。㉙『日本古典礼全集』四期。㉚『増訂故実叢書』一七、『続々群書類従』。

皇国性質 こうこくせいしつ ↓ 太平楽皇国性質 たいへいらくみくにかたぎ

黄氏易伝 こうしえきでん 未詳。

孔子家語 こうしけご 一〇巻。㉛未詳。㉜孔子の言行、および門人との問対論議の語を集録したもの。ただし原本は亡逸し、魏の王肅が『左伝』など数十種の書籍から孔子に関する記事を集めて類別して偽作したもの(『王肅注家語』一〇巻)

である。⑤『四部叢刊』、『百子全書』、『新釈漢文大系』五三。後周書 こうしゅうしよ→周書 しゅうしよ

考証千典 こうしゅうせんてん 一〇卷一〇冊。⑥村田了

阿(一七七二—一八四三年)江戸後期の国学者。名は直温・高風、字は春山、号は如春・春枝堂など、了阿は法名。⑦事典。⑧国立国会図書館(写本)

盍簪録 こうしんろく 四卷。⑨伊藤東涯(一六七〇—一七

三六年)江戸中期の儒学者。名は長胤、字は源蔵(元蔵)、別号は慥慥齋。⑩考証隨筆。⑪『日本経済叢書』三三(抄)、『日本

本経済大典』五一(抄)

広西蒼梧志 こうせいそうこし 未詳。

広西通志 こうせいつうし 四〇卷。⑫吳興祚(未詳)。字は

伯成、号は留邨(留村)／その他著。⑬清の康熙二二(一六八三)年。⑭林富の撰した『広西通志』六〇卷を再修して四〇卷としたもの。「図経」から「祥異」まで三五門に分かれている。

好生録 こうせいりく 四卷四冊。⑮王広宣(未詳)唐の人。／訳・洞水。⑯『訳和好生録』。⑰延宝七(一六七九年)。

⑱生を養い殺を戒める要文を集めたもの。⑲哲学堂文庫。

礦石集 こうせきしゅう 六卷六冊。⑳蓮体(一六六三—一

七二六年)江戸中期の真言宗の僧。号は無尽蔵・妙適齋。㉑『真言礦石集』。㉒『元禄五(一六九二)年序、同六年。㉓仏教説話。地藏菩薩女人の横死を救いたまうこと・仏、孝を説きたまうこと・大阪の女、現に地獄の相を見ること等、因果応報の談を記したもの。㉔哲学堂文庫。

興禅護国論 こうぜんごこくろん 三卷一冊。㉕明庵栄西

(一四一—一四二五年)平安末・鎌倉前期の臨済宗の僧。日本臨済宗の開祖。明庵は道号、「えいさい」とも読む。㉖建久

九(一一九八)年。㉗寛文六(一六六六)年。㉘戒律と禪の重要性を説き、新仏教としての禪宗の必要性を論じたもの。㉙

『高僧名著全集』一八、『国民思想叢書』仏教篇上、『国訳禅宗叢書』二輯八、『昭和新聞国訳大蔵経』宗典部六、『世界大思想

全集』五二、『大正新脩大蔵経』八〇(二五四三)、『日本精神文

献叢書』一一、『日本哲学全書』一。㉚『国訳一切経』諸宗部二

三。

高地の野猫 こうちのやりよう ⑳セント・ジョン(未詳)。

行厨集 こうちゅうしゅう 未詳。

皇朝事苑 こうちょうじえん 四卷四冊。㉑梅莊顕常(一七

一九—一八〇一年)江戸中期の臨済宗の僧。梅莊は道号、顕常は法諱、号は大典・蕉中・東湖など。㉒『天明七(一七八

七)年。㉓皇朝各方面の千古の跡を数百条に分類してまとめたもの。聖徳・神祇・仏法・典籍・書画音楽・衣食・草木・

鳥獸・祥瑞などの項目から成る。㉔国立国会図書館。

黄帝陰符経 こうていいんぷきょう→陰符経 いんぷけい

い

黄帝素問 こうていそもん→黄帝内経素問 こうてい

いせいそもん

黄帝宅経 こうていたくきょう 一冊。㉕苗村元長(未詳)

江戸後期の易占家。別名は三蔵。東京、武田伝右衛門刊、刊

年不明、一四丁。④占卜。

黄帝内经素問 こうてい ないけい せいもん 二四巻。⑤未詳。

⑥素問、「黄帝素問」。⑦現存する中国最古の医学書。医学五経の一。黄帝とその臣の名医岐伯との問答を中心に議論が展開され、病理・診断・治療・養生などが説かれている。

黄帝内经靈枢 こうてい ないけい れいすう ⑧未詳。⑨現存する中国最古の医学書。特に鍼灸の理論に詳しい。

黄帝内伝 こうてい ないでん 未詳。

広博物志 こうはくぶつし 五〇巻。⑩董斯張(未詳)明の人。⑪唐宋の古書を引いたもの。二二門、一六七子目。

洪範 こうはん ⑫未詳。⑬『書経』の周書の編名。禹より伝えたところの天地の大法を箕子(殷)の紂王の一族が武王に述べたものという。

康富記 こうふき 未詳。

神戸又新日報 こうべゆうしんにっぽう 日刊。神戸、五州社のち神戸又新日報社。明治一七(一八八四)年四月一七日創刊。昭和四(一九三九)年六月三〇日廃刊。⑭時事。

弘法大師一代記 こうぼうだいし いちだいき 未詳。山口小五郎編(明治一四年)、高峰虎次郎編(明治一九年)などがある。

光明疏 こうみやうしよ 未詳。

広大和本草 こうやまとほんぞう → 広倭本草 こうやまとほんぞう

一〇巻・別録二巻一二冊。

⑮直海竜(未詳)。⑯『広大和本草』。⑰宝暦五(二七五五年)序。⑱宝暦九(二七五九年)。⑲本草。⑳哲学堂文庫。

古易察病伝 こえきさつびょうでん 一冊。㉑新井白蛾(一七一五—一九二二年)江戸中期の儒学者・易断家。名は祐登、字は謙吉、別号は古易館。㉒寛政一〇(二七九八)年。⑳卜筮により病因・病症・治法などを占断する法を説いたもの。㉓『古易察病伝』便道校、小林吉五郎刊、明治一五(一八八二年)和五〇丁。

古易八卦考 こえきはつけこう 二巻一冊。㉔編・大矢滝蔵(未詳)。大矢滝蔵刊、明治二四(一八九二年)、和三〇・二六丁。㉕占卜。

呉越備史 こえつびし 四巻・補遺一卷。㉖銭儼(未詳)宋の人。㉗銭氏の旧事を記したものの。補遺の著者は未詳。

吾園随筆 こえんずいひつ 三巻三冊。㉘細川潤次郎(一八三四—一九二三年)明治・大正期の法制学者。名は元、号は十洲。東京、細川潤次郎刊、明治一九(一八八六)—四一(一九〇八年)、和三冊(正・続・後編日本)

五岳真形図伝 こがくしんけいずでん 一冊。㉙大江文坡(一七一七—一七九〇年)江戸中期の読本作者・神道家。名は匡苑、号は菊丘臥山人・臥仙子など、文坡は字。㉚『道蔵経五岳真形図伝』。㉛安永四(一七七五年)。㉜『五岳真形図』(道士が山に入る際にもつ護符)の效用と祭式を説いたもの。㉝哲学堂文庫。

後漢郡国志 こかんぐんこくし ㉞『後漢書』の八志の一。

→後漢書。

後漢郊祀志 こかんこうしし 未詳。

後漢書 こかんじよ 二二〇卷。⑤范曄(三九八—四四六年)

南朝宋の政治家・学者。字は蔚宗。志三〇卷は晋の司馬彪

(?—一三〇六年)西晋の王族・学者。字は紹統。④二五史の

一。後漢一代の歴史を記した。本紀一二卷、列伝八八

卷、志三〇卷(律曆・礼義・祭祀・天文・五行・郡国・百

官・輿服の八志)。

五経異義 こきよういぎ 未詳。

五行志 こぎようし ④史書の志類の一。『漢書』にはま

り、『後漢書』、『晋書』、『南齐書』、『隋書』、『旧唐書』、『新

唐書』、『旧五代史』、『宋書』、『金史』、『元史』、『明史』など

にある。→漢書。

五行大義 こぎようたいぎ 五卷。⑤蕭吉(未詳)隋代の学

者。字は文休。④五行説の集大成で、先秦より隋にいたる経

緯の書や史書などから五行に関する説を収集して、それを整

理・分類し、二四段四〇節に構成したもの。中国では逸し、

日本に伝わり、寛政一一(一七九九)年に林述斎により『佚存

叢書第一輯に収められた。④『常州先哲遺書』、『叢書集成初

編』、『知不足齋叢書』。

古今和歌集 こきんわかしゅう 二〇卷。⑤紀友則(未詳)平

安前・中期の官人・歌人／紀貫之(八七〇?—九四五／九四

六年)平安中期の官人・歌人／凡河内躬恒(未詳)平安中期の

歌人／壬生忠岑(未詳)平安中期の歌人。④『古今集』。④延喜

一三一—一四九(一三一—一四)年ころ。④万治三(一六六〇)年。④

勅撰集。『万葉集』以後、当時までの歌を集めたもの。作者の

数は一二人(内、僧一〇人、女二人)。読人知らずの歌四

三二首がある。歌の数は約一一〇〇首。④『かな名蹟全集』、

『貴重図書影本刊行会』、『貴重図書複製刊行会』、『古文学秘

籍叢刊』、『尊敬閣叢刊』。④『校註国歌大系』三、『国歌大観』、

『日本歌学全書』、『日本古典全集』二期、『日本古典文学大

系』、『八代集抄』上、『有朋堂文庫』。

国語 こくご 二二卷。⑤左丘明(未詳)春秋末期魯の儒者。

④『春秋外伝』、『官史』。④戦国時代初めころ。④国語三卷・

魯語二卷・齊語一卷・晋語九卷・鄭語一卷・楚語二卷・呉語

一卷・越語二卷から成り、西周・春秋時代(前九六七—前四

五三年)の八国の事跡を国別に記した歴史書。④『新釈漢文大

系』六六一—六七。

国史補 こくしほ 三卷。⑤李肇(未詳)唐の人。④開元(七

一三一—七四一年)ころの雜事を記した。④

国字蒙求 こくじもうぎゆう 一二卷四冊。⑤伊藤玄節(?)

一六八二年)江戸前期の儒学者。名は先勝、別号は有隣・

有隣斎。④『新選国字蒙求』。④安永四(一七七五)年。④事

典。④哲学堂文庫。

国史略 こくしりやく 五卷五冊。⑤巖垣松苗(一七七四—

一八四九年)江戸後期の儒学者。号は東園・謙亭。④『文政

九(一八二六)年。④神代から後陽成天皇にいたる国史を十八

史略にならって記したもの。④『増補点註国史略』巖垣杉苗

注、甘泉堂刊、明治一〇（一八七七）年、和五冊。

国朝佳節録 こくちようかせつろく 一冊。○松下見林（未詳）。○延享五（一六八八）年。○年中行事。○国立国会図書館。

国定小学修身書 こくていしょうがくしゅうしんしょー
尋常小学修身書 じんじょうしゅうがくしゅうしんしょ

国民新聞 こくみんしんぶん 日刊。東京、国民新聞社。明治三（一八九〇）年二月一日創刊。昭和一七（一九四二）年一

〇月一日、戦時統合により『都新聞』と合併して『東京新聞』と改題した。○時事。おもな関係者―徳富蘇峰。

極楽物語 こくらくものがたり 三巻三冊。○源信（げんしん）九四二

―一〇一七年）平安中期の天台宗の僧。通称は恵心僧都。○寛文八（一六六八）年。○極楽に往生すれば聖宿来迎楽から増進仏道楽まで、十楽のあることを記したもの。○哲学堂文庫。

穀梁伝 こくりようでん 一二巻。○穀梁赤（こくりょうしやく）戦国時代の学者。名は魯・喜・淑、字は元始、一名は赤に作る。○

『春秋穀梁伝』。○『春秋』の注釈書の一つ。魯の隠公の元（前七二二）年から哀公の一四（前四八二）年までを記している。

湖月抄 こげつしょう 六〇巻六〇冊。○北村季吟（きたむらさきぎん）一六二

四―一七〇五年）江戸前期の国学者・俳人・歌人。別号は芦庵・拾穂軒・湖月亭など。○源氏物語湖月抄。○延宝元（一六七三）年。○延宝三（一六七五）年。○源氏物語の注釈書。○校正補註国文全書『正編一―八』、『源氏物語湖月抄』

（相磯貞三）、『湖月抄』（昭和三年）、『増註源氏物語湖月抄』（昭和三十四年）、『訂正増註源氏物語湖月抄』（明治三三―二四年）

五憲法 こけんぽう→聖徳太子五憲法 しようとくたいしこけんぽう

晤語 こご 二巻二冊。○名島政方（なじままさかた）一八三二年）江戸後期の医者・国学者。本姓は度会、政方は名、号は桃源・双樹園。○名島隨筆。○文政九（一八二六）年。○国学に関する考証を集めた隨筆。上巻に五十連音・ん文字・いろは・関祖

神・地獄の沙汰も金次第など、下巻に長瀬神社・秋茄子嫁に不食・天狗・赤染衛門・百人一首・忌日などの雑説三四項を集録している。改題本に『双樹落葉』がある。○日本隨筆大成『新版』二期二四（旧版二期一一）

古語拾遺 こごしゅうい 一冊。○齋部広成（いんべひろなり）

の官人。○大同二（八〇七年）。○文化四（一八〇七年）。○歴史書。天地開闢のはじめから天平年間にいたるまでを、齋部（忌部）氏の伝承を中心にして記したもの。一一条にわたり祭祀の本源を述べ、朝廷の祭祀職をめぐる齋部氏の役割を主張している。記紀に記されていない齋部氏独自の伝承を伝えていて、古代史研究上貴重とされる。○尊経閣叢刊一、『天理図書館善本叢書』。○岩波文庫、『群書類従』雑、『国民思想叢書』国体篇上、『新釈日本文学叢書』二輯一、『新註皇学叢書』一、『日本国粹全書』七、『日本思想叢書』二、『日本精神文献叢書』三、『日本文学類従』上代文学集、『嘉禄本古語拾遺』

(昭和三年)、『古語拾遺』(明治三年)

古今医統 ここんいとう 一〇〇巻。⑤編・徐春甫(未詳)明の人。⑥一五五六年。⑦明以前の医書や医薬の資料を分類・整理したもの。

古今奇談 ここんきだん 五巻五冊。⑤頭光(一七五四—

九六年)江戸中期の狂歌作者。姓は岸氏、名は識之、別号は桑楊庵・巴人亭・文笑。⑥『皇国小説 今古奇談』。⑦読本。

⑧哲学堂文庫(煙波山人著『今古奇談』文化二年)

古今考 ここんこう 『古今妖魅考』のことか。→古今妖魅考。

古今事類全書 ここんじるいぜんしょ 未詳。

古今神学類聚抄 ここんしんがくるいじゅうしやう→古

今神学類編 ここんしんがくるいへん

古今神学類編 ここんしんがくるいへん 一〇〇巻・目錄二巻。⑤真野時綱(二六四八—一七二七年)江戸中期の神職・

神道家。号は蔵六翁・松陰亭など。⑥『古今神学類聚抄』、

『神学類聚鈔』。⑦元禄一一(一六九八年)自序。⑧正徳五(一七一五年)、⑨神道に関する故実や関連する事項を、儒仏の

書から涉猟して編纂した神道の百科全書。⑩『神道大系』首編

二一四、『津島叢書』。

五魂説 ここんせつ 一冊。⑤亀田鶯谷(一八〇七—一八一年)

江戸後期・明治前期の儒学者。名は長保、字は申之、鶯谷は号、学孔堂とも号す。編・亀田英。東京、亀田英刊、明治一

四(一八八一年)、和三二丁。⑥荒・和・幸・土・術の五魂

説、五産霊神社図説・五魂分位図説・論幽顕死生・論万物各有天地などについて口述したものを仮名文に編集したもの。古今雑談思出草紙 ここんぞうだんおもいでそうし→思出草紙 おもいでそうし

古今雑談集 ここんぞうだんしゅう 二巻二冊。⑤滑通(未詳)。⑥『文政一三(一八三〇)年。⑦随筆。⑧哲学堂文庫。

古今談概 ここんだんがい ⑤馮夢竜(一五七四—一六四六年)明末の文学者。字は猶竜・子猶など。⑥『古今笑』。⑦古今の奇談を集めたもの。⑧北京文学古籍刊行社影印本(一九五五年)

古今著聞集 ここんちよもんじゅう 二〇巻二〇冊。⑤橋 成季(未詳)鎌倉中期の官人・説話集編者。⑥建長六(一二五四)年跋。⑦元禄三(一六九〇)年。⑧説話。全巻を三〇編に分け、第一編「神祇」から第三〇編「魚虫禽獸」まで、主として日本の説話を諸書から収録している。第二六編は怪異、第二七編は変化。⑨『岩波文庫』、「改定 史籍集覧」九、『校註国文叢書』二七、『校註日本文学大系』一〇、『国文大観』二六、『新訂増補 国史大系』、『日本古典全集』三期、『日本文学全集』二二、『日本古典文学大系』八四、『有朋堂文庫』。

古今八卦拾穂抄 ここんはつけしゅうすいしやう 一冊。⑤玄貞(未詳)。⑥『八卦拾穂抄』。⑦『享保一六(一七三二)年。⑧占卜。

古今百物語 ここんひやくものがたり 五巻五冊。⑤未詳。

⑥延宝四(一六七六)年。⑦卷一「孝心感鬼神」から「天折毒蛇

亡」まで六話、卷二「遊魂の契」から「医師神惑」まで六話、卷三「因果之明鏡」から「蛇形之曼陀羅」まで四話、卷四「魚腹の鏡」から「夢中之鬪狼」まで四話、卷五「因武功止機」から「花情之吟語」まで四話の計二四話から成る。絵入り怪異集。㊤『古典文庫』六二七「怪談百物語」。

古今百物語評判 ここんひやくものがたりひよばん 五卷五冊。㊤山岡元隣(二六三二—一七二二年)江戸前期の俳人・仮名草子作者。本名は山岡新三郎、字は徳甫、別号は玄水・而愷齋・抱甕齋・洛陽山人。㊦『百物語評判』。㊧徳貞享三(一六八六年)。㊨かまいたち・轆轤首・犬神・狐・狸・幽霊・天狗・銭神・河太郎・鬼門・雪女・舟幽霊・竜宮城など、全四二話から成る。古今の有名な怪異譚を示し、その批評を通じて妄を正したものの。㊩『近代日本文学大系』「怪異小説集」、『徳川文芸類聚』四。

古今妖怪考 ここんようみこう 七卷七冊。㊰平田篤胤(一七七六—一八四三年)江戸後期の国学者。㊱版巻一—一卷三文政一(一八二八年)。㊲古今の記録や物語などによって、日本に伝わる妖怪について説明したもの。仏教の妖魔性を批判して神道に帰することを主張している。㊳『医聖堂叢書』、『新修平田篤胤全集』九(名著出版)、『日本思想闘争史料』九、『平田篤胤全集三』(平田学会)、『平田篤胤全集』八(内外書籍)

古今要覧 ここんようらん→古今要覧稿 ここんようらんこう

古今要覧稿 ここんようらんこう 五二〇巻。㊴屋代弘賢

(二七五八—一八四一年)江戸後期の国学者。名は詮賢・弘賢、号は輪池。㊵『古今要覧』。㊶文政四—天保一三(一八二一—一四二年)。㊷類書。㊸『我自刊我書』(曆占・姓氏・地理・神祇・時令・器財・歳時部)、『存探叢書』(草木・菜蔬・器財部)、『古今要覧稿』(甫喜山景雄刊、明治一四—一六年。凶書刊行会、明治三八—四〇年)

古今類書纂要 ここんるいしょさんよう 未詳。

古今靈獸譚奇 ここんれいじゆうだんき 六卷六冊。㊹作・画、暁鐘成(一七九三—一八六〇年)江戸後期の読本作者・絵師。本名は木村明啓、別号は鶏鳴舎・漫戲堂・暁晴翁など。㊺『和漢今昔犬農草紙』。㊻天保一〇(一八三九年)。㊼和漢古今に見聞した犬の故事六一項を集めたもの。「田犬毒蛇を敵で主を助く」「白犬人に生る」「寺院の犬経を読む」「闘犬の禁め」「太宗の犬崩御を悲む」など。絵入り。㊽『絵入文庫』三三「犬の草紙」。

五雑俎 こざつそ 一六巻。㊾謝肇淪(未詳)字は在杭、号は小菴齋。㊿七世紀初めころ。㊽天・地・人・物・事の五類に分けて、さまざまな事物や現象について述べたもの。明代を知る有益な資料とされている。正式には「五雜俎」と表記する。㊿『和刻本漢籍隨筆集』一。㊽『東洋文庫』。

古事記 こじき 三卷三冊。㊿太安万侶?一七二三年)奈良時代の官人。㊽和銅五(七二二年)。㊿寛永二二(一六四四)年。㊽音訓併用の和式漢文体で書かれた物語・歴史書。神代から推古天皇まで、天地のはじめから神々の伝承や天皇の年

代記を記している。㉔『校本古事記』(昭和四〇年)、『国宝真福寺本古事記』(昭和五三年)、『貴重図書複製会叢書』、『古事記』(昭和二〇年)、『古典資料類従』三六、『古典保存会複製書』第一・三・五・六期。㉕『岩波文庫』、『角川文庫』、『新訂増補 国史大系』、『日本古典全書』、『神道大系』、『古典編一』、『日本古典文学大系』一、『日本思想大系』一、『古事記』(昭和四八年)

古事記伝 こじきでん 四四卷四四冊。㉖『本居宣長』(一七三〇—一八〇一年)江戸中・後期の国学者。号は芝蘭・春(薙)

庵、屋号は鈴屋。㉗『記伝』。㉘寛政一〇(一七九八年)。㉙寛政二—文政五(一七九〇—一八二二)年。㉚『古事記』の注釈書。その文献学的・実証主義的研究において、国学の基礎を確立した。㉛『古事記伝』(鈴屋遺跡保存会、昭和一八—一九年)。㉜『岩波文庫』、『本居宣長全集』一一三、『増補本居宣長全集』一一四、『校訂 古事記伝』(明治三五年)

古始太元図説 こしいげんずせつ 一冊。㉝『鈴木重胤』(一八二—一六三年)幕末の国学者。重胤は諱、号は糧廼舎など。㉞太元・太極などの天体における考説を図をもって述べたもの。㉟『鈴木重胤全集』一一三。

古事談 こじだん 六卷。㊱源 顕兼(一一六〇—一二一五年)鎌倉前期の公卿。㊲鎌倉初期。㊳説話。第一「王道・后宮」、第二「臣節」、第三「僧行」、第四「勇士」、第五「神社・仏寺」、第六「亭宅・諸道」の六編目から成り、皇室・貴族・僧侶・武士の生活や信仰などを伝える。全四六二話から成る。

㊴改定 史籍集覧』一〇、『国史叢書』、『新訂増補 国史大系』、『丹鶴叢書』八。

古史伝 こしでん 三七卷。㊵『平田篤胤』(一七七五—一八四三年)江戸後期の国学者。㊶『文政八』(一八二五年)。㊷卷一—卷二七は安政—元治(一八五四—一六四)年間、卷二九—卷三一は明治一四—二〇(一八八一—一八七七年)。㊸自著『古史成文』を註解・詳釈して古道の真意を説いたもの。㊹『平田篤胤全集』七—一〇(『平田学』)、『平田篤胤全集』一一四(内外書籍)

故事文選 こじもんぜん ↓ 和漢故事文選 わかんこじもんぜん

後拾遺和歌集 こしゆういわかしゆう 二〇卷一冊または二冊。㊺藤原通俊(一〇四七—一九九年)平安中・後期の公卿・歌人。㊻『後拾遺集』、『後拾遺和歌抄』。㊼『徳三』(一〇八六年)。㊽『安政五』(一八五八年)年。㊾勅撰和歌集。天曆一〇(九五六年)年から当時にあたると、およそ一三一年間の『拾遺和歌集』にもれた歌を集めたもの。歌の数は一二二〇首。㊿『岩波文庫』、『校註国歌大系』三、『国歌大観』、『二十一代集』二、『日本歌学全集』四、『日本古典全集』三期、『八代集抄』上、『八代集全註』一、『有朋堂文庫』。

五趣生死輪弁義 こしゆししょうじりんべんぎ 未詳。

五帖御文 こじょうおふみ ↓ 蓮如上人御文 れんによし

ようにんおふみ

五帖示珠指 こじょうじしゆし ↓ 御文五帖一部示珠指

おふみこじょういちぶじしゆし

五色線 こしょくせん 二巻。㊟未詳。㊟宋代の類書。㊟

『津速秘書九、『続百川学海』。

後撰和歌集 ごせんわかしゅう 二〇巻一冊または二冊。㊟

大中臣能宣おほなかとみのかよひのぶ（九二二—一九九一年）平安中期の神祇官人・歌

人／清原元輔きよはらのもとすけ（九〇八—九九〇年）平安中期の官人・歌人／

源順みなもとのしげゆき（九一一—九八三年）平安中期の官人・学者・歌

人／紀時文きよときぶん未詳）平安中期の歌人／坂上望城さかうえのもちき（？—九八〇

年）平安中期の官人・歌人。㊟『後撰集』。㊟天曆五（九五—

〇〇）首。㊟『古典保存会』四期、『尊経閣叢刊』、『定家筆高松

宮本後撰集』（定家筆三代集』の内）、『伏見天皇宸翰後撰集』

（昭和五年）、『伝定頼筆烏丸切後撰集』。㊟『岩波文庫』、『校

註国歌大系』三、『国歌大観』、『古典文庫』、『二十一代集』一、

『日本歌学全書』二、『日本古典全集』二期、『八代集抄』上、

『八代集全註』一、『有朋堂文庫』、『後撰和歌集』（明治四二

年）、『後撰和歌集』校本と研究（昭和三十六年）

五代史 こだいし 一五〇巻・目錄二巻。㊟『薛居正せつきよせい（九一一

—九八一年）北宋初期の政治家。字は子平。㊟『旧五代史』㊟

正史の一。紀は六一巻、志は一二巻、伝は七七巻。『累朝実

録』、『五代通録』を稿本としている。

五朝小説 ごちようしやうせつ ㊟魏晋唐宋明の小説を収め

ている。『五朝紀事』ともいう。

国会 こっかい 日刊。東京、国会新聞社。明治二三（一八九

〇）年一月二五日、『東京公論』と『大同新聞』が合併し創刊

された。明治二八（一八九五）年二月一日廃刊。㊟論説・
文芸。村山竜平、末広鉄腸、幸田露伴らが関係し、文芸新聞
として他紙を圧倒した。

谷響集 こつきやうしゆう ↓ 寂照堂谷響集 じゃくしよ

うどうこつきやうしゆう

谷響続集 こつきやうぞくしゆう ↓ 寂照堂谷響集 じゃ

くしやうどうこつきやうしゆう

滑稽雑談 こっけいざうだん 二四冊。㊟四時堂其諺（？—

一六三六年）。㊟正徳三（一七一三）年序。㊟事実を二カ月

に配して、毎月の時令、人事、動植物の名称や故事などを考

証したもの。㊟『滑稽雑談』（国書刊行会）

滑稽太平記 こっけいたいへいき 三冊。㊟北藤浮生（未

詳）。㊟延宝一（天和）（一六七三—一七八四）年ころ。㊟俳諧道の滑

稽逸話を集めたもの。全六五話から成る。㊟『俳諧叢書』、『俳

人逸話紀行集』、『俳諧文庫』、『俳諧逸話全集』。

諺草 ことわざぐさ 七巻。㊟編・貝原好古かいげんこうこ（一六六四—一七

〇〇）年）江戸前期の儒学者。号は耻軒。好古は名で「よしひ

さ」とも読む。㊟元禄二（一六九九年）。㊟元禄一四（一七〇

一年）。㊟和漢の書や仏書などから諺・俗語を拾い、いろは

順に配して見解を述べたもの。㊟『益軒全集』三。

狐媚記 こびき ㊟大江匡房おほえのまさむね（一〇四一—一一一年）平安後

期の公卿・学者。㊟『康和三年狐媚記』。㊟未詳。㊟狐にだま

された話。漢文で書かれた短文。㊟『群書類従』文筆。

護法資治論 こほうしじろん 正編五巻・補遺二巻・付録三

卷一〇冊。④森尚謙(一六五三—一七二二年)江戸前・中期

の儒学者。字は利涉、号は復庵・不染居士。④宝永四(一七〇七年)。④治国のために儒仏合一を説いたもの。また、

須弥山説護護のために「天地正体円相図」を考案し、合理的説明につとめた。④「日本思想闘争史料」二、「破邪叢書」一。

護法新論 こほうしんろん 三卷三冊。④安慧(一八一九—

一九〇一年)江戸後期・明治期の真宗の僧。号は勝国道人。

④慶應三(一八六七年)。④護法。④「破邪叢書」一(抄)

護法漫筆 こほうまんびつ 一冊。④松平冠山(一七六七—

一八三三年)江戸後期の大名・地理学者。名は定常、字は君

倫・冠山道人、姓は池田ともいう。④文政一〇(一八二七)

年。④随筆。儒者の仏教に関する言説を挙げて批評し、儒仏

の相反するものでないことを示そうとしたもの。④「日本思想

闘争史料」二、「護法漫筆」(明治一〇年)

岷玉撮要集 こんぎよくさつようしゅう 二卷二冊。④日

重(一五四九—一六二三年)安土桃山・江戸前期の日蓮宗の

僧。④正徳六(一七一六年)。④「岷玉撮要集」(平仮名付き、

明治一三—一四年。改定増補、明治一六年)

金剛經 こんこうきょう → 金剛般若波羅蜜經 こんこう

はんにゃはらみつきょう

金剛般若波羅蜜經 こんこうはんにゃはらみつきょう 一

卷。④鳩摩羅什(クマラジーヴァ、三四四—四一三年)東

晋代の僧・大訳経家。④「金剛經」、「金剛般若經」、「舍衛國

本」。④一切存在の空と無我を説いている。④「大正新脩大蔵

經」八(二三五)

金剛宝戒章 こんこうほうかいしやう 三卷三冊。④源空

(一一三三—一二二二年)平安後期・鎌倉前期の僧。浄土宗の

開祖。号は法然房、通称は黒谷上人、諡号は円光大師など。

④寛永一(一六三四年)。④金剛宝戒訓授章(上卷)、金剛宝

戒釈義章(中卷)、金剛宝戒秘決章(下卷)から成り、訓授章は

授戒の次第を述べ、釈義章は金剛宝戒(梵網經)に説く大乘

戒を注解し、秘決章は法然と門弟との問答三〇余条を記し

ている。著者は法然(源空)ではないという。④「続浄土宗全

書」一五。

金光明經 こんこうみょうきやう 四卷。④曇無讖(タルマ

ラクシヤ、三八五—四三三年)中国南北朝時代の訳経僧。④

序品第一から囑累品第一九までの一九品から成り、鎮護国

家、滅罪、禳災の經典として信仰された。この經にもとづき、

国分寺・四天王寺の建立、最勝会・放生会などが催された。

④「大正新脩大蔵經」二六(六六三)—→金光明最勝王經。

金光明最勝王經 こんこうみょうきやうさいしやうおうきやう

一〇卷。④義浄(六三五—七二三年)唐代の僧。④「最勝王

經」、「金光明最勝帝王經」。④「金光明經」の異訳。金光明懺

法の功德を説くとともに、四天王による鎮護国家と現世利益

信仰を説いている。④「大正新脩大蔵經」二六(六六五)—→金

光明經。

良斎文略 ごんさいぶんりやく 正編三卷・続編三卷・詩略

一卷七冊。④安積良斎(一七九一—一八六〇年)江戸後期の儒

学者。名は重信、字は思順、別号は見山楼。(㊦)正編天保二(一八三二)年、続編・詩略嘉永六(一八五三)年。(㊧)漢詩文。(㊨)国立国会図書館。

今昔拾遺物語 こんじやくしゅういものがたり→近世拾遺物語 きんせいしゅういものがたり

今昔物語 こんじやくものがたり→今昔物語集 こんじやくものがたりしゅう

今昔物語集 こんじやくものがたりしゅう 三一巻。(㊩)未詳。(㊪)『日本今昔物語』、『宇治拾遺物語』、『宇治大納言物語』、『今昔物語』。(㊫)天竺・震旦・本朝の三部に分けて、一

二〇〇余の説話を収めた仏教説話集。(㊬)岩波文庫、『改定史籍集覧』九、『角川文庫』、『校註国文叢書』二六一七、『校

註日本文学大系』八一九、『新訂増補 国史大系』、『大日本文庫』、『丹鶴叢書』二一三、『日本古典全集』四期、『日本古典全

書』、『日本古典文学大系』二一一六。

今昔夜話 こんじやくやわ 五巻五冊。(㊭)渡辺源豊未詳。

(㊮)安政六(一八五九)年序。(㊯)奇談集。巻一「猫の怨念」など

一三話、巻二「夢に死期を知る」など一三話、巻三「貧福の相入りかわる」など八話、巻四「狐人につきてふることを語る」

など一四話、巻五「御蔭まいり」など一三話の計六一話から成る。(㊰)哲学堂文庫(写本)

昆陽漫録 こんようまろく 六巻・統一巻・補一巻八冊。(㊱)青木昆陽(あおきこんよう)二六九八—一七六九年)江戸中期の儒学者・蘭学者。名は敦書、字は厚甫、昆陽は号。(㊲)『昆陽漫筆』。(㊳)宝曆

一三(一七六三)年、続・明和三(一七六六)年、補・同五年。(㊴)隨筆。和漢の書や朝鮮および蘭書から抄録して、見聞を記したもの。(㊵)『大日本思想全集』一一、『日本隨筆大成』新版二期二〇(旧版二期一〇)、『百家説林』正編上・下。

[次]

齋諧俗談 さいかいぞくだん 五巻五冊。(㊶)大拙(おほしづか)東華未

詳。(㊷)宝曆八(一七五八)年。(㊸)隨筆。和漢の奇談・怪異

談を集めたもの。天象・神変の不思議、高僧の奇跡、双頭な

どの異相人の話、各地の伝説、石や木や動物に関する奇談な

ど、全二〇五条から成る。(㊹)『日本隨筆大成』新版一期一九(旧版二期一〇)

西国四国中国虫附損亡風聞集 さいこくしこくちゅうこくむしつきせんぼうふうぶんしゅう 一冊。(㊺)未詳。(㊻)享保

一七(一七三二)年。(㊼)『虫附風聞集』。(㊽)いなごの害など飢饉

に関する覚書。(㊾)哲学堂文庫(写本)

西国事物起源 さいこくじぶつつきげん 四巻四冊。(㊿)西村

茂樹(にしむらたけ)二八二八—一九〇二年)明治時代の啓蒙的官僚学者。号

は泊翁。東京、西村茂樹刊、明治二二(一八七九)年。(㊽)「蒸気機器」「軽気球」など西洋の事物の起源を洋書の援引で編集したもの。巻一「天時」から巻四第三八「製煉」まで三八類に分けている。

歳時記 さいじき→荆楚歳時記 けいそさいじき

最勝王経 さいしょうおうきょう→金光明最勝王経 こ

んこうみようさいししょうおうききょう

再生記文 さいせいきぶん → 勝五郎再生記聞 かつごろう

うさいせいきぶん

再生記聞 さいせいきぶん → 勝五郎再生記聞 かつごろう

うさいせいきぶん

罪人相貌学 ざいにんそうぼうがく → 罪人相貌学及裁判医学一斑 ざいにんそうぼうがくおよびさいばんいがく

いっばん

罪人相貌学及裁判医学一斑 ざいにんそうぼうがくおよびさいばんいがく

京、田中達三郎刊、明治二三(一八九〇)年、六四頁。東

西北域記

さいほくいきき 未詳。

犀浦沙弥訓

さいほしやみくん 四卷四冊。著日尚(？)一

七七八年。因仏道修行者のために、沙弥としての心得、三

宝に対する供養、仏事法要の心得、寺院での日常生活・行

事、法号授与、葬儀などについて、漢文体で述べたもの。因

『道風軌範』(昭和六年、増補版昭和五年、国土安穩寺編)

西遊記

さいゆうき 二編一〇巻一〇冊。著橘南谿(一七

五三一八〇五年)江戸中・後期の医者。名は春暉、字は恵

風、別号は梅華仙史・梅仙。別『諸国奇談 西遊記』。因前

編寛政七(一七九五年、後編同一〇年。因医学修行のための

旅中、山陽・九州・四国・南紀行において見聞した奇談・奇

事・名勝・旧跡・奇人・篤行などを記したものの。因『改造文

庫』、『袖珍名著文庫』、『続帝國文庫』、『紀行文集』、『日本庶民

生活史料集成』二〇、『文芸叢書』一一、『有朋堂文庫』、『東西遊

記』、『北窓瑣談』、『東西遊記』(明治三六年)

細流抄 さいりゅうしょう 二〇冊。著三条西公条(一四八

七―一五六三年)戦国時代の公卿・学者。因『公条公聞書』、

『源氏細流』、『源氏物語聞書』、『源氏物語抄』、『源氏物語

註』、『源氏物語細流抄』、『三条西家抄』、『三抄』、『帥源氏聞

書』、『秘抄』。因一次本大永八(一五二八年)、二次本文三

(一五三四年)。因『源氏物語』の注釈書。因『国文註釈全書』

五。

阪谷朗廬遺稿 さかたにろうらいこう 著阪谷朗廬(一八二

二―一八一年)幕末・明治の儒学者・漢詩人。名は素、字は子

絢、朗廬は号。因遺稿集。

索隠 さくいん → 史記索隠 しきさくいん

索隠正義 さくいんせいぎ 未詳。

瑣語 さご 二巻二冊。著五井蘭洲(一六九七―一七六二年)

江戸中期の儒学者。名は純禎、字は子祥、別号は梅塢・冽

庵。因『明和四(一七六七年)。因漢詩文。和漢の故事につい

て考証したもの。因『日本儒林叢書』一。

瑣碎録 ささいろく 著人見蕉雨(？)一八〇四年)江戸後

期の秋田藩士。因寛政一〇(一七九八年)。因見聞記。秋田藩

内での見聞のほかに、詩文・読書記録などを記したものの。因

『人見蕉雨集』四(秋田魁新報社、昭和四三年)

雑雑拾遺 ざつざつしゅうい 六巻六冊。著藤原行定(未

詳)。⑧『新古事鏡』。⑨元和三(一六二七)年跋。⑩元禄八(一六九五)年。⑪国立国会図書館。

雑志。ざっし「嘉祐雑志」のこと。⑫江休復(一〇〇五—一〇六〇)年宋の人。字は隣幾。⑬逸事雑説を集めたもの。

撮壤集。さつじょうしゅう 三卷三冊。⑭飯尾為種(？—一四五八年)室町時代の歌人。出家後、永祥・肥前入道と称す。

⑮享徳三(一四五四)年。⑯意義分類体の辞書。⑰『統群書類従』三〇輯下、「増補語林 倭訓栞」付録(明治三二年)

雑説囊話。ざっせつのおわ 二卷三冊。⑱林自見(一六九六—一七八七年)江戸中期の国学者。名は正森、号は性缶自見。

⑲『明和元(一七六四)年。⑳事跡・名所・物産・靈異・怪談などを和漢の書物より摘録し、意見を付したのもの。㉑『日本

隨筆大成』新版二期八(旧版二期四)

左伝。さでん→春秋左氏伝。しゅんじゅうさしでん

佐渡奇談。さどきだん 三卷三冊。⑳田中葵園(一七八二—一八四五年)江戸後期の儒学者。名は美清、字は士廉、別号

は北溟・雪巖・空谷居士。㉑聞きおきの奇話をつづつたもの。上巻「菅公の神像奇瑞の事」など一項目、中巻「風鳥弁天の事」など二項目、下巻「仙田氏の女幼敏の事」など二項目の計三六項から成る。㉒『隨筆百花苑』一五、「佐渡奇談」(明治

二七年)

蓑笠雨談。さりつうだん→著作堂一夕話。ちよさくどう

いっせきわ

猿著聞集。ざるちよもんじゅう 五卷五冊。⑳八島定岡(未

詳)江戸後期の狂歌師・小説家。名は春信、号は岳亭丘山・堀川多楼など。㉑『文政一〇(一八二七)年序。㉒『文政一(一八二八年)』。㉓『古今著聞集』に模して、主として狂歌師の逸話を記し、怪異現象・災害・珍事件をも記す。㉔『滑稽文学全集』八、「日本隨筆全集」三、「日本隨筆大成』新版二期二〇(旧版二期一〇)

山陰雜筆。さんいんざつびつ 八卷一冊。⑳松崎蘭谷(一六七四—一七三五年)江戸中期の儒学者。名は祐之、字は子慶、別号は甘白。㉑隨筆。㉒国立国会図書館。

山陰雜錄。さんいんざつろく 三卷三冊。㉓日達(一六七四—一七四七年)江戸中期の日蓮宗の学僧。㉔『正徳五(一七一五)年。㉕『正徳六(一七一六)年。㉖仏教よりも儒教や古賢の事跡、さらに外史にわたるものに関して記したもの。全一四

四項から成る。㉗『哲学堂文庫。』

三界一心記。さんがいいっしんき→三賢一致書。さんけんいっしんしよ

三界義。さんがいぎ 一卷一冊。㉘源信(九四二—一〇一七年)平安中期の天台宗の僧。通称は恵心僧都。㉙寛永年間版(一六二四—一四三年)。㉚欲界・色界・無色界の三界についての問題を問答体によって解釈し、その苦楽の様相を説いたもの。㉛『恵心僧都全集』三、「高僧名著全集」三、「大日本仏教

全書』三九(鈴木財団)

山海里。さんかいり 一二卷三六冊。㉜信曉(一七七四—一八五八年)江戸後期の真宗仏光寺派の学僧。号は実解・曇蔵

など、謚おくりなは仏心院。(成)文政八(一八二五)年—安政五(一八五八)年。(因)仏教に関する種々雑多の事項を記したものの。
⑤『仏教百科全書』(明治二五年、明伝の百通切紙きりぎりし(口伝を記した紙)と合わせて三巻とし、改題して出版、『山海里』(明治二七年)

三教凡例鈔 さんききょうはんれいしやう 未詳。

三教平心論 さんぎやうへいしんろん 二巻。(劉)劉謚りゅうご(未詳)元の僧。(成)未詳。(因)儒仏道の三道はそれぞれ意義と役割

があるとするが、特に仏教が優れているとし、排仏思想に対して論駁している。(成)『大正新脩大藏經』五二(二二一七)

三賢一致書 さんけんいちしよ 一冊。(著)大竜未詳(江戸

前期の臨濟宗の僧。(別)『三界一心記』。(成)正保元(一六四四)年。(成)慶安二(一六四九)年。(因)儒仏道の三道の本旨が一に帰すことを説いたもの。(成)『日本思想闘争史料』五。

三元八卦九星方位占判断 さんげんはつききやうせい

ほういうらないひとりはんたん (著)栗田鉄三郎(未詳)。東京、牧野惣治郎・伊藤岩治郎刊、明治一七(一八八四)年、和二七丁。付「人相夢はんじ」。(因)占卜。

参考保元物語 さんこうほうげんものがたり 三巻九冊。

⑤今井弘濟(一六五二—一八九九)江戸前期の国学者・医者。字は将興、号は知足軒・魯齋。(成)元禄二(一六八九)年。(成)元禄六(一六九三)年。(因)異本五部を校合し、異同を明らかにし事実の誤りを正したもの。(成)参考保元平治物語(圖書刊行会)

三国塵滴問答 さんごくじんてきまんどう 一〇巻二冊。

(著)瀬崎三艘軒(未詳)。(成)宝永三(一七〇六)年。(因)問答体の隨筆。日本・中国・インドにかかわる種々の事柄について、神儒仏の三教の書を引いて答えたもの。全二一九条から成る。(成)哲学堂文庫。

三国仏教略史 さんごくぶつきやうりやくし (著)島地黙雷

(一八三八—一九一一年)明治時代の浄土真宗の僧／織田得能(一八六〇—一九一一年)明治時代の仏教学者・僧。東京、鴻盟社刊、明治二三(一八九〇)年、和三冊(上六九・中五二・下五〇丁)。(因)インド・中国・日本の仏教通史。

三国仏法伝通縁起 さんごくぶつぽうでんずうえんぎ 三

巻。(著)凝然(一二四〇—一三二二年)鎌倉時代の華嚴宗の学僧。(成)応長元(一二二一年)。(成)応永六(一三九九)年。(因)インド・中国・日本三国にわたる仏教通史。(成)『大日本仏教全書』

六二鈴木財団、『仏教大系』、『三国仏法伝通縁起』(明治九年・一〇年・二一年)

三才彙編 さんさいいへん 未詳。

三才因縁弁疑 さんさいいんねんべんぎ 前編三巻・後編三巻六冊。(著)村上俊清(未詳)江戸中期の人。(成)前編享保一(一七二六)年、後編同一三(一七二八)年。(因)前編四六項、後編二八項から成る。「太極」「地震」「地獄極楽の因縁」「算術の因縁」「人魂」「花のさく因縁」など、初学者のために万象の理を述べたもの。(成)哲学堂文庫。

三才窺管 さんさいいきかん 三巻三冊。(著)広瀬周伯(一八一八年)江戸中・後期の医者。名は信、号は紫山園、周伯

は通称。㉑「図会蘭説 三才窺管」。㉒寛政一（一七九九年）自序。㉓文化五（一八〇八年）。㉔天地人の三巻に分け、天の部には天文のことを図説し、地の部には地文のことを図解し、人の部には人生理理のことを図解して説明している。㉕哲学堂文庫。

三才諸神本紀 さんさいしよじんほんぎ→通俗三才諸神本紀 つうぞくさんさいしよじんほんぎ

三才図会 さんさいずえ 一〇六巻。㉖王圻（未詳）明代の学者。字は元翰。㉗天文・地理・人物・時令・宮室・器用・身体・衣服・人事・儀制・珍宝・文史・鳥獸・草木に分類してそれを図絵で説明したもの。㉘「三才図会」(全三冊、上海古籍出版社、一九八八年)

三才発秘 さんさいはつぴ ㉙中国の家相の書。これを和解し利用しやすくしたものに苗村元長（江戸後期の易占家。別名は三敵の「三才発秘鈔要」(一八〇五年)がある。

三災録 さんさいろく 二巻二冊。㉚稲毛実（?）一八六九年幕末の文人。号は白頭。㉛安政二（一八五五年）。㉜安政元年の冬の土佐高知における地震・出火・高潮の三災に関して、公文書・巷談・詩文などを集録して詳記したもの。㉝国立国会図書館(写本)

三十九則簾中抄 さんじゅうきゅうそくれんちゅうしょう 未詳。

三奏記 さんしんき 未詳。
三省録 さんせいりく 前編三巻・付言二巻・後編三巻・付

録二巻一〇冊。㉞前編・志賀理斎（一七六二—一八四〇年）江戸後期の儒学者・狂歌作者。名は忍、別号は天鷗山人・我楽多老人など。後編・原徳斎（一八〇〇—一七〇年）江戸後期・明治前期の儒学者。名は義胤・義、字は正道、別号は得斎。㉟前編天保元（一八三〇）年、後編嘉永七（一八五四）年。㊱前編天保一四（一八四三年）、後編文久三（一八六三年）。㊲和漢の書から抄録し、衣服・飲食・居住を一一三巻とし、四一五巻は「軒のしのぶ」と題して近世の諸事を記し、日常生活における無駄を省き、三省することを勧めている。㊳「日本経済大典」三六、「日本随筆大成」新版二期一六(旧版二期八)

三世相 さんせそう→大雑書 おおざっしょ
纂疏 さんそ 未詳。
三代実録 さんだいじつろく→日本三代実録 にほんさんだいじつろく

山堂肆考 さんどうしこう 二二八巻・補遺二二巻。㊴編・彭大翼（未詳）。㊵類書。宮・商・角・徵・羽の五集から成り、天文・時令・地理など、四八項目に分かれている。
山堂清話 さんどうせいわ 三巻一冊。㊶高泉性激（一六三三—一九五五年）江戸前期の黄檗宗の僧。中国福州福清県生まれ。一六六一年に隠元隆琦の招きで来日。高泉は道号、性激は諱。別号は雲外・曇華道人。㊷寛文二（一六七二年）。㊸上巻四八項、中巻四六項、下巻三六項の計一三〇項から成る。「仏言如密」「異人」「降仙」「忠孝」「自覚」「地動」「生死」など

について述べたもの。㊹哲学堂文庫。

三仏伝 さんぶつてん 未詳。

三宝感応要略録 さんぼうかんのうよりやくろく 三巻。

〔著〕非濁(？)一〇六三年(宋代)の僧。〔題〕「三宝感応録」。〔内〕仏・

法・僧の三宝と衆生との感応を説く物語をまとめたもの。一

六四話から成る。〔述〕大正新脩大藏經「五一(二〇八四)」。〔

〕「国訳一切経」史伝部一三。

三宝感応録 さんぼうかんのうろく ↓ 三宝感応要略録

さんぼうかんのうよりやくろく

算法闕疑抄 さんぼうけつぎしょう 五巻三冊。〔著〕磯村吉徳

(？)一七二〇年(江戸前期)の和算家。「きちとく」ともいう。

〔題〕万治三(一六六〇)年。〔内〕和算書。〔題〕「近世文学資料類從」

「参考文献編」一一。

三養雜記 さんようざつき 四巻四冊。〔著〕山崎美成(一七九

六—一八五六年)江戸後期の雑学者。字は久卿、号は北峰・

好問堂・三養居。〔題〕天保一〇(一八三九)年序、同一一年。

〔内〕隨筆。民間の行事や習俗および俗諺・音曲・遊戯・詩歌・

俳諧・珍説・異聞・世態・人情などについて知見を述べたも

の。多くの図を挿入している。「狐狸の書画」「天狗の銅印」な

ど、全一二七項から成る。〔題〕「日本隨筆全集」三、「日本隨筆

大成」新版二期六(旧版二期三)

三余清事 さんよせいじ 一〇巻一〇冊。〔著〕伊藤竜洲(一

六八三—一七五五年)江戸中期の儒学者。〔題〕寛延二(一七四

九)年。〔内〕史伝・究理・治政・修身雑話などを記した漢文隨

筆。〔題〕国立国会図書館。

(七)

塩尻 しおじり 一〇〇巻。〔著〕大野信景(一六六三—一七三三

年)江戸中期の国学者。字は子頤、剃髪して信阿弥・白華翁。

〔題〕「志本尻」、「志保之里」、「紫保慈理」。〔題〕元禄一一(一六九

八)年—享保一八(一七三三)年にいたる三〇年間。〔内〕和漢の

諸書を引用し、自らの見聞や見解・考証を加えて、神祇・儒

仏・政治・歴史・文学・天文・地理・風俗などについて記し

た百科事典的な隨筆。〔題〕「我自刊我書」、「日本隨筆大成」新版

三期一三一—一六(旧版三期九—一〇)、「隨筆珍本 塩尻」明

治四〇年)

塩原繁昌記 しおばらはんじょうき 〔著〕錦石秋(未詳)。塩

原町(栃木)、君島玄二刊、明治一九(一八八六)年、和四一

頁。〔内〕地誌。

慈恩伝 じおんでん ↓ 大唐大慈恩寺三藏法師伝 だい

とうだいじおんじさんぞうほつしでん

爾雅 じが 三巻。〔著〕未詳。〔題〕漢代に成立。〔内〕十三經の一つ

で、文字の説明書。現存のものは「釈詁」から「釈畜」まで一九

編で、「詩經」の語を解釈したものが多い。

似我蜂物語 じがばちものがたり 三巻六冊。〔著〕未詳。〔題〕

「乞食袋」。〔題〕寛文元(一六六二)年。〔内〕仮名草子。隨筆、

説話、日用知識、政道批判、小説など、雑多なものが混在し

ている。改題本に「統著聞集」がある。〔題〕「近世文学資料類從」

「仮名草子編」三八。

柴巖易伝 しがんえきでん 未詳。

支干考 しかんこう 一冊。㊦齋藤鶴磯(一七五二—一八二

八年)江戸中・後期の儒学者。㊦飯寛政五(一七九三)年。㊦十干十二支について、『史記』、『漢書』、『釈名』、『白虎通』などを引いて説明している。子から亥まで十二支の挿図がある。㊦哲学堂文庫。

止観輔行伝弘決 しかんぶぎようでんぐけつ 四〇巻。㊦

湛然(七一—七八二年)唐代の僧。中国天台宗の中興の祖。

㊦『摩訶止観輔行伝弘決』、『止観輔行』、『止観記』。㊦八世紀。㊦天台の『摩訶止観』の注釈書。㊦『大正新脩大藏經』四六(一九二二)

史記 しき 一三〇巻。㊦司馬遷(前一四五(一三五?)—前八

六(?)年)前漢の歴史家。字は子長。㊦前九一年。㊦黃帝から前漢の武帝までを紀伝体で記した歴史書。本紀一二巻、表

一〇巻、書八巻、世家三〇巻、列伝七〇巻から成る。㊦『新

釈漢文大系』三八—四一、八五—九〇。

史記索隠 しきさくいん 三〇巻。㊦司馬貞(未詳)唐代の学者。字は子正。㊦『史記』の注釈書。

直道録 じきどうろく 一卷。㊦株宏(一五三二—一六一二年)明代の僧。号は蓮池。㊦寛文八(一六六八)年。㊦仏教。

㊦『大正大学』。

詩経 しきよう ㊦未詳。㊦『毛詩』。㊦中国最古の詩集。五

経の一。国々の民謡を集めた『国風』、宮廷の儀礼歌である

『小雅』、『大雅』、廟祭歌の『頌』から成る。㊦『国訳漢文大成』。

舳艫訓 じくろくん 五巻五冊。㊦伊勢貞丈(一七一七—八

四年)江戸中期の故実家。号は安斎、俗に貞丈という。㊦随

筆。㊦国立国会図書館(写本)

一事言要玄集 じげんようげんしゅう 未詳。

志古草 しこくさ 一冊。㊦隈川春蔭(一八〇二—一八三七年)江戸後期の歌人。春蔭は名、号は駒山・隈川漁者。㊦『醜

草』。㊦天保四(一八三三)年序。㊦天保一二(一八四一)年。

㊦『未足齋』追儻『団扇』『鬼』『天狗』『麦飯』『酒』『猫』など、雜記三〇項から成る。絵入り。㊦哲学堂文庫。

地獄実有説 じごくじつうせつ 一冊。㊦隆円(未詳)。㊦『地獄実有記』。㊦飯享和三(一八〇三)年。㊦地獄はないとい

う邪見を戒めたとし、地獄はあるということを知ることが仏

道に入るはじめと説いている。絵入り。㊦哲学堂文庫。

自娛集 じごしゅう 七巻七冊。㊦貝原益軒(一六三〇—一

七四年)江戸前期の儒学者・本草家・教育思想家。名は篤

信、字は子誠、別号は損軒。㊦飯正徳四(一七一四年)。㊦自

選の漢文集。「勸学論」から「四靈贊」まで一七九編から成る。

「陰陽論」「禍福論」「禍福弁」「五行生克論」「淫祀無福説」「死生

説」「人鬼論」などを含む。㊦『益軒全集』。

思齋漫録 しさいまろく 二巻二冊。㊦中村新斎(未詳)江

戸後期の儒学者。名は弘毅、字は士卿、別号は梅華。㊦天保

三(一八三二)年。㊦随筆。当時の徳行のある人たちの言行や

逸話を記録して教訓となしたもの。㊦『日本隨筆全集』一。

事纂 じさん 一一〇巻・目録二巻・惣目一卷。㊦浅井奉

政(一六九七—一七三四年)江戸中期の幕臣・故実家。㊦「皇朝事纂」。㊧享保一〇(一七二五)年序。㊨辞書。「天道」から「夷狄」まで三八部門を設け、さらに四七七部、四八八六条に細分して、『日本書紀』以下の史書によって、神代以来の歴史の故事を纂録したもの。㊩国立国会図書館(写本)

戸子 しし 二巻。㊪戸佼(未詳)中国戦国時代の人。㊫上巻は「勸学」から「君治」まで一六編、下巻はそれからもれたものを集めて二〇〇余条から成る。原本は亡逸し、古書に引かれたものを集成している。法家の説に近いという。㊬「平津館叢書」一、『百子全書』二五—二六、『湖海楼叢書』九。

時事新報 じじしんぱう 日刊。東京、時事新報社。明治一五(一八八二)年三月一日創刊され、昭和一一(一九三六)年一月二五日、『東京日日新聞』に合併された。㊭時事。おもな関係者—福沢諭吉・中上川彦次郎。

子史精華 ししせい 一六〇巻。㊮張廷玉(一六七二—一七五五年)清中期の政治家。字は衡臣、諡は文和。㊯清の康熙六〇(一七二二)年。㊰「莊子」などの「子部」や「史記」などの「史部」のなかの名言やすぐれた句を採録し、三〇類、二八〇「子目」に分類した類書。

子史精華事類統編 ししせいかじるとうへん 未詳。資通通鑑 しじつがん 二九四巻・目錄三〇巻・考異三〇巻。㊱編・司馬光(一〇一—一〇八六年)北宋の学者・政治家。字は君実、号は迂夫・迂叟。㊲宋の元豊七(一〇八四)年。㊳

周の威烈王の二三(前四〇三)年から五代、後周の世宗の顯徳

六(九五九年)まで、一三六二年間の史実を編年体で記述した通史。㊴「統国訳漢文大成」一一一八。

資通通鑑綱目 しじつがんこうもく 五九巻。㊵朱熹(一一三〇—一二〇〇)年南宋の儒学者。字は元晦・仲晦、号は晦菴・晦翁。朱子学を大成。㊶歴史書。北宋の司馬光の「資通通鑑」を「春秋左氏伝」の体裁にならって、「綱」(「左伝」の経)と「目」(同じく伝)とに分けて簡略化したもの。朱熹の弟子の趙師淵の手に成るものが多いという。また、歴史書編纂に「綱目体」という叙述形式を生み出した。

四八目類函 しじゅうはちもくゐかん 未詳。私聚百因縁集 しじゅうひやくいんねんしゅう 九卷三冊。㊷住信(一一一〇—?)年鎌倉時代の浄土宗の僧。愚勸住信と称す。㊸「百因縁集」。㊹正嘉元(一二五七)年。㊺説話集。

巻一—巻四がインド、巻五—巻六が中国、巻七—巻九が日本と分けられ、伝法の縁起由来、孝養譚、信仰譚、往生譚それに高僧伝など、浄土教色の強い説話がとられている。全一四七話から成り、多く出典を明記している。㊻「大日本仏教全書」九二(鈴木財団)、『古典文庫』二六五・二六七・二七二。地持論 じじろん→菩薩地持経 ほさつじじきょう

地震海嘯考 じしんかいしやうこう 一冊。㊼未詳。㊽安政二(一八五五)年。㊾地震・海嘯・火山の前兆について語り、津波について諸書を引用して心得を述べている。㊿哲学堂文庫。

地震考 じしんこう 一冊。㊿小島濤山(？—一八三一年)江

戸後期の算術家。名は典膳、瀧山は号。④寛政一三二一八三〇年。⑤文政一三年七月二日の大地震の実況と人心に触れて、国史上の地震をあげ、またその原因・徴候について記した小冊子。⑥『随筆文学選集』八。

静岡民友新聞 しずおかみんゆうしんぶん 日刊。静岡、静岡民友新聞社。明治二四(一八九二)年一〇月二〇日創刊。昭和一六(一九四一)年二月一日、『静岡新報』と合併して『静岡新聞』と改題した。

四声字音 しせいじおん 未詳。
 自然的魔術 しぜんてきまじゆつ ブルースター(Brewster, Sir D. 一七八一—一八六八年)イギリスの物理学者。(原書) Letters on natural magic. 1831.

地藏経 じぞうきょう→地藏菩薩経 じぞうぼさつきょう

地藏経鼓吹 じぞうきょうくすい→延命地藏菩薩経直談鈔 えんめいじぞうぼさつきょうじきだんしやう

地藏経鈔 じぞうきょうしやう 未詳。
 地藏菩薩経 じぞうぼさつきやう 一卷。④未詳。⑤未詳。

④大蔵経にしてわずか一五行しかない小編で、地藏菩薩の名を念ずれば極楽往生できると説いている。⑥『大正新脩大蔵経』八五(二九〇九)

地藏菩薩利益集 じぞうぼさつりやくしゆう 三卷一冊。
 ⑦浄慧(未詳)江戸前期の僧。⑧元禄四(一六九二)年。⑨仏教。⑩国立国会図書館(安永九年)

七十五法記 しちじゆうごほうき→有宗七十五法記
 うしゅうしちじゆうごほうき

七十五法名目 しちじゆうごほうみやうもく 一冊。①首書評註 七十五法名目。②寛文八(一六六〇)年。③因俱舎論

において、一切諸法を分類して七十五種としたその名目を略解したもの。④冠註 七十五法名目(明治一八年)、『標科傍訓 七十五法名目(明治二八年)』

七帖見聞 しちじょうけんもん→天台名目類聚鈔 てんだいみやうもくくいじゅうしやう

七福神考 しちふくじんこう 一冊。①山本時亮(未詳)。②『福神考』。③寛政一〇(一七九八年)跋。④七福神について考証したもの。⑤『神祇全書』二。

七夢経 しちむきやう→阿難七夢経 あなんしちむきやう

視聴雑録 しちやうぎつろく 四卷一〇冊。①臨深亭主人(未詳)。②『無疵不取錢』。③安永七(一七七八年)年。④隨筆。⑤国立国会図書館。

十訓抄 じっくんしやう 三卷一〇編。①六波羅二藤左衛門入道(未詳)。②建長四(一二五二)年序。③元禄六(一六九二)年。④一〇の徳目をあげて、それにそって和漢仏の諸書

から、少年たちが善を勧め悪を戒めるために教訓とすべき具体的な例話を抜粋してまとめた説話集。⑤『古典資料』二〇—

一一。⑥『岩波文庫』、『校註国文叢書』二八、『国民文庫』、『新訂増補 国史大系』、『日本文学全書』二二六、『校正十訓抄』

(明治二七年)

実験須弥界説

じっけんしゆみかかせつ 三卷三冊。⑤円通(一七五四—一八三四年)江戸後期の天台宗の僧。号は普門・無外子。⑥文政四(一八二二)年。⑦梵曆(仏曆)の書。西洋曆法を十カ条にわたって批判し、梵曆の優れていることを実証的に述べている。⑧東洋大学附属図書館。

実見妖怪談 じっけんようかいだん 未詳。

十節録 じっせつろく 一卷。未詳。

失念術講義

しつねんじゆつこうぎ 一冊。⑨井上円了(一八五八—一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育者。号は甫水。不思議庵主人と称す。東京、哲学館、明治二八(一八九五)年八月、八八頁。⑩憂苦を除くために失念術の必要性とその方法を記憶術との関連で述べたもの。

史伝 しでん 未詳。

四天王経 しでんのうききょう → 仏説四天王経 ぶつせつしてんのうききょう

支那教学史略

しなききょうがくしりやく ⑪狩野良知(一八二九—一九〇六年)幕末・明治期の儒学者。東京、吉川半

七刊、明治二四(一八九二)年、和二冊。⑫中国哲学。

支那古宗教論

しなこしゅうきょうろん 一冊。⑬谷本富(一八六七—一九四六年)明治・大正期の教育学者。⑭宗教学。

信濃奇勝録

しなのきししょうろく 五卷五冊。⑮井出道貞(二七五七—一八四二?年)江戸後期の神職者。道貞は名。⑯

『信濃奇区一覽』。⑰信濃一〇郡についてそれぞれその奇勝を探索し、禽獸・草木・異物・奇談などにいたるまで、実際に

見聞したことを多くの絵図を用いて説明したもの。⑱落原拾葉(一七一八、『信濃奇勝録』明治二〇年)

信濃奇談

しなのきだん 二卷一冊。⑲中村元恒(未詳)述

記・堀内元鑑(一八〇七—一九一九年)江戸後期の人。名は元逸、字は魚卿、別号は管齋。⑳文政二(一八二二)年序。㉑卷上「諏訪湖」から「河童」まで一二丁、卷下「駒岳」から「小松氏墓」まで一六丁、付録「王墓」・「檢校墓」・「堀内玄逸墓表」三丁から成る。信州伊那郡を主とする奇談・珍話を集めたもの。㉒

『日本庶民生活史料集成』一六。

信濃日報 しなのにつほう → 信濃毎日新聞 しなのまいにちしんぶん

信濃毎日新聞

しなのまいにちしんぶん 日刊。長野、信濃毎日新聞社。明治一四(一八八二)年六月七日、『信濃日報』

を改題・追号して現在にいたる。前史は明治六(一八七三)年七月五日、『長野新報』が創刊され、明治七(一八七四)年一月二七日、『長野毎週新聞』と改題、明治九(一八七六)年五月一

〇日、『長野新聞』と改題、明治一三(一八八〇)年一月六日、『長野日日新聞』と改題、さらに同年八月三〇日、『信濃日報』

と改題し、『信濃毎日新聞』に継承された。

信田白狐伝

しのだびやくでん 五卷五冊。⑳誓誓(未詳)

江戸中期の浄土宗の僧。号は海欽。㉑泉州信田白狐伝。㉒(寛政)宝曆七(一七五七)年。㉓俗談を利用して仏説因果を説明し

た仏教説話。㊦哲学堂文庫。

事物紀原 じぶつきげん 一〇巻。㊦高丞こうじょう(未詳)北宋元豊

(一〇七八・八六年)中生存。㊦類書。天地生植部から虫魚禽

獸部まで五五部に分けて、事物およそ一七六四の原始由来を

記している。㊦和刻本類書集成二。

事文前集 じぶんぜんしゅう→事文類聚 じぶんるいじ

ゆう

事文類聚 じぶんるいじゅう 前集六〇巻・後集五〇巻・続

集二八巻・別集三三巻・新集三六巻・外集一五巻・遺集一五

巻。㊦祝穆しゆぼく(未詳)南宋の学者。字は和甫。〔新集・外集富

大用だいう(未詳)元の人。字は時可。〔遺集]祝淵しゆえん(未詳)元の人。

字は宗礼。㊦古今の事実と詩文を類によって集めたもの。㊦

「和刻 古今事文類聚」(「国文学研究資料文庫」八、ゆまに書

房、昭和五七年)

持宝通覧 じほうつうらん ㊦竜牙興雲りゅうがこううん(一八三五?年)

明治期の僧。教報社、明治二六(一八九三年)、三冊(上四

九・中四八・下四四丁)。㊦寺院の規則。

島田幸安幽界物語 しまだこうあんゆうかいものがたり

㊦島田幸安しまだゆきやす(未詳)江戸後期の人。字は重信/記・参沢宗哲。

㊦幽界物語。㊦幽界のことに関し、参沢宗哲の問いに対し

て、神仙・仏道などの俗説によって答弁したもの。㊦国立国

会図書館(写本)

紫明抄 しめいしょう 一〇巻一〇冊。㊦素寂そしやく(未詳)。㊦

明抄)

示蒙抄 じもうしょう→河図洛書示蒙抄 かとらくしよ

じもうしょう

下野新聞 しもつけしんぶん 隔日刊のち日刊。宇都宮、旭

香社のち下野新聞株式会社。明治一七(一八八四)年三月七日

創刊。前身は明治一年六月一日創刊の『栃木新聞』(同年一

二月二日、三七号で廃刊し、翌二年八月二日新たに発行)

である。現在まで継続刊行している。

舍衛国王夢見十事経 しゃえいこくおうむけんじゅうじき

よう 一卷。㊦不詳。㊦十夢経。㊦紀元前後。㊦波斯匿

(パーサーナデイ)王がある夜一〇の夢を見て恐怖し、摩利夫人

(マリカー)の勧めで世尊のところへゆき、その夢の一つ一つ

について解釈してもらって安心したことが説かれている。㊦

「大正新脩大藏経」二(一四六)

社会学 しゃかがく 五冊。㊦ハーバート・スペンサー

(Herbert Spencer: 一八二〇—一九〇三年)イギリスの哲学

者。㊦大石正己おおいしただよみ(一八五五—一九三五年)明治・大正期の政治

家。是我書房、明治一六(一八八三年)、五冊(七七五頁)

釈迦譜 しゃかふ 五巻。㊦僧祐そうご四四五—五一八年)南齊・

梁代の律僧。㊦五一六世紀。㊦中国における最古の仏伝。仏

陀に関する事跡を経・律・論書のなかから抄録し、三四項目

にまとめ、各項目の最後に著者の見解を加えている。㊦「大

正新脩大藏経」五〇(二〇四〇)。㊦「国訳一切経」史伝部六。

积氏蒙求 しゃくしもうぎゅう 二巻二冊。㊦靈操れいそう(未詳)。

拾遺記 しゅういぎ 一〇巻。㊦王嘉(?)一三八五?年東晋

の文学者。字は子年。㊦『王子年拾遺記』。㊦原本は一九卷二二〇編あったが散逸し、梁の蕭綺が収集補綴して一〇巻とした。一卷から九巻までは伏羲・神農氏から東晋までの遺事を記し、最後の一卷は崑崙・蓬萊・方丈などのことを記している。㊦『漢魏叢書』六五、『古今逸史』六、『裨海』二、『百子全書』六五―六六。

拾遺三宝感応伝 しゅういさんぼうかんのうでん 一〇巻

五冊。㊦独庵玄光(二六三〇―一六九八年)江戸前期の曹洞宗の僧・漢詩人。独庵は道号、号は蒙山・睡庵。㊦『三宝感応伝』。㊦延宝四(一六七六)年序。㊦貞享三(一六八六)年。㊦法によって三宝に帰敬すれば顕効冥感のあることは仏書によって明らかであるが、それを儒書によって跡づけ、出典を記して時代順に原文のまま掲載したもの。㊦哲学堂文庫。

周易 しゅうえき→易経 えききょう

周易叢説 しゅうえきそうせつ 一卷。㊦芳川波山(未詳)。

拾芥抄 しゅうがいしょう 三巻三冊。㊦編・洞院公賢(一

二九一―一三六〇年)鎌倉末・南北朝時代の公卿/補・洞院実熙(一四〇九?年)室町時代の公卿。㊦『略要抄』、『拾芥略要抄』。㊦慶長古活字版。㊦歳時・史系・文学・民俗・諸芸・儀式・国郡・神仏・衣食・吉凶などに関する漢文で書かれた雑録。㊦『新訂増補 故実叢書』二二。

獣経 じゅうきょう 未詳。

宗教進化論 しゅうきょうしんかろん 一冊。㊦斯辺撤

(Herbert Spencer: 一八二〇―一九〇三年)イギリスの哲学者。㊦高橋達郎。松田周平刊、明治一九(一八八六)年、六九頁。㊦宗教史を進化論的立場より論じたもの。(原書) Herbert Spencer: Religion retrospect and prospect.

拾玉集 しゅうぎよくしゅう 七巻。㊦慈円(一一五五―

一二二五年)鎌倉前期の天台宗の僧・歌人/編・尊円親王(一二九八―一三五六年)青蓮院門跡。㊦貞和二(一二三四)年。㊦家集。数千首が収められている。仏語や漢語を用いた歌があり、仏道と歌道の融合を説くなど特殊な和歌観が注目されるという。㊦『校註国歌大系』二〇、『慈円全集』、『続国歌大観』六家集。

秋斎問語 しゅうさいかご 四巻四冊。㊦多田南嶺(一六

九八―一七五〇年)江戸中期の神道家・故実家・浮世草子作者。名は義俊・義正など、別号は興先・春塘・秋斎など。㊦宝暦三(一七五三)年。㊦随筆。語源、故実、事物・風俗の起源などを文献を引いて考証している。全一八七条から成る。㊦『日本随筆全集』一四、『日本文庫』二二。

十七史蒙求 じゅうしちしもうぎゅう 一卷。㊦王令未

詳。㊦李瀚の『蒙求』にしろ、『史記』から『五代史』までの一七史の内容を八一六句にまとめたもの。

十誦律 じゅうじゆりつ 六一巻。㊦弗若多羅(ブンニヤタ

ラ、未詳)姚秦代の僧/鳩摩羅什(クマラージヴァ、三四四―四一三年)東晋代の僧、大訳経家。㊦『薩婆多部十誦律』、『薩婆多律』。㊦説一切有部の伝えた律蔵。比丘・比丘尼戒、

健度部 雑事から成り、これを十章(十誦)に分け、比丘・比丘尼戒の間に健度部を入れている。

周書 しゅうしょ 五〇巻。㊦令狐德棻(未詳)唐の人/その他著。㊧『後周書』、『北周書』。㊨唐初。㊩正史の一。西魏・北周の二代四〇年間の歴史を記した。本紀八巻、列伝四二巻から成り、志・表はない。残欠が多い。

修身雑話 しゅうしんざつわ 前編二巻二冊。㊪窓屋今堀高英(未詳)/画・長谷川貞信(一八〇九—一七九九年)江戸後期・明治前期の絵師。別号は有長・貞宣・信天翁など。㊫童子教訓修身雑話。㊬弘化四(一八四七年)。㊭和漢のさまざま逸話を引いて修身を説いたもの。絵入り。㊮哲学堂文庫。

修身書 しゅうしんしょ→尋常小学修身書 じんじょうしゅうがくしゅうしんしょ 未詳。

十道志 じゅうどうし 未詳。

十二因縁論 じゅうにいんねろん 一巻。㊯竜樹(ナーガールジュナ、一五〇—二五〇?)年インドの仏教思想家。㊰菩提流支(ボーディールナ、?—五二七年)中国南北朝時代の僧。㊱一五〇—二五〇年ころ。㊲無明・行・識・名色・六処・触・受・愛・取・有・生・老死という十二種類の因縁を説く偈文と、これを問答体で注釈したもの。なお、漢訳では「浄意菩薩造」作となっている。㊳大正新脩大藏經三二(一六五—)。㊴『国訳一切経』論集部六。

十二縁生祥瑞経 じゅうにいせんしゅうしやうずいきやう二巻。㊵『施護(ターナパーラ、未詳)宋代の訳経僧。㊶十二縁

生(十二因縁)を十二支にあてはめ、それによって吉祥瑞応に達する法を説いたもの。㊷大正新脩大藏經二六(七一—七九)十二宮伝 じゅうにいきゅうでん ㊸新家春三(未詳)別号は新亀斎。

十八史略 じゅうはつしりやく 七巻。㊹曾先之(未詳)南宋末・元初期の学者。字は孟參。㊺太古から南宋末までの史実を編年体で記したもの。㊻『新釈漢文大系』二〇—二一。

秋坪新語 しゅうへいしんご 未詳。『嬉遊笑覧』巻八のなかに引用されている。

十夢経 じゅうむきやう→舎衛国王夢見十夢経 しゃえいこくおうむけんじゅうじきやう

宗門無尽灯論 しゅうもんむじんとうろん 二巻二冊。㊼円慈(二七三—一九四年)江戸中期の臨済宗の僧。道号は東嶺。㊽寛延元(一七四八年)。㊾寛政二(一八〇〇)年。㊿後学のために禅門における信心修行の次第を述べたもの。㊽『世界大思想全集』五二、『大正新脩大藏經』八一(二五七—五)、『白隠和尚全集』七、『宗門無尽灯論』(明治一五年)。㊿『昭和新聞』宗門略列祖伝 じゅうもんりやくれつそでん 四巻四冊。

㊿大冥恵団(未詳)江戸後期の臨済宗の僧。大冥は道号。㊿『本朝伝来 宗門略列祖伝』。㊿『文化六(一八〇九)年。㊿宗門列祖の略伝。㊿『国文東方仏教叢書』一輯伝記下。

周遊奇談 しゅうゆうきだん 五巻五冊。㊿昌東舎真風(未詳)。㊿『諸国奇談 漫遊記』。㊿『文化三(一八〇六)年。㊿

卷二「高野祭神幸吉凶の事」から卷五「麟鳳静住を好む事」まで全四六項から成り、京都・奈良・兵庫など各地の奇談を集録している。絵入り。㊦哲学堂文庫。

縮刷大藏経 しゆくさつだいぞうきよう→大日本校訂縮

刻大藏経 だいにほんこうていしゆくこくだいぞうきよう

宿曜経 しゆくようきよう→文殊師利菩薩及諸仙所説

吉凶時日善悪宿曜経 もんじゆしりぼさつぎゆうしよせんしよせつきようじにちぜんあくすくきよう

修験故事便覧 しゆげんこじべんらん 五卷五冊。㊦日栄

(未詳)江戸中期の日蓮宗の僧。字は芸聚・忍辱鎧、号は覚耀

院。㊦法華行者修験書。㊦享保一五(一七三〇)年。㊦享保

一七(一七三二)年。㊦修験道に関する加持祈禱や民間信仰の

説明・考証をおこなったもの。㊦修験聖典、「日蓮宗祈禱

聖典」、「日本大藏経」修験道章疏」三。

修験三十三通記 しゆげんさんじゆうさんつうき 二卷二

冊。㊦蓮覚(未詳)室町時代の修験道者/智光(未詳)室町時代

の修験道者。㊦三十三通記。㊦元禄二(一六八九)年。㊦九

州の彦山に伝わった切紙(口伝を記した紙)三三通を、上下二

巻にまとめた修験道の教義書。㊦修験聖典、「日本大藏経」

「修験道章疏」二。

修験修要秘決集 しゆげんしゆようひけつしゆう 三卷三

冊。㊦即伝(未詳)室町末期における修験道の回峰修行者。姓

は阿吸房。㊦修験道修要秘決、「修験道修要秘決集」、「修

要秘決」、「修要秘決集」、「修験道切紙」。㊦大永(一五二一—

二八年)ころ。㊦元禄五(一六九二年)。㊦智光・蓮覚らによ

ってまとめられた「修験三十三通記」に、即伝が金峰山中と彦

山で伝授された切紙などを加えて、四七通に分類増補したも

の。㊦「日本大藏経」修験道章疏」二。

修験道伝記 しゆげんどうでんき 未詳。

修験道便蒙 しゆげんどうべんもう→修験道山伏便蒙

しゆげんどうやまふしべんもう

修験道山伏便蒙 しゆげんどうやまふしべんもう 二卷二

冊。㊦有鏡(一六二四—一七〇二年)江戸前期の真言宗の僧。

㊦「山伏便蒙」。㊦元禄六(一六九三年)。㊦修験道教義にみら

れる仏教語彙を中心に、修験道・神道・陰陽道などの語彙を

解説したもの。㊦哲学堂文庫(二卷一冊)

修験峰中秘伝 しゆげんぶちゆうひでん 一卷。㊦学峰雲

外(未詳)一七世紀末の入峰修行者。㊦峰中秘伝、「峰中根

元記」、「峰中根源記」。㊦元禄七(一六九四年)。㊦大峰山中

の秘伝をまとめたもので、峰中の各秘所とそこの修行に照

応して修験道の思想が説かれている。㊦「日本大藏経」修験

道章疏」一。

朱子語類 しゆしごるい 一四〇巻。㊦黎靖徳(未詳)宋代の

儒者。㊦「朱子語類大全」。㊦宋の咸淳六(一二七〇)年。㊦朱

熹が門人と問答した語を分類して集録したもの。

重乗算類術 じゆじようさんかじゆつ 未詳。

首書易学啓蒙 しゆしよえきがくけいもう 四卷四冊。㊦

未詳。㊦「易学啓蒙」、「頭註 易学啓蒙」。㊦延宝二(一六

七四)年。⑤『易学啓蒙』の注解書。⑥国立国会図書館。

修善寺温泉名所記 しゅぜんじおんせんめいしよき 未詳。

修善寺名所記 しゅぜんじめいしよき 未詳。

述異記 じゅついき 二卷。⑦祖冲之(四二九—五〇〇年)

南朝宋の科学者。字は文遠。⑧神話・伝説・仙薬・服食・物怪・変異などを記した。梁の任昉の作として伝わる。⑨

『漢魏叢書』、『五朝小説』、『説郛』六五、『百子全書』、『稗

海』、『竜威秘書』、『和刻本漢籍隨筆集』一三。

出定後語 しゅつじょうごうご 二卷二冊。⑩富永仲基(一

七一—一四六年)江戸中期の儒学者。字は子仲。号は南関・藍関・謙斎。⑪延享元(一七四四年)自序。⑫延享二(一七四

五年)⑬原始仏教から大乘仏教諸派にいたる仏教思想発達史論。儒仏道の三教を批判している。⑭『日本思想闘争史料』

三、『日本哲学思想全書』九、『現代仏教名著全集』一、『日本思想大系』富永仲基・山片蟠桃、『出定後語(明治三五年)

出定笑語 しゅつじょうしよご 四卷四冊。⑮平田篤胤

(一七七六—一八四三年)江戸後期の国学者。⑯『仏道大意』、『大迷弁講本』。⑰文化八(一八一二年)ころ。⑱嘉永二(一一八

四九)年。⑲富永仲基の『出定後語』などにより、仏教を批判した書。のちの『出定笑語付録』では日蓮宗と真宗を論難して

いる。⑳『新修平田篤胤全集』一〇(名著出版)、『日本思想闘争史料』八、『日本先哲叢書』六、『平田篤胤全集』一(平田学

会)、『平田篤胤全集』九(内外書籍)、『平田篤胤叢書』乾、『平田翁講演集』、『有朋堂文庫』直昆靈・馭戎慨言・靈能真柱、

『出定笑語(明治二年)

出定笑語附録 しゅつじょうしよごふろく 二卷三冊。

⑳平田篤胤(一七七六—一八四三年)江戸後期の国学者。㉑文

化一四(一八一七)年序。㉒『平田翁講演集』。→出定笑語。

儒仏合論 じゅぶつごうろん 九卷。㉓隠深智脱(未詳)臨濟

宗の学僧。㉔寛文八(一六六八)年。㉕山崎闇斎の破仏論に

対して儒仏一致の立場を論じたもの。㉖『日本思想闘争史料』

一。

儒仏論肝要鈔 じゅぶつろんかんようしよ 三卷二冊。

㉗良運(一六三三—一七〇四年)江戸前期の天台宗の僧。字

は自証。号は月心。㉘『儒仏論肝要』。㉙貞享三(一六八六)

年。㉚仏教。㉛哲学堂文庫。

須弥山略説 しゆみせんりやくせつ 一冊。㉜福田行誠(一

八〇九—一八八八年)幕末・明治前期の浄土宗の僧。字は晋阿、

号は建運社立誓。東京、大村屋総兵衛刊、明治一一(一八七

八年、和一九丁。

主夜神修法 しゅやじんしゆほう 一冊。㉝未詳。㉞盗難・

剣難・厄難よけのまじないを記した。㉟哲学堂文庫。

修要秘決集 しゅようひけつししゅう ↓ 修験修要秘決集

しゅげんしゅようひけつししゅう

寿世保元 じゅよほげん 未詳。

周礼 しゅらい 六編。㊱周公旦(未詳)。㊲『周官』。㊳一

三経の一。周代の官制を記したもので、二七〇官の職掌を説

き、国家統治の施策を述べている。

周礼義疏 しゅらいぎそ ㊦賈公彦(未詳)唐の人。㊧『周礼』の注解。

首楞嚴經 しゅりょうこんききょう → 大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行首楞嚴經 だいぶつちちゅうにょらいみつちんしゅうしゅうりょうぎしよぼさつまんぎきょうしゅりょうこんききょう

循環曆 じゅんかんれき 五卷五冊。㊦小泉松卓(未詳)。㊧『授時曆註循環曆』。㊨正徳二(一七一)年自序。㊩享保二(一七二七)年。㊪授時曆(二八一年から一六四四年まで中国で使用された曆法)の註解書。㊫哲学堂文庫。

荀子 じゆんし 二〇卷。㊬荀況(未詳)中国戦国末期の儒者。名は況、荀子・荀卿(じゆんけい)・孫卿ともいう。㊭学の必要性および礼儀をたつとぶべきことを述べ、性悪の説となえ、孟子の性善の説に反対している。㊮『新釈漢文大系』五一六、『全釈漢文大系』七七八。

春秋 しゆんじゆう ㊯五経の一。中国最古の年代記。魯国の史官が著した『魯春秋』をもとに孔子が改訂して編んだ書と伝えられる。魯の隠公の元(前七二二年)から哀公の一(四前四八二年)までの二四二年間の歴史を編年体でまとめたもの。その注釈書である『春秋左氏伝』、『春秋公羊伝』、『春秋穀梁伝』に付載された形でのみ伝えられた。

春秋緯 しゆんじゆうい ㊰漢代に起こった『春秋』に関する緯書。『元命苞』、『演孔図』、『運斗枢』、『説題辭』、『春秋内事』、『録運法』、『河図揆命篇』など二八編をいう。㊱『玉函山房輯佚書』。

春秋元命苞 しゆんじゆうげんめいほう 二卷。㊱未詳。㊲漢代におこった春秋に関する緯書(吉凶禍福や未来のことを予言した書。経書にまねて作る)二八編の一つ。㊳『玉函山房輯佚書』七〇、『説郛』五。

春秋元命苞 しゆんじゆうげんめいほう 二卷。㊱未詳。㊲漢代におこった春秋に関する緯書(吉凶禍福や未来のことを予言した書。経書にまねて作る)二八編の一つ。㊳『玉函山房輯佚書』七〇、『説郛』五。

春秋左氏伝 しゆんじゆうさしてん 三〇卷。㊴左丘明(孔子と同時代?)。㊵『左氏伝』、『左伝』。㊶『春秋』の注釈書。魯の隠公(前七二二年)から哀公二七(前四六八)年まで、春秋時代の各国の政治・軍事・経済・文化等に関する史実を記した編年体の歴史書。十三経の一。『公羊伝』、『穀梁伝』とともに春秋三伝といわれる。㊷『新釈漢文大系』三〇一―三三、『全釈漢文大系』四一六。

春秋考異 しゆんじゆうこうい 未詳。

春秋左氏伝 しゆんじゆうさしてん 三〇卷。㊴左丘明(孔子と同時代?)。㊵『左氏伝』、『左伝』。㊶『春秋』の注釈書。魯の隠公(前七二二年)から哀公二七(前四六八)年まで、春秋時代の各国の政治・軍事・経済・文化等に関する史実を記した編年体の歴史書。十三経の一。『公羊伝』、『穀梁伝』とともに春秋三伝といわれる。㊷『新釈漢文大系』三〇一―三三、『全釈漢文大系』四一六。

春秋左伝 しゆんじゆうさしてん → 春秋左氏伝 しゆんじゆうさしてん

春秋繁露 しゆんじゆうはんろ 一七卷。㊸董仲舒(前一九九?―前一〇四?年)前漢の学者。㊹『春秋公羊伝』にもとづいて『春秋』の主旨を解明したものの。『公羊伝』を陰陽五行説と結びつけて解釈している。㊺『説郛』五。

春秋果筆 しゆんじゆうるいひつ 四卷三冊。㊻千仟(一七

九?―前一〇四?年)前漢の学者。㊹『春秋公羊伝』にもとづいて『春秋』の主旨を解明したものの。『公羊伝』を陰陽五行説と結びつけて解釈している。㊺『説郛』五。

九八一—一八八三年)江戸後期・明治前期の俳人。姓は岡崎、名は多忠二・環・延珍、別号は五窓楼(二世)・春秋楼など。

④ 雑多なおぼえ書きを録した。「芭蕉翁血脉之印」相撲之記「以呂波之伝」など。凶入り。⑤ 哲学堂文庫(写本)

蓮生八牋 じゆんせいはいっせん 一九巻。⑥ 高濂(未詳)明の人。字は深甫、号は瑞南・雅尚齋・桃花漁。⑦ 清修妙論牋

以下八目に分け、歴代の隠逸一〇〇人の事跡を述べたもの。

春波楼筆記 しゆんぱろうひつき ⑧ 司馬江漢(一七三—一八四七)一八一八年)江戸後期の画家・蘭学者。名は峻、字は君

嶽、別号は無言道人・春波楼・西洋道人。⑨ 文化八(一八一二年)。⑩ 歴史・世相・宗教・僧侶・老子・莊子・自然現象・画などを考察・論評して二二二項におよんでいる。⑪

『日本経済叢書』二二、『日本経済大典』二〇、『日本随筆大成』新版一期二(旧版一期一)、『百家説林』正編上、『有朋堂文庫』

『名家随筆集』下。

書 しよ→書経 しよきよう

長阿含経 じようあごん→長阿含経 じようあごんぎよう

長阿含経 じようあごんぎよう 二二巻。⑫ 仏陀(だ)耶舎(や)ツ

ダヤシヤ、未詳)四—五世紀ころの僧。覚名・覚明ともいう。⑬ 仏念(ぶつねん)前秦・後秦代の訳経僧。⑭ 原始仏典五阿含

の第一の經典。仏法の外道に対する優位を示す意図で、他の阿含に比べて特に長い經典のみ三〇經典を収録したもので、

内容的に、一、仏陀、二、法(教理)、三、修行道と阿羅漢の証果、四、宇宙論の四つに分類されている。⑮ 『大正新脩大

藏経』二(一)。⑯ 国訳一切経「阿含部七。

賞花吟 しょうかぎん→英華故事 えいがこじ

小学 しょうがく 六巻。⑰ 劉清之(未詳)宋の人。字は子

澄。⑱ 『小学書』。⑲ 淳熙一四(一一八七年)。⑳ 内外二編から

成り、内編は立教・明倫・敬身・稽古の四目、外編は嘉言・善行の二目に分けて、修身・日常道徳について述べている。

⑳ 『新釈漢文大系』三。

小学修身書 しょうがくしゅうしんしよ→尋常小学修身

書 じんじょうしょうがくしゅうしんしよ

商家秘録 しょうかひろく 一冊。㉑ 大玄子(未詳)。㉒ 明

和七(一七七〇)年。㉓ 商家の商法三八カ条を示し、特に米穀取引について論じたもの。㉔ 『通俗経済文庫』八。

消閑雜記 しょうかんざつき 二巻二冊。㉕ 惟中(一六三九

—一七一一年)江戸前期の俳人。姓は岡西、名は勝・且、別号は玄且・一時軒・一飄子など。㉖ 『消閑雜筆』。㉗ 文政八

(一八二五年)。㉘ 『平等院建立匡房卿の記憶』から「皇国のすべての古書どもの訓付清濁」にいたる五五項について考えを記した。『統無名抄』の改題本。㉙ 『日本随筆大成』新版三期四(旧版三期二)、『百家説林』正編下。

笑戯自知録 しょうぎじちろく 二巻二冊。㉚ 半田山人(未

詳)画・北尾重政(初世一七三九—一八二〇)年)江戸中・後期の絵師。㉛ 『教外別伝笑戯自知録』。㉜ 文化一四(一八一七年

序。㉝ 牛馬を呑む秘伝「家屋を車の如く押回し得べき伝」などを記した『子相伝極秘巻』の改題本。㉞ 哲学堂文庫。

象吉通書 しょうきつつうしょ 未詳。

聖鬪賛 しょうきゆうざん→題額聖鬪賛 だいがくしよ
うきゆうざん

上元県志 じょうげんけんし 未詳。

滋養県志 じようけんし 未詳。

聖財集 しょうざいししゅう 三卷三冊。⑤無住道暎(一二二

二六—一三二二年)鎌倉時代の臨済宗の僧。無住は道号、道

暎は法諱、号は二円。⑥正安元(二九九)年。⑦寛永二〇

(一六四三)年。⑧初学者のために教理・戒律などの諸事項を

解説したもの。⑨『聖財集』(明治二六年)

想山著聞奇集 しょうざんちよもんきしゆう 五卷五冊。

⑩三好想山(未詳)江戸後期の文筆家。名は永孝、通称は良

蔵または六左衛門。⑪『嘉永三(一八五〇)年。⑫奇聞集。卷

一「出雲大社遷宮の時雲出づる事」など一話、卷二「品川千

体荒神尊靈験の事」など一話、卷三「元三大師誕生水剣の不

思議の事」など一話、卷四「日光山籠り堂不思議の事」など

一二話、卷五「柳谷観音利益の事」など一二話、計五七話を収

めている。絵入り。⑬『統帝国文庫』『近世奇談全集』、『日本

庶民生活史料集成』一六。

想山著聞奇集 しょうざんちよもんきしゆう→想山著聞奇集

しょうざんちよもんきしゆう 未詳。

焦氏易林 しょうしえきりん 未詳。

尚直編 しょうじきへん 二卷二冊。⑭景隆(一三九二—?

年)明の臨済宗楊岐派破菴派の僧。字は祖庭、号は空谷。⑮

正統五(一四四〇)年序。⑯朱子の排仏説を駁し、儒仏道三教

聖人の道は、天地と徳を合し、日月と明を兼ね、ともに本源

の道を証する資となることを述べたもの。⑰『哲学堂文庫』

成実論 じようじつろん 一六卷または二〇卷。⑱『割梨跋摩

(ハリヴァルマン、未詳)。⑲鳩摩羅什(クマララジールヴァ、

三四四—四一三年)東晋代の僧・大訳経家。⑳二五〇—三五

〇年ころ。㉑内部派仏教の一派経量部の立場から説一切有部

説を批判した論書。苦・集・滅・道の四聖諦を明らかにし

ている。㉒『大正新脩大蔵経』三二(一六四六)。㉓『国訳一切

経』論集部三。

尚書 しょうしよ→書経 しよきよう

尚書古実 しょうしよこじつ→尚書故実 しょうしよこ

じつ

尚書故実 しょうしよこじつ 一卷。㉔李綽(未詳)唐の人。

㉕張嘉貞(唐の人で官名中書令)の玄孫である尚書の家に遊

び、そこで述べたことを記したものであるという。

尚書撰異 しょうしよせんい 未詳。

盛衰記 じようすいき→源平盛衰記 げんぺいじようす

いき

小窓間語 しょうそうかんご 四卷四冊。㉖鈴木忠侯(未

詳)。㉗『小窓間語』、『小窓閑語』。⑳寛政二(一七九〇)年。

㉘故実に関する抄録。㉙『哲学堂文庫』

常総新聞 じようそうしんぶん 日刊。水戸、常総新聞社。

明治三三(一九〇〇)年一月創刊、大正三(一九一四)年一二

月まで継続した。

蕉窓随筆 しょうそうずいひつ 未詳。

小窓別記 しょうそうべつき 未詳。

蕉窓漫筆 しょうそうまんびつ 三卷三冊。⑤義海(？)一七五五年)江戸中期の浄土宗の僧。字は冲黙。⑥明和四(一七六七)年。⑦漢文で書かれ、仏教・儒教・道教にわたる諸事項を記したものの。知識・道徳に関する教戒を含む一〇六条から成る。⑧「影印日本随筆集成」二。

掌中和漢年代記集成 しょうちゅうわかんんだいきしゅうせい 一冊。⑨山崎美成(一七九六—一八五六年)江戸後期の雑学者。字は久卿、号は北峰・好問堂・三養居。⑩弘化四(一八四七)年。⑪大化から嘉永三年までの和漢の年表に全国地図・天皇記・国郡名・武将年代・吉凶などを記し、付録として「暦日略解」を載せたもの。⑫「哲学堂文庫」。

松亭漫筆 しょうていまんびつ 二卷二冊。⑬松亭金水(一七九七—一八六二年)江戸後期の戯作者。本名は中村保定。経年、別号は積翠・拙作堂など。⑭嘉永三(一八五〇)年自序。⑮和漢・雅俗・古今の別なく、見聞した雑事を集め、その考証と教訓を述べたもの。⑯「日本随筆全集」八、「日本随筆大成」新版三期九(旧版三期五)

聖徳太子五憲法 しょうとくたいしごけんぽう 一冊。⑰未詳。⑱「五憲法」、「憲法本紀」。⑲延宝三(一六七五)年。⑳未詳。㉑「先代旧事本紀大成経」の巻七〇にあたる「憲法本紀」一卷と同じである。通蒙・政家・儒士・神職・釈氏の五憲法

から成る。⑳「哲学堂文庫」。

聖徳太子伝暦 しょうとくたいしでんりやく 二卷二冊。㉒藤原兼輔(八七七—九三三年)平安前期の公卿・歌人。㉓

「平氏太子伝」、「平氏伝」、「二卷伝」、「伝暦」。⑳延喜一七(九一七)年。㉔寛永五(六二八)年。㉕聖徳太子の父母の結婚から太子の誕生・生涯・死亡、さらに蘇我氏の滅亡までを編年体で記した太子の伝記。㉖「聖徳太子全集三」、「統群書類従」八輯上、「大日本仏教全書」七一(鈴木財団)、「復原 聖徳太子伝暦」(昭和二年)

聖徳太子日本国未来記 しょうとくたいしにほんこくみらいき 一冊。㉗未詳。㉘「聖徳太子未来記文」、「日本国未来記」、「未来記」、「未然本記」。㉙慶安元(六四八)年。㉚太子未来記(聖徳太子に仮託した予言の書)の名を借りて、一遍・日蓮を誹謗したもの。㉛「哲学堂文庫」(慶安二年)

浄土三部経 じょうどさんぶきょう ㉜浄土教諸派の教義のよりどころとなる(一)「仏説無量寿経」、(二)「観無量寿経」、(三)「仏説阿弥陀経」の三部四巻の經典のこと。法然の選定にもとづき、三経を一貫するものは念仏往生の教えであるとする。→「仏説阿弥陀経」、→「仏説無量寿経」。㉝「浄土三部経」(岩波文庫)

荘内可成談 しょうないなるべしだん 未詳。㉞妖怪学「講義」のなかの引用によれば、蟹気楼・かわうその妖・火柱・カマイタチなどの記述がみられ、荘内地方の奇聞・怪異などの話を集めた図書と思われる。「国書総目録」に「荘内可

成談抄(隨筆、写本・東大「大泉叢誌一八」)の記述があり、同一本か関連図書と思われる。前記「講義」の原本では、書名に「庄内」の記述が多く用いられて「荘内」は一、二であるが、本文中は表題の書名で統一した。

小児必用養育草 しょうにひつようそだてぐさ 六卷五冊。

㊦香月啓益(一六五六—一七四〇年)江戸中期の医者。名は則真、別号は牛山・被髮翁。㊧「小児必用記」、増補画入小児必用記、「小児養育草」。㊨元禄二六(一七〇三年)序。㊩正徳四(一七一四年)。㊪小児の誕生から生育、諸病についての説および教育など、小児に関するさまざまな事柄について記したもの。㊫「日本教育文庫」衛生及遊戯篇。

襄沔記 しょうべんき 未詳。

正法念經 しょうぼうねんきよう → 仏説分別善惡所起

經 ぶつせつふんべつぜんあくしよききよう

正法念処經 しょうぼうねんじよききよう 七〇卷。㊬般若流支(ラジジュニヤールナ、未詳)北魏代の訳経僧。㊭業とその果報としての三界六道の因果が説かれている。㊮大正新脩

大藏經「一七(七二一)

勝鬘經 しょうまんぎきよう → 勝鬘師子吼一乘大方便方

広經 しょうまんししくいちじようだいほうべんほうこう

きよう

勝鬘經義疏 しょうまんぎきようぎしよ 一卷。㊯聖徳太子(五七四—六三二年)。㊰「勝鬘經疏」、勝鬘上宮疏。㊱七七世紀初め。㊲宝治元(一二四七年)。㊳「勝鬘經」の注釈書。中国

の注釈書をよりどころに、經典の真意を独自に解釈したものの。㊴「岩波文庫」、世界聖典全集前輯四、「大正新脩大藏經」五六(二八五)、「大日本佛教全書」七(鈴木財団)、「大日本文庫」聖徳太子集、「勝鬘經義疏」明治二八年)

勝鬘師子吼一乘大方便方広經 しょうまんししくいちじ

ようだいほうべんほうこうきよう 一卷。㊲求那跋陀羅(グナバドゥラ、三九四—四六八年)劉宋代の僧。㊳「勝鬘經」、「師子吼經」、「勝鬘師子吼經」、「師子吼方広經」、「勝鬘大方便広經」。㊴如来蔵思想を説く大乘經典のなかの代表的經典。在家の女性(勝鬘夫人)が法を説くという形をとっている。㊵「大正新脩大藏經」二(三三三)

浄名疏 じようみょうしよ 未詳。

成唯識論 じようゆいしきろん 一〇卷。㊶玄奘(六〇二—

六六四年)唐代の大翻訳家。㊷世親(ヴァスバンドウ)の『唯識三十論頌』の注釈書。インドの十大論師の解釈を、護法(ダルマパーラ)の説をもとに他説を取捨選択して訳しまとめたもの。㊸「大正新脩大藏經」三(一五八五)

性靈集 じようりようしゅう 一〇卷一〇冊。㊹空海(七七

四—八三五年)平安前期の僧。真言宗の開祖/編・真濟(卷一—卷七)、濟運(卷八—卷一〇)。㊺「遍照發揮性靈集」、「統遍照發揮性靈集補闕抄」。㊻卷一—卷七は承和三(八三三)年ころ、卷八—卷一〇は承暦三(一〇七九年)。㊼卷一—卷七は正嘉二(一二五八年)、卷八—卷一〇は建治三(一二七七年、慶長一(一九一六)年古活字版。㊽漢詩文集。一一三編収録。

真濟編の第八一〇巻は散逸し、現存のものは濟暹による補撰である。㊶『尊經閣叢刊』、『遍照發揮性靈集』一一二日本書紀応神紀裏書、大正九年)。㊷『弘法大師全集』三、『弘法大師全集』(壺井国三編、明治三十三年)、『真言宗全書』四二、『日本古典文学大系』七一。

正理論 しゅうりろん→阿毘達磨順正理論 あびだつま

じゅんしゅうりろん

肇論 じょうろん 一卷。㊸僧肇(三三四—四一四?年)東晋

代の僧。㊹四一五世紀。㊺宋本義で論の根本を述べ、以下「物不遷論」「不真空論」「般若無知論」「涅槃無名論」の四つの論から成る。㊻『大正新脩大藏經』四五二—四五八)

初学便蒙 じょがくべんもう 五冊。㊼伊藤宜謙(未詳)。㊽

『和漢 初学便蒙』。㊾元禄六(一六九三)年自序。㊿同八年。

㊿語彙集。漢字の熟語を天門・地理・宮屋・時候・人倫・身体・気形・生植・衣服・飲食・器財・彩色・数量・態芸・礼記・切韻・詩賦・音律・詠歌・神仙・医療・釈道・雑用の二三門に分けて、その意義や事実を説明したもの。

初学便蒙集 じょがくべんもうしゅう→初学便蒙 じょ

がくべんもう

諸活幹枝大礎学 じょかつかんしだいでそがく 初伝・中伝。

㊿木島大照斎(未詳)。㊿天下無二世民必要 諸活幹枝大礎学。木島文六刊、明治一六(一八八三)年、和二冊(初一八・中一一丁)。㊿千支。

序卦(伝) じょか(でん)→易経 えききょう

書経 しよきょう 二〇巻。㊿未詳。㊿『尚書』。㊿五経の一。

虞・夏・商・周の四代の政教を記したもの。古くは「書」とい、周の史官が記録したものを儒家が自家の經典とし、漢代に「尚書」の名ができ、南宋になって「書経」と呼ばれた中国最古の史書。㊿『新釈漢文大系』二五二—二六、『全釈漢文大系』一(一尚書)

職員令 じよくいんれい ㊿七五七年に施行された「養老律

令」の令の編目。

蜀王本紀 しよくおうほんき 未詳。

続日本紀 しよくにほんぎ 四〇巻。㊿藤原繼縄(七二七—

七九六年)奈良時代の公卿／菅野真道(七四一—八一四年)奈良・平安前期の公卿。㊿延暦一六(七九九)年。㊿明暦三(一六五七)年。㊿編年体の漢文の歴史書。文武天皇元年(六九七年)八月から桓武天皇延暦一〇(七九二)年一二月にいたる九代九五年間の国史。㊿『本朝六国史』二。㊿『新訂増補 国史大系』二、『新日本古典文学大系』二二—一六・別巻、『増補六国史』三—四。

続日本後紀 しよくにほんこうき 二〇巻。㊿藤原良房(八〇四—八七二年)平安前期の公卿／春澄善繩(七九七—八七〇年)平安前期の公卿・学者／その他著。㊿貞観一一(八六九年)。㊿寛文八(二六六八)年。㊿六国史の一つで、編年体の漢文の歴史書。仁明天皇一代、天長一〇(八三三)年二月から嘉祥三(八五〇)年三月にいたる一八八年間の国史。㊿『本朝六国史』二五—三〇。㊿『新訂増補 国史大系』三、『増補六

国史一七。

食物本草 しょくもつほんぞう ㊦李杲(りこう)二一八〇?—一二

五一年(金末・元初期の医者。字は明之、号は東垣(とうげん)。㊦医学。

書言故事 しょげんこじ→書言故事大全 しょげんこじ

たいぜん

書言故事大全 しょげんこじたいぜん 一二卷五冊。㊦胡

繼宋(すゐ)宋の人/刪補・柏木常雄。北畠茂兵衛刊、明治

一八二(一八八五)年。㊦古来の有名な故事成語を集めて分類説

明したもの。巻二「人君」から巻二二「拾遺」まで二二六項から

成る。巻四に「神仙」「鬼神」「卜筮」「巫者」がある。

恕軒文鈔 じょけんぶんしょう ㊦信夫恕軒(しんぶしよけん)一八三五—

九一〇年(明治期の漢学者。字は文則、別号は天倪。東京、

信夫恕軒刊、明治一〇—二一年、和五冊。

諸国怪談空穂猿 しょこくかいだんうつほざる→御伽空

穂猿 おとぎうつほざる

諸国怪談実記 しょこくかいだんじつき 二編五卷五冊。

㊦春名忠成(はるなただなり)江戸中期の歌人・商家。㊦安永一〇(一七

八二年。㊦巻一は「神感譜」として三話、巻二は五話、巻三

は「靈仏譜」として三話とほか一話、巻四は「名歌譜」として二

話とほか二話、巻五は三話から成る。絵入り。㊦哲学堂文

庫。

諸国怪談集 しょこくかいだんしゅう 一冊。㊦未詳。㊦

「大坂御城中にて淀殿亡魂と御城代對話の事」「古木燐火の事」

「老狐尺八をかんずる事」「天狗演説の事」など三六話から成

る。㊦哲学堂文庫(写本)

諸国奇談西遊記 しょこくきだんさいゆうき→西遊記

さいゆうき

諸国奇談東遊記 しょこくきだんとうゆうき→東遊記

とうゆうき

諸国奇談漫遊記 しょこくきだんまんゆうき→周遊奇談

しゅうゆうきだん

諸国奇遊談 しょこくきゆうだん→奇遊談 きゆうだん

諸国古寺談 しょこくこじだん→本朝因縁諸国古寺談

ほんちよういんねんしょこくこじだん

諸国故事談 しょこくこじだん 未詳。

諸国新百物語 しょこくしんひやくものがたり 五卷五冊。

㊦未達(みだち)一六九六年(江戸前期の俳人・浮世草子作者・書

肆。姓は西村、名は久重、号は未達・俳林子・嘯松子など。

㊦「新百物語」。㊦(徳)元禄五(一六九〇)年。㊦全二二話の短編

小説集。怪異譚や男色、町人物など雑多な話を集めたもの。

「御伽比丘尼貞享四(一六八七)年の改題本。㊦近代日本文

学大系「怪異小説集」、『徳川文芸類聚』四。

諸国独吟集 しょこくどくごんしゅう 二卷二冊。㊦編・元

隣(りん)一六三一—一七二二年(江戸前期の俳人・仮名草子作者。本名

は山岡新三郎、字は徳甫、別号は玄水・而愼齋など。㊦寛文

一二(一六七二)年序。㊦俳諧。㊦天理図書館錦屋文庫。

諸国噺 しょこくばなし 四冊。㊦二幸未詳。㊦(弘)化三

(一八四六)年。㊦見聞記。㊦国立国会図書館。

諸国便覧 しょこくべんらん 五卷五冊。㊦夾撞散人(未詳)。

㊧『奇談諸国便覧』。㊨『享和二(一八〇二)年』。㊩おもに京都・大阪・兵庫・滋賀地方の奇談を集めたもの。巻一・五話、巻二・五話、巻三・九話、巻四・七話、巻五・一〇話、「祇園神の木」から「保津の川鼠」までの計三六話から成る。㊪『哲学堂文庫』。

諸国里人談 しょこくりじんだん 五卷五冊。㊫『菊岡沾涼』

(一六八〇—一七四七年)江戸中期の著述家・俳人。名は光行。別号は南仙・独南斎など。㊬寛保三(一七四三)年。㊭随筆。巻一を神祇・釈教、巻二を奇石・妖異、巻三を山野・光火、巻四を水辺・生植、巻五を気形・器用に分けて、日本全国の珍談・奇説を記載したもの。㊮『帝国文庫』『紀行文集』、『日本随筆大成』新版二期二四(旧版二期一二)

諸子彙函 しょしいかん 二六卷・談數一卷。㊯『婦有光』(一五〇六—一七二一年)明の文学者。字は熙甫、号は震川。㊰諸子の語を彙集したもの。

諸神記 しょじんき 三卷三冊。㊱『卜部兼敦』(一三六八—一四〇八年)南北朝・室町時代の神職・歌人。家名は吉田、兼敦は名。㊲『諸社根元記』。㊳上巻は天神地祇座数、日本国中

大小神社鎮座を定めることから、日前神社、国県神社のことまで、中巻は広継事、藤森社のことから和光のことまで、下巻は天神七代、『日本書紀』のことから磯宮のことまで、諸社および神道の雑事が解説され、「諸社根元記」と酷似していることから、それをもとにして書かれたものという。㊴『国学院

大学(写本)

除睡鈔 じよすいしょう 八卷八冊。㊵『盤察』(一七三〇年)江戸前・中期の浄土宗の布教僧。号は厚菅・不絶。㊶『法因縁除睡鈔』、『三国事蹟 除睡鈔』。㊷『享保六(一七二一)年』。㊸滑稽的因縁雑話を集録したもの。㊹『説法因縁除睡鈔』(明治一八年)

諸説弁断 しょせつべんだん 三卷三冊。㊺『馬場信武』(一七一五年)江戸前期の医者・軍記作者。本姓は源、名は信武、字は玄俊、号は時習齋・梅翁軒、医者名は尾田玄古。㊻正徳四(一七一四)年序。㊼同五年。㊽年中行事や風習に関するものなど六八条から成る。「鬼門ノ弁」^{かまご}「電神ノ弁」^{しんじゆ}。大臣ノ弁「雪隠ノ弁」などがある。㊾『影印日本随筆集成』二。

諸天伝 しょてんでん 未詳。

庶物類纂 しょぶつるいさん 一〇〇〇卷・増補五四卷。㊿稻生若水(一六五五—一七二五年)江戸前期の本草家・漢学者。名は宣義、字は彰信、若水は号。増修・丹羽正伯(一六九一—一七五六年)江戸中期の本草家。名は貞機・元機、字

は哲夫、号は称水齋、正伯は通称。㊽『元文三(一七三八)年』。㊾本草。各地の物産を調査して、草・花・水・火・石・穀・虫など、二六類三五〇種を収録したもの。名称・異名・産地・性質・効用などを詳述している。㊿『国立国会図書館』

如蘭社話 じょらんしゃわ 未詳。

白河燕談 しろかわえんだん 三卷・付録一卷三冊。㊿主一(一七四〇年)江戸中期の浄土宗の僧。主一(殊意痴)は法

講、号は童淵。㊦享保一五(二七三〇)年。㊧随筆。㊨国立国会図書館。

不知火考 しらぬいこう 一冊。㊩中島広足(一七九二—一八六四年)江戸後期の国学者・歌人。別名は春臣・弘足、号は檀園・田翁など。㊪天保六(一八三五)年序。㊫不知火について和漢の書を引いて考察したもの。「不知火出処海陸地理之図」、「宇土山上観火図」付き。㊬「中島広足全集」二。

事類全書 じるいぜんしょ 未詳。

神異経 しんいけい 一卷。㊭未詳。㊮地理・異物について記した書。㊯「漢魏叢書」六三、「五朝小説」五、「説郛」六六、「百子全書」六四、「竜威秘書」五、「和刻本漢籍隨筆集」一三。

神易選 しんえきせん 一冊。㊰新井白蛾(一七一五—一九二一年)江戸中期の儒学者・易断家。名は祐登、字は謙吉、別号は古易館。㊱「肩祓占龜卜占 神易選」。㊲「明和七(一七七

〇)年。㊳占卜。㊴京都大学。

人家必用小成 じんかひつしょうせい 一冊。㊵高井蘭山(一七六一—一八三八年)江戸後期の戯作者。名は伴寛、字は思明(子明とも)、別号は三遷・晒我・宝雪庵。㊶「日用

重宝 人家必用小成」、「日用調法 人家必用」。㊷「天保八(一八三七)年。㊸日常生活での心得や経済のことなどを記したものの。「硯水寒中水ざる伝」脚気の「呪」、「金銀利足便覧」、「米相場便覧」などがある。㊹「哲学堂文庫」。

慎夏漫筆 しんかまんびつ 四巻四冊。㊺西島蘭溪(一七八〇—一八五二年)江戸後期の儒学者。名は長孫、字は元齡、

別号は坤斎・孜孜斎。㊻弘化四(一八四七)年。㊼漢文隨筆。日本や中国の異聞・奇談、書物の話、考証など、見聞したことを書き集めたもの。㊽「影印日本隨筆集成」二〇。

心経 しんぎょう → 般若波羅蜜多心経 ほんにやほらみたしんぎょう

塵荆博問鈔 じんぎょうはくもんしやう 四巻四冊。㊾未詳。㊿元禄八(一六九五)年。㊽巻一から巻三までが「釈門篇」で釈迦出世の因縁・大藏経結集・宗乗の機縁・天台宗・比叡山の開闢・真言宗から浄土宗までの略説・仏心宗・菩提心の義となっており、巻四は「儒門篇」で儒門道統略説となっている。㊾「哲学堂文庫」。

神系図 しんけいず 一冊。㊿堀杏庵(一五八五—一六四二年)江戸前期の儒学者。名は正意、字は敬夫、別号は杏隱など。㊽神道。㊾「国学院大学図書館」。

新語園 しんごえん 一〇巻一〇冊。㊽浅井了意(一六一二—一九一年)江戸前期の僧・仮名草子作者。了意は法号。別号は瓢水子・松雲など。㊾「延宝九(一六八一)年序。㊿天和二(一六八二)年。㊽一条兼良の『語園』にならない、人物・山岳・自然・鳥獣などの奇談・説話を、引用の漢籍の典拠を示して仮名交じり文で記したもの。五〇八項から成る。㊽「古典文庫」。

新古今集 しんこきんしゅう → 新古今和歌集 しんこきんわかしゅう

人国記 じんこくき 二巻。㊽未詳。㊾「改正 人国記」、

『日本各国風土図説』、『六十余州人国記』。(成)一五〇二—一五七三年ころ。(成)元禄一四(一七〇二)年。(内)地誌。畿内五方国から西海道九方国までを八群に分けて、各国の住民の人情・氣質を風土との関係において記述している。(成)改定 史籍集覽一七、『日本哲学思想全書』一九、『美濃叢書』二。

新古事談 しんこじだん 五卷五冊。(成)井沢蟠竜(一六六八—一七三〇)年、江戸中期の神道家。名は長秀、別号は蟠竜子・亨齋。(成)元文二(一七三七)年。(内)奇談。卷一「毘沙門を信じて不_レ思_レて徳ある事」から卷五「大矢助_レたけのふ事」まで二条から成る。絵入り。(成)哲学堂文庫(五卷一冊)

人狐弁惑談 じんこべんわくだん 一冊。(成)陶山尚勉(一七五八—一八四五年)江戸後期の医者。(成)文政元(一八一八)年。(内)怪談による惑いのために奇禍を招くことがあることを嘆いて、九州の河太郎・四国の猿神・備前の犬神・その他の各地にある妖怪の非理なることを説示したもの。(成)医聖堂叢書。

真言伝 しんごんでん 七卷七冊。(成)栄海(一二七八—一三四七年)鎌倉・南北朝時代の真言宗の僧。号は慈尊院僧正・民部卿僧正。(成)正保三(一六四六)年。(内)真言系の高僧伝。インド・中国・日本三国にわたって、不思議靈驗の事跡に富んだ高僧や居士の伝を、本伝、日記、伝説などによって書き集めたもの。(成)国文東方仏教叢書二輯伝記、『大日本仏教全書』真言付法伝外七部。

心地観経 しんじかんぎょう → 大乘本生心地観経 だ

いじょうほんじょうしんじかんぎょう

神社啓蒙 じんじやけいもう 七卷八冊。(成)白井宗因(未詳)

江戸前期の国学者。号は白雲山人・自省軒、宗因は通称。(成)寛文七(一六六七)年自序。(成)同一〇(一六七〇)年。(内)全国主要神社の概説書。(成)大日本風教叢書八。

神社考 じんじやこう → 本朝神社考 ほんちやうじんじやこう

神社考志評論 じんじやこうしひょうろん 三卷一冊。(成)澄円(未詳)江戸前期の僧。(成)延宝五(一六七七)年。(成)同七年。(内)林羅山の『本朝神社考』を反駁したもの。

神社考邪排仏教論 じんじやこうじやはいぶつきやうろん 二卷二冊。(成)寂本(一六三一—一七〇一年)江戸前期の真言宗の僧。字は雲岫・運周、号は雲石堂。(成)貞享三(一六八六)年。(内)仏教。(成)大谷大学。

神社考弁疑 じんじやこうべんぎ → 神社考邪排仏教論 じんじやこうじやはいぶつきやうろん

新沙石集 しんしゃせきしゅう → 新撰沙石集 しんせんしゃせきしゅう

真宗御文指示珠 しんしゅうおふみしじしゅう 未詳。御文五帖一部示珠指のことか。→ 御文五帖一部示珠指。

晋書 しんじょ 一三〇卷。(成)房玄齡(五七八—六四八年)唐初の功臣。字は喬／楮遂良(五九六—六五八年)唐初の名臣・書道の大家。字は登善／その他著。(内)唐の太宗の命により、晋から六朝の間に成った有名な十八家の晋史を参考にし

て、^{すゑ}威栄緒の「晋書」をもとに編纂したものの。列伝第六七巻の「東夷伝」中に日本の記事がある。④『和刻本正史』。

新序 しんじょ 一〇巻。⑤劉向(前七七・七七九)―前六(八)年前漢末の思想家。字は子政。⑥春秋から漢初の時代までの人物の伝記・逸話を集めたもの。⑦漢魏叢書三四、『四部叢刊』三二六―三二七、『百子全書』七一八。

心性罪福因縁集 しんじょうざいふくいんねんしゅう 三巻一冊。⑧未詳。注・智覚(未詳)宋の僧。⑨元禄一三(一七〇〇)年。⑩迷える凡夫の心と、清浄円満の仏と、一切衆生との三つは等しくて異なることがない(心仏及衆生是三無差別)という理を強調し、諸法実相の理を説いている。全二五項から成る。⑪『卍字統藏経』二・乙・二二・三。

尋常小学修身書 じんじょうしゅうがくしゅうしんじょ

⑫明治三七(一九〇四)年四月から使用された尋常小学校用の国定修身教科書。明治三三年に発足した修身教科書調査委員会によって、教育勅語を根本とし、徳目主義と人物主義とを併用するという基本方針のもとに編集された。明治四三(一九一〇)年から修正された第二期の尋常小学修身書、大正七(一九一八)年からさらに修正された第三期の尋常小学修身書が発行使用された。

晋書五行志 しんじょごぎょうし ⑬『晋書』一〇志の一。

→晋書。

新齊諧 しんせいはい 二四巻・統一〇巻。⑭袁枚(一七一六―一七八八)清の文学者。字は子才、号は簡斎。⑮乾隆五

三(一七八八年)。⑯奇事・異談を記したものの。もと『子不語』といったが、同じ題のものがあるので『新齊諧』と改めた。⑰『隨園二十八種』、『隨園三十種』。⑱『中国古典文学全集』、『中国古典文学大系』。

神世紀 しんせいき 未詳。

神籤五十占 しんせんごじゅううらない→神籤五十占みくじごじっせん

新撰沙石集 しんせんしやしきしゅう 未詳。

神仙伝 しんせんてん 一〇巻。⑲葛洪(二八三―三四三年)東晋の学者。字は稚川、号は抱朴子。⑳四世紀ころ。㉑仙人八四人の伝を記し、『列仙伝』未載のものを補録したもの。㉒『漢魏叢書』三〇、『五朝小説』三、『説郛』五八。

新撰八卦 しんせんはつけ→新撰八卦鈔 しんせんはつけしゅう

新撰八卦鈔 しんせんはつけしゅう 二巻一冊。⑳未詳。㉓『新撰八卦』、『重考新撰陰陽八卦鈔』。㉔版未詳。㉕占卜。三八卦数様のこと、当卦腰懸の吉凶占、九曜の星線様などを載せている。㉖哲学堂文庫(上巻)の最初教員欠落

新撰六帖題和歌 しんせんろくじょうだいわか 六巻。㉗

藤原家良(一九二―二六四年)・同為家(二一九八―二七五年)・同知家(二一八二?年)・同信実(二一七六?年)・同光俊(二二〇―七六年)鎌倉時代の歌人。㉘『新撰六帖』、『新撰和歌六帖』、『寛元和歌六帖』。㉙寛元(二二四三―四六年)ころ。㉚万治三(二六六)年。㉛『古今和歌六帖』の

歌題について前記五名が一首ずつ、計五二七首を詠じ、これを歌題ごとに部類して六帖にまとめ、相互に批点を加えたもの。歌数は二六三五首。㊤『日本古典文学影印叢刊』(穂久邇本)。㊦『続々群書類従』一四、『新編国歌大観』二。

神相全編 しんそうぜんべん → 神相全編正義 しんそうぜんべんせいぎ

神相全編正義 しんそうぜんべんせいぎ 三卷三冊。㊧陳搏(？)一九八九年北宋の道士。字は凶南、号は扶揺子・希夷先生/訂・袁忠徹/注・石竜子。㊨文化二(一八〇五)年序。

㊩同四年。㊪人相学の書。㊫哲学堂文庫。

神僧伝 しんそうてん 九卷。㊬未詳。㊭漢の摩騰(まとう)から元の膾(え)巴(ぱ)二(二三〇)一(一三〇三年)までの二〇八人の神異をもって知られる僧の伝記を集めたもの。㊮『大正新脩大藏經』五〇(二〇六四)

新総房 しんそうぼう 日刊。千葉、新総房新聞社。明治三〇(一八九七)年一〇月一〇日創刊、大正二〇(一九二二)年廃刊。㊯国民系・憲政系紙。

新続古事談 しんぞくこじだん 五卷五冊。㊰井沢蟠竜(いざわばんりゅう)一六六八—一七三〇年)江戸中期の神道家。名は長秀、別号は蟠竜子・享斎。㊱『天文二(二七三七)年』。㊲奇談集。㊳国立国会図書館。

神代巻 しんだいかん → 日本書紀 にほんしよき

神代記巻 しんだいきかん → 日本書紀 にほんしよき

神代教義解 しんだいきやうぎかい ㊴久保季茲(くぼせいき)一八三〇

一八八六年)幕末・明治前期の医者・神道家。季茲は名、号は琴書・杉乃舎・静園など。㊵神道。

神代口訣 しんだいくけつ 五卷五冊。㊶忌部正道(いんべのまきち)室町前期の神道家。㊷『神代巻口訣』、『日本紀神代口訣』、『日本書紀口訣』、『日本書紀神代巻口訣』。㊸貞治五(一三六三)年。㊹『日本書紀』神代巻の注釈書。宋学の理気説による神道説をもって「神代巻」の要点を注釈している。㊺『国民思想叢書』国体編上、『大日本風教叢書』四、『日本精神文献叢書』三。

神代講述抄 しんだいこうじゆつしやう → 神代巻講述抄

しんだいのまきこうじゆつしやう 未詳。

心体相関運用 しんたいそうかんうんよう 未詳。

神代巻講述抄 しんだいのまきこうじゆつしやう 五冊。㊻出口延佳(でぐちののりよし)二六一五—一九〇年)江戸前期の神宮祠官・神道学者。号は直菴・講古堂、本姓は度会。㊼寛文二(一六七二)年序。㊽『日本書紀』神代巻の講義。高弟の山本広足が筆記したものの。

津逮秘書 しんたいひしょ 一五集。㊾編・毛晋(一五九九—一六五九年)明末の学者・蔵書家。字は子晋、号は潜在。㊿叢書名。経史・詩話・隨筆・書画などに関する古書一四四種を集載している。

秦中歲時記 しんちゆうさいじき 未詳。

新著聞集 しんちよもんじゆう 一八卷八冊または六冊。㊿一雪(一六三一—?)年)江戸前期の俳人。姓は椋梨・成田・藤

原、別号は富士丸・隠山・牛露軒・柳風庵／編・神谷養勇（なつかのゆうゆう）軒。㊦寛延二（一七四九）年。㊦一雪序の『続著聞集』を編集しなおして出版したもので、珍談・奇説・遺事など「忠孝」から「雑事」まで一八編に分け、さらに細目して計三七六話を取めた説話集。㊦『続帝国文庫』『近世奇談全集』、『日本随筆大成』新版二期五（旧版二期三）

審鎮要記 しんちんようき 未詳。

塵滴問答 じんてきもんどう 一冊。㊦未詳。㊦『塵滴問答集』、『ぢんてき問答』。㊦天文二二（一五五三）年、元和古活字版。㊦白山参詣の老僧妙塵坊と三〇余歳の商人（のち出家して善滴）との問答という形式で、渡唐の祖師、日本国の開闢、神明の存在、連歌など二〇余項目のすべてについて仏法と結びつけて、仏教の信すべきことを説いたもの。書名は妙塵坊と善滴に由来する。㊦『続群書類従』三二輯上。

塵添壺囊鈔 じんてんあいのうしょう → 壺囊鈔 あいのうしょう

新童子手習鑑 しんどうしてならいかがみ 一冊。㊦編・画・曉あき鐘成（一七九三—一八〇〇年）江戸後期の読本作者・絵師。本名は木村啓明、別号は鶏鳴舎・漫戲堂・曉晴翁など。㊦往来物。㊦哲学堂文庫。

新唐書 しんとうじよ 二二五巻。㊦編・欧陽脩（おうようしゆう）（一〇〇七—一七二年）北宋の政治家・学者。字は永叔、号は醉翁／その他編。㊦一〇六〇年。㊦唐代の歴史を記した書で、『旧唐書』を改修したもの。

神童憑談 しんどうひょうだん → 仙境異聞 せんきょういぶん

神道名目類聚抄 しんどうなみよくるいじゆしょう 六巻六冊。㊦城西野殿某（未詳）。㊦元禄一（一六九二）年序。㊦元禄一五（一七〇二）年。㊦神道に関する名目を類集して解説した一種の辞典。「宮社」から「雑」まで八部門に分け、さらに細目して、挿絵を豊富に入れて説明している。㊦神道名目類聚抄『明治三五年、昭和一九年』

神皇正統記 じんかうしやうとうき ㊦北畠親房（きたはたのちかむね）（一二九三—一三五四年）南北朝時代の公卿、南朝の政治的・思想的指導者。㊦延元四（一三三九）年、興国四（一三四三）年修訂。㊦慶安二（一六四九）年。㊦神代から後村上天皇までを叙述した歴史書。皇位継承は常に君徳ある正統の天子に伝えられ、それを象徴するものが三種の神器であるとす。㊦『阪本竜門文庫複製叢刊』、『天理図書館善本叢書』神皇正統記諸本集。

㊦『岩波文庫』、『群書類従』帝王、『校註国文叢書』一八、『校註日本文学大系』二八、『国民思想叢書』国体編中、『新註皇学叢書』六、『日本国粹全書』六、『日本古典全集』五期、『日本古典文学大系』八七、『日本思想叢書』二〇、『日本精神文献叢書』四、『日本哲学思想全書』三、『日本哲学全書』二〇、『有朋堂文庫』。

人物故事 じんぶつこじ 二冊。㊦川関惟充（かわせきこれみつ）（未詳）享和・文化（一八〇一—一八一年）ころの戯作者。惟充は名、号は川関楼琴川。㊦『早引人物故事』、『早引故事大成』。㊦文政八（一八

二五)年。④童蒙のためのいろは順の人物故事辞典。出典も記している。⑤哲学堂文庫。

神仏冥応論 しんぶつめいおうろん 五卷五冊。⑥日達(一六七四—一七四七年)江戸中期の日蓮宗の字僧。号は了義院。

⑦「神仏冥応編」。⑧享保五(一七二〇)年。⑨神儒二教に対して批判を加えたもの。⑩国立国会図書館。

神不滅論 しんふめつろん→明仏論 みょうぶつろん

神変仙術錦囊 しんべんせんじゅつきんのう→神変仙術

錦囊秘巻 しんべんせんじゅつきんのうひかん

神変仙術錦囊秘巻 しんべんせんじゅつきんのうひかん 二卷二冊。⑪人江貞庵(未詳)。⑫享保一一(一七二六)年。

⑬「夫婦愛あしきを相愛する術」など、まじないについて記したもの。「鎮化仙術門」「変化仙術門」「禳化仙術門」「難化仙術門」に分けて記述している。絵入り。⑭哲学堂文庫(二巻一冊)

神明憑談 しんめいひょうだん→神明憑談 かんがかり

神幽弁論 しんゆうべんろん 未詳。

晋陽秋 しんようしゅう ⑮孫盛(未詳)晋の人。字は安国。

⑯史書。

堪余経 じんよきょう 未詳。

震雷記 しんらいき 一冊。⑰後藤藤梨春(一六九六—一七七一)年)江戸中期の本草学者・蘭学者。名は光生、号は梧桐庵、

字は梨春。⑱明和四(一七六七)年。⑲明和二(一七六五)年

七月二二日に相州大山に落ちた雷獣および加賀白山の雷鳥に

ついて、従来の陰陽二気による説明を批判している。⑳『随筆文学選集』七。

真理易学 しんりえきがく 未詳。

心理学 しんりがく 三卷三冊。㉑約瑟奚般(Joseph Haven

一八一六—一七四年)アメリカの哲学者(アマースト大学精神哲学・道德哲学教授)。㉒西周(一八二九—一八七七年)明治期の官僚・啓蒙思想家。初版—東京、文部省、明治八(一八七五—一七六)年、一二二丁。再版—明治一一(一八七八—一七九)年に上下二巻本として刊行された。以後、明治一

四年一〇月(小笠原美治刊・報告社・内田芳兵衛刊・前田長善刊)、一五年、一六年、二〇年と刊行された。㉓日本で最初の心理学書。心理学という術語を創出するともに多くの

学術用語を創造した。(原書) Mental philosophy, including the intellect, sensivities and will, 1857.

心理学 しんりがく 一冊。㉔元良勇次郎(一八五八—一九一二年)明治期の心理学者。東京、金港堂、明治二三(一八九〇)年、二七二頁。㉕日本で最初に翻案ではなく書かれた心理学の書。

心理学 しんりしよ ㉖W・B・カーペンター(Carpenter, W. B. 一八一三—一八五五年)イギリスの生理学者。㉗原題は

『精神生理学の原理』。このなかにテール・ターニング、テール・トキングの話も出ている。(原書) Principles of

mental physiology, 1874.

心理摘要 しんりてきょう 一冊。㉘井上円了(一八五八—

一九一九年明治・大正期の哲学者・教育者。号は甫水。不思議庵主人と称す。東京、哲学書院、明治二〇（一八八七）年、一六二頁。巻末に「心理学試験問題付」。(因)心理学の大綱を記したものの。成立学舎女子部の教科書として執筆された。日本ではじめての心理学史。

心理療法 しんりりようほう 一冊。(著)井上田了(一八五八—一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育者。号は甫水。不思議庵主人と称す。東京、南江堂書店、明治三七（一九〇四）年、一八六頁。(因)あらゆる病気に心理療法が必要である理由を述べたもの。総論、身心二面論、内外二科論、印度・シナ・西洋医法論、巫医関係論・身心関係論、精神起病論、精神治病論、心理療法論、結論から成る。

人倫訓蒙図彙 じんりんきんもうずい 七巻七冊。(著)末詳/画・蔣絵師源三郎(末詳)江戸前期の浮世絵師。姓名は未詳。元禄年間（一六八八—一七〇四年）の人。(例)所作入由來入 人倫訓蒙図彙。(因)元禄三（一六九〇）年。(因)生業職分を略説した図解便覧。公家・武士・僧侶・能芸・作業・商人・細工人・職人・遊里・芝居・勸進・餉を収め、元禄時代の風俗資料として重要である。(例)『家政学文献集成』続編江戸期九、『稀書複製会叢書』二期、『珍書刊行会画譜』、『日本古典全集』三期。

神靈經 しんれいきよう 未詳。

新六帖 しんろくじよう → 新撰六帖題和歌 しんせんろくじようだいわか

〔す〕

随意録 ずいりろく 八巻八冊。(著)冢田大峯(二七四—一八三三年)江戸後期の儒学者。名は虎、字は叔毅、大峯は号。(因)文政八（一八二五）年序。(因)文政二（一八一九）年。(因)漢文隨筆。經子・史伝・文芸・逸話・俚言・俗事などの見聞したこと、および考古学や民俗学などの学問上のことを記したものの。(因)『日本儒林叢書』一。

瑞応塵露集 ずいおうじんろしゅう 六巻六冊。(著)超海(未詳)江戸中期の真言宗の僧。別名は通性。(例)薬師如来瑞応塵露章」。(因)享保一八（一七三三年）。(因)薬師如来に関する感応・靈験などを集めたもの。(因)哲学堂文庫。

水経 すいけい 四〇巻。(著)末詳。(因)河川(揚子江・黄河以下四〇余の本流と支流)の流路を記したもの。北魏の酈道元(？—一五二七年)北魏の地理学者)の『水経注』(四〇巻)として伝わっている。

水経注 すいけいちゆう → 水経 すいけい
隋書 ずいしよ 八五巻。(著)魏徵(五八〇—一六四三年)唐初の功臣・学者。字は玄成、諡は文貞。(因)帝紀・列伝は貞観一〇（六三六）年。(因)正史「二十四史」の一。奉勅撰。三帝紀五巻・一〇志三〇巻・五〇列伝五〇巻から成る。隋の文帝の開皇元（五八一年）年から恭帝の義寧二（六一八）年まで、隋朝三十八年間の歴史を記したもの。

随疏演義鈔 ずいしよえんぎしやう → 大方広仏華嚴經

随疏演義鈔 だいほうこうぶつけごんぎようずいしよえん

ぎしよう

雖知苦庵養生物語 すいちくあんようじようものがたり

一冊。③曲直瀬一溪(一五〇七—一九四)または九五五年室町・安

土桃山時代の医者。名は正盛・正慶、通称は道三(初世)、一

溪は字、号は雖知苦庵。④『道三翁養生物語』、『養生物語』。

⑤天保三(一八三二)年。⑥養生について一溪が人に語ったこ

とを記録したもの。⑦『日本衛生文庫』一、『日本教育文庫』

「衛生及遊戯篇」。

水東説略 すいとうせつりやく 未詳。

水土解弁 すいどかいべん 二卷二冊。③西川如見(一六四

八—一七二四年)江戸前・中期の天文曆算家・地理学者。名

は忠英、別号は恕軒・求林齋など。④日本独自の風土のす

れたものである理由を、他国との地理的条件の相違から述べ

た地理書。⑤『岩波文庫』、『西川如見遺書』二、『水土解弁』

(明治三三年)

瑞兔奇談 すいとくだん 一冊。③大畑春国(一八一八—七

五年)江戸後期・明治前期の国学者。④慶応元(一八六五)年

序。⑤兔の奇瑞の起源について、和漢の書を引いて説明した

もの。⑥哲学堂文庫。

瑞命記 すいめいき 未詳。

蕨蕘集 すうじようしゆ 七卷七冊。③日義(一七二九—

六五年)江戸中期の日蓮宗の僧。字は旨広、号は黄華院。④

寛政七(一七九五)年。⑤卷二「経首如是」自法愛染」約教釈

文旨」、卷二「劫初劫尽」釈迦出時」慈氏興時」小災現起」劫

量重説」信法二行」、卷三「通教教主」昔円開否」、卷四「別序

爾時」法用文旨」秘妙文旨」方便品目」、卷五「卷七」教門宗

要」但双二軌」から成る。⑥哲学堂文庫。

⑦解欧米人相学 すかいおうべいじんそうがく ③宝列爾

(Patel)。三橋村雄・江口武寿訳、会田愛三郎校、東生鉄

五郎刊、明治一八(一八八五)年、一四頁。④相法。

宗鏡録 すぎようろく 一〇〇巻。③延寿(九〇四—九七五

年)法眼宗の僧。字は冲玄・抱一子。④北宋の建隆元(九六

一)年。⑤大乘教の経論、インド・中国の聖賢の著書、禅僧

の語録、戒律書、俗書などを広く涉猟して、法相・三論・華

嚴・天台などの教義を折衷し、一心法門の禪に融合させた

書。⑥『大正新脩大藏経』四八二〇—一六

宿曜経 すくようきよう→文殊師利菩薩及諸仙所説吉

凶時日善悪宿曜経 もんじゆしりはさつきぎゆうしよせん

しよせつきぎようじにちぜんあくすくきようきよう

墨色指南 すみいろしなん ③未詳。④占卜。

墨色小笠 すみいろしょうせん 一冊。③鶴峯(一七七八

八—一五九)年)江戸後期の国学者。戊申は名、字は世霊・季尼、

号は皇舎・海西。④『鼈頭定本 墨色小笠』。⑤『版文政元(一

八一八)年。⑥墨色による占卜。⑦哲学堂文庫。

墨色伝 すみいろでん 一冊。③佐藤止矜(未詳)。④『版安永

四(一七七五)年。⑤墨色による占卜。⑥哲学堂文庫。

墨色早指南 すみいろはやしなん 二卷一冊。③朝見五通

〔未詳〕。㉔〔文政七(一八二四)年。㉕占ト。

駿台雑話 すんだいざつわ 五卷五冊。㉖室鳩巢(一六五八

一七三四年)江戸中期の儒学者。名は直清、字は師礼・汝

玉、別号は滄浪。㉗鳩巢先生随筆。㉘享保一七(一七三二)

年自序。㉙寛延元(一七三二)年。㉚学問・道徳に関する随

筆。江戸駿河台の自邸で門人の質疑に答えた、学者や武人の

心得、見聞した逸話などを書きとめて、全八二章に編集した

もの。㉛岩波文庫、「新釈日本文学叢書」二輯八、「続国民

文庫」随筆集、「日本随筆全集」三、「日本随筆大成」新版三

〔七〕

西域記 せいいきき→大唐西域記 だいとうさいいきき

西域見聞録 せいいきぶんけんろく 「西域見聞録」のこと

か。八卷。㉜七十一(未詳)清の人。㉝西域に在住して見聞

晴雨記 せいうき 未詳。

説苑 ぜいえん 二〇卷。㉞劉向(前七七?—前六年)漢の

学者。㉟上代より漢代までの故事説話集。「君道」から「反質」

まで二〇編に分けている。㊱漢魏叢書四九一五三、「四部

叢刊」三二八—三三三、「百子全書」九—一一。㊲訳註劉向説

苑(東明書院)、「有朋堂漢文叢書」。

清外史 せいがいし 未詳。

聖学自在 せいがかくじざい 三卷三冊。㊳新井白蛾(一七一

五—九二年)江戸中期の儒学者・易断家。名は祐登、字は謙

吉、別号は古易館。㊴安永六(一七〇九年)。㊵学問の本

意「天下の風俗」愚者の弁「妖怪の説」煙草の礼「陽明学の

変」列子「心神」など、全八六項にわたり自在に論じた随筆

集。㊶白蛾全集」二。

惺窩文集 せいかぶんしゅう 五卷統三卷。㊷藤原惺窩(一

五六—一六一九年)織豊・江戸前期の儒学者。名は肅、字

は斂夫、別号は柴立子・北肉山人など。㊸寛永四(一六二七)

年序。㊹承応三(一六五四年)。㊺惺窩の遺稿を林羅山が五卷

に編集し、菅得菴がその遺漏を補つて統編三卷にまとめたも

ので、手簡・和歌・詩文・題賛類などを載せている。㊻藤

原惺窩集」上。

正義 せいぎ 未詳。

星経 せいけい 一卷。㊼未詳。㊽天文のことを記し、それ

に関連した神話・伝説も載せている。廿氏星経・石氏星経な

どがある。

西京雑記 せいけいざつき 六卷。㊾劉歆(前五三ころ—後

二三年)前漢の学者。字は子駿/葛洪(二八四—三六四年)西

晋の道士。字は稚川、号は抱朴子。㊿未詳。㊽前漢の逸聞・

瑣事・物異・伝説などの雑事を録したもの。㊿漢魏叢書、「

静軒痴談 せいけんちだん 二卷二冊。㊦寺門静軒(一七九

六一一八六八年)江戸後期の儒学者。名は良、字は子温、別号は克己・蓮湖。㊧『痴談』。㊨風俗・故実・演劇など、多様な事柄について諸説の抄録や自説を展開したもの。㊩『日本

隨筆大成』新版二期二〇(旧版二期一〇)、『静軒痴談』(明治八年)

贅語 ぜいご 六帙一四冊七〇編。㊪三浦梅園(一七二二—一八

九年)江戸中期の哲学者。名は晋、字は安貞のち安鼎、別号は學山・洞仙・東浚居士など。㊫宝曆六(一七五六)年—寛政元(一七八九年)。㊬天明六(一七八六)年。㊭梅園条理哲学の方法によって、天文・地理・生理・倫理・歴史・宗教など、自然と人生に関する古今東西のあらゆる学説を検討し批評し

ている。㊮『梅園全集』上。

盛氏荊州記 せいしけいしゅうき 未詳。

正史実録 せいしじつろく 未詳。

正字通 せいじつう 一二卷。㊯張自烈(未詳)。㊰字書。梅

膺祚の『字彙』の誤りを訂正し、訓詁を増補している。

齊書 せいしょ→南齊書 なんせいしょ

精神啓微 せいしんけいび ㊱吳秀三(一八六五—一九三二

年)明治・大正・昭和の精神病・医史学者/関・神俣。㊲『脳髓生理 精神啓微』。松崎留吉刊、明治二二(一八八九)年、

一六二頁。

精神病学 せいしんびょうがく ㊳H・シュウレ(Heinrich

Schlie, 未詳)/編訳・江口襄(未詳)。東京、英蘭堂、明治

二〇(一八八七)年、二二六頁。増補二版(二九三頁)が明治二一年に出版された。

醒睡笑 せいすいしょう 八卷三冊。㊴策伝(一五五四—

六四二年)安土桃山・江戸前期の浄土宗の僧。落語家の祖。号は安楽庵。㊵元和九(一六二三)年序。㊶寛永年間(一六二四—一四四年)版。㊷種々の滑稽諸説の談話を集録したもの。

卷一の「名津希親方」から巻八の「祝済多」まで全四二項から成る。㊸『近世文芸資料』。㊹『角川文庫』、『近代日本文学大系』

『落語滑稽本集』、『国文東方仏教叢書』二輯文芸上、『滑稽文学全集』九、『古典文庫』、『続国民文庫』『滑稽本集』、『続帝国文庫』『落語全集』、『日本隨筆大成』新版三期四(旧版三期二)、『百万塔』、『有朋堂文庫』。

西籍慨論 せいせきがいろん 四卷四冊。㊸平田篤胤(一七

七六一—一八四三年)江戸後期の国学者。㊹『儒道大意』、『西籍慨論講本』。㊺文化八(一八一一年)。㊻安政五(一八五八年)。

㊼中国と日本との交渉のはじめから儒学の成立とその展開、中国乱世のありさま、江戸期の儒者に対する批判などを記した。㊽『新修平田篤胤全集』一〇(名著出版)、『平田篤胤全集』(平田学舎)、『平田篤胤全集』(内外書籍)、『平田篤胤叢書』乾。

齊東野語 せいとうやご 一二卷。㊾周密(未詳)。㊿南宋の

旧事を録したもの。㊽『学津討原』一四、『津逮秘書』一五。

西播怪談実記 せいばんかいだんじつき 五卷一冊。㊿春

名忠成(未詳)江戸中期の歌人・商家。㊽『宝曆四(一七五四)

年。④「姫路皿屋敷の事」「広山村葬場神の咎ありし事」(巻一)、「山崎の狐人を殺せし事」(巻二)、「山脇村慈山寺にて生霊を追いし人の事」(巻三)、「殿町の医師化物に逢いし事」(巻四)など、兵庫県西部の怪談を集めたもの。絵入り。⑤哲学堂文庫(四巻一冊)

正卜考 せいぼくこう 三巻三冊。⑥伴信友(ばんしんゆう)一八四六年(江戸後期の国学者。号は特・事負。⑦「鹿卜考」。

⑧天保一五(一八四四)年自序。⑨安政五(一八五八)年。⑩神代の物語に見える太占(よたまに)を研究したもので、対馬の卜部に伝わる古法をもとに、その道具や次第を、多くのスケッチを添えて記録・考証している。⑪「伴信友全集」二。

清明通変占 せいめいつうへんうらない 五巻五冊。⑫管天子和解(未詳)。⑬「通変占」、「清明通変占秘伝」、「神明通変占」。⑭寛文三(一六八六)年。⑮占筮法を記したもの。⑯国立国会図書館。

清明通変占秘伝 せいめいつうへんうらないひでん→清明通変占 せいめいつうへんうらない

清明早占 せいめいはやうらない ⑰未詳。⑱占卜。清明秘伝速占 せいめいはやうらいそくせん ⑲未詳。⑳占卜。清明物語 せいめいものがたり→安倍清明物語 あべのせいめいものがたり

正蒙 せいもう 一〇巻。㉑張載(ちやうさい)二〇二〇—一七七年(北宋の思想家。字は子厚、通称は横渠先生。㉒内太和・参両・天道・神化・動静・誠明・太心・中正・至当・作者・三十・有徳・

有子・太易・楽器・正諦・乾称の一七編から成る。宇宙全体は大虚という無形なものを本体とする気から成り、その気の集散によって万物の生滅があると説く。㉓「張子全書」。西洋事物起源 せいようじぶつきげん 一冊。㉔「洪江保(未詳)。東京、博文館、明治二七(一八九四年)、一八六頁。「寸珍百種」第四六編。

生理学 せいりがく 二冊。㉕永松東海(ながまつとうかい)一八四一年、上三六七・下四五九頁。

性理字義 せいりじぎ 二巻二冊。㉖陳淳(ちんじゆん)一一五九—一二三三年(宋の儒者。字は安卿、号は北溪/注・熊谷蒞斎(くまがいのさい)一六九五(江戸前期の儒学者。名は立閑、字は蒞墩、別号は了庵・蒞墩散人。㉗「首書 性理字義」、「北溪先生性理字義」。㉘寛文一〇(一六七〇)年。㉙卷一「命字」から「忠恕」まで二二章、卷二「誠字」から「鬼神」まで二三章の全二五章から成る。㉚哲学堂文庫。

性理字義諺解 せいりじぎげんかい 八巻八冊。㉛林羅山(りんらかん)一五八三—一六五七年(江戸前期の儒学者。名は信勝、字は子信、剃髪して道春。㉜「性理字義抄」。㉝寛永一六(一六三九)年。㉞万治二(一六五九年)。㉟卷二「命字」「性字」から卷七—八「鬼神」まで全一九一条から成る。陳淳「性理字義」の

解釈。㊱哲学堂文庫。性理字義抄 せいりじぎしょう→性理字義諺解 せいりじぎげんかい

性理字義抄 せいりじぎしょう→性理字義諺解 せいりじぎげんかい

性理大全 せいりたいぜん 七〇巻。㊦胡広(一三七〇—

四一八年)明初期の官僚・学者。字は光大。㊦明の永楽一三(一四一五年)。㊦宋の道学者一二〇家の説を採集したもの。

原書を採録したものは九種(大極図説『通書』西銘『正蒙』『皇極經世書』『易学啓蒙』家礼『律呂新書』洪範皇極内篇)、群説を収集して理気・鬼神・性理・道統・聖儒・諸儒・学・諸子・歴代・君道・治道・詩・文の一三門に分けている。

青靈経 せいれいきよう 未詳。

世界国尽 せかいにくづくし 六巻。㊦福沢諭吉(一八三五

—一九〇一年)明治時代の啓蒙思想家。東京、慶應義塾、明治二(一八六九年)。㊦地誌。アジア、アフリカ、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ等。

積翠閑話 せきすいかんわ 四巻四冊。㊦松亭金水(一七九

七—一八六二年)江戸後期の戯作者。本名は中村保定・経年、別号は積翠・拙作堂など/画・梅の本篤齋(未詳)江戸後期の絵師。別号は梅里・一信亭。㊦嘉永二(一八四九年)序。㊦安政五(一八五八年)。㊦教訓。巻一「禪子の才智」から巻四「横笛」まで、一八条の雑事を記したもの。㊦『日本随筆全集』一

四、『日本随筆大成』新版二期一〇(旧版二期五)

世諺問答 せげんもんどう 三巻一冊。㊦一条兼良著(一四

〇二—一八一年)室町時代の公卿・学者。桃華老人ともいう/補・一条兼冬(一五二九—一五四四年)公卿・歌人。㊦天文一三(一五四四年)跋。㊦万治三(一六六〇)年。㊦年中行事。年中の節序・故事を問答体に記したもの。「正月をむ月といえる

こと」から「節分におけるをたくこと」まで五一条から成る。兼良が第八条までで中止した後を受け、兼冬が完成させた。㊦『群書類従』雑。

施食通覧 せじきつうらん 一卷。㊦宗暎(一一五一—一二一四年)南宋の天台宗の僧。字は達先、号は石芝。㊦施食に關係する記事を経律類その他より集めた文献集。㊦『卍字統藏経』二、乙、六、三。

世事談 せじだん—本朝世事談綺 ほんちようせじだん

き

世事百談 せじひやくだん 四巻四冊。㊦山崎美成(一七九六—一八五六年)江戸後期の雑学者。字は久卿、号は北峰・好問堂・三養居。㊦天保二(一八四一年)。㊦天保一四(一八四三年)。㊦和漢の故事・故実、世俗の異聞・奇説、そして言語・芸能・天象・博物・宗教など、全一二三条一三八項にわたり記した随筆集。絵入り。㊦『日本随筆大成』新版一期一八(旧版二期九)、『百家説林』正編下。

世説 せせつ—世説新語 せせつしんご

世説故事苑 せせつこじえん 五巻八冊。㊦子登(未詳)江戸中期の僧。㊦『和漢世説故事苑』。㊦宝永七(一七二〇)年序。㊦正徳六(一七一六年)。㊦語彙・風俗。㊦哲学堂文庫。

世説雑話 せせつざつわ 二巻四冊。㊦鳥有通人(未詳)。㊦

宝暦四(一七五四)年。㊦巻一「手習のしよの事」から「徹書記は定家の再来の事」まで五〇項、巻二「返哥連句付けにする事」から「志ぶかたひらの事」まで五〇項から成る。㊦哲学

堂文庫(二卷一冊)

世説新語 せせつしんご 三卷。㊦劉義慶(四〇三—四四四年)六朝時代・宋の文学者。㊦世説、「世説新書」。㊦五世紀半ば。㊦後漢末から東晋末にいたる著名人の逸話を、德行・言語・文学・方正・雅量などの三六門に分けて収録したもの。もとは『世説』八巻であったが、梁の劉孝標が注を加えて一〇巻本とし、一一三八年に『世説新語』三巻本に再編された。

説海 せつかい 未詳。

撰西奇遊談 せつさいきゆうだん 三卷三冊。㊦秋里籬島(？—一八三〇？年)江戸後期の読本作者・俳人。姓は池田、名は舜福、字は湘夕、秋里籬島は号、別号は籬島軒。㊦文政七(一八二四)年自序。㊦嘉永七(一八五四)年。㊦紀行。㊦国立国会図書館。

雪窓夜話 せつそうやわ 一冊。㊦桑梁(未詳)江戸後期の浄土真宗本願寺派の僧・神道研究家。㊦神仏道 雪窓夜話。㊦文化一一(一八一四)年跋。㊦同一二年序。㊦神道側の排仏論に対抗し、神仏一致を文献から立証して、浄土真宗と神道との関係を明らかにしようとしたもの。㊦『真宗全書』六二、「日本思想闘諍史料」四。

説邨 せつぷ 一〇〇巻。㊦編・陶宗儀(未詳)明初の詩人。字は九成、号は南村・玉霄真逸。㊦叢書。経書・諸史・隨筆・伝記の類を数百種収録したもの。

説文解字 せつもんかいじ 一五巻または三〇巻。㊦許慎(五〇(三〇)？—一二一？年)後漢の学者。字は叔重。㊦『説文』。㊦永元一二(一〇〇)年。㊦漢字の構造・原義を組織的に説いた最初の基本的な字書。正文九三三三字、異体一六三字、注文一三万三四四〇字から成る。

世本 せほん ㊦器物の創作者および氏姓の出所を記したものの。㊦世品 せほん 未詳。

善悪因果経 ぜんあくいんがきょう 一卷。㊦未詳。㊦菩薩発願修行経、「因果経」。㊦唐代。㊦疑偽經典。貧富貴賤、善悪美醜などの相違は、前世の業因によって現在の果報を招いているという因果応報を説いたもの。㊦『大正新脩大藏経』八五(二八八一)

善悪因果集 ぜんあくいんがしゅう 未詳。

善悪業報因縁集 ぜんあくこうほういんねんしゅう 五巻五冊。㊦河久露宿(未詳)江戸中期の戯作者。別号は一叢軒。

㊦『近代見聞善悪業報因縁集』。㊦天明六(一七八六)年序。㊦同八年。㊦巻二「善悪業報仏教の大意」から巻五「因果の理を知て心を改し仁の事」まで全四〇条、善悪業報にかかわることを集めたもの。㊦哲学堂文庫。

善庵随筆 ぜんあんずいひつ 二巻・付録一卷二冊。㊦朝川善庵(一七八一—一八四九年)江戸後期の儒学者。名は鼎、字は五鼎、別号は学古塾。㊦嘉永二(一八五〇)年跋、同三年。㊦見聞した雑多なことを、考証的に記述している。付録として『鄭將軍成功伝碑』を付している。㊦『随筆集誌』、『随

筆文学選集』七、『日本隨筆全集』一、『日本隨筆大成』新版一期一〇(旧版一期五)、『百家説林』正編上。

禪苑蒙求 ぜんおんもうぎゆう 三卷。㊶志明(未詳)金代の人。号は錯庵、字は伯昏。㊷禪苑蒙求瑤林、『禪苑瑤林』、『禪蒙求』、『禪苑瑤林注』、『禪林蒙求』。㊸唐の李瀚の『蒙求』にならって、禪苑における仏祖の行業を、初心晩字の者に照心弁道のために知らしめようとしたもの。㊹『卍字統蔵経』二、乙二一、二。

山海経 せんがいききょう 一八卷。㊶未詳。㊷中国古代の神話と地理の書。神怪の説が多い。南山経・西山経・北山経・東山経・中山経の五蔵山経と、海外南・西・北・東経、海内南・西・北・東経の海外内経八編、さらに大荒東・南・西・北経、海内経の五編、計一八編から成る。㊸『古今逸史』、『四部叢刊』、『二十二子全書』、『秘冊彙函』、『百子全書』、『全釈漢文大系』三三。

前漢書 ぜんかんしよ→漢書 かんじよ

仙境異聞 せんきよういぶん 二編五卷。㊶平田篤胤(一七七六一一八四三年)江戸後期の国学者。㊷嘉津問答聞、『神童憑談』、『仙童寅吉物語』、『寅吉物語』。㊸文政三(一八二〇)年。㊹文化九(一八一二年)、七歳の寅吉が天狗に誘われて諸国を飛行し、のち仙境に滞留したときの体験を記したものの。㊺『新修平田篤胤全集』九(名著出版)、『平田篤胤全集』三(平田学会)、『平田篤胤全集』八(内外書館)

千金論 せんきんろん 未詳。

善見律 ぜんけんりつ 未詳。

戦国策 せんごくさく ㊶劉向(前七七?—前六年)前漢末の思想家。字は子政。㊷周の元王から秦の始皇二五(前二二二年)までの二四〇余年間に、戦国の説客とか遊説の士とかいわれる人々が、諸侯に政策(権謀)を説いてまわったありさまや、その間の挿話などを国別に集めたもの。

占察経 せんざつきょう→占察善惡業報経 せんざつぜんあくこうほうきょう

占察善惡業報経 せんざつぜんあくこうほうきょう 二卷。㊶菩提灯(未詳)隋代の僧。㊷『大乘実義経』、『大乘宝義経』、『地藏菩薩経』、『占察経』、『地藏菩薩業報経』。㊸偽経と見られている。地藏菩薩が末法の衆生のために、仏法の甚深の実義を宣顯し、正法に相違する過ちに陥らないために、業報を木輪相を用いて占察する法と、唯心識観・真如实観という二種の観道とを教えている。木輪占相法は、江戸時代に比叡山の安樂院派の人々がおこなったという。㊹『大正新脩大蔵経』一七(八三九)

泉州信田白狐伝 せんしゅうしのだびやつこでん→信田

白狐伝 しのだびやつこでん

泉州府志 せんしゅうふし 未詳。

優術狗張子 せんじゅつゐぬはりこ→狗張子 いぬはり

こ

洗心洞劄記 せんしんどうさつき 二卷付録三冊。㊶大塩平

八郎(一七九三—一八三七年)江戸後期の儒学者。名は正高の

ち後素、字は子起、号は中齋、平八郎は通称、洗心洞は塾名。㊤天保四(一八三三年)。㊤天保六(一八三五年)。㊤著者の学说(陽明学)および主張を根拠にして漢文で記した感想録。上巻一八〇条、下巻一三八条から成る。㊤『岩波文庫』、『大日本文庫』、『洗心洞智記』(明治一四年)

戦争哲学一斑 せんそうてつがつくいっばん 一冊。㊤井上円了(一八五八—一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育家。号は甫水。不思議庵主人と称す。東京、哲学書院、明治二七(一八九四年)一〇月、七八頁。㊤日清戦勝に際して、戦争の原理・原因・心理・要素などについて考察したもの。

仙台案内 せんだいあんない 二冊。㊤庄子輝光編。庄子輝光刊、明治三二(一八九〇)年、一三〇・七〇頁(上・下)。㊤地誌。

先代旧事本紀 せんだいくじほんぎ 一〇巻五冊。㊤未詳。

㊤『旧事記』、『旧事本紀』。㊤平安初期。㊤寛永二二(一六四四年)。㊤神代より推古天皇までの事跡を、『古事記』、『日本書紀』、『古語拾遺』を引用して編年体で記したものであるが、

物部氏独自の祭儀や系譜などの記事もあり、物部氏の家伝を中心に編纂されたものとみられている。㊤『新訂増補 国史大系』七、『先代旧事本紀の研究』『校本の部』(鎌田純一、昭和三年)、『標註 旧事紀校本』(飯田季治、昭和二年)

先代旧事本紀大成経 せんだいくじほんぎたいせいきょう 七二巻。㊤潮音道海(一六二八—一九五年)江戸前期の黄蘗宗の学僧。潮音は道号、号は南牧樵夫。㊤『旧事本紀大成経』、

『先代旧事本紀』、『前代旧事本紀』、『大成経』、『大成経鶴鶴伝』、『鶴鶴大成経』、『神代皇代大成経』。㊤寛文一〇(一六七〇)年古活字版。㊤『神代本紀』から『聖皇本紀』までの正部と、『経教本紀』から『国造本紀』の統部から成る。志摩伊雑の宮の神官永野采女(二六一六—一八七七年)と謀り、伊雑の宮こそ天照大神の本宮であると主張するために、聖徳太子撰の『先代旧事本紀』そのものであるとして刊行された偽書。天和二(一六八二年)、伊勢神道の奏上により潮音らは流罪となり、版木は焼却された。内容は神儒仏一致思想の大成。

先哲叢談 せんてつそうだん 八巻四冊。㊤原念齋(一七七四—一八二〇年)江戸後期の儒学者。名は善胤・善、字は公道、念齋は号。㊤『文化一三(一八一六)年』。㊤江戸時代の著名な儒学者七十二人について、自著の『史氏備考』一〇〇巻その他をもとに、その履歴などを五五〇条にわたり記した伝記。

東条琴台の著した後編・続編がある。㊤『大日本文庫』、『日本偉人言行資料』七、『日本哲学思想全書』二〇、『有朋堂漢文叢書』、『先哲叢談』(明治一三年)

先哲像伝 せんてつそうだん 四巻四冊。㊤原徳齋(一八〇〇—一七〇年)江戸後期・明治前期の儒学者。名は義胤・義、

字は正徳、別号は得齋。㊤『弘化元(一八四四年)』。㊤江戸時代の儒学者二〇人の肖像と筆跡を影写して、その伝記を記したものの。㊤『日本思想家史伝全集』一八、『有朋堂文庫』、『先哲像伝』(明治三〇年)

仙童寅吉物語 せんどうとらきちものがたり ↓ 仙境異聞

せんきょういぶん

銭塘副墨 せんとうふくぼく ⑤胡文煥(未詳)明の人。

禅林備覧 ぜんりんびらん 未詳。

〔そ〕

疏 そ→周礼義疏 しゅらいぎそ

草安疏 そうあんしょ 未詳。

相印書 そういんしょ 未詳。

造化論 ぞうかろん→天地万物造化論 てんちばんぶつ

ぞうかろん

相感志 そうかんし→物類相感志 ぶつるいそうかんし

宗祇諸国物語 そうぎしよこくものがたり 五卷五冊。⑤

未達?→一六九六年江戸前期の俳人・浮世草子作者・書

肆。姓は西村、名は久重、別号は嘯松子・城坤散人など。⑤

⑤貞享二(一六八五)年。④連歌師宗祇が諸国を遍歴して見聞

したという、和歌・連歌・狂歌・怪異などに関する話を集め

たもの。全三六話から成る。⑤『近世文学資料類従』仮名草

子編二八。⑤『俳諧叢書』俳人逸話紀行集。

雑笈或問 ぞうきゅうわくもん→和漢珍書考 わかんち

んしよこ

葬経 そうきょう 二卷。⑤未詳。④葬事に関することや墓

穴の吉凶などを記している。

宋元通鑑 そうげんつがん 一五七卷。⑤辟応旂(未詳)明代

の学者。字は仲常。④『宋元資治通鑑』。④宋の太祖から元の

順帝まで、四八〇年間の事跡を記した編年体の史書。

宋高僧伝 そうこうそうでん 三〇卷。⑤贊寧(九一九—

一〇〇二年)宋の律僧。④『宋伝』、『大宋高僧伝』。④端拱元(九

八八年)。④唐の貞観年間から宋の端拱元年までの高僧の伝

記を集成したもの。正伝五三三人、付伝一三〇人を載せてい

る。梁の『高僧伝』、唐の『続高僧伝』に続くものとして著され

た。⑤『大正新脩大藏経』五〇(二〇六)④『国訳一切経』史伝

部二一一—三。

葬祭弁論 そうさいべんろん 一冊。⑤熊沢蕃山(一六一九

—九一年)江戸前期の陽明学者。本姓は野尻、名は伯繼、字

は了介、号は自遊軒・不敢敬人など。蕃山は諡。④⑤寛文

七(一六六七)年。④葬祭の礼について述べたもの。⑤『日本

文庫』六、『蕃山全集』五。

想山著聞奇集 そうざんちよもんきしゅう→想山著聞奇

集 しょうざんちよもんきしゅう

宋史 そうし 四九六卷。⑤脱元(未詳)。④至正五(一三四

五)年。④正史の一。宋の建隆元(九六〇)年から祥興二(一二

七九年まで、北宗・南宗あわせて三二〇年の歴史を記した

もの。本紀四七卷、志一六二卷、表三三卷、列伝二五五卷か

ら成る。

曾子 そうし ⑤曾参(前五〇五—前四三六?年)春秋の学者。

字は子輿。④『漢書』『芸文志』に「曾子」一八編、「大戴礼」に

「曾子」一〇編を載せており、一般にこの一〇編を独立させた

ものをいう。

莊子 そうじ 三三編。⑧莊周(前三〇〇年ころ)中国戦国時代の思想家。莊子ともいう。周は名。⑨郭象の注をつけた三編本だけが伝わっており、内編七編、外編一五編、雜編一編から成る。万物の平等無差別を主張して、安心立命の境地を求めている。⑩『新釈漢文大系』七一八、『全釈漢文大系』一六一一七、『中国古典選』。

相州大山記 そうしゅうおおやまき ⑪一囊一節道人(未詳)。「大磯名勝誌」と合本版。天籟書屋、明治二二(一八八九年)、四八・二三頁。

宋書 そうじょ 一〇〇巻。⑫沈約(四四一―五一三年)齊・梁代の文人政治家。字は休文。⑬本紀・列伝は永明六(四八八)年。⑭正史の一。南朝宋の武帝の永初元(四二〇)年から順帝の昇明三(四七九)年まで、宋朝六〇年間の歴史を記した。もの。帝紀一〇巻、志三〇巻、列伝六〇巻から成る。徐爰の『宋書』(六五巻)を補ったもの。

僧史略 そうしりやく―大宋僧史略 だいそうそうしりやく ⑮

搜神記 そうしんき 二〇巻本と八巻本。⑯干宝(未詳)六朝晋の学者・文学者。字は令升。⑰四世紀後半。⑱志怪小説。二〇巻本、八巻本とも明代刊行本がもとであるが、八巻本は干宝の原著ではなく唐以後の作といわれる。⑲『学律討原』、『津逮秘書』、『秘冊彙函』、『百子全書』(以上二〇巻本)、『漢魏叢書』、『稗海全書』(以上八巻本)。⑳『世界文学大系』『中国古小説集』(八巻本)、『東洋文庫』二〇二〇巻本)

搜神後記 そうしんこうき 一〇巻。㉑陶潜(三六五?―四二七年)東晋の自然詩人。字は淵明。一説に名は淵明、字は元亮。㉒六朝時代。㉓干宝の『搜神記』のあとをついで、おもに晋時代の怪異譚を集めたもの。陶潜の作に仮託されたものという。㉔『津逮秘書』、『秘冊彙函』、『百子全書』。㉕『中国古典文学大系』六朝・唐・宋小説選。

喪大記 そうたいき 未詳。

雑談集 そうたんしゅう 一〇巻。㉖無住道暁(一二二六―一三二二年)鎌倉時代の臨済宗の僧。無住は道号、道暁は法諱、号は一円。㉗嘉元三(一三〇五年)。㉘寛永二(一六四四年)年。㉙仏教説話・思想集。仏典中の因縁譚やインド・中国・日本の説話を記し、また見聞や体験、世俗の滑稽譚などを教化のために引用するとともに、自らの伝記的な生い立ちなども述べている。㉚『古典文庫』、『古典資料』。㉛『中世の文学』。

相庭高下伝 そうていこうげでん 一冊。㉜玉江漁隱(未詳)。㉝増補諸色 相庭高下伝、『諸色相庭高下伝』。㉞寛政一三(一八〇一年)。㉟米相場を中心に諸相場について書かれた商家のための書。「商売相生相剋の弁や」月色雨晴の弁」など、商売にかかわる吉凶判断も載せている。㊱哲学堂文庫。

宋稗類鈔 そうひるいしゅう 三六巻・搜遺一卷。㊲潘永因(未詳)清の人。字は大生。潘永圜のこと。㊳五九門に分けて、宋人の詩話を分類編集したもの。

草茅危言 そうぼうきげん 五卷五冊。㊦中井竹山(一七三

〇一八〇四年)江戸後期の儒学者。名は積善、竹山は号。

㊦寛政元(一七八九年)㊦わが国の法制および社会制度・経済に関する書で、国家制度・参勤交代・諸侯分地・水利・金銀幣・錢幣・物価・社会・養老・窮民・米相場・寺社富・米仲仕・仏法・淫祀・祈禱のなどを論じている。㊦近世社会経済学説大系「中井竹山集」、『日本経済叢書』一六、『日本経済大典』三三、『日本思想闘争史料』六、『草茅危言』(明治二七年・昭和一七年)

草木子 そうもくし 四卷。㊦葉子奇 未詳 元末・明初の学

者。字は世傑、号は静斎。㊦天文・律曆・医術・農業・昆虫・草木・掌故、さらに思想など多岐にわたって論じている。また、元代のご事・雑事なども多く載せている。㊦『四庫全書珍本十集』、『文淵閣四庫全書』。

會門経 そうもんきょう 未詳。

草李 そうり 未詳。

叢林集 そうりんしゅう 九卷。㊦慧空(一六四四—一七二

一年)江戸前期の真宗大谷派の僧。字は得岸、号は光遠房・秀光堂。㊦元禄一一(一六九八年)年跋。㊦享保二(一七二七年)㊦前半の六卷で、一宗の法門に関することを述べ、後半の三卷で史伝・故実に関することを述べ、とくに真宗の位置づけを明らかにしている。㊦『真宗全書』六三、『続真宗大系』一〇、『真本叢林集』(明治一四年)

続紀考証 ぞくきこうしやう 未詳。

続礦石集 ぞくこうしやくしゅう 三卷六冊。㊦蓮体(一六

六三一—一七二六年)江戸中期の真言宗の僧。字は本浄・惟宝

号は無尽蔵など。㊦享保一〇(一七二五年)序。同二(一七二七年)㊦卷一「天照太神家御利生の事」から卷三「逆修日牌の靈驗並に光明真言利益の事」まで全五〇条で、善悪報応の説にもとづいている。㊦哲学堂文庫。

続高僧伝 ぞくこうそうでん 三〇巻または三一巻・四〇

巻。㊦道宣(五九六—六六七年)初唐の僧・仏教思想家・南山律宗の祖。姓は錢、字は法徧、諡は澄照・法慧。㊦唐高僧伝。㊦貞観一九(六四五)年。㊦梁代の宝唱の「名僧伝」、慧皎の「高僧伝」のあとをうけて、梁代から唐初にいたる約一五〇年間の、高僧三四〇人の正伝と付見一六〇人の計五〇〇人の伝記を、一〇科に分類して収録している。㊦『大正新脩大藏経』五〇(二〇六〇)。㊦『国訳一切経』史伝部八一—一〇。

続後漢書 ぞくごかんじよ 四二巻。㊦肅 常(未詳)㊦魏

を正統とする「三国史」(陳寿)をあらため、蜀を正統とする立場で書かれた漢末三国史。帝紀二巻、年表二巻、列伝一八巻、載記二〇巻から成る。㊦『宜稼堂叢書』。

続古事談 ぞくこじだん 六巻。㊦未詳。㊦建保七(一一二一

九年)奥書。㊦皇室、貴族の生活、故実、信仰、神仏の靈異など、唐代を主とする中国関係の記事一八五話から成る説話集。現在は卷三を欠き、卷一「王道・后宮」、卷二「臣節」、卷四「神社・仏寺」、卷五「諸道」、卷六「漢朝」の六編がある。㊦『群書類従』雑、『国史叢書』。

続昆陽漫録 ぞくこんようまんろく→昆陽漫録 こんようまんろく

続沙石集 ぞくさせきしゅう 六卷六冊。⑧南溟(なめい)未詳(みじやう)江戸中期の真宗の僧。号は洪阜・東渚。⑨寛保三(一七四三)年自戒のいとぐち、あるいは説教の材料になる話を集め、自らの批評を加えたもの。

俗神道大意 ぞくしんどうたいい 四卷四冊。⑩平田篤胤(ひらたあつ胤) (二七七六—一八四三年)江戸後期の国学者。⑪『巫学談弊』。

⑫文化八(二八一)年。⑬万延元(一八六〇)年。⑭国学における古神道の立場から、両部神道・唯一神道・垂加神道および神道儀礼などの仏教・儒教との習合性を、「俗神道」または「巫学」とみて批判攻撃したもので、講義を門人が筆記したものである。⑮『新修平田篤胤全集』八(名著出版)、『大日本文庫』復古神道中、『平田篤胤全集』一(平田学舎)、『平田篤胤全集』七(内外書籍)、『平田篤胤叢書』乾。

続奇諧記 ぞくせいかいき 一卷。⑯吳均(ごきん)四六九—五二〇年六朝梁の文学者。字は叔庠。⑰志怪小説。⑱『漢魏叢書』六三、『古今逸史』二四、『説郛』二一五。

俗説正誤夜光壁 ぞくせつせいやこうのたま→夜光珠やこうのたま
俗説弁 ぞくせつせん→広益俗説弁 こうえきぞくせつせん
続搜神記 ぞくそうしんき 未詳。

続博物志 ぞくはくぶつし 一〇巻。⑳李石(りせき)一一八二年(南宗)の学者。字は知幾。㉑張華の『博物志』の不備を補ったもの。㉒『古今逸史逸志合志』、『説郛』二、『裨海』一、『秘書』二十一種。

続文献通考 ぞくぶんけんつこう 二五四巻。㉓王圻(おうき)明代の学者。字は元翰。㉔明の万曆一四(一五八六)年。㉕馬端臨の『文献通考』が寧宗までであるあとをうけ、南宋の嘉定年間から明の万曆初年にいたる間の、遼・金・元・明四朝の事跡を集めて作ったもの。『文献通考』にない節義・六書・道統・方外などの諸考三〇考を加えている。特に明代の制度・社会経済の研究史料として有益といわれる。

続蒙求 ぞくもうぎゅう→続蒙求分註 ぞくもうぎゅうぶんちゅう

続蒙求分註 ぞくもうぎゅうぶんちゅう 四卷四冊。㉖柳希春(みづはる)未詳。㉗万治二(一六五九)年。㉘卷一「伏羲卦画」軒輊(けんげい)『曆紀』から卷四「魯叟集成、紫陽主盟」まで一七八句を記している。㉙『哲学堂文庫』。

祖志 ぞし 六卷一冊。㉚岡本監輔(おかもとのかんすけ)一八三九—一九〇四年)幕末・明治時代の漢学者・探検家。号は韋庵。岡本監輔刊、明治二三(一八九〇)年。

楚辞 そじ 一六巻。㉛編(ひん)劉向(りゅうきやう)前(ぜん)七七?—前(ぜん)六六年)漢の学者。㉜屈原とその門人の宋玉・景差、およびその影響を受けた漢の賈誼などの作と自作の九歌を取めている。後漢の王逸の『楚辞章句』に記されているだけで、逸して伝わらない。

息軒遺稿 そっけんいこう 四卷四冊。㊦安井息軒(一七九

九—一八七六年)江戸後期・明治前期の儒学者。名は衡、号

は清滝・足軒。安井干菊刊、明治一一(一八七八)年。㊦卷一

は「鬼神論」性論「務本論」文論「陳平論」蝦夷論など論説

一七編、卷二は書牘五編・序一九編、卷三は記二一編・題跋

一六編、卷四は碑銘一一編・雜著八編から成る。漢文による

論考。

祖庭事苑 そていじおん 八卷。㊦善卿(未詳)宋の人。号

は陸庵。㊦雲門録「以下の語録中から故事・成語・名数・人

名・略字・誤字などを摘出して注解を加えたもの。禪書中、

最古の事典。

素問 そもん→黄帝内经素問 こうていないけいそもん

徂徠集 そらいしゅう 三〇卷補遺ともに二〇冊。㊦荻生徂

徠(一六六六—一七二八年)江戸中期の儒学者。名は双松、字

は茂卿、徂徠は号、別号は護園、本姓の物部氏をとって物徂

徠・物茂卿とも称す。㊦元文元(一七三〇)年序。㊦元文五

(一七四〇)年。㊦卷一—卷七は詩、卷八—卷一九は文、卷二

〇—卷三〇は書翰を取録した詩文集。徂徠の詩文の集大成と

して、その文学・思想などをみることができ。徂徠死後、

門人らによって刊行された。㊦詩集 日本漢詩三、「日本

思想大系」三六。

尊卑分脈 そんびぶんみやく ㊦編・洞院公定(一三四〇—

九九九年)南北朝時代の公卿/その他編。㊦諸家大系図、「諸

家系譜伝」、「編纂 本朝尊卑分脈図」。㊦寛永(一六二四—四

四年)ころ。㊦諸氏家系図の集大成。室町期を通じて増補・
改訂された。㊦故実叢書、「新訂増補 国史大系」、「新編
纂図 本朝尊卑分脈系譜雜類要集」(明治三七年)

〔た〕

大雲 だいうん→大方等無想経 だいほうとうむそうき

よう

大易續説 たいえきしゅうせつ 一〇卷。㊦王申子(未詳)宋

の人。字は異卿。㊦易。㊦通志堂経解」五。

大慧語録 だいえごろく→大慧普覚禅师語録 だいえ

ふかくぜんじごろく

大慧普覚禅师語録 だいえふかくぜんじごろく 一二卷。

㊦宗杲(一〇八九—一六三年)中国臨済宗の僧。大慧普覚は

諡号。㊦大慧語録、「大慧録」。㊦語録。㊦大正新脩大蔵

経」四七(一九九八A)

大学 だいがく 一卷。㊦未詳。㊦前三世紀後半から一〇〇

年の間に成立。もとは「礼記」のなかの一編で、北宋の司馬光

がそれから抜き出して「大学広義」を作り、朱子が四書の一つ

として注釈し(「大学章句」、広く世におこなわれた。㊦儒教

の真髄を述べたもの。「明德を明らかにする」「民を親和させ

る」「至善に止まる」という「三綱領」と、「致知・誠意・正心・

修身・齐家・治国・平天下」の「八条目」をかかげて解説する。

㊦「新釈漢文大系」二、「全釈漢文大系」三。

題額聖鬮賛 だいがくしょうきゅうざん 一六卷・目錄一卷

一七冊。⑤良定(一五五二—一六三九年)安土桃山・江戸前期の浄土宗の学僧。別名は袋中。⑥『聖鬪贊』。⑦慶安四(一六五二)年。⑧仏教諸宗の大綱、諸家の教相・縁起・根地などの分別を論じたもので、諸家の大綱を記した『題額集』を補註して成ったもの。⑨哲学堂文庫。

台記 だいき ⑩藤原頼長(一一二〇—一五六六年)平安後期の官僚。⑪『字槐記』、『字左記』、『槐記』、『治相記』。⑫日記。保延二—久寿二(一一三六—一五五年)の間が部分的に現存し、保元の乱にいたるまでの政治動向を知る史料となっている。⑬『宇治左府記』(昭和三五年)。⑭『史料大観』、『増補史料大成』二二—二五。

大経 だいきよう→仏説無量寿経 ぶっせつむりようじゆきよう

太極図説 たいきよくぜつ 一卷。⑮周敦頤(一〇一七—七三年)北宋の学者。字は茂叔。濂溪先生と称される。⑯未詳。⑰宇宙の根源、万物の生成・発展の理論を図解している「太極図」を解釈したもの。南宋の朱熹がこれにもとづいて自己の理論を展開して以来、宋学の根本思想を示すものとされる。

太極通書 たいきよくつうしよ 未詳。

大疑録 たいぎろく 二卷二冊。⑱貝原益軒(一六三〇—一七四四年)江戸前期の儒学者・本草家・教育思想家。名は篤信、字は子誠、別号は損軒。⑲正徳三(一七二二)年序。⑳明和四(一七六七年)。㉑宋儒の学説(朱子学)の疑問とするとこ

ろを述べたもの。㉒『影印日本随筆集成』一。㉓『益軒全集』二、『日本教育思想大系』、『日本思想大系』貝原益軒・室鳩巢、『日本儒林叢書』六、『日本哲学思想全書』七、『日本哲学全書』三、『日本倫理彙編』八。

太玄経 たいげんきよう 一〇卷。㉔揚雄(前五三—後一八一年)前漢の学者。字は子雲。揚子ともいい、楊雄とも書く。

⑵『太玄』。⑶『易経』に擬して作る。玄は天地万物の根源、太はその功德を形容しており、宇宙から人事まで広範な事柄を述べている。

大黒天神経 だいくくてんじんきよう→大黒天神法 だいくくてんじんほう

大黒天神法 だいくくてんじんほう 一卷。㉕神愷(未詳)。⑶唐代。㉖大黒天神の本地・形像・印・明種子を説き、大黒

天は闘争神であり、これを供養すれば戦勝を得、また冥府神・財福神であると説き、供養法を述べている。⑷『大正新脩大藏経』二二(一一二八七)

大黒天靈験記 だいくくてんれいげんき 三卷三冊。㉗空無(未詳)。⑸『大黒福德靈験記』。⑹享保三(一七一八)年。㉘大黒天にまつわる福德・靈験について記したもの。㉙哲学堂文庫。

醍醐随筆 だいごずいひつ 二卷二冊。㉚中山三柳(一六一

四—一八四四年)江戸前期の医者。名は忠義、三柳は通称、号は華陽軒・華陽子・識丁子。⑻寛文一〇(一六七〇)年。⑼地誌・故事・奇事・詩・歌など広範囲の事柄を記している。全

六二条から成る。㊦『杏林叢書』三、『続日本隨筆大成』一〇、『百万塔』。

大集經 だいじつきょう → 大方等大集經 だいほうどうだいじつきょう

太子伝(曆) たいしでん(りやく) → 聖徳太子伝曆 しょうとくたいしでんりやく

大集月經 だいじげうがつきょう ㊦『大方等大集經』の卷四六一卷五六の『月蔵分』のこと。二〇品から成る。 → 大方等大集經。

太上感應篇 たいじょうかんのうへん ㊦南宋初期の李石と李昌齡という、四川の成都を中心に学生を教授していた人物により、はじめて世間に紹介される。㊦道教の經典。勸善の指導書である善書の一つ。民衆倫理の綱領の書で、善悪応報を強調し、悪をなさず善をなせば古慶を得ると説き、悪を転じて福となすことを勧める。

太上感應編諺註 たいじょうかんのうへんげんちゅう 四卷四冊。㊦寛道。㊦享保八(一七三三年)。㊦『太上感應編』の注釈書。㊦哲学堂文庫。

太上感應篇持驗記 たいじょうかんのうへんじけんき 一冊。㊦未詳。㊦宝永二(一七〇五年)。㊦道経。付・『文昌帝君陰騭文持驗』、『感應篇諸家註疏凡例要語』。㊦哲学堂文庫。大乘義章 だいじょうぎしょう 二六卷。㊦慧遠(五二二—五九二年)梁代の僧。淨影寺慧遠という。㊦六世紀後半。㊦

隋代以前の諸学派の教理や実践、および諸経論に関する二二

二門の項目をあげて、地論宗南道派の立場からそれに解釈を加えたもの。一種の大乗仏教概論。㊦『大正新脩大藏經』四四(二八五二)。㊦『国訳一切経』諸宗部一〇—一三。

大乘起信論 だいじょうきしんろん 一卷。㊦真諦(パラマールタ、四九九—五六九年)梁代の訳経僧。㊦五—六世紀ころ。㊦全五編から成る大乘論書。如来蔵思想にもとづき大乘仏教の理論と実践を説いている。㊦『大正新脩大藏經』三二(二六六六)

大聖日蓮深秘伝 だいじょうにちれんじんびでん 一冊。

㊦日昭(一二二—一三三三年)鎌倉中・後期の日蓮宗の僧。字は弁・成弁、号は不輕院。大和阿闍梨と称す/日朗(一二四五—一三三〇年)鎌倉後期の日蓮宗の僧。号は筑後房・正法院。大阿闍梨と称す。㊦『延嶺狐穢頭記』。㊦日蓮の伝記。㊦『大聖日蓮深密伝』(明治一八年)

大乘本生心地観経 だいじょうほんじょうしんじかんぎょう 八卷。㊦般若(アラジュニヤ、未詳)唐代の訳経僧。㊦『本生心地観経』、『心地観経』。㊦四恩(父母・衆生・国王・三宝の恩)の説を中心に大乘的出家主義を説いている。㊦『大正新脩大藏經』三(一五九)

秦誓 たいせい ㊦『書経』『周書』の編名。紂の暴逆無道を数えあげて、天に代わってこれを誅することを群臣に誓った言を録したもの。(秦誓は秦誓の誤り)

大成経 たいせいきょう → 先代旧事本紀大成経 せんたいくじほんきたいせいきょう

大勢新聞 たいせいしんぶん 夕刊。東京、大勢新聞社。大正二(一九一三年)一月創刊、大正二年八月、『東京大勢新聞』と改題した。

大宋僧史略 だいそうそうしりやく 三巻。⑤贊寧(九一九一〇〇二年)宋の律僧。⑥『僧史略』。⑦初期から宋代までの中国仏教の法制・儀礼などの起源とその推移を記したものである。⑧『大正新脩大藏経』五四(二二二六)。⑨『国訳一切経』史伝部一三。

大藏法数 だいざうほうすう 六八巻。⑩寂照(未詳)。⑪『二代経律論釈法数』。⑫仏典のなから名数に関する文を抜き出し、簡明な注解を加えた仏教名数辞典。「一心」から「八万四千の法門」まで四六八五項目を立てている。⑬『大藏法数』(明治三二年)

大蔵輔国集 だいざうほこくしゅう 三巻三冊。⑭宗興(一八一五—一八〇年)江戸後期・明治前期の真宗の僧。⑮卷上「仏説王法」、卷中「仏法資治」、卷下「廃仏無益」から成る仏教有用論。⑯『大蔵輔国集』(明治二年)

大智度論 だいちどろん 一〇〇巻。⑰竜樹(ナーガールジューナ、一五〇—二五〇年ころ)インドの仏教思想家。⑱鳩摩羅什(クマラージヴァ、三四四—四一三年)東晋代の僧・大訳経家。⑲『智度論』、『摩訶般若波羅蜜経』、積論、『大慧度経』集要、『大智度経論』、『摩訶般若積論』、『大慧波羅蜜経(大品般若経)』の注釈書。多くの経論の引用を含み、

語彙の説明、説話・伝説の挿入、地名・人名の解説、学説の

紹介など、一種の仏教百科全書の役割をはたしている。思想的には大乘仏教の根本思想である空の教理を徹底し、宗教的実践の解明に努めている。⑳『大正新脩大藏経』二五(二五〇九)。㉑『国訳一切経』積経論部一—五。

大伝 たいでん ⑲『礼記』第一六編の名。祭法・服制・宗法などを記している。→『礼記』。

大唐西域記 だいたうさいいきき 一二巻。㉒弁機(未詳)唐代の僧。㉓唐の貞観二〇(六四六年)。㉔『西域記』、『大唐西域伝』。㉕唐の玄奘三蔵によるインドおよび西域の遊歴を記した旅行記。太宗の勅命により編纂。一四—カ国の風俗・歴史・地理・伝説・物産などが記され、七世紀前半のインドおよび西域の仏教・言語・文化などを知る重要な資料となっている。㉖『大正新脩大藏経』五一(二〇八七)。㉗『国訳一切経』史伝部一六。

大唐大慈恩寺三蔵法師伝 だいたうだいおんじさんざうほつしでん 一〇巻。㉘慧立(未詳)彦琮(未詳)。㉙『大慈恩寺三蔵法師伝』、『三蔵法師伝』、『慈恩伝』。㉚唐の垂拱四(六八八年)。㉛玄奘三蔵の伝記。生誕から西域インドへの求法までを慧立が五巻に記し、それを補訂して帰国後遷化までを彦琮が記して一〇巻とした。㉜『大正新脩大藏経』五〇(二〇五三)。㉝『国訳一切経』史伝部一一。

大道本義 だいたうほんぎ 三巻。㉞浦田長民(一八四〇—一九三年)明治期の神道家。東京、神宮教院、明治九(一八七六)年、和三冊(上二四、中二九、下五八丁)。㉟神道。上巻

一三章、中巻二一章、下巻一六章より成り、一、道の本原を論ず、二、道を事物に徹す、三、道を奉ずるの方を論ずに分けて論じ、新しい時代に即応した神の道を説く。

大日本教育会雑誌

だいにほんきょういっくかいざっし 月刊。東京、大日本教育会。第一号(明治一六(一八八三)年一月)―一八二二号(明治二九(一八九六)年一〇月)。「大日本教育会誌」(二冊、明治一六年九月)を改題したもので、一八三〇号からは『教育公報』と改題した。(内)教育。

大日本教育新聞

だいにほんきょういっくしんぶん 日刊。東京、大日本教育新聞社。明治二五(一八九二)年六月二八日―明治二七(一八九四)年九月一四日。(内)教育。

大日本校訂縮刻大藏經

だいにほんこうていしゅくくわだいざうきょう 四〇帙四一八冊・目錄一冊。⑤編・島田蕃根(一八二七―一九〇七)年明治期の仏教学者／福田行誠(一八〇九―一八八八)年幕末・明治期の浄土宗の僧／その他編。⑥「大日本校訂大藏經」、「縮刷藏經」、「縮藏」。東京、弘教書院。明治一三―一八(一八八〇―一八八五)年。(内)最初の活字版大藏經。高麗版を底本とし、宋・元・明版と対校した厳密な校訂で知られる。明代末の智旭の『閱藏知津』の「經・律・論・秘密・雜」の五分類を採用して、一九一八部八五三九巻を収めている。

大日本国法華經験記

だいにほんこくほけきょうげんき 三巻三冊。⑦鎮源(未詳)平安中期の天台宗の僧。⑧「大日本法華經記」、「日本法花験記」、「法華經験記」、「法華験記」、

『本朝法華験記』。⑨長久年間(一〇四〇―一〇四四年)。⑩享保二(一七一七)年。(内)仏教説話集。『法華經』の威力を実証するため、法華持験者の伝、多くは聖の伝および靈験・奇瑞などを集成したもの。全一二九話(第八四話を欠く)で、菩薩・比丘・在家沙弥・比丘尼・優婆塞・優婆夷・異類の順に構成されている。⑪『統群書類従』八上、『日本思想大系』七『往生伝・法華験記』。

大日本史

だいにほんし 本紀七三巻・列伝一七〇巻一〇〇冊。⑫徳川光圀(一六二八―一七〇〇)年江戸前期の大名。字は子龍、号は梅里、諡号は義公。⑬文化七(一八一〇)年。⑭嘉永四(一八五二)年。(内)歴史書。神武天皇より後小松天皇にいたるまでの歴史を紀伝体に編述したもの。水戸藩主徳川光圀の命により明暦三(一六五七)年編纂に着手され、代々の藩主が継承し、明治三九(一九〇六)年にいたって完成をみた。

大日本人名辞書

だいにほんじんめいじしょ 経済雑誌社。明治一八(一八八五)―一八六六年。四冊。

大般涅槃經

だいはつねはんぎょう 四〇巻。⑮曇無讖(ダ)ルマラクシャ、三八五―四三三年)中国南北朝時代の訳経僧。

⑯「大涅槃經」、「大本涅槃」、「北本涅槃」、「涅槃經」、「大乘涅槃經」。⑰四〇〇年ころ。(内)大乘仏教の教理と実践の立場

から、ブツダの説いた法の意義を詳説し論述したもの。(一)仏身常住、(二)涅槃の常業我浄、(三)一切衆生悉有仏性の思想を説いている。⑱「大正新脩大藏經」二二(三七四)。(内)国訳一切

經』涅槃部一一二。

大般若波羅蜜多經 だいほんにやはらみたまきょう 六〇〇

卷。〔玄奘〕(六〇二一六六四年)唐代の大翻訳家。〔大般若經〕(内)一世紀ころより個々に成立していった諸種の般若經典の翻訳を集大成したもの。一六の經典から成る。〔大正新脩大藏經五十七(二二〇)〕。〔國訳一切經〕般若部一六六。

大毘婆沙論 だいびばしゃろん→阿毘達磨大毘婆沙論 あびだつまだいびばしゃろん

大仏頂如来密因修証了義諸菩薩万行首楞嚴經 だいぶつちようにらいみつちんしゆうりようぎしよぼさつまんぎようしゆうりようこんきよう 一〇卷。〔般刺密帝〕未詳)唐代の僧。〔大仏頂首楞嚴經〕、『大仏頂經』、『首楞嚴經』(内)禪定に專注することによって生死の世界を脱却することを書いてある。〔大正新脩大藏經一九(九四五)〕

太平記 たいへいき 四〇卷四〇冊。〔未詳〕。〔慶長八(一六〇三)年、古活字版。〔内〕軍記物語。北条氏の滅亡・建武中興をはじめ、南北朝五〇余年間の争乱を和漢混交文で描いている。〔古典文庫〕。〔校註国文叢書三三四〕、『校註日本文学大系』一七一―一八、『新釈日本文学叢書二輯五一―六、『日本文学大系』三四―三六、『日本文学全書』一六一―一八、『有朋堂文庫』、『太平記(明治一五年)』

太平御覽 たいへいぎょらん 一〇〇〇卷。〔編〕李昉(九二五―九九六年)五代宋初の学者・政治家。字は明遠/その他編。〔宋〕の太平興国八(九八三年)。太平興国二(九七七)

年、太宗の勅により一四名が撰し、六年九カ月をもって完成した。〔天・時序・地から香・葉・百卉まで五五部門に分け、多くの逸書の文を含む一六九〇種におよぶ引用書によって構成される一大類書。〔四部叢刊三編〕子部、『太平御覽』(商務印書館、一九六八年)

太平広記 たいへいこうき 五〇〇卷。〔編〕李昉(九二五―九九六年)五代宋初の学者・政治家。字は明遠/その他編。〔太宗の太平興国三(九七七年)年。太平興国二年に勅があり、李昉をはじめ一三人で翌年完成した。〔漢代から五代までの四七五種の古書のなかから、奇談・異聞・伝説・説話などを抜き出したもの。神仙・道術・卜筮・夢・鬼・靈異・草木・昆虫など九二項目に分類し、一つ一つまとまった話の形で収録している。〔太平広記』(人民文学出版社、一九五七年)

太平楽皇国性質 たいへいらくみくにかたぎ 二卷二冊。〔松亭金水(二七九七―一八六二年)江戸後期の戯作者。本名は中村保定・経年、別号は積翠・拙作堂など。〔天保五(一八三四)年序。〔同六年。〔通俗的な教訓書。幕末江戸の世相を写している。巻一は一六条、巻二は一五条から成る。〔続日本随筆大成九。〕

大弁録 だいべんろく 未詳。

大方広円覚修多羅了義經 だいほうこうえんがくしゅたらりようぎきょう 一卷。〔弘法〕(唐)の僧。〔円覚經』、『円覚修多羅了義經』、『大方広円覚經』、『円覚了義經』(内)仏と十二菩薩との一問一答の形式で内容が進展する。

中国で作られた偽経という。⑤『大正新脩大藏経』一七(八四二)。(訳)『国訳一切経』経集部五。

大方広仏華嚴経 だいほうこうぶつけこんぎょう 六〇巻
三十四章。⑥『仏陀跋陀羅(ブツダバドラ、三五九―四一九年)東晋代の僧。⑦『華嚴経』、『六十華嚴』、『旧訳華嚴経』、『晋経』。⑧四世紀ころまとめられる。⑨『仏の悟りの内容をそのまま説いたものといわれる大乘経典。華嚴宗の所依経典。異訳に実叉難陀(シクシャナナダ、六五二―七一〇年、唐代の僧)の八〇巻三十九章の新訳がある。⑩『大正新脩大藏経』九(二七八)・一〇(二七九)。(訳)『国訳大藏経』華嚴部・『国訳一切経』華嚴部。

大方広仏華嚴経随疏演義鈔 だいほうこうぶつけこんぎょうずいしよえんぎしやう 九〇巻。⑪『澄観七三八―八三九年)唐代の僧。⑫『華嚴経随疏演義鈔』、『華嚴大疏鈔』、『演義鈔』。⑬八―九世紀。⑭『澄観が『華嚴経』を文に従って解釈した。大方広仏華嚴経疏』を、さらに自ら詳細に注解・解釈した。⑮『大正新脩大藏経』三六(一七三六)。

大方等大集経 だいほうどうだいいじつきやう 六〇巻。⑯編・僧就(未詳)隋代の僧。⑰『曇無讖(ダルマラクシャ、三八五―四三三年)中国南北朝時代の訳経僧。前三〇巻を訳す。後三〇巻の訳は那連提耶舎(ナレンドラヤシャス、四九〇―五八九年)南北朝―隋代の訳経僧。⑱各品それぞれ独立に成立した經典群を集めて編纂したもので、仏が欲色二界の中間において、広く十方の仏菩薩を集めて大乘の法を説いたも

の。⑲『大正新脩大藏経』一三(三九七)、『大日本校訂大藏経』一〇。(訳)『国訳一切経』大集部一―四。

大方等無想経 だいほうとうむそうきやう 六巻。⑳『曇無讖(ダルマラクシャ、三八五―四三三年)中国南北朝時代の訳経僧。㉑『大雲経』。㉒三七品から成り、三昧等の種々の法門、如来常住の義を説く。㉓『大正新脩大藏経』二(三三八)―大品 だいぼん→摩訶般若波羅蜜経 まかはんにやはらみつきやう

大品般若経 だいぼんはんにやきやう→摩訶般若波羅蜜経 まかはんにやはらみつきやう
大明一統志 だいまんいつとうし 九〇巻。㉔編・李賢(一四〇八―六六年)明の政治家。字は原徳、諡は文達/その他編。㉕『明一統志』、『天下一統志』。㉖天順五(一四六一)年。㉗京師・南京・中部・一三布政司の順に記し、さらに各府ごとに建置沿革・郡名・形勝・風俗・山川・土産・公署・学校……人物・列女・仙釈の順に記述した地方志。『大元一統志』にならない『寰宇通志』を改編して成ったもの。

大無量寿経 だいまりようじゆきやう→仏説無量寿経 ぶつせつむりようじゆきやう
大乗金剛不空真実三摩耶経 だいらくこんこうふくうしんじつさんまきやう 一卷。㉘『不空(アモガヴァジュラ、七〇五―七七四年)唐代の密教訳経僧。阿目佉ともいう。㉙『大乗金剛不空真実三摩地耶経般若波羅蜜多理趣品』、『般若理趣経』、『理趣経』。㉚般若の空を根本にしながらも、現実

世界すなわち欲望の世界を密教の立場から肯定し、その境地において心の安定を得ようとする、大衆(寛りの境地)の教えとその実践を説いている。⑤『大正新脩大藏經(八二四三)』
 大論 だいろん→大智度論 だいちどろん

台湾日日新報 たいわんにちにちしんぼう 日刊。台北市、台湾日日新報社。『台湾新聞』と『台湾日報』を合併して、明治

三二(一八九八)年五月創刊。

高島易占 たかしまえきせん ⑥高島嘉右衛門(一八三二—

一九一四年)明治期の実業家・易学家。号は吞象。④占卜。

高島易断 たかしまえきだん ⑥高島嘉右衛門(一八三二—

一九一四年)明治期の実業家・易学家。号は吞象。④明治一

九(一八八六)年。高島嘉右衛門刊、和一〇冊。④占卜。

澤庵和尚玲瓏随筆 たくあんおしょうれいろうずいひつ

→玲瓏随筆 れいろうずいひつ

沢庵雑録 たくあんざつろく→玲瓏随筆 れいろうずいひつ

宅経 たくけい 二巻。⑥黄帝(先史)五帝の一。姓は公孫、

名は軒轅。④家宅を相する書。

卓氏藻林 たくしそうりん ⑥卓微甫(未詳)明の人。④類

書。名句・佳語を類集し、詞章家の用に供したるもの。

竹取物語 たけとりものがたり 一巻。⑥未詳。④『竹取翁

物語』、『かぐや姫の物語』。④未詳。④慶長古活字版。④仮

名で書かれた現存する最古の物語。竹取の翁が竹のなかから

得たかぐや姫の成長、貴公子や帝の求婚、姫の月世界への昇

天などを描いている。羽衣説話などの伝承のさまざまな説話で構成されている。⑥『古典影印叢書』、『竹取物語総索引』
 録(昭和三十三年)。⑥『岩波文庫』、『角川文庫』、『古典文庫』、

『校註日本文学叢書』二〇、『新釈日本文学叢書』四、『日本古

典全集』二期、『日本古典全書』、『日本古典文学大系』、『有朋

堂文庫』『平安朝物語集』。

它山石 たざんのいし→它山石 初篇 とやまのいし

しよへん

大政官式 だじょうかんしき 未詳。

太上感應篇 だじょうかんのうへん→太上感應篇 たい

じょうかんのうへん

大戴礼 だたいれい ⑥編・戴徳(前漢)の学者。字は延

君。④『大戴記』、『大戴礼記』。④周末・秦・漢初儒の礼に関

するさまざまな言説を集めたもの。八五編から成るが戴聖の

『小戴記』(現在の『礼記』)がおこなわれたため散逸し、現在は

三九編しか残っていない。その第四七編は『夏小正』で古代

中国の民俗・生活の一端を示しており、第四九―五八編の一

〇編は曾子の言行についてのものである。

達性論 たっせいろん ⑥承天(三七〇―四四七年)南朝宋

の啓家。④仏教の応報説を批判したもの。顔延之は『积達性

論』を著して何承天と論争した。

茶毘 たび 未詳。

玉くしげ たまくしげ 一冊。⑥本居宣長(一七三〇―一八

〇一年)江戸中・後期の国学者。号は芝蘭・春薜庵、屋号

は鈴屋。㉑「玉匣」、「玉くしげ別巻」。㉒天明七(一七八七年)一二月、求められた治道・経世に関する意見をまとめた『秘本玉くしげ』に別巻として添えて紀伊藩主徳川治貞に奉じたもの。㉓寛政元(一七八九)年ころ。㉔古道の本旨を説いたもの。今の世に処すべき心得もあわせて論じている。㉕増補本居宣長全集六、「本居宣長全集」八、「日本古典文学大系」九七、「日本国粹全書」一三。

玉櫛筒 たまくしげ 七卷七冊。㉖林義端(？)一七一一年。江戸前期の浮世草子作者・書肆。字は九成、堂号は文会堂。㉗「玉くしげ」。㉘元禄八(二六九五)年自序。㉙室町時代から桃山時代へかけての伝説に取材した話を中心に、啓蒙・教化を目的としたもの。㉚国立国会図書館。

玉すだれ たますだれ 七卷七冊。㉛辻堂兆風子(未詳)。㉜「多満寸太礼」。㉝宝永元(一七〇六)年。㉞怪異談。巻一「天満宮通夜物語」より巻七「花木弁論并貧福問答」まで全二七話から成る。絵入り。㉟哲学堂文庫。

霊能真柱 たまのみはしら 二卷二冊。㊱平田篤胤(一七七六—一八四三年)江戸後期の国学者。㊲文化九(一八一二年)脱稿。㊳同一〇年。㊴天地のはじめの状態を一〇個の図と文で詳説し、死者の靈魂のゆくえは黄泉ではなく、幽冥であるという説を展開したもの。㊵「新修平田篤胤全集」七、「大日本文庫」復古神道中、「日本思想大系」平田篤胤・伴信友・大國隆正、「平田篤胤全集」二(平田学舎)、「有朋堂文庫」、「霊能真柱」(大正七年、昭和一九年)

玉箒子 たまははき 六卷六冊。㊶林義端(？)一七一一年。江戸前期の浮世草子作者・書肆。字は九成、堂号は文会堂。㊷「玉箒木」、「玉はゝき」。㊸元禄九(二六九六)年。㊹「玉櫛筒」の拾遺。諸国の奇事・異聞・怪異談など二七話を収録している。㊺「近代日本文学大系」怪異小説集、「古今小説名著集」二四、「徳川文芸類聚」四。

陀羅尼集経 だらにじつきょう 一二卷。㊻阿地瞿多(アテイクタ、未詳)。㊼六世紀後半から七世紀半ば。㊽諸種の密教経典や儀軌を集成したもの。諸仏・菩薩・諸天の印呪を説いている。㊾「大正新脩大蔵経」一八(九〇一)

丹鉛総録 たんえんそうろく 二七卷。㊿楊慎(一四八八—一五五九年)明の学者・文学者。字は用修、号は升庵。㊽門人梁佐が著者の諸録を合して総録と名づけ、天文・地理・時序から怪異・身体・詩話・瑣語まで二六類に分けたもの。

譚海 たんかい 四卷二冊。㊾依田学海(一八三三—一九〇九年)明治期の演劇評論家・劇作家・小説家。本名は百川、別号は柳蔭など。㊿鳳文館、明治一七(二八七五)年。博文館、明治二五—二六(一八八二—三)年、四冊(寸珍百種)第一六一—一九編

耽奇漫録 たんきまんろく 二〇集二〇冊。㊿滝沢馬琴(一七七七一—一八四八年)江戸後期の戯作者。名は解、字は瑣吉。馬琴は号、別号は曲亭/山崎美茂(二七九六—一八五六年)江戸後期の雑学者。字は久卿、号は北峰・好問堂・三養居など。㊽文政七—八(一八二四—二五)年。㊾考证隨筆。耽奇会

という好事の者の集まりで、会員各自所蔵の珍品・奇物を持ち寄り、展覧・批評したその図と考説とを集録し、各会員に回覧したもの。②『日本隨筆大成』新版一期別巻(旧版一期一、二)。③『続隨筆文学選集』一一六。

丹水子 たんすいし 二巻二冊。④名古屋玄医(一六二八—九六年)江戸前期の医者。字は閔甫・富潤、別号は宜春庵・桐溪。⑤貞享四(一六八七)年自序。⑥同五(一六八八)年。⑦医学。⑧『日本哲学全書』七。

象伝 たんでん→易経 えききょう

談鋒資銳 たんぼうしえい 二巻二冊。⑨荒井晴湖(未詳)江戸後期の儒学者。名は絳行、字は堯民。⑩『文政二(一八二

九年序・跋。⑪古今内外の隨筆中より選抄し、その要点を記して評論したもの。また、小説類の奇事・奇談なども載せている。⑫『影印日本隨筆集成』八。

(ち)

智恵鑑 ちえかがみ 一〇巻一〇冊。⑬辻原元甫(未詳)。⑭『智恵鑑図会』。⑮『万治三(一六六〇)年跋。⑯漢籍から中国の

故事を選び、上智・明智・察智・胆智・術智・捷智・語智・兵智・閔智・雜智の一〇部に分けて諺解したもの。絵入り。⑰『近世文学未刊本叢書』仮名草子篇。

智覚禅師伝 ちかくぜんしでん 未詳。

竹窓三筆 ちくそうさんびつ ⑱『竹窓隨筆』の巻三のこと。

↓竹窓隨筆。

竹窓隨筆 ちくそうずいひつ 三巻三冊。⑲株宏(未詳)明の高僧。号は蓮池。蓮池大師・雲棲大師と称される。⑳承応二(一六五三年)。㉑卷二『竹窓隨筆』、卷二『竹窓二筆』、卷三『竹窓三筆』から成る。「隨筆」は儒釈和会・鬼神・生死根本など一四七項、「二筆」は極楽世界・出家陰陽など一二八項、「三筆」は肇論・仏性・心意識など一二二項の全三八七項から成っている。㉒『哲学堂文庫』。

痴談 ちだん→静軒痴談 せいけんちだん
茶摘集 ちやつみしゅう 未詳。

中央新聞 ちゅうおうしんぶん 日刊。東京、中央新聞社。明治二四(一八九二年)八月一六日、「東京中新聞」を改題・

追号し、大正一三(一九二四年)五月三一日まで継続した。中華事始 ちゅうかことはじめ 六巻三冊。㉓貝原好古(一

六六四—一七〇〇年)江戸前期の儒学者。字は敏夫、号は耻軒、好古は名、「よしひさ」とも読む。㉔『漢事始』。㉕『元禄九

(一六九六)年自跋。㉖同一年。㉗中国の事物などの起源について記した百科事典。㉘『益軒全集』一。

註画讀 ちゅうががさん→日蓮上人註画讀 にちれんしよ
うにんちゅうがさん

忠孝活論 ちゅうこうかつろん 一冊。㉙井上円了(一八五

八一—一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育家。号は甫水。不思議庵主人と称す。東京、哲学書院、明治二六(一八九三年)、九八頁。㉚日本固有のものとしての「活物的」な忠孝を明らかにし、基礎づけようとしたもの。

中荒経 ちゆうこうききょう 未詳。

中古叢書 ちゆうこそうしよ 一四九冊・目錄一冊。

中庸 ちゆうよう 一卷。㊦子思(前四八三?—前四〇二?)

年中国古代の思想家。名は伋、字思は字。孔子の孫。㊧戰

国時代?。㊨『礼記』の一篇を独立させ、四書の一つとした。

中道の徳を説き、儒教の教理を示している。㊩『新釈漢文大

系二』、『全釈漢文大系』三。

張子正蒙 ちようしせいもう→正蒙 せいもう

長秋記 ちようしゅうき ㊦源師時(〇七七—一三六

年平安後期の公卿。㊧『權大夫記』、『水日記』、『師時記』。

㊨權中納言源師時の日記。現存するのは天永二(一一二)年

から保延二(一一三六)年までの年次がある。㊩『史料大成』六

一七。

長寿食事戒 ちようじゆしよくじかい 一冊。㊦高井蘭山

(一七六二—一八三八年)江戸後期の戯作者。名は伴寛、字は

思明(子明とも)、別号は三遷・晒我・宝雪庵。㊧『無病長寿

食事戒』、『食事戒』。㊨『古食を以て病を治る事』婦人妊

娠食物の禁。『諸食喰合品目』など、食と病に関して記した

もの。㊩『哲学堂文庫』。

朝鮮征伐記 ちようせんせいばつき→絵本朝鮮征伐記

えほんちようせんせいばつき

長命衛生論 ちようめいせいせいろん 三卷三冊。㊦本井子

承(未詳)江戸中期の医者。子承は名。㊧『文化一〇(一八一

三)年。㊨『食養生心得の事』など、養生・長命についての心

得を記したものの。㊩『日本衛生文庫』四。

長明発心集 ちようめいほっしんしゅう→発心集 ほっ

しんしゅう

朝野群載 ちようやぐんさい 三〇卷。㊦編・三善為康(

〇四九五)——一三九九年)平安後期の文人。㊧永久四(一一

一六)年自序。㊨朝野の詩文および雑文を集めたもの。㊩『古

簡集影』六一七(卷一)。㊦改定 史籍集覽』一八、『新訂増補

国史大系』。

朝野新聞 ちようやしんぶん 日刊。東京、朝野新聞社。明

治五(一八七二)年一月三日創刊の『公文通誌』を同七年九

月二四日、『朝野新聞』と改題した。明治二六(一八九三)年一

月一九日廃刊した。㊨明治時代の政論新聞。

朝野僉載 ちようやせんさい 六卷。㊦張鷟(六六〇?—七

四〇?)年唐の文学者。字は文成、号は浮休子。㊨原本は二

〇卷・補遺三卷であるが、元・明以後散逸した。隋・唐代の

朝野の遺聞で、怪異譚などの記事もある。㊩『古今説海』一

二、『五朝小説』七、『説郭』四八、『続百川学海』二二。

著作堂一夕話 ちよさくどういっせきわ 三卷三冊。㊦滝

沢馬琴(一七六七—一八四八年)江戸後期の戯作者。名は解、

字は瑣吉、馬琴は号、別号は曲亭・著作堂主人・養笠魚隠な

ど。㊧『曲亭漫筆』、『養笠雨談』。㊨享和三(一八〇三)年成

稿。㊩同四年。㊨享和二年夏、京畿に遊歴した際に見聞し

た、古人の伝記・墓誌・異聞・珍説などを漫録したもの。図

版入り、全二〇条から成る。㊩『温知叢書』九、『日本随筆全

集二、『日本隨筆大成』新版一期一〇(旧版一期五)

樗山漫筆 ちよざんまんびつ 未詳。

鎮火用心車 ちんかようじんぐるま 三卷三冊。⑤南極齋

(未詳)。⑥(昭和)明和三(一七六六)年。⑦(昭和)火災についての心得を

記したものの。⑧『日本教育文庫』訓誡篇』下。

珍奇物語 ちんきものがたり ⑤(昭和)東江楼主人(未詳)。⑥(昭和)董

蒙弁惑珍奇物語』初編。東江楼刊、明治五(一八七二)年、

和二冊(上二三、下一五丁)。二編の表題は『天変奇談』、明治

六(一八七三)年、二冊(上三三、中・下二二丁)

(C)

通雅 つうが 五二卷。⑤(昭和)方以智(一六一一—一七一一年)明末・

清初期の学者。字は密之、号は鹿起。⑥(昭和)類書。『爾雅』の体裁

にならって、名物・象数・訓詁・音声などについて四四門に

分けて考証したもの。⑦(昭和)方以智全書(上海古籍出版社、一

九八五年)

通書大全 つうしよたいぜん 未詳。

通俗五雜俎 つうぞくござつそ 五卷五冊。⑤(昭和)謝肇淛(未

詳)明の詩人・隨筆家。⑥(昭和)田中夢外。⑦(昭和)天保一四(一八四三)

年。⑧(昭和)謝肇淛の『五雜俎』を和解して初学の人が便利に用いら

れるようにしたもの。『水月猴話』の改題本。⑨(昭和)哲学堂文庫。

通俗三才諸神本紀 つうぞくさんさいしよじんほんぎ 五

卷五冊。⑤(昭和)寺島良安(未詳)江戸中期の医者。字は尚順、号

は杏林堂。⑥『三才諸神本紀』。⑦(昭和)享保八(一七二三)年自

序。⑧(昭和)神道。⑨(昭和)哲学堂文庫。

通俗哲学講義録 つうぞくてつがくこうぎろく 全二四冊。

哲学館発行。⑤(昭和)明治三四(一九〇一)年十一月一〇日から明治

三五年十一月一〇日までの一年間、一・二号を一冊とし四八

号二四冊を発行した。哲学、心理学、教育学、宗教学、シナ

哲学、倫理学、論理学、仏教哲学など、哲学関連学科の大意

を平易にだれにでも理解できるように述べたもの。

通俗和漢雑話 つうぞくわかんざつわ 五卷三冊。⑤(昭和)大江

文坡(?—一七九〇年)江戸中期の説本作者・神道家。名は匡

弼、号は菊丘臥山人・臥仙人など、文坡は字／画・下河辺拾

水。⑥(昭和)寛政七(一七九五)年。⑦(昭和)和漢のさまざまな奇話を集

めたもの。絵入り。⑧(昭和)哲学堂文庫。

通变亀鑿 つうへんきかん 一冊。⑤(昭和)未詳。⑥(昭和)『清明通变亀

鑿』。⑦(昭和)明和二(一七六五)年。⑧(昭和)占卜。⑨(昭和)京都大学。

通歴 つうれき 一〇卷または一五卷。⑤(昭和)馬総(未詳)唐の人。

伝本は『通紀』に作る。

通鑑 つがん→資治通鑑 しじつがん

通鑑外紀 つがんがいき 一〇卷・目錄五卷。⑤(昭和)劉恕(一〇

三二—一七八年)北宋の学者。字は道原。⑥(昭和)伏羲から周の威烈

王二三年までの史実を編年体で記したもの。

撞賢木 つきさかき 五卷五冊。⑤(昭和)鈴木雅之(一八三七—七

一年)幕末・明治初期の国学者・神道家。穂積氏を称す。別

名は昌之、号は霞山・霞崖・霞岳など。⑥(昭和)古道説を述べた

書。天神のおこなわれる生成の道の根本は君・親・国の三つ

で、それに神恩を加えたものが四恩で、これを離れては何も存在しないとする。④『やまと叢誌』。

通典 つてん 二〇〇巻。⑤杜佑(七三五—八一二年)唐中期の政治家・学者。⑥食貨・選挙・職官・礼・楽・兵・刑・辺防の八門に分けて、上は黄虞にさかのぼり、下は唐の天寶にいたるまでの政典を記している。

徒然草 つれづれぐさ 二巻二冊。⑦吉田兼好(一二八三?—一三五〇?年)鎌倉末・南北朝期の歌人・隠者。⑧慶長一八(一六一三)年古活字版。⑨随筆。無常観を根底に感興のおもむくままに、人間、色欲、酒食、友人、言葉、死など、さまざまな主題をめぐって自由に記したもの。⑩『古典文庫』、『日本古典全集』二期、『徒然草』昭和九年、『つれづれぐさ』(昭和八年)、『つれづれぐさ種』(昭和二六年)。⑪『岩波文庫』、『角川文庫』、『校註日本文学叢書』一一、『新釈日本文学叢書』五、『日本古典全書』、『日本古典文学大系』三〇、『日本文学全書』一、『有朋堂文庫』。

〔七〕

帝王世紀 ていおうせいき 一卷。⑫皇甫謐(二一五—二八二年)西晋の学者。字は士安、号は玄晏先生。⑬『帝王代記』。⑭上代から漢魏までの帝王について記したものの。散逸して諸書に散見するだけである。⑮『説郛』五九。

庭訓往来 ていきんおうらい 一冊。⑯未詳。⑰南北朝後期ないし室町初期。⑱慶長四(一五九九)年。⑲往来物。手紙を

一年一二月分に配し、一カ月往返二通ずつ計二四通と、閏八月の書状一通を加えた計二五通から構成された手紙の模範文で、手習いの教科書。当時の武家の社会生活上、心得ておかなければならない諸種の知識と必要な語彙が網羅されている。⑳『和漢名家習字本大成』三四。㉑『国民思想叢書』民衆篇。『統群書類従』一三下、『日本教育文庫』教科書篇。『日本教科書大系』往来編三、『日本経済大典』二、『日本精神文獻叢書』二五。

提醒紀談 ていせいきだん 五巻五冊。㉒山崎美茂(一七九

六一—一八五六年)江戸後期の雑学者。字は久卿、号は北峰・好問堂・三養居/画・佐竹永海。㉓嘉永三(一八五〇)年。

④慶長・元和以来の諸家の文藻や公私の群籍から、嘉言・善行・奇聞・珍説などを集録したもの。全一〇五項から成る。

⑤『統随筆文学選集』一、『日本随筆全集』六、『日本随筆大成』新版二期二(旧版二期一)

鼎足論 ていそくろん 四巻四冊。⑥大我(一七〇九—一八二

年)江戸中期の浄土宗の僧。字は絶外、号は孤立道人・夢庵など。⑦『教則三条 鼎足論』。⑧寛延四(一七五二)年序。⑨

文政四(一八二二)年。⑩神・儒・仏・雜の四巻に分けて、それぞれ三教の関係において述べ、三教一致の論を展開し、三教輔翼して国の基となるべしと主張している。⑪『説教要集』一—四、『日本思想闘争史料』五。

哲学会雑誌 てつがくかいざっし 東京帝国大学文学部哲学

会編 哲学会事務所。一冊一号(明治二〇(一八八七)年二月

一六冊六三号(明治二五)一八九二年五月。七冊六四号(明治二五年六月)から『哲学雑誌』(哲学会編)として継承される。

④日本最初の哲学専門の雑誌。

哲学館講義録 てつがくかんこうぎろく ④哲学館発行の講義録。通信教育生のために哲学館における講義内容を筆記し、一年三六回に分けて発行したもの。明治二二(一八八八)年一月八日に第一号が発行され、以後、種々の変遷を経ながら、明治三六(一九〇三年)まで発行された。特に明治二六(一八九三年)一月五日から明治二七年一〇月二〇日まで、「第七学年度妖怪学」として『哲学館講義録』が発行されたので、従来の講義録は以後、『哲学館正科講義録』と改題し、さらに『高等学科講義録』と改題して発行された。

哲学雑誌 てつがくざっし ↓ 哲学会雑誌 てつがくかいざっし

輟耕録 てつこうろく 三〇巻。⑤陶宗儀(一三一六—一六九九年)元末・明初の文人。字は九成、号は南村。④元代の法制および至正年間(一三四一—一六七年)の東南の兵乱を詳記し、また風俗・戯曲など元代社会の多様な実情を伝えている。⑤

『四部叢刊三編』、『津逮秘書』九、『和刻本漢籍隨筆集』二。

天官書 てんかんしょ ④『史記』の編名。星座を人間社会の組織に擬して、五行運行の知識をもとに、吉凶禍福などのことを記した占星術の書。

転経行道願往生浄土法事讃 てんぎようきようどうがんおうじょうじょうとほうじざん 二巻。⑥善導(六一三—一六

八一年)中国浄土教の大成者。⑦『浄土法事讃』、『安樂行道転経願往生浄土法事讃』、『法事讃』。④願生浄土のための法事供養の儀則を述べたもの。⑤『大正新脩大藏経』四七(一九七九)天狗髑髏鑑定縁記 てんぐしやれこうべめききえんぎ ↓ 風来六々部集 ふうらいろくろくぶしゅう

天狗説 てんぐせつ 一冊。⑥荻生徂徠(一六六六—一七二八年)江戸中期の儒学者。名は双松、字は茂卿、徂徠は号、別号は護園、本姓の物部氏をとって物徂徠・物茂卿とも称す。⑦『徂徠先生天狗説』。⑧『享保一九(一七三四)年。④天狗についての小論。⑤哲学堂文庫。

天狗賦 てんぐふ ⑥杜甫(七一—七七〇年)唐の詩人。字は子美、号は少陵。

天狗名義考 てんぐめいぎこう 一冊。⑥妙竜(未詳)。江戸中・後期の真言宗の僧。字は諦忍、号は雲蓮社・空華。④『宝暦四(一七五四)年。④天狗の名義に関することを和漢古今の書より引き、それを評したもの。⑤『医聖堂叢書』。⑥『未刊稀観書叢刊』一。

天経或問註解 てんけいわくもんちゅうかい 序巻一卷・函巻二巻三冊。⑥入江東阿(一六九九—一七七三年)江戸中期の和算家・軍学者。名は敬善・修敬・脩、字は惺叔・君義・保叔、別号は竜渚・寧泉。④『寛延三(一七五〇)年。④張昌亮の『天経或問』の注釈書。⑤哲学堂文庫。

天元二十八宿指南 てんげんにじゅうはつしゆくしなん ⑥未詳。④占卜。

天元二十八宿指南 てんげんにじゅうはつしゆくしなん

天台往生験記 てんじくおうじようげんき 一冊。㊦伝世

親(未詳)。㊧鳩摩摩羅什(クマラージヴァ、三四四—四三二年)東晋代の僧・大訳経家。㊨『天台往生本記』、『天台往生伝』。㊩寛永六(一六二九)年。㊪『統浄土宗全書』一六。

伝習録 てんしゅうろく 三卷。㊫王守仁(一四七二—一五

二八年)明の哲学者・政治家。字は伯安、号は陽明。㊬王陽明の語録で、王陽明とその門人たちとの問答および書簡を、門人の徐愛らが編集したもの。王陽明の心即理・知行合一・致良知の三条に要約される陽明学の精髓が凝縮してある。㊭

『岩波文庫』、『新釈漢文大系』一三。

天則 てんそく 月刊。哲学書院。創刊・第一編第一号明治

二二(一八八九)年三月一七日—終刊・第九編第六号(明治二九(一八九六)年六月一日)。㊮哲学研究会(会長・加藤弘之、副会長・井上円了、哲学館内に設置)および哲学館の機関誌。第一編第一号から第二編第四号までは加藤弘之の個人誌。第三編第一号(明治二三年七月一七日)からは哲学研究会、明治二四年四月からは哲学館の機関誌となり、明治二七年三月以降は機関誌ではなく一般の雑誌として発行された。

天台名目類聚鈔 てんだいみょうもくくるいじゅうしょう

七卷一三冊。㊯貞舜(一三三四—一四二二年)室町時代の天台宗の僧。㊰七帖見聞、『天台七帖見聞』。㊱応永九(一四〇二年)ころ。㊲元和四(一六一八)年古活字版。㊳仏教の起

こる由来から、諸宗のこと、荘老、神家を説き、天台宗に入り、藏通別円の四教へと説いている。㊴『天台宗全書』二二。

天体論 てんたいろん ㊵カント(Kant, I. 一七二四—一八〇

四年)ドイツの哲学者。㊶カント・ラプラスの星雲説といわれる理論を提唱している。〔原書〕Allgemeine Naturschichte und Theorie des Himmels, 1755.

天地瑞祥志 てんちすいしょうし ㊷未詳。㊸天文。㊹金沢

市立図書館加越能文庫(写本)

天地万物造化論 てんちばんぶつぞうからん 一冊。㊺王柏(未詳)宋の学者。㊻万物の根底をたずねて造化の秘奥を明らかにしたもの。㊼哲学堂文庫。

天中記 てんちゅうき 六〇巻。㊽陳耀文(未詳)明の人。字

は晦伯。㊾乾坤・歳時・律曆・地理・帝王・都邑・人倫・身体・人事・職官・釈教・経伝・文房・技芸・礼楽・飲食・衣服・樹木・草花・虫魚甲介・鳥・獸に分類し、根拠と弁証を付している。

天柱五嶽余論 てんちゅうごがくよろん 二巻一冊。㊿平

田篤胤(一七七六—一八四三年)江戸後期の国学者。㊽『天柱五嶽考』。㊾文政二(一八一九)年。㊿中国古典の『天柱五嶽』を論究し、天柱とは天瓊矛であるとして、五嶽のうち、中嶽と東嶽とを日本国内に、南嶽とトルコに、北嶽をカリフォルニアに擬定したもの。㊽『新修平田篤胤全集』八、『平田篤胤全集』一四(平田学会)、『平田篤胤全集』七(内外書籍)、『平田篤胤叢書』乾。

天朝無窮曆 てんちようむきゆうれき 六巻・付録一卷七

冊。㊾平田篤胤(一七七六—一八四三年)江戸後期の国学者。

④天保八(一八三七)年自跋。⑤日本固有曆の成立を論じたもので、『日本書紀』の紀年は神代以来の真曆によったものとする。⑥『新修平田篤胤全集』一三・補三。⑦『平田篤胤全集』

一一(平田学会)、『平田篤胤叢書』坤、『やまと叢誌』。

天地麗気記 てんちれいきき ↓ 麗気記 れいきき

天地麗気府録 てんちれいききふろく ↓ 麗気府録 れいききふろく

天地或問珍 てんちわくもんちん ↓ 乗燭或問珍 へいしよくわくもんちん

伝灯 でんとう 月刊のち半月刊。京都、真言宗伝灯会。明治二二(一八九〇)年一月創刊。⑤仏教雑誌。

伝灯録 でんとうろく ↓ 景德伝灯録 けいとくでんとうろく

天変地異 てんべんちい ⑥小幡篤次郎(一八四一—一九〇五年)明治期の洋学者・実業家。慶應義塾刊、明治元(一八六八)年、和二七丁。⑦雷・地震・虹霓・陰火など、卑近な自然現象についてやさしく解説した啓蒙的な書。

天変地妖決疑弁蒙 てんべんちようけつきべんもう ↓ 決疑弁蒙 けつきべんもう

天保大雑書 てんぼうおおざつしよ 一冊。⑧山田家山子(未詳)。④天保八(一八三七)年。⑤曆。⑥哲学堂文庫。

↓大雑書。

電報新聞 でんぼうしんぶん 日刊。東京、電報新聞社。明治三六(一九〇三)年一月二三日創刊。明治三九年六月、

『大阪毎日新聞』に売却し、同年二月二日、『毎日電報』と改題、明治四四(一九一一年)三月、『東京日日新聞』に合併された。④時事。おもな関係者―渡辺千冬・茅原華山。

伝法智恵の海 でんぼうちえのうみ 未詳。

転法輪論 てんぼうりんろん 未詳。

天文義論 てんもんぎろん 二卷二冊。⑨西川如見(一六四八—一七二四年)江戸前・中期の天文曆算家・地理学者。名は忠英、別号は恕軒・求林齋など。⑩『両儀集説外記』天文義論。④正徳二(一七一二年)。⑤天文学。実証主義的な見地から天文学の問題を展開し、星列から人間の吉凶を判断する迷妄を打破している。⑥『西川如見遺書』二、『日本哲学全書』八。

天文志 てんもんし ④『漢書』の「志」の一つ。太陽・月・星辰の「天文」現象と、風・雲・雨・露・霜・雪などの「地文」現象を記録している。 ↓ 漢書。

天文俗談 てんもんぞくだん 五卷五冊。⑥西村遠里(一七一八—一八七七年)江戸中期の曆算家。名は得一、別号は得一堂・居行。④天文や曆に関する俗説について述べたもの。⑤哲学堂文庫。

天文要録祥瑞図 てんもんようろくしやうずいず 未詳。

〔と〕

東奥日報 どうおうにつほう 日刊。青森、東奥日報社。明治二二(一八八八)年二月六日創刊して現在にいたる。おも

な関係者―菊池九郎。

東海一瀛集 とうかいいちおうしゅう 五卷。㊦四月(二三

〇〇―七五年)南北朝時代五山の詩文僧。号は中正子・中正叟・東海一瀛子。㊧『中叡和尚東海一瀛集』、『中叡集』。㊨明和元(二七六四)年。㊩詩文集。卷一に古詩・律詩・絶句・

贊、卷二に疏・説・上梁文・銘、卷三に表・書・記・論・雜文・祭文、卷四に「中正子」一〇編・自跋、卷五に自歴譜・東陽徳輝などの諸偈を取る。㊪『五山文学全集』二。

東海談 とうかいだん 二卷一冊。㊫篠崎維章(未詳)。㊬元文五(二七四〇)年。

東海道名所図会 とうかいどうめいしよえ 六卷六冊。

㊭編・秋里籬島(？―一八三〇?年)江戸後期の読本作者・俳人。姓は池田、名は舜福、字は湘夕、秋里籬島は号、別号は籬島軒/画・北尾政美(蕙齋)・竹原春泉など。㊮寛政九(一七九七)年。㊯関宿から品川までの、宿駅・神社・仏閣・名所・旧跡などを図会したもの。㊰『東海道名所図会』(明治三五年)。㊱『藝文庫』、『大日本名所図会』、『日本図会全集』一期五・六。

桃花源記 とうかげんき ㊲陶淵明(三六五―四二七年)東晋

末・宋初の詩人。名は潜、淵明は字。㊳桃花源説話を素材に詩を詠じ、さらに詩の意を明らかにするためにそれを文につづり、詩に冠して詩の序とし、それを独立させて「記」としたものの。陶淵明その人の世界を言いあらわしたものである。

桃華薬葉 とうかすいよう 一卷。㊴一条兼良(一四〇二―

八一年)室町時代の公卿・学者。桃華老人ともいう。㊵有職故実。装束など一条家の故実を詳説している。代々相伝の記録・文書類の目録、一条家の門跡寺院などの由緒・家領などをあげて、一条冬良に与える遺戒の書として記したものの。㊶

『改定 史籍集覧』二七、『群書類従』雑。

東観漢記 とうかんかんき 二四卷。㊷班固(三二―九二年)

後漢の歴史家。字は孟堅/その他著。㊸東漢明帝以後の雜記を東観において纂修したもの。後漢の明帝のときに纂修がはじまり、霊帝の熹平(二七二―一七八)年には一四三卷に達したが、その後散逸し、清の乾隆(一七三六―一七九五年)中、『永

樂大典』により、その欠を補って二四卷とした。著者は他に劉珍、辺韶、蔡邕など数十人におよんでいる。㊹『武英殿聚

珍版全集』九三―九六、『湖北先正遺書』二四―二七。

陶宮学軌範 とうきゆうがくきはん ㊸川瀬勝(未詳)。巖々

堂刊、明治二五(一八九二年)、七一頁。㊹占卜。

陶宮学秘書 とうきゆうがくひしょ ㊸川瀬勝(未詳)。川瀬

勝刊、明治二四(一八九二年)、一四頁。㊹占卜。初伝・中

伝・奥伝に分けて、陶宮学による吉凶禍福・運氣・病症などを説明している。

東京曙新聞 とうきようあけぼのしんぶん 日刊。東京、曙

新聞社。明治八(一八七五)年六月二日発刊し、明治一二(一八七九)年九月三〇日廃刊した。前史は明治四(一八七一)年五月に創刊された『新聞雑誌』を明治八年一月二日、『あけほの』と改題・追号して、同年六月二日さらに『東京曙新聞』と

改題したものの。また廃刊後、朝陽社が同じ紙名で明治一二年一〇月一日発行、明治一五年二月二八日終刊となり、以後は『東洋新報』と改題した。(内時事)。

東京朝日新聞 とうきょうあさひしんぶん 日刊。東京、

東京朝日新聞社。明治二二(一八八八)年七月一〇日、星亨の『めさまし新聞』(明治二〇年四月一日、『燈新聞』を改題・追号)を買収して改題・追号した。昭和一五(一九四〇)年九月一日、『朝日新聞』(東京)と改題・追号した。(内時事。おもな関係者―村上竜平・上野精一)。

東京医学会雑誌 とうきょういがくかいざっし (内明治二〇(一八八七)年四月創刊の医学雑誌。東京医学会事務所発行。五八卷一〇号(昭和一九年一〇月)以後、『東京医学雑誌』、『東京医学』と改題した)。

東京新聞 とうきょうしんぶん 日刊。東京、東京新聞社。明治一八(一八九五)年二月一五日、『めさまし新聞』(創刊明治二六年一月一五日。日刊、東京、めさまし新聞社)を改題・追号した)。

東京人類学会雑誌 とうきょうじんるいがつかいざっし 東京人類学会。明治二〇(一八八七年八月、『東京人類学会報告』(明治一九(一八八六)年六月、『人類学会報告』(明治一九年二月創刊)を改題して巻次を継承)を改題して巻次を継承(第二卷第一八号)し、明治四四(一九一一年三月(第二六卷第三〇〇号)まで継続した。四月から『人類学雑誌』と改題し、巻次(第二七卷第一号)を継承して現在にいたる。(内明治一七

(一八八四)年に坪井正五郎らによつて組織された東京人類学会の機関誌。人体解剖・遺伝・生理・古器物・家族・宗教・言語・風俗など多様な内容を含む)。

東京日日新聞 とうきょうにちにちしんぶん 日刊。東京、

日報社。明治五(一八七二年二月二一日創刊、明治七(一八七四)年六月四日まで『官許東京日日新聞』として発行し、発行所も東京日日新聞社に変更した。昭和一八(一九四三年一月一日、東京・大阪の紙名を統一して『毎日新聞』と改題した)。(内時事。東京で最初の日刊紙。おもな関係者―篠野伝平・西田伝助・落合芳幾・岸田吟香・福地源一郎(桜痴)。

東具記 とうぐき 未詳)。

同契纂異 どうけいさんい (著清水順蔵(未詳)江戸後期の本草家。号は東泉。(内文化元(一八〇四)年。(内怪異談。卷一「枯木生蓮華」など二〇話、卷二「狐神」など一〇話、卷三「神以物借人」など八話の全二八話から成る。(内哲学堂文庫(写本。三卷一冊)。

唐才子伝 とうさいしでん 一〇卷。(著辛文房(未詳)。(内唐代(五代を含む)の詩人の伝記集。専伝二七八人、付伝二二〇人を収録している)。

桃山人夜話 とうさんじんやわー 絵本百物語 えほんひ

やくものがたり

童子訓 どうじくくん→和俗童子訓 わぞくどうじくくん

唐詩選 とうしせん 七卷。(編李攀竜(一五一四―一七〇

年)明の文人。字は子鱗。(内季の中国歴代の詩を編した『古今

詩刪しきんのなから唐の部の詩を抄録して、書肆が作りあげたものという。④五言古詩・七言古詩・五言律詩・五言排律・七言律詩・五言絶句・七言絶句の計四六五首、一二八人の詩人の作品を収めている。⑤『漢詩大系』、『新釈漢文大系』一

九。

唐書 とうじょ ↓ 新唐書 しんとうじょ

洞上伽藍雜記 とうじょうがらんざつき 一冊。⑥慧璞えぼく？

一七八二年)江戸中期の曹洞宗の僧。号は荆巖、不琢ともいう。⑦『伽藍雜記』。⑧明和七(一七七〇)年序。⑨安永四(一七七五年)。⑩曹洞宗寺院の伽藍・仏像・器具・行式などについて述べたもの。⑪『曹洞宗全書』清規。

痘疹心印 とうしんしんいん 未詳。

当世両面鏡 とうせいりょうめんきょう 五卷五冊。⑫未詳。⑬怪談。卷一「爐火もろびろを煉たく付る腰本が訴人そにん」から卷五「艶女えんじょに吹せし玉簫ぎょくしょうの音色」まで、一六話から成る。絵入り。⑭

哲学堂文庫。

唐宋八大家 とうそうはちだいか ↓ 唐宋八大家文鈔

とうそうはちだいかぶんしょう

唐宋八大家文鈔 とうそうはちだいかぶんしょう 一六四

卷。⑮茅坤ぼうこん(一五二一—一六〇一年)明の文学者。字は順甫、

号は鹿門。⑯韓愈文二六卷、柳宗元文一二卷、歐陽脩文三二

卷、付五代史鈔二〇卷、王安石文一六卷、曾鞏文一〇卷、蘇

洵文一〇卷、蘇軾文二八卷、蘇轍文二〇卷。⑰『正誼堂全書』

一四九—一五五。『増評唐宋八大家文鈔』明治二年)

登壇必究 とうだんひつきゅう 未詳。

董仲舒伝 とうちゅうじよでん ⑱董仲舒(前一七九—前一

〇四年、漢の学者の伝。『史記』二二一卷、『漢書』五六卷に記されている。

桃洞遺筆 とうどういひつ 二編六卷・付録二卷六冊。⑲小

原桃洞はらとうどう(一七四六—一八二五年)江戸後期の医者・本草家。名

は良貴／編・小原蘭峽おはらんがた(一七九七—一八五四年)江戸後期の

医者・本草家。名は良直／画・塩路鶴堂。⑳初編天保四

(一八三三年)、二編嘉永三(一八五〇)年。㉑卷一、燕子花・

黒柿など二七項、卷二、鬼面蟹・木葉石など一九項、卷三、

蓑衣虫・都鳥など二三項、卷四、松虫・山椒魚など二二項、

卷五、一年栗など二五項、卷六、天狗魚など二七項を、言葉

の由来などについて考証したもの。絵入り。㉒哲学堂文庫。

唐土訓蒙図彙 とうどきんもうざい 一四卷・序卷一卷・

目録一卷一五冊。㉓平住専庵ひらすみせんあん(未詳)江戸中期の医者・儒学

者。名は周道、字は専安、別号は静齋・橘墩など／画・檜村

有税子。㉔『唐土訓蒙図』、『唐土訓蒙図会』。㉕(享保四(一

七一九)年。㉖天文・地理・宮室・人物・器用・草木・禽

獸・魚介・虫の九門に分け、中国の諸種の事物を図解してい

る。㉗哲学堂文庫(一四卷九冊)

動物知力論 どうぶつちりよくろん ㉘ローマニス(未詳)。

動物電気論 どうぶつでんきろん ㉙メスマー。㉚鈴木万次

郎。岩藤錠太郎刊、明治一八(一八八五年)、四二頁。㉛

東方朔伝 とうぼうさくでん 八卷。㉜郭憲かくけん(漢)(未詳)。㉝

東方朔(生没年不詳)の伝記。

東方朔秘伝置文 どうぼうさくひでんおきぶみ 一冊。⑥未詳。⑦吉凶占 東方朔秘伝置文。⑧貞享元(一六八四年)

序。⑨貞享三(一六八六年)。⑩日輪・星・雲・虹など、天文によって吉凶を占う。⑪『東方朔秘伝置文』(明治一九年)

東北新聞 どうほくしんぶん 日刊。仙台、東北新聞社。明治二五(一八九二年)一月四日創刊。⑫時事。

童蒙古事談 どうもうこじだん 四卷四冊。⑬恒亭主人未詳。⑭『童蒙故事談』。⑮正徳元(一七一一年)。⑯さまざ

まな教訓を述べるとともに、夢の吉凶・灯火占い・養生・保嬰・衛生など、「大雑書」のようなことも記している。⑰哲学堂文庫。

童蒙策励 どうもうさくれい 三卷二冊。⑱良運(一六三五

—一七〇四年)江戸前期の天台宗の僧。字は自証、号は月心。

⑲寛文九(一六六九年)。⑳仏教。㉑哲学堂文庫(写本)

東遊記 どうゆうき 二編一〇巻一〇冊。㉒橘南谿(一七

五三—一八〇五年)江戸中・後期の医者。名は春暉、字は恵

風、別号は梅華仙史・梅仙。㉓『諸国奇談 東遊記』。㉔前

編寛政七(一七九五)年、後編同九年。㉕医学修行のための旅

の中、北陸・奥羽・関東・東海・信濃行において見聞した奇

談・奇事・名勝・旧跡・奇人・篤行などを記したもの。㉖

『改造文庫』、『袖珍名著文庫』、『続帝國文庫』、『紀行文集』、

『日本庶民生活史料集成』二〇、『文芸叢書』一一、『有朋堂文

庫』、『東西遊記・北窓瑣談』、『東西遊記』(明治三六年)

東遊奇談 どうゆうきだん 五卷五冊。㉗一無散人(未詳)。

㉘『諸国奇談 東遊奇談』。㉙寛政一三(一八〇二年)。㉚奇

談。巻一は「甲斐の野男」上野の狼など一二話、巻二は「泣祭」草隠の術など一〇話、巻三は筑波山「漁人の辞」など一話、巻四は伊達の墨塗「天狗獵人を呵る」など一〇話、巻五は「狼戸の怪異」婦女雷を罵るなど八話から成る。絵入り。㉛哲学堂文庫。

東遊雜記 どうゆうざつき 二巻一冊。㉜福田義導(一八〇

五—一八一年)江戸後期・明治初期の真宗の僧。号は掃牛・不思議庵。㉝嘉永四(一八五一年)。㉞上巻「国王恩沢」次経説「兵道権柄」王法政論「腐儒俗難」、下巻「三世因果」為公棄私「富士曠野」五常譬説「十七憲法」経力輸贏「聴法王徳」七日並出「王礼沙弥」王壳死頭「知悪行悪」から成る。

㉟哲学堂文庫。

東臚子 どうりゅうし→橘庵漫筆 きつあんまんびつ

東洋学芸雜誌 どうようがくげいざつし 東洋学芸社。一

巻一号(明治一四(一八八二年)一〇月)創刊一四六巻八号(昭

和五(一九三〇)年一二月)終刊。三九巻四八七(大正一一(一

九二二年四月)から四〇巻五〇四号(大正一二年九月)まで

「学芸」と改題して巻次を継承し、四二巻五〇五号(大正一四

(一九二五)年五月)から復題して巻次を継承した。㊱学術誌。

おもな関係者—上田秋成・小柳津要人。

東洋心理初歩 どうようしんりしよほ ㊲雲英晃耀(未詳)。

一色村(愛知県)、雲英晃耀刊、明治一八(一八八五年)、和四

○丁。

東萊左氏博議 とうらいさしはくぎ 二五卷。著呂祖謙(一三七七八一年)宋の儒者。④『春秋左氏伝』の評論。

東萊讀書記 とうらいどくしよき 未詳。

東里新談 とうりしんだん 二卷二冊。著金丸東里(未詳)。

④『寶曆一(一七六二)年。⑤隨筆。⑥哲字堂文庫。

兔園小説 とえんしよせつ 本集二卷七冊・外集二卷一冊・別集三卷三冊・拾遺二卷二冊・余録二卷一冊。⑦編・滝

沢馬琴(一七六七—一八四八年)江戸後期の戯作者。名は解、

馬琴は号、別号は曲亭・著作堂主人・蓑笠魚隠など/その他の

編。⑧『文政八(一八二五)年。⑨隨筆。一八二四年、滝沢馬

琴・山崎美成らによつて結成された兔園會(珍談奇談を話し

合い見聞を広めるための好事家の会)会員たちが、文政八年

の正月から一二月まで毎月一回會合して、その席上で発表し

た奇事・異聞などの文稿を集めて編集したものを。「外集」は兔

園會断絶後の文政九年二月より同一〇年にいたる奇談・珍説

を筆録したもの。「拾遺」「余録」も兔園會断絶後の巷談・奇

事・異聞を集めたもの。⑩『新燕石十種』四(本集)欠。『日

本隨筆大成』新版二期一・三—五(旧版二期一—三)、『百家説

林』正編下(本集)。

遠山奇談 とおやまきだん 四卷・後編四卷八冊。著華誘居士(未詳)。

⑪『遠山著聞集』。⑫『寛政一〇(一七九八)年、後

編享和元(一八〇二)年。⑬前編は二〇章から成り、天明八

(一七八八)年の大火で類焼した東本願寺の再建のため、浜松

の齡松寺の僧七人が信濃・駿河・甲斐・遠江四国の境にある

遠山へ材木の見分けに行ったときの、山中での不思議な出来

事、珍しい鳥獸などさまざまな見聞を記録したもの。後編は

二三章から成り、三年後の遠山から信州までの伝説・古譚・

縁起などを集めたもの。⑭『日本庶民生活史料集成』一六。

讀書録 どくしよろく 一巻・続録二卷。著薛瑄(一三

八九—一四六四年)明の朱子学者。字は徳温、号は敬軒、

諡は文清。⑮『讀書』のとき、心に得るところのものを筆に従

つて記したものの。修身齊家の要道を説いている。

独断 とくだん 二卷。著蔡邕(一三二—一九二年)後漢末の

学者。字は伯喈。⑯漢の礼制・祭祀・廟制・冠制などを解説

したものの。⑰『漢魏叢書』一五、『古今逸史』四、『說郛』一一、

『唐宋叢書』一七、『百子全書』四九、『百川学海』二、『抱經樓

叢書』三一。

杜氏通典 としつてん→通典 つてん

它山石 初篇 とやまのいし 四卷四冊。著松

井羅州(一七五一—一八二二年)江戸後期の儒学者・易学者。

名は暉星(または暉晨)。⑱『它山石』。⑲『弘化二(一八四五)

年。⑳隨筆。卷二『皇国文学の紀原』から乳名に尿の字を用

ゆ)まで二四項、卷二『ん』の字から『先天、後天』まで三九

項、卷三『高麗』から『永楽銭知行』まで二六項、卷四『信長、

信玄、謙信』から『休和尚有子』まで三三項の、計一二二項

の考証。㉑『日本隨筆大成』新版二期七(旧版二期四)

豊受皇太神御鎮座本紀 とゆけこうたいじんごちんざぼん

ぎ 一卷。⑤未詳。⑥『御鎮座本紀』、『飛鳥記』、『飛鳥本記』、『上代本記』。⑦鎌倉時代初期。⑧豊受大神を中心に、天地開闢のはじめから豊受大神の所化・天照大神との関係・外宮の天鏡・相殿神・神楽などについて記したものの。⑨『新訂増補 国史大系』、『統群書類従』、『大神宮叢書』。

遁甲奇門 とんこうきもん ⑤未詳。⑥占卜。

〔な〕

内経 ないけい→黄帝内経素問 こうてい ないけいそもん

内外明鑑 ないげめいかん 三卷。⑤日道未詳。⑥万治三(一六六〇)年。⑦仏教の諸問題および仏教と儒教との関係などについて述べたもの。卷上「仏法ヲトロフルニ依テ儒学盛ト云理ノ事」など三七条、卷中「僧法アシクナルハ名利ヲ宗トスル故ノ事」など二九条、卷下「震旦へ仏法ワタラヌ前ハ儒ニテオサマリタルト云執見ヲ破ル事、付仏法ノ聖人多キ事」など二一条の計八七条から成る。⑧哲学堂文庫。

長岡日報 ながおかにっぽう 日刊。長岡、英志舎。明治四〇(一九〇七)年四月、『越佐新聞』(明治二三年)『越佐毎日新聞』を改題・追号と合併して『北越新報』と改題した。

中臣祓抄 なかとみのはらいしゅう 二卷二冊。⑤清原宣賢(かた)二四七五—一五五〇年室町後期の儒学者・侍従。号は環翠軒。⑥慶安四(一六五二)年。⑦内神・儒・仏・道の四教の調和を図った思想によって中臣祓を注解したもの。同名の書で

ほかに卜部(吉田)兼俱(二四三五一—一五二一年)室町後期の神道家のものなど数点がある。

名古屋毎日新聞 なごやまいにちしんぶん 日刊。名古屋、名古屋毎日新聞社。大正四(一九一五)年八月、『扶桑新聞』(明治二〇(一八八七)年五月創刊)を改題・追号した。

夏山閑話 なつやまかんわ→夏山雑談 なつやまざつだん

ん

夏山雑談 なつやまざつだん 五卷五冊。⑤小野高尚(一七二〇—一九九年)江戸中期の幕臣・国学者。別名は直方・高格など、号は竹叢・飯山など。⑥『夏山閑話』。⑦寛保元(一七四一)年序。⑧有職故実、語源、その他の雑説を筆録したものの。⑨『隨筆大観』二、『日本隨筆全集』二三、『日本隨筆大成』

新版二期二〇(旧版二期一〇)

南留別志 なるべし 五卷五冊。⑤荻生徂徠(二六六—一七二八年)江戸中期の儒学者。名は双松、字は茂卿、徂徠は号、別号は護園、本姓の物部氏をとって物徂徠・物茂卿とも称す。⑥『徂徠先生可成談』、『徂徠先生南留別志』、『可成談』、『なるべし』。⑦宝暦二(一七六二)年。⑧和漢の制度や地名・文章・国語など、雑多な事項について見解を述べた考証隨筆。⑨『荻生徂徠全集』五(河出書房新社)、『荻生徂徠全集』一八(みすず書房)、『日本隨筆全集』二、『日本隨筆大成』新版二期一五(旧版二期八)、『百家説林』二、同正編上、『増補纂評 なるべし』(明治二十七年)

南翁軒相法 なんおうけんそうほう 四冊。⑤水野南翁軒

(未詳)。明治二三(一八九〇)年、京都、遠藤平左衛門刊。④相法。⑤哲学堂文庫。

南海寄帰内法伝 なんかいいきまなほうでん 四卷二冊。

⑥義浄(六三三—七一三年)唐代の僧。⑦『南海寄帰伝』、『寄帰伝』、『南海伝』。⑧唐の天授二(六九二)年。⑨義浄が六七年にインドに来てから、六九五年に帰るまでの二〇数年間に

見聞したインドおよび南海諸国の仏教流行の様子や、仏教の生活様式および風俗・習慣などを記したものである。⑩『大正新脩大藏経』五四(二二五)。⑪『国訳一切経』史伝部一六。

南郭遺契 なんかくいけい→遺契 いけい

難経 なんけい 二卷。⑫扁鵲(未詳)中国戦国時代の人。姓は秦、名は越人。⑬『黄帝八十一難経』。⑭医書。

南康記 なんこうき 未詳。

南斎志 なんさいし 未詳。

南斎集 なんさいしゅう 六卷・詞二卷。⑮馬曰璐(未詳)清の人。⑯『粵雅堂叢書』一〇四—一〇六。

南史 なんし 八〇卷。⑰李延寿(未詳)唐初期の学者。⑱唐の高宗の時代。⑲正史の一。中国南朝四代一七〇年間の歴史を記したものである。本紀一〇卷、列伝七〇卷。宋・齊・梁・陳の

正史について改訂補修して成ったもの。⑳『和刻本正史』。

南史梁世祖紀 なんしりょうせいそき→南史 なんし

南齊書 なんせいしよ 五九卷。㉑蕭子顯(未詳)梁の人。

字は景陽。㉒六世紀初頭。㉓史書。本紀八卷、志一卷、列伝四〇卷。原本は六〇卷(唐代に一卷を失う)。志は礼・樂・

天文・州郡・百官・輿服・祥瑞・五行の八目から成る。㉔『和刻本正史』。

南朝紀伝 なんちようきでん→南方紀伝 なんほうきでん

南方異物志 なんぼういぶつし 未詳。

南方紀伝 なんほうきでん ⑳未詳。㉕『南朝記』、『南朝紀伝』、『南方記』。㉖通史。㉗『改定史籍集覽』三、『百万塔』。

南畝叢書 なんぼそうしよ ㉘大田南畝(二七四九—一八二三年)江戸中・後期の狂歌師・戯作者・幕臣。名は覃、別号は蜀山人・四方赤良など。㉙『寛政元(一七八九)年』。

南浦文集 なんぼぶんしゅう 三卷三冊。㉚文之玄昌(一五五—一六二〇年)安土・桃山・江戸前期の臨濟宗の学僧。号は南浦・雲興軒など。㉛『寛永二(一六二五)年古活字版』。㉜慶長九(一六〇四)年から元和年間(一六一五—一七二四年)までの自

らの漢詩文を編集したものである。㉝『薩藩叢書』明治三九年。

南畝莠言 なんぼゆうげん 二卷二冊。㉞大田南畝(二七四九—一八二三年)江戸中・後期の狂歌師・戯作者・幕臣。名

は覃、別号は蜀山人・四方赤良など。㉟『文化一四(一八一七)年』。㊱南畝が書きためた諸書の抄録から、門人の文宝亭

が抄出して一書を成したもので、漢文の書籍からの引用が多く、風俗・文学・美術・儒仏など多岐にわたっている。絵入

り。卷一・九三条、卷二・三〇条から成る。㊲『大田南畝全集』二〇、『新百家説林』三、『隨筆大観』二、『日本隨筆全集』

一五、『日本隨筆大成』新版二期二四(旧版二期一二)、『有朋

堂文庫「太田南畝集」。

南嶺子 なんれいし 四卷四冊。㊦多田南嶺(一六九八—七五〇年)江戸中期の神道家・故実家・浮世草子作者。名は義俊・政仲・義正など、別号は興先・春塘・秋斎など。㊦寛延二(一七四九)年序。㊦同三年。㊦和漢古今にわたる雑事を独自の立場から考証批判したもの。㊦『日本随筆全集』七、『日本随筆大成』新版一期一七(旧版一期九)

(二)

新潟東北日報 にいがたとうほくにっぽう 日刊。新潟、東北日報社。明治四一(一九〇八)年二月、『東北日報』(明治二一年九月一〇日、『絵入有明新聞』を改題)を改題・追号した。大正三(一九一四)年二月二〇日、『東北日報』と改題し、大正二二年三月、『郡山新聞』と改題した。

新潟毎日新聞 にいがたまいにちしんぶん 日刊。新潟、新潟毎日新聞社。明治四三(一九一〇)年三月五日創刊。昭和六一(一九四二)年八月一日、『新潟新聞』と合同して『新潟日日新聞』を創刊した。昭和一七年一月一日、『新潟日報』に統合された。

二巻鈔 にかんしょう 二巻。㊦良遍(一一九四—一二五二年)鎌倉中期の法相宗の僧。字は信願、号は蓮阿。㊦孝道国字鈔、『法相大意鈔』、『法相大乘大意鈔』、『法相二巻鈔』、『唯識大意』。㊦鎌倉時代。㊦寛永一八(一六四二)年。㊦唯識から三性・百法・四分・種子・五性・作業・受果・五位

修行の順に法相唯識の教理を述べたもの。実母のために仮名交じりの書簡体で書かれており、唯識初学者の必須の書であるという。㊦『大正新脩大藏經』七一(二三一—四)、『大日本仏教全書』大乘法相研神章、法相小部集、『日本精神文献叢書』一、『日本大藏經』法相宗章疏二、『日本哲学思想全書』九、『日本哲学全書』二、『唯識大意』(明治一八年)

二教合壁論 にきょうがつべきろん ↓ 弁断鬼神二教合壁論 べんだんきしんにきょうがつべきろん

二教論 にきょうろん ↓ 弁頭密二教論 べんけんみつにきょうろん

二十八宿一覽表 にじゅうはつしゆくいちらんひょう ㊦未詳。松崎半造刊、明治一七(一八八四)年、和一冊(折りたたみ)。㊦占卜。

日行道図解 にちがつきょうどうずげ ↓ 俱舎世間品日月行道図解 くしゃせけんぼんにちがつきょうどうずげ

日用晴雨管窺 にちようせいうかんき 一冊。㊦柵橋泥尾(未詳)江戸中期の天文家。泥尾は名、号は杏花園。㊦寛政五(一七九三)年序。㊦晴雨を占うなどの気象に関する俗説や氣象による吉凶判断などについて記したもの。㊦哲学堂文庫。

日用早覧(初編) にちようそうらん(じょへん) 未詳。

日蓮上人註画讚 にちれんしょうにんちゆうがさん 五巻一冊。㊦日澄(二四四—一一五〇)年戦国時代の日蓮宗の僧。㊦註画讚、『日蓮聖人註画讚』、『日蓮大聖人註画讚』、

一冊。㊦日澄(二四四—一一五〇)年戦国時代の日蓮宗の僧。㊦註画讚、『日蓮聖人註画讚』、『日蓮大聖人註画讚』、

『日蓮註画讃』、『絵入 日蓮一代記』、『日蓮大菩薩御一代記』。㉔未詳。㉕慶長六(一六〇一)年古活字版。㉖絵詞伝。

日蓮の生涯を絵と漢文の詞書であらわした絵巻物。原本はない。㉗『国文東方仏教叢書』一輯伝記上、『統群書類従』九輯上、『日蓮宗全書』日蓮上人伝記集。

日中行事

につちゆうぎきょうじ 一卷。㉘後醍醐天皇(一二八八—一三三九年)。㉙『内裏日中行事』、『禁中日中行事』、『禁省日中行事』。㉚禁中における一日の行事を記したものの。

㉛『群書類従』雑部、『新註皇学叢書』五、『列聖全集』。二程全書 にていぜんしよ 六八卷。㉜程頤(一一〇三—一一八五年)宋の思想家。字は伯惇、号は明道。弟の頤とあわせて

二程子といい、程朱学の創建者／程頤(一一〇三—一一〇七年)宋の思想家。字は正叔、号は伊川。㉝明の万曆三四(一六〇六)年。㉞明の徐必達が程頤・程頤の遺書を合刻したもの。

日本往生極楽記

にほんおうじょうくらくき 一冊。㉟慶滋保胤(一〇〇二—一〇〇二年)平安中期の官人・歌人・漢詩人。

㊱『日本往生記』、『日本往生伝』、『慶氏往生記』。㊲寛和二(九八六)年—永延元(九八七)年。㊳寛文九(二六六九)年。㊴

日本最初の往生伝。僧・沙弥・尼・在俗男・在俗女の順で、極楽に往生した四五人の事跡を、国史・諸人別伝・故老からの聞き書きにより集録したもの。㊵『群書類従』伝、『統浄土宗全書』六、『大日本仏教全書』六八(鈴木財団)、『日本思想大系』七、『日本往生全伝』(明治一五年)

日本往生全伝

にほんおうじょうぜんてん ㊶訂・赤松皆

恩。京都、永田文昌堂、明治一五(一八八二)年、和八冊。㊷

一、『日本往生極楽記』(慶滋保胤)、二、『統本朝往生伝』(大江匡房)、三、四、『拾遺往生伝』(三善為康)、五—七、『後拾遺往生伝』(三善為康)、八、『本朝新修往生伝』(藤原定友)。

日本王代一覽

にほんおうだいいちらん 七卷七冊。㊸林

鷲峰(一六一八—一八〇年)江戸初期の儒学者。名は恕・春勝、別号は桜峰・向陽軒など。㊹『王代一覽』。㊺慶安五(一六五二)年自跋。㊻寛文三(一六六三)年。㊼神武天皇から室町時代後期の正親町天皇にいたる年代記。㊽『日本王代一覽』(明治一八九年)

日本外史

にほんががいし 二二卷一二冊。㊾頼山陽(一七八〇—一八三二)年。江戸後期の漢詩人・儒学者。名は襄、字は

子成、別号は三十六峰外史。㊿文政一〇(一八二七)年。㊽文政二(一八一九)年。㊾源平二氏から徳川氏創業までの通史と、武家別の興亡・盛衰・政治・政策とを漢文で記した武家時代史。㊿『岩波文庫』、『大日本文庫』、『頼山陽全書』五全集上、『頼山陽名著全集』一一二、『点註標記日本外史』(明治八年)、『増補日本外史』(同九年)

日本楽府

にほんがふ 一冊。㊿頼山陽(一七八〇—一八三二年)江戸後期の漢詩人・儒学者。名は襄、字は子成、別号

は三十六峰外史。㊿文成一(一八二八)年自跋。㊿文政一三(一八三〇)年。㊿詠史詩六首。㊿『大日本思想全集』一五、『頼山陽全書』詩集。『日本楽府』(明治三、一〇、一一、一二、一九年)

日本紀 にはんぎ→日本書紀 にはんしよき

日本紀私記 にはんぎしき ⑤多人長(未詳)。⑥「日本書紀私記」、「弘仁四年私記」、「弘仁私記」。⑦弘仁三(八二二)年あるいは四年。⑧奈良時代から平安時代にかけて宮廷でおこなわれた『日本書紀』の講義の際の博士の私記。多人長のほかに、菅野高平・善淵愛成・藤原春海・矢田部公望などのもがある。⑨「新訂増補 国史大系」。

日本居家秘用 にはんきよかひよう 一二巻。⑩三宅建治(未詳)。⑪居家秘用、「国花万宝 居家秘用」。⑫享保一六

(一七三二)年序。⑬同一七年。⑭家屋・器財・衣服・飲食・天気時候・漆細工・用火・防病・用薬など、日常知らなければならぬ雑事を集録したもの。⑮国立国会図書館。

日本後記 にはんこうき 四〇巻(現存一〇巻)。⑯藤原原緒

嗣(七七四―八四三年)平安前期の公卿/その他著。⑰承和七(八四〇)年。⑱六国史の一。延暦一一(七九二)年から天長一〇(八三三)年まで、桓武・平城・嵯峨・淳和の四天皇四二年間について、編年体で記された史書。⑲「天理図書館善本叢書」。⑳「新訂増補 国史大系」、「増補 六国史」五一―六。

日本古今人物史 にはんここんじんぶつし 七巻七冊。㉑字都宮遷庵(二六三三―一七〇七年)江戸前期の儒学者。名は的、字は由的、別号は通庵・頑拙。㉒「日本古今人物史略伝」、「日本人物史」。⑳寛文八(一六六八)年序。㉓同九年。㉔坂上田村麻呂から近世初期の貞徳にいたる古今の著名人物二〇〇余名の小伝を、一三部門に分けて漢文で記したのも。

⑳哲学堂文庫。

日本歳時記 にはんさいじき 七巻四冊。㉕貝原好古(一六六四―一七〇〇)年江戸前期の儒学者。字は敏夫、号は耻軒、好古は名、「よしひさ」とも読む。㉖「重鰐日本歳時記」、「樽桑歳事記」。㉗貞享五(一六八八)年。㉘民間の年中行事を主とした生活歳時記。月ごとに日々の行事・習俗、その来由や故事などについて記し、食事・農事・養生法なども述べている。㉙「益軒全集」一、「生活の古典双書」一。

日本三代実録 にはんさんだいじつろく 五〇巻。㉚藤原時平(八七一―九〇九年)平安前期の公卿/その他著。㉛「三代実録」。㉜延喜元(九〇二)年。㉝寛文一三(一六七三)年。㉞六国史の一。天安二(八五八)年から仁和三(八八七)年まで、清和・陽成・光孝の三天皇三〇年間についての編年体的実録。㉟「本朝六国史」三一―四〇。㊱「新訂増補 国史大系」、「増補 六国史」九一―一〇。

日本私記 にはんしき→日本紀私記 にはんぎしき
日本七福神伝 にはんしちふくじんでん 一冊。㉚摩訶阿頼耶(未詳)。㉛寛文二(一六六二)年。㉜七福神の故事来歴や祭祀の祠、俗説の誤謬などを、和漢の書・仏典より考証して、解説したもの。㉝「国立国会図書館」。

日本社会事彙 にはんしゃかいじい 経済雑誌社、明治二三―二四年、二冊(上二〇七五、下二三四〇、五二頁)、第二版(明治三四―三五年、上一四六二、下二一一二頁)、第三版(同四〇―四一年、上一七二〇、下二二九〇、索引一〇八

頁)。④百科事典。大・小項目併用で、日本の政治・経済・社会・文化に関連した事項を解説したもの。五十音順に配列し、図版を使用して、資料の典拠も示している。⑤『日本社会事彙』(昭和五〇年)

日本書紀 にほんしよき 三〇巻。⑥舎人親王(六七六一七三五年)天武天皇の皇子／その他著。⑦『日本紀』。⑧養老四(七二〇)年。⑨慶長一五(一六一〇)年古活字版。⑩六国史の一。日本最初の編年体の史書。巻一・巻二を神代の上・下、巻三の神武紀以下各巻を一代または数代の天皇ごとにとまとめ、巻三〇を統紀とする。⑪『神道大系』、『天理図書館善本叢書』。⑫『新註皇学叢書』二、『新訂増補 国史大系』、『日本古典全集』三期、『日本古典全書』、『日本古典文学大系』六七六八、『増補 六国史』一一一。

日本人 にほんじん 半月刊あるいは週刊の雑誌。東京、政教社。創刊第一号は明治二二(一八八八年)四月三日に発行され、第七三号(明治二四(一八九二年)六月二日)まで継続したが、政府の弾圧により四回目的発禁となり休刊した(第一次『日本人』)。以後、代替誌として『亜細亜』(第一巻第一号(明治二四年六月二九日)―第二巻第一号(明治二六年九月一五日))が発行されたが発禁処分を受け、再び『日本人』(第二次)第一号(明治二六年一〇月一〇日)が発行され第一八号(明治二八(一八九五年)二月三日)まで続いたが、たびたび発禁処分を受けて休刊となった。『亜細亜』が第三巻第一号から第三号(明治二六年二月一日、二七年七月一〇日、二七年一〇

月二一日)まで『日本人』と並行して発行されたが廃刊となった。そして再度、『日本人』(第三次)第一号(明治二八年七月五日)が発行され、第一次『日本人』から通号で第四四九号(明治三九(一九〇六)年二月二〇日)となり、第四五〇号(明治四〇年一月一日)からは『日本及日本人』と改題され、昭和二〇(一九四五)年二月まで約二二年にわたって発行された。⑬時論。国粹保存主義を標榜した。おもな関係者―井上円了・志賀重昂・三宅雪嶺・杉浦重剛・陸羯南。

日本人物史 にほんじんぶつしー日本古今人物史 にほんこんじんぶつし

日本仏法史(標註) にほんぶつぽうし ⑭田島象二(一八五二―一九〇九年)明治期の戯作家・ジャーナリスト。潜心堂、明治一七(一八八四年)和二冊(上五二、下五六丁)

日本風土記 にほんふどきー風土記 ふどき

日本文徳天皇実録 にほんもんとくてんのうじつろく 一〇巻。⑮藤原基経(八三六―八九一年)平安前期の公卿／都良香(八三四―八七九年)平安前期の学者・文人。本名は言道／その他著。⑯『文徳天皇実録』、『文徳実録』。⑰慶長三(八七九年)。⑱六国史の一。文徳天皇一代、すなわち嘉祥三(八五〇)年から天安二(八五八)年までの九年間の実録を編年体で記した史書。⑲『新訂増補 国史大系』、『増補 六国史』七。

日本靈異記 にほんりょういき 三巻三冊。⑳景戒(未詳)。㉑『日本国現報善悪靈異記』、『本朝靈異記』、『靈異記』。㉒弘

仁年間(八一〇—二四年)。(㊦)正徳四(一七一四年)。(㊧)日本最古の仏教説話集。仏法の説く因果応報を具体的な話を通して示し、人々を教化・善導することを目的としている。説話は民間の伝承を中心に、古書や中国の書籍などから得られたものを年代を追って配列している。(㊨)『尊経閣叢刊』、『日本古典全集』二期(狩谷校斎全集)、『日本国現報善悪霊異記』(昭和九年)、『日本古典文学影印叢刊』。(㊩)『医聖堂叢書』、『角川文庫』、『群書類従』、『日本古典全書』、『日本古典文学大系』七〇、『校本日本霊異記』(佐藤謙三、昭和一八年)、『日本霊異記』(明治一四年)

烹雑の記 にませのき 二卷二冊。(㊪)滝沢馬琴(一七六七—一八四八年)江戸後期の戯作者。名は解、字は瓊吉、馬琴は号、別号は曲亭・著作堂主人・養笠魚隠など/画・柳々居辰齋など。(㊫)『烹雑乃記』。(㊬)『文化八(一八一二年)』。(㊭)考証随筆。上巻一〇種、下巻一種。「夷三郎」「天狗」などがある。絵入り。(㊮)『日本随筆全集』三、『日本随筆大成』新版一期二一(旧版一期一)、『百家説林』続編中。

如是院年代記 によぜいんねんだいき 一卷。(㊯)〔未詳〕。(㊰)未詳。(㊱)神武天皇創業より正親町天皇元年まで二二三〇年間の年代記。如是院というのは京都建仁寺の塔頭である。

(㊲)『群書類従』二六、『新校群書類従』二〇。
二礼童覧 にれいどうらん 二卷二冊。(㊳)藤井懶斎(一六一八一—一七〇九年)江戸前期の儒学者。名は臧、字は季廉、通称は玄蕃、別号は伊蒿子。(㊴)『万治三(一六六〇)年序』。(㊵)元禄

元(一六八八年)。(㊶)葬礼・祭祀の二礼について記したもの。(㊷)『哲学堂文庫』。

二六新報 にろくしんぱう 日刊。東京、二六社のち二六新報社。明治二六(一八九三年)一〇月二六日創刊。明治三七(一九〇四年)四月二五日、『東京二六新聞』(二六社)と改題し、明治四二(一九〇九年)一月二日、紙名を『二六新報』に復して追号した。その間、明治二八(一八九五年)六月一日以降、資金が尽きて廃刊し、明治三三(一九〇〇年)二月一〇日復刊している(社名を二六新報社とする)。以後、大正三(一九一四年)七月二六日、『二六新聞』(二六新聞社)、さらに同年一月二〇日『世界新聞』と改題した。大正七(一九一八年)二月二日『二六新報』に戻り、昭和一五(一九四〇年)九月一日終刊した。(㊸)時事。おもな関係者―秋山定輔。

庭の落葉 にわのおちば 五卷五冊。(㊹)西村遠里(一七二六?—一八七七年)江戸中期の曆学者。名は得一、号は居行。(㊺)『奇談庭の落葉』。(㊻)『安永八(一七七九年)年序』。(㊼)随筆。巻一「開帳参『殺生放生』、巻二「貨殖の善悪」、巻三「難産の不審」志賀寺上人」、巻四「飛鳥川」上京七社」、巻五「上口下口」余所の夢「無言樓邊」から成る。(㊽)『哲学堂文庫』。

人相指南 にんそうしなん 一冊。(㊾)松本永年〔未詳〕。(㊿)天人相指南(一八三二年)。(㊽)人相による吉凶占いの書。

人相指南秘伝集 にんそうしなんひでんしゅう (㊿)関根知之〔未詳〕。(㊾)嘉永元(一八四八年)。(㊿)占卜。(㊾)早稲田大学図書館。

人相千百年眼 になんせんひやくねんがん 五巻五冊。

⑤平沢勝(未詳)。⑥嘉永四(一八五二)年。⑦人相による吉凶占いの書。⑧哲学堂文庫。

人相早学 になんそうはやまなび 二巻二冊。⑨潜竜菴(未詳)。

⑩金鱗堂、明治一六(一八八三)年、和二冊(二三、二一丁)。⑪人相による吉凶占いの書。

人天宝鑑 になんてんほうかん 二巻二冊。⑫編・雲秀(未詳)。

⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

忍辱雑記 になんにくざつき 二巻二冊。⑳愚菴(未詳)。

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

念仏請雨感応など、全一三二章の雑考。㉑哲学堂文庫。

忍辱随筆 になんにくざひつ 二巻二冊。㉒愚菴(未詳)。

[ね]

ネイチャー : Nature。㉓イギリスの通俗科学雑誌。

涅槃経 ねはんぎょう → 大般涅槃経 だいはつねはんぎょう

年山紀聞 ねんざんきぶん 六巻六冊。㉔安藤年山(一六五九—一七二六年)江戸中期の国学者。名は為明のち為章。年

山は号。㉕元禄一五(一七〇二)年。㉖文化元(一八〇四)年。

㉗随筆。文事・故実・典籍・人伝など、すべて考古博識の資となるべきことを記した。㉘『日本随筆全集』六、『日本

随筆大成』新版二期一六(旧版二期八)、『百家説林』続編上。

年中吉事鑑 ねんじゅうきちがみ 一冊。㉙陳枚(未詳)。

㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

年中行事大成 ねんじゅうぎょうじたいせい 四巻六冊。

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

年中行事大成。名は恒信のち恒章、別号は春暁。㉑『諸国図会』年中行事大成。㉒文化三(一八〇六)年。㉓年中行事。神社の祭祀・仏寺の法会・故事・人事・景物の類を月別に記した。の。(二月から六月まで記された六巻六冊本がある)。

年中八卦(手引草) ねんちゅうはつぐさ → 八卦手引草 はつけてびぎぐさ

念仏三心要集 ねんぶつさんじんようしゅう 一巻一冊。

㉔弁長(一一六二—一二三八年)鎌倉時代の浄土宗の僧。法名は弁阿・聖光房。㉕寛喜三(一二三二)年。㉖元禄七(一六九四)年。㉗源空門下の異義邪説に対して、源空の正しい安心起行の趣旨を記した。㉘『浄土宗全書』一〇。

年曆調法記 ねんれきちようほうき 未詳。

(G)

農家調宝記 のうかちようほうき 三編三冊。㊦高井蘭山

(二七六二—一八三八年)江戸後期の戯作者。名は伴寛、字は

思明(字明とも)、別号は三遷・晒我・宝雪庵。㊦初編文化

六(一八〇九年)、二編同一四(一八一七年)、三編文政五(一

八二二年)。㊦道路の里数・村里の分別・五穀の種まきの時

節など、農家にとって必要な事柄を多岐にわたって記したも

の。㊦国立国会図書館、哲学堂文庫(続編一冊、文政五年)

農業全書 のうぎようぜんしょ 一〇巻・付録一卷二一冊。

㊦宮崎安貞(一六二二—一七九七年)江戸前期の農学者。安貞は

名/補・貝原業軒(一六二五—一七〇二年)江戸前期の儒学

者。名は義質、字は子実、別号は日休/付・貝原益軒。㊦

元禄一〇(一六九七年)年。㊦農書。百穀菜果の種芸期・培養法

などを図説したもの。付録一卷は貝原益軒の稿を付したもの。

㊦岩波文庫、『益軒全集』八、『日本産業資料大系』二、

『日本思想大系』六二、『日本農書全集』、『農業全書』明治二

七年)

農政全書 のうせいぜんしょ 六〇巻。㊦徐光啓(一五六二

—一六三三年)明末の政治家・学者。字は子先、号は玄扈。

キリスト教徒。㊦農書。農本三巻・田制二巻・農事六巻・水

利九巻・農器四巻・樹芸六巻・蚕桑四巻・蚕桑広類二巻・種

植四巻・牧養一卷・荒政一八巻・首一卷から成る。

農諭 のうゆ 一冊。㊦鈴木正長(一七二五—一八〇六年)江

戸中・後期の民政家。通称は武助(介)、号は為蝶軒。㊦き

さん用心 農諭、『農論』。㊦文化八(一八一—)年序。㊦文

政八(一八二五)年。㊦饑饉の恐ろしさとそれに対する平生の

心掛けなどを説いたもの。㊦『日本経済叢書』一七、『日本経

済大典』二六。

信友随筆 のぶともずいひつ 一冊。㊦伴信友(一七七三—

一八四六年)江戸後期の国学者。号は特・事負。㊦未定稿の

随筆。皇典・歌文・経書の考証・見聞などを記したもの。㊦

『百万塔』。

(は)

梅園叢書 ばいえんそうしょ 三巻・二集三巻六冊。㊦三浦

梅園(一七三—一八九年)江戸中期の哲学者。名は晋、字は

安貞のち安鼎、別号は嶺山・洞仙・東渡居士など。㊦寛延三

(一七五〇)年自跋・二集天明元(一七八—)年自序。㊦安政二

(一八五五)年。㊦随筆。「詩を説きて道に志す人に諭す」酒

食欲の誠「生前死後の理」など四九編の論説を集めたもの。

㊦『日本随筆大成』新版一期一(二)旧版一期六、『日本倫理叢

編』一〇、『梅園全集』下、『百家説林』正編下、『有朋堂文庫』

「名家随筆集」下。

梅園日記 ばいえんにつき 五巻。㊦北静庵(一七六五/六

六一—一八四八年)江戸後期の文人。名は慎言、字は有和、別

号は梅園・四当書屋など。④天保一五(一八四四)年序。⑤弘化二(一八四五)年。⑥飯倉神明・茅柴・福引・食素・修羅・甲子雨など、一五〇余项について和漢の書を引いて考証したものの。⑦『日本随筆大成』新版三期一二(旧版三期六)

俳諧懐子 はいかいかいし 未詳。

俳諧歳時記采草 はいかいかいさいじきしおりぐさ 五冊。⑧

滝沢馬琴(二七六七—一八四八年)江戸後期の戯作者。名は解、字は瓊吉、馬琴は号、別号は曲亭・著作堂主人・蓑笠魚隠など。⑨増補改正 俳諧歳時記采草。⑩嘉永四(一八五一年)。⑪俳諧の季語三四二〇余を四季別・いろは順・月順に配列し、解説したもの。馬琴の『俳諧歳時記』(二冊、一八〇三年)に藍亭青藍が増補改正したもの。⑫『岩波文庫』、『生活の古典双書』九一〇、『増補改正 俳諧歳時記采草』(明治二五・三五年・大正一五年)

俳諧新式 はいかいかいしんしき 一冊。⑬編・白梅園鷺水(未詳)。⑭『俳諧新式目』、『諸鈔合註 俳諧新式大成』、『俳諧大成しんしき』。⑮元禄一一(一六九八)年。⑯俳諧。⑰哲学堂文庫。

梅花心易掌中指南 はいかかしんえきしょうちゅうしなん 五卷二冊。⑱中根松伯(未詳)。⑲増補校正 梅花心易掌中指南。⑳安政二(一八五五)年。㉑占卜。㉒『梅花心易掌中指南』(増補版、明治二年)

梅窓筆記 はいそうひつき 二卷二冊。㉓橋本梅窓(未詳)。

⑳文化三(一八〇六)年。㉔朝廷の儀礼や民間の風俗などに

ついて、典拠を示して解説した考証随筆。卷上九〇条、卷下九八条、後付けに図像一〇余図。㉕『日本随筆全集』一七、『日本随筆大成』新版三期五(旧版三期三)、『百家説林』続編下二。

売買極秘 はいばいごくひ 未詳。

佩文韻府 はいぶんいんぷ 一〇六卷・拾遺一〇六卷。のち四四四卷・拾遺一二二卷に分冊。㉖編・張玉書(一六四二—一七二一年)／陳廷敬(未詳)／李光地(一六四二—一七二一年)／その他編。⑳康熙五〇(一七一一年)拾遺は康熙五五(一七二〇)年。㉗韻書(文字を韻字で分類した辞書)。熟語の末尾の字の韻によって分類配列し、出典を示して作詩の便に供したもの。元の陰時夫『韻府群玉』、明の凌稚隆『五車韻瑞』を原本として増訂し、その部分を「増」として表示している。なお、「佩文」は清の皇帝の書齋の名。㉘『佩文韻府』(明治一四年、一五一七年、一八年、四一年の各版がある)

馬関土産 ばかんみやげ 一冊。㉙宮崎勇熊(未詳)。赤間関、山名曲江堂、明治二五(一八九二年)、七二頁。増訂版(一名『馬関繁昌記』)、明治三〇(一八九七年)、八九頁、図版・地図。

萩原随筆 はぎわらずいひつ 一冊。㉚喜多村信節(一七八三—一八五六年)江戸後期の考証学者。号は筠庭・筠斎・静舎。㉛信ともいう。㉜未詳。㉝随筆。㉞早稲田大学図書館(自筆稿本)

博異記 はくいき 一卷。㉟谷神子(未詳)。㊱全一〇条から

成り、神怪のことを記している。

博議 はくぎ ↓ 東萊左氏博議 とうらいさしはくぎ

白沢図 はくたくず ④黄帝が巡狩して白沢(神獸)を得、臣

下に命じて写させたという図。⑤『玉函山房輯佚書』九五。

博物志 はくぶつし 一〇巻。⑥張華(二三二—三〇〇年)

西晋の学者・詩人。字は茂先。⑦古代の伝聞、異境の奇物な

どを、地理略・地・山・水・山水総論・典礼考・樂考・服飾

考・器名考・物名考・異聞・史補・雜説に分けて集録したも

の。原本は散逸し、遺文や他説をとって成ったもの。⑧『漢

魏叢書』六六、『古今逸史』五、『稗海』一、『百子全書』六八一

六九。

博物筌 はくぶつせん 一冊。⑨山崎蘭齋(未詳)。⑩『大広

益博物筌』。⑪『明和七(一七七〇)年。⑫辞書。⑬国立国会

図書館。

博物類纂 はくぶつるいさん 未詳。

博聞叢談 はくぶんそうだん 未詳。

博聞録 はくぶんろく 未詳。

博覽古言 はくらんこげん ⑭編・菅原道真(八四五—九〇

三年)平安前・中期の公卿。⑮『管蠡抄』。⑯六経や正史、諸

子百家の書籍などから要語・格言を選び出し、それを君道・

政事・文学・武備・礼法・官制・刑法・祥瑞・祭祀・人倫・

人事・臣道・風俗の一三門に分けて記したもの。⑰『哲学堂文

庫(天明五(一七八五)年、一〇巻五冊)

化物判取帳 ばけものはんとりちょう 四巻五冊。⑱敬阿

(未詳)。⑲『化物判取牒』。⑳『宝暦五(一七五五)年。㉑卷一

「狐の手帳」など四条、卷二「蛤の怨念」など五条、卷三「炬燵

妖怪」など四条、卷四「童女結納」など六条の計一九条から成

る。世間の妖談の正体を明かすというやり方で叙述してい

る。㉒『哲学堂文庫』

婆沙(論) ばしゃ(ろん) ↓ 阿毘達磨大毘婆沙論 あび

だつまだいびばしやろん

八閻通志 はちびんつうし 八〇巻。㉓黄仲昭(未詳)明の

学者。名は潜。未軒先生と称す/その他著。㉔今の福建省地

方の歴史書。

八門九星初学入門 はちもんきゅうせいしよがくにゅうも

ん ㉕編・杉本敬徳(未詳)。聚榮堂、明治一八(一八八五)

年、三七丁。㉖占卜。『河図洛書示蒙鈔』、『方位便覧』、『方

鑑図解』などの方書から抜粹・編集したもの。

八門遁甲惑問鈔 はちもんこんこうわくもんしよ 一冊。

㉗村田徽典(未詳)。靖康堂、明治一四(一八八二)年、和二

丁。㉘占卜。

発覚浄心経 はつかくじようしんきよ 未詳。

八卦辻占独判断 はっけつじうらひとりはんだん ㉙未詳。

㉚占卜。

八卦手引草 はっけつびきぐさ 一冊。㉛『大江文坡?』一

七九〇年)江戸中期の読本作者・神道家。名は匡弼、号は菊

丘臥山人・臥仙人など、文坡は字。㉜『年中八卦手引草』。㉝

天保七(一八三六)年。㉞占卜。

八卦秘伝鈔 はつけひでんしょう 四冊。㊦高野山住生院。

㊧『八卦高野鈔』。㊨承応元(一六五二年)。㊩占卜。㊪京都大学。

八宅明鏡図解 はったくめいきょうずかい 一卷。松浦琴鶴(未詳)江戸後期の易占家。名は純逸、別号は観濤閣。㊫相法。人の姓によって邸宅の建て方に吉凶があるが、その住法によって吉凶が変わることがあるということを略説したものの。㊬『八宅明鏡図解』(明治一四年)

八宅明鏡弁解 はったくめいきょうずかい → 八宅明鏡図解 はったくめいきょうずかい

初夢歌合 はつゆめうたあわせ ㊭古川松根(二八一—一七一年)江戸後期・明治前期の佐賀藩士。号は楢園など。㊮『やまと叢誌』。㊯歌合。

英草紙 はなぶさざうし 五卷五冊。㊰都賀庭鐘(一七一—一八一?)年江戸中期の医者・儒学者・読本作者。庭鐘は名、字は公声、号は草官散人・巢庵・莘萸館など。㊱『古今奇談英草紙』。㊲寛延二(二七四九)年。㊳中国小説の翻案を主とし、日本の古伝説・史実をかりて表現した奇談集。㊴『袖珍名著文庫』、『日本名著全集』怪談名作集、『有朋堂文庫』『雅文小説集』。

早引人物故事 はやびきじんぶつこじ → 人物故事 じんぶつこじ

破唯物論 はゆいぶつろん 一冊。㊱井上円了(一八五八—一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育者。号は甫水。不

思議庵主人と称す。東京、哲学書院、明治三一(二八九八)年二月、二九三頁。㊲唯物論に対する意見を述べるとともに、神儒仏三道の再興をはかる目的で書かれたもの。

万金産業袋 ばんきんすぎわいぶくろ 六卷六冊。㊳三宅也来(未詳)江戸中期の浮世草子作者。也来は号。㊴『世宝大成万金産業袋』、『町家万宝商売仕法大成』。㊵享保一七(一七三二)年序。㊶諸物を印判・硯石・筆・絵具・蒔絵・硝子・夏物・真綿などに分類して略説したもの。㊷『家政学文献集成』続編・江戸期二、『生活の古典双書』五、『通俗経済文庫』一。

万斛明珠 ばんこくめいじゆ 未詳。
般舟経 はんじゆききょう → 般舟三昧経 はんじゆざんまいききょう

般舟三昧経 はんじゆざんまいききょう 三卷。㊸支婁迦讖(未詳)後漢代の訳経家。㊹『十方現在仏悉在前立定経』、『大般舟三昧経』、『十方現在前立定経』。㊺般舟三昧を得ると十方の仏が前に立つのを見るであろうと説く大乘仏典で、一六品から成る。また、『行品』において阿弥陀仏を一心に念ずることを説いており、浄土経典の先駆とされる。㊻『大正新脩大藏経』一三(四一八)。㊼『国訳一切経』大集部四。『藏文和訳般舟三昧経』(林純教、大東出版社、一九九四年)

坂東三十三所観音霊場記 ばんどうさんじゅうさんしよかんのんれいじきょうき 一〇卷一〇冊。㊽亮盛(未詳)江戸中期の真言宗の僧。㊾明和八(一七七二年)。㊿神奈川県立図

書館。

半日閑話

はんにちかんわ 二五卷。⑤大田南畝(一七四九

—一八二三年)江戸中・後期の狂歌師・戯作者・幕臣。名は
 單、別号は蜀山人、四方赤良など。⑥大田南畝全集、『新
 百家説林三三』、『日本随筆大成』新版一期八(旧版一期四)

般若心経

はんにやしんぎょう

↓般若波羅蜜多心経

般若波羅蜜多心経

はんにやはらみたしんぎょう 一卷。

⑦玄奘(六〇二—六六四年)唐の大翻訳家。⑧般若心経、
 『心経』。⑨序文と結末の文がない小本系のサンスクリット本
 の漢訳。『大般若経』のエッセンスを取り出し、コンパクトに

まとめ(二六二文字)、無執着の思想を説いている。⑩大正
 新脩大蔵経八(二五一)。⑪国訳一切経『釈経論部五』。

万物怪異弁断

ばんぶつかいいんだん ↓怪異弁断 か

いいんだん

万物故事要決

ばんぶつこじようけつ 八卷八冊。⑫未詳。

⑬『万物故事要略』。⑭享保一二(二七二)年。⑮卷一は日
 本の神代、中国の夏・殷・周など九項、卷二は梁・陳・隋・
 唐・宋など九項、卷三は七草の名を覚ゆる和歌のことなど一
 一項、卷四は博奕のことなど八項、卷五は狐を命婦というこ
 となど三〇項、卷六は字の点画のことなど一九項、卷七は人
 間万事塞翁が馬のことなど三三項、卷八は悪魔除札のことな
 ど九項の全一二八項から成る故事談。⑯哲学堂文庫。

万物故事要略

ばんぶつこじようりやく ↓万物故事要

決 ばんぶつこじようけつ

万物幽霊怪話

ばんぶつゆうれいかいわ 未詳。

万宝大雑書

ばんぼうおおざっしょ 一冊。⑰未詳。⑱未
 詳。⑲曆。⑳哲学堂文庫。→大雑書。

万宝全書

ばんぼうぜんしょ 一三卷一三冊。㉑未詳。㉒
 『古今和漢 万宝全書』。㉓元禄七(一六九四)年。享保三

(二七一)年。㉔画・書・茶・古銭・工芸の手引書(『本朝画
 印伝』、『唐絵画印伝』、『和漢墨蹟印尽』、『本朝古今名古筆
 諸流』、『古筆目録』、『和漢名物茶入肩衝目録』、『和漢諸道具
 見知鈔』、『和漢古今宝銭大全』、『彫物目利彩金抄』を編集し
 たもの。絵入り。㉕哲学堂文庫。

万宝鄙事記

ばんぼうひじき 八卷四冊。㉖貝原益軒(一六
 三〇—一七一四年)江戸前期の儒学者・本草家・教育思想家。
 名は篤信、字は子誠、別号は損軒。㉗『鄙事記』。㉘宝永二

(二七〇)年。㉙世俗の雑事を、衣服・器財・硯・花・紙細
 工・染物・占・天気・食禁・用薬などの二〇門に分けて平易
 に叙述したもの。㉚『益軒全集』一。

万曆大雑書三世相大全

ばんれきおおざっしよさんぜそう
 たいぜん 明治新刻。㉛編・塚田為徳、文江堂、明治一七

(一八八四年、和一四〇丁)。→大雑書。

万曆雑書大成

ばんれきざっしよたいせい 一冊。㉜
 鐘成(一七九三—一八六〇年)江戸後期の読本作者・絵師。本
 名は木村明啓、別号は鶏鳴舎・漫戲堂・暁晴翁など。㉝慶応

三(一八六七)年。㉞占卜。

秘訣集 ひけつしゅう→印判秘訣集 いんばんひけつしゅう

秘事思案袋 ひじしあんぶくろ 三卷三冊。⑤未詳。⑥享

保一四(一七二九)年。⑦紙に野引する法「腫物のうみ針を用いず吸出す法」「味噌の味酸くなりたるを直す法」など、日常のさまざまな事柄二〇〇余種をあげ、その対処方法を記したものの。⑧哲学堂文庫。

秘事大全 ひじたいぜん→広益秘事大全 こうえきひじたいぜん

秘事百撰 ひじひやくせん 一冊。⑨福井智徳齋(未詳)。⑩文政一〇(一八二七)年序。⑪奇伝・秘術といわれるものを一〇〇カ条あげて記したもの。⑫哲学堂文庫。

秘事謎 ひじまつげ 二卷二冊。⑬未詳。⑭神仙 秘事謎、「神仙秘事謎」。⑮遊戯。⑯哲学堂文庫。

霏雪録 ひせつろく 二卷。⑰縮績(未詳)。⑱詩義を弁訂する根拠となり、旧聞のもととなり、夢幻的・談諧的なことを小説風に記している。

非相編 ひせうへん ⑲「荀子」巻第三の編名。相を非とする編。→荀子。

秘蔵宝鑑 ひせうほうやく 三卷。⑳空海(七七四—八三五年)平安前期の僧。真言宗の開祖。㉑「宝鑑」。㉒天長七(八三〇)年ころ。㉓正応三(一二九〇)年。㉔「十住心論」の思想を

簡潔・明瞭に説いたもの。㉕「高僧名著全集」二、「弘法大師全集」一輯、「大正新脩大藏經」七七(二四二六)、「真言十卷章」(明治二年)。㉖「国訳一切経」諸宗部二〇。

常陸紀行 ひたちきこう 二卷四冊。㉗黒崎洗心(未詳)江戸後期の儒学者。名は貞孝、字は子順・至純、別号は漱石など。／画・谷文晁など。㉘「漫遊記譚」、「漫遊記談」、「常野警」。㉙文政九(一八二八)年自序。㉚地誌。㉛「続帝国文庫」

「続紀行文集」。

莠句冊 ひつじくさ 五卷五冊。㉜都賀庭鐘(一七一八—?年)江戸中期の医者・儒学者・読本作者。庭鐘は名、字は公声、号は草官散人・巢庵・葦夷館など。㉝「古今奇談 莠句冊」、「莠草紙」。㉞天明六(一七八六)年。㉟読本。第一編「八百比丘尼人魚を放生して寿を益す話」から第九編「白介の翁運に乗じて大に発跡する話」まで、奇談・伝説を素材とした読み物。㊱「日本名著全集」怪談名作集」。

筆囁 ひつちゅう ㊲王達(未詳)明の人。字は達善。

秘伝世宝袋 ひでんせほうぶくろ 三卷三冊。㊳日下部不鍊(未詳)。㊴宝暦一三(一七六三)年序。㊵明和二(一七六五)年。㊶俗信。餅のどにつまりたる方・蝮蛇にさされたる呪・河を渡るに怪我なき呪・犬の病を治する方など、二〇〇余项の呪術を記したもの。㊷「家政学文献集成」続編・江戸期二。

一宵話 ひとよばなし 三卷三冊。㊸秦滄浪(一七六一—一八三一年)江戸後期の儒学者。名は鼎、字は士鉉、滄浪は号／編・牧墨僊(一七七五—一八二四年)江戸後期の絵師。名

は信盈、別号は北遷・百斎・月光亭など。④文化七(一八一〇)年序跋。④「蝦夷の海獣」竜の雲「海中の火」天狗の論」など、和漢の故事・考証、奇談・異事を中心に多方面にわたりに記したものの。④『日本随筆全集』一七、『日本随筆大成』新版一期一九(旧版二期一〇)。

日次記 ひなみき 二二三巻・目一〇巻・総目一卷。④編・二条良基(一三二〇—一八八八)南北朝時代の公卿・歌人・連歌作者。④九四七—一二四二年間の撰家歴代の日記。④国立国会図書館(写本)

日次紀事 ひなみきじ ④黒川道祐(？—一六九一年)江戸前期の医者・地誌家。名は玄逸、道祐は字、号は遠碧軒など。

④『日次記事』。④延宝四(一六七六)年。④年中行事。④『増補京都叢書』二、『珍書同好会』一七一—二(謄写)

日出新聞 ひのでしんぶん 日刊。京都、日出新聞社。明治一八(一八八五)年四月一〇日創刊。明治三〇(一九〇七)年七月一日、

『京都日出新聞』と改題し、昭和一七(一九四二)年四月、『京都日日新聞』と合併して『京都新聞』と改題した。④時事。

秘密安心往生要集 ひみつあんじんおうじょうしゅう 二巻二冊。④蓮体(一六六三—一七二六年)江戸中期の真言宗の僧。字は本浄・惟宝、号は無尽蔵など。④『享保四(一七

一九)年。④『近世仏教集説』、『真言宗安心全書』下。

百因縁集 ひやくいんねんしゅう→私聚百因縁集 しじゆひやくいんねんしゅう

百姓囊 ひやくしゅうぶくろ 五巻五冊。④『西川如見(一六

四八一—一七二四年)江戸中期の天文暦算家・地理学者。名は忠英、別号は恕軒・恕見、居号は求林斎・全梅庵など。④享保六(一七二二)年序。④享保一六(一七三二)年。④農民の教えとなり、戒めとなるべき日常の心得や教訓を記したものの。④『岩波文庫』、『大日本風教叢書』九一—一〇、『西川如見遺書』八、『日本教育文庫』訓誡篇下、『日本経済叢書』五、『日本経済大典』四、『日本国粹全書』一九、『日本道德叢書』三。

百丈録 ひやくじょうろく 未詳。

百物語評判 ひやくものがたりひょうばん→古今百物語評判 ここんひやくものがたりひょうばん

百諭経 ひやくゆきょう 四巻。④僧伽斯那(サンガセーナ、未詳)。④求那毘地(クナヅルッテイ、？—一五〇二年)劉宋代の僧。④五世紀ころ。④『百句譬諭経』、『百句譬諭集経』、『百譬経』。④九八のたとえ話を集めたもの。たとえ話とそれ

にもとづく訓話を一般大衆や外道などを対象に説いている。

④『大正新脩大藏経』四二(〇九)。④『国訳』切経』本縁部七。百鍊抄 ひやくれんしょう 一七巻。④未詳。④享和三(一八〇三年)。④冷泉天皇の代から龜山天皇即位までの京都を中心とした公家社会の静動を記した編年史。④『新訂増補国史大系』一一。

百家琦行伝 ひゃっかきこうでん 五巻五冊。④八島五岳(未詳)。④『天保六(一八三五年)自序。④奇人の奇行という

べきものを録したものの。④『有朋堂文庫』。

白虎通 ひやくこつう→白虎通義 ひやくこつうぎ

百姓囊 ひやくしゅうぶくろ 五巻五冊。④『西川如見(一六

白虎通義 びゃつこつうぎ 四卷。㊦班固(三二—九二)年後漢初期の歴史学者。字は孟堅。㊦『白虎通』、『白虎議奏』。㊦

後漢の章帝の建初四(七九)年、「白虎觀」に諸儒を集めて、五經の本文の文字・意味についてその異同を講論させて、それを「爵」から「崩薨」まで四項目について古義・旧聞を記録し、解説したもの。㊦『漢魏叢書』、『四部叢刊』、『百子全書』、『和刻本漢籍隨筆集』一〇。

百法問答抄 ひゃつぽうもんどうしやう 九卷九冊。㊦藏

俊(一一〇四—一八〇)年平安後期の法相宗の僧。作者不明といわれる。㊦『百法問答鈔』。㊦元和九(六二二)年古活字版。㊦法相唯識学の入門書。一切法の全体にわたり一〇〇余の項目を立てて、問答体をもって平明に解説したもの。㊦『日本大藏經』、『法相宗章疏』二。

馮氏知囊全集 ひやうしちのうぜんしゆう 二八卷。㊦馮夢竜(未詳)。㊦古来の賢人や名士の知術・計謀にわたるものを網羅的に集録し、上知・明知・察知・胆知・術知・捷知・語知・兵知・闇知・雜知の一〇項に分けて評語を付したものである。

病室策 びやうどうさく ㊦天真(未詳)。㊦安永四(一七七五)年。㊦病気の起こる因縁、看護、菩提心を発すべきことなどを述べている。㊦『哲学堂文庫』。

備後風土記 びんごふどき 未詳。

閩書 びんしよ 一五四卷。㊦何喬遠(未詳)。㊦福建省地方の地方誌。

〔ふ〕

風雨賦国字弁 ふううぶこくじべん 二卷二冊。㊦中西敬房(？—一七八一年)江戸中期の曆算家・書肆。敬房は名、字は如環、号は東嶺・華文軒。㊦安永六(一七七七)年。㊦晴雨などの天候を占う古書『風雨賦』を国字によって解釈し、五五の図絵で説明したもの。㊦『哲学堂文庫』。

風俗通 ふうぞくつう 風俗通義 ふうぞくつうぎ

風俗通義 ふうぞくつうぎ 一〇卷。㊦応劭(未詳)後漢末の学者。㊦古史に見える名号を述べ、人物を論じ、音楽を説き、祀典を記し、怪異を語り、山川の自然を論じ、流俗の批判におよぶ。㊦『和刻本漢籍隨筆集』一〇。

風来六々部集 ふうらいろくろくぶしゆう 二編四卷四冊。

㊦平賀源内(一七二八—一七九九年)江戸中期の本草学者・戯作者。名は国倫、字は士彝、号は鳩溪、作家名は風来山人・天竺浪人・福内鬼外、源内は通称。㊦『風来六部集(前編)』。

㊦安永九(一七八〇)年自序。㊦天明三(一七八三)年。㊦平賀源内が生前行した小冊子六編(『放屁論』、『放屁論後編』、『瘰陰隱逸伝』、『飛だ噂の評』、『天狗鬨 體 鑒定縁起』、『里のをだ巻評』)に、『太平楽巻物』、『蛇蛤青大通』、『力婦伝』、『飛花落葉』、『細見嗚呼御江戸序』、『菩提樹之弁』を加えて集録したもの。ただし、加えた最初の三編は森島中良の作。㊦

『近代日本文学大系』『狂文俳文集』、『滑稽文学全集』一一、『日本古典文学大系』五五(抄)、『平賀源内全集』上、『有朋堂

文庫『平賀源内集』、『風来六々部集』(明治一六年)

風流俗説弁 ふうりゆうぞくせつべん 一冊。著秋吟散人

(未詳)。○咸宝曆五(一七五五)年序。○『弓削の道鏡の説』久

米の仙人の説」など、俗説の虚実を述べたもの。○哲学堂文

庫(写本)

巫学談弊 ふがくだんべい ↓ 俗神道大意 ぞくしんどう

たいい

不可見世界論 ふかけんせかいろん 著スチュアート

(Stewart, B. 一八二八—一八七七年)イギリスの物理学者・氣象

学者／テート(Tait, P. G. 一八三一—一九〇一年)イギリス

の物理学者・数学者。○霊魂不滅を自然科学的に証明しよう

としたもの。(原書)The unseen universe, 1875.

輔行 ふぎよう ↓ 止観輔行伝弘決 しかんぶぎようでん

ぐけつ

輔教編 ふきょうへん 三卷。著契嵩(一〇〇七—七二二年)宋

代の雲門宗の僧。○『夾注輔教編五書要義』。○一二世紀。○

王陽修の排仏論に反駁して、仏教の五戒十善と儒教の五常の

一致および儒仏一致を説いたもの。契嵩『鐔津文集』のなか

に収録。○『大正新脩大藏經』五二(一一一五)『鐔津文集』

福井新聞 ふくいしんぶん 日刊。福井、福井新聞社。明治

三三(一八九九)年八月二日創刊。大正二(一九一三)年三月

三日、『北日本新聞』を合併して現在にいたる。『福井新聞』と

いう紙名で発行された明治一四(一八八二)年一〇月一六日の

新聞を第一次とすれば、第四次の発行となる。○時事。

福音書 ふくいんしょ 内イエスの言葉と行爲を記した文

書。『新約聖書』にはマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる四

福音書がある。

福島新聞 ふくしましんぶん 日刊。福島、福島活版所(の

ち福島新聞社)。明治一五(一八八二)年八月一日創刊。大

正一三(一九二四)年一月一日廃刊。○時事。

復讐奇譚 ふくしゅうきだん 一冊。著西向庵春帳(未詳)

江戸中期の読本作者。別号は西向庵愚洞。○『睡魔退治 復

讐奇談』。○『明和三(一七六六)年』。○復讐譚。○哲学堂文

庫。

福田殖種纂要 ふくだんじきじゅさんよう 一〇卷一〇冊。

○編・不可停(未詳)。○『再治増補 福田殖種纂要』。○『貞

享三(一六八六)年』。○諷誦文を集めたもの。○哲学堂文庫。

袋草紙 ふくろぞうし 四卷・遺編一卷。著藤原清輔(一一

〇四—一七七年)平安後期の歌人。○『清輔袋草紙』、『袋草子』、

『和歌合次弟(遺編)』。○貞享二(一六八五)年。○『歌学書』。歌

集の考証や歌人の逸話なども記している。○『歌学文庫』三、

『統群書類従』一六下、『日本歌学大系』二。

武家故事要言 ふけこじじょうげん 七卷七冊。著未詳。○

○『正徳二(一七二二)年』。○武家故実。○哲学堂文庫。

武家俗説弁 ふけぞくせつべん 六卷三冊。著神田勝久(未

詳)。○『享保二(一七二七)年』。○武家の間に伝わるさまざま

まな俗説について述べたもの。○哲学堂文庫(五卷五冊)

不思議弁妄 ふしぎべんもう 一冊。著新井周吉(未詳)／

補・大矢森之助(未詳)。盛春堂、明治二二(二八八)年、一〇八頁。

普照、ふしょう ④「蓮門教会」発行の雑誌。

武將感状記、ぶしょうかんじょうき 一〇巻一〇冊。⑤熊沢

淡庵(一六二九—一九一年)江戸前期の儒学者。名は正興、淡庵

は号。⑥「近代正説碎玉話」、「近代正説碎玉話 武將感状

記」、「碎玉話」。⑦「正徳六(一七一六)年。⑧天文—慶長年

間(一五三二—一六一五年)における名将・勇士の忠義や武勇

の美談を集めたもの。全二五二話から成る。⑨「統帝国文庫」

「常山紀談」、「武士道全書」八。

扶桑異志、ふそういし 未詳。

扶桑隱逸伝、ふそういんいつてん 三巻三冊。⑩「元政(二六

二—一六八)年」江戸前期の日蓮宗の僧・漢詩人・歌人。別号

は日政・日如など。⑪「寛文三(一六六三)年序。⑫同四年。

⑬「上古から中世後期にいたる隱逸者七五人の小伝と贊を記し

たもの。役小角・蟬丸・空也・性空・平康頼・西行・鴨長

明・明恵・頓阿・兼好などがある。⑭「草山拾遺」上(昭和五

三年)、「近世文芸資料」深草元政集」三。⑮「扶桑隱逸伝」(明

治一六年)

扶桑怪談弁述鈔、ふそうかいだんべんじゆつしょう 七巻

七冊。⑯「厚普(未詳)江戸中期の僧。号は春鶯廓玄。⑰「怪談

弁述鈔」、「本朝搜神記」。⑱「寛保二(一七四二)年。⑲「善

導墳光明」から巻七「奥州外浜千鳥」まで和漢の怪事一四三項

を集め、それに著者の見解を付した。⑳「哲学堂文庫」七

巻一冊、別に「本朝搜神記」七巻七冊がある。

扶桑見聞私記、ふそうけんもんしき 七六巻。㉑「大江広元

(一一四八—一二二五年)鎌倉時代の武將。法号は覚阿。⑲保

元(一一五六)年から建保元(一二三二)年までの事跡を、年

月日につなげて記したもの。㉒「国立国会図書館」。

扶桑故事要略、ふそうこじようりやく 七巻七冊。㉓「盤察

(?—一七三〇年)江戸中期の浄土宗の布教僧。号は厚普・不

絶。㉔「勸化補助 扶桑故事要略」、「新撰正誤 扶桑故事要

略」。㉕「正徳五(一七一五)年。⑲「説話。上古の事跡のなか

から、勸化教導の因縁となる古伝など五九話を集めたもの。

㉖「哲学堂文庫」七巻三冊)

扶桑新聞、ふそうしんぶん 日刊。名古屋、扶桑新聞社。明

治二〇(一八八七)年五月創刊。大正四(一九一五)年八月、

「名古屋毎日新聞」と改題した。⑲「時事」。

扶桑蒙求、ふそうもうぎゆう 三巻三冊。㉗「岸鳳質(未詳)。

⑲「天保一四(一八四三)年。⑲「李瀚の「蒙求」にならい四句一

対の題をもうけて、歴朝の事跡を漢文で記したもの。㉘「扶

桑蒙求」(明治四年)

扶桑略記、ふそうりやくき 三〇巻(現存一六巻)。㉙「皇円

(?—一一六九)年平安後期の天台宗の僧。肥後阿闍梨ともい

う。㉚「扶桑記」。⑲「嘉承二(一一〇七)年ころ。⑲「文政三(一

八二〇)年。⑲「神武天皇から堀河天皇の寛治八(一一〇九)年

までの史実を漢文で記した編年体の史書。㉛「天理図書館善

本叢書「古代史籍続集」。㉜「改定 史籍集覽」一、「新註 皇

学叢書」六、「新訂増補 国史大系」。

双葉草 ふたばぐさ 五卷五冊。㊶十返舎九(一七六五—

一八三一年)江戸後期の戯作者。本名は重田貞一、別号は醉

斎/画・十返舎一九。㊶「中古奇談 双葉草」。㊶「享和二

(一八〇二)年。㊶近世の奇談を集めたもの。全五話から成

る。署名の浪華東男子は一九自身とみられる。㊶哲学堂文

庫。

峰中根源記 ぶちゆうこんげんき→修験峰中秘伝 しゅ

げんぶちゆうひでん

峰中秘伝 ぶちゆうひでん→修験峰中秘伝 しゅげんぶ

ちゆうひでん

物学秘伝 ぶつがくひでん 未詳。

仏教活論本論 第二編 顕正活論 ぶつきょうかつろ

んほんろん だいにへん けんせいかつろん 一冊。㊶井上

円了(一八五八—一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育

者。号は甫水。不思議庵主人と称す。東京、哲学書院、明治

二二(一八九〇)年、三四三頁。㊶「真理としての仏教を組織体

系化しよう」と試みたもの。

仏教創世記 ぶつきょうそうせいき 一冊。㊶佐田介石(一

八一—一八八二年)明治期の浄土真宗本願寺派の僧。字は断識、

号は等象斎。青梅、藤田古梅刊、明治二二(一八七九)年、二

六丁。別に東京、森江佐七刊、明治二二年、二五丁がある。

仏牙舍利縁起 ぶつげしやりえんぎ 一冊。㊶未詳。㊶鎌

倉田寛寺祖塔正統院の仏牙の舍利の縁起について記したも

の。㊶哲学堂文庫。

仏国曆象編 ぶつこくれきしようへん 五卷五冊。㊶円通

(二七五四—一八三四年)江戸後期の天台宗の僧。号は普門・

無外子。㊶「仏国曆象」。㊶「文化七(一八一〇)年序。㊶イン

ド伝来の曆学(梵曆)を詳述したもの。西洋の天文学(地動説

に對抗して仏説(須弥山天文説)の擁護につとめた。㊶哲学堂

文庫。

仏国曆象弁妄 ぶつこくれきしようべんもう 一冊。㊶小

島濤山(二七六一—一八三一年)江戸後期の曆算家。名は好

謙、字は牧卿、濤山は号。㊶「文化一五(一八一八)年跋。㊶円

通の『仏国曆象編』の須弥山説を論駁したもの。㊶哲学堂文

庫。

仏地経論 ぶつじきょうろん 七卷。㊶親光(バンドウブラ

ーバ、未詳)。㊶「玄奘(六〇二—六六四年)唐代の大翻訳家。

㊶「仏地論」。㊶「六—七世紀ころ。㊶「仏地経」の注釈書。唯識

思想の立場から仏地(仏界)について解明したもの。㊶「大正

新脩大藏経」二六(一五三〇)

仏舍利験伝 ぶつしやりけんでん→舍利験伝 しやりけ

んでん

仏地論 ぶつじろん→仏地経論 ぶつじきょうろん

仏神感應録 ぶつしんかんのうろく 二編一五卷一五冊。㊶

弄幻子(未詳)。㊶「三国因縁 仏神感應録」。㊶「前編宝永七

(一七二〇)年、後編同八年。㊶「仏教。㊶「哲学堂文庫。

仏説阿弥陀経 ぶつせつあみだきょう 一卷。㊶「阿弥陀

經』、『小無量壽經』、『四紙經』、『小經』、『小本』。㊦鳩摩羅什(クマラージウヴァ、三四四―四一三年)東晋代の僧・大訳経家。㊧一世紀ころ。㊨浄土三部経の一。阿弥陀仏と阿弥陀仏のいる西方浄土の莊嚴を説き、無数の諸仏が贊嘆し証明して信受せよと勧めている極樂浄土に往生するには、阿弥陀仏の名号をもつばら唱えることにある、と浄土信仰を明らかにしている。㊩『大正新脩大藏經』二(二二六六)。㊪国訳一切經『宝積部』七。

仏説孟蘭盆經 ぶつせつつうらぼんぎょう 一卷。㊫竺法護(二二九―三一六年)西晋代の訳経僧。㊬孟蘭盆經、『孟蘭經』。㊭餓鬼道におちた亡母の苦しみを救おうとする目蓮尊者の孝養の徳を骨子とする尽孝奨励の物語。㊮『大正新脩大藏經』一六(六八五)。㊯国訳一切經『經集部』一四。

仏説灌頂經 ぶつせつつかんじょうきょう 一二卷。㊰帛尸梨密多羅(未詳)東晋代の僧。㊱灌頂經、『大灌頂經』、『大灌頂神呪經』。㊲五世紀ころ。㊳経題のはじめに灌頂とつく一二種類の經典を集めたもの。㊴『大正新脩大藏經』二(二二三―二二四)。

仏説灌頂菩薩經 ぶつせつつかんちょうぼさつきょう 未詳。仏説賢首經 ぶつせつげんじゆきょう 一卷。㊵聖堅(未詳)

姚秦の訳経僧。㊶『賢首經』、『賢首夫人經』。㊷賢首のために仏は十方の仏名・菩薩名・仏国土名を説き、あわせて女人の身を離れる修行の問いに対して一事から十事までの法を説いたもの。㊸『大正新脩大藏經』一四(五七〇)。

仏説四天王經 ぶつせつしてんのうきょう 一卷。㊸智嚴(未詳)訳経僧/宝雲(三三五?―四四九年)訳経僧。㊹毎月の六齋日に四天王が日月・五星・二十八宿の諸天を率いて巡遊し、人々の善悪を伺察して帝釈天に報告することを説いている。㊺『大正新脩大藏經』一五(五九〇)。

仏説莊嚴菩提心經 ぶつせつしゅうこんぼだいしんぎょう 一卷。㊻鳩摩羅什(クマラージウヴァ、三四四―四一三年)東晋代の僧・大訳経家。㊼菩提心經。㊽發菩提心・菩提心、その進展の過程として十波羅蜜・十地を説いている。㊾『大正新脩大藏經』一〇(三〇七)。㊿国訳一切經『華嚴部』四。

仏説正法念經 ぶつせつしやうほうねんぎょう 仏説分別善惡所起經 ぶつせつぶんべつぜんあくしよききょう 仏説大吉祥天女十二名号經 ぶつせつだいきちじやうてんによじゅうにみやうこうきょう 一卷。㊿不空(アモリガヴァ)アジュラ、七〇五―七七四年)唐代の密教訳経僧。阿目佉ともいう。㊿大吉祥天女の十二名号(吉慶・吉祥・蓮華・嚴飾・具財・白色・大名称・大光曜・施食者・施飲者・宝光・大吉)を受持・誦誦・修習・供養して、他のために宣説すれば、一切の貧窮を除き、豊饒・財宝・高貴を得ると、その功徳を説いている。㊿『大正新脩大藏經』二(二二五―二二六)。

仏説分別善惡所起經 ぶつせつぶんべつぜんあくしよききょう 一卷。㊿安世高(未詳)後漢の訳経僧。㊿分別善惡所起經、『善惡所起經』、『正法念經』。㊿善惡を分別して、善をなせば善を得、惡をなせば惡を得ると説いている。㊿『大

の一生を描いている。㉔『大正新脩大藏經』四(一九三)。㉕『国訳一切經』本縁部四。

仏母大孔雀明王經 ぶつもだいくじやくみようおうきょう

三卷。㉖不空(アモ)ガヴァジュラ、七〇五—七七四年唐代の密教訳経僧。㉗『仏母大金曜孔雀明王經』、『孔雀明王經』、『大孔雀明王經』、『孔雀經』。㉘孔雀明王陀羅尼の功德を説いている。㉙『大正新脩大藏經』一九(九八—)

物理訓蒙 ぶつりくもんもう ㉚吉田賢輔訳。吉田賢輔刊、明治五(一八七二)年、和四冊(上中下)。㉛空気・風・雨・光・電気・貨幣・パン・書物・絹など、自然現象や生活関連の事項について平易に解説した啓蒙書。

物理書 ぶつりしょ 未詳。

物理小識 ぶつりしょうしき 一二卷。㉜方以智(一六一—一七一年)明末・清初の学者。字は密之、号は鹿起。㉝康熙三(一六六四)年。㉞卷一は天文曆法、卷二は氣象・地・観天望氣、卷三は人体構造・生理、卷四・五は医学・薬、卷六は飲食・衣服、卷七は鉱物、卷八は力学応用技術、卷九は植物、卷一〇は植物・動物、卷一一は動物、それに卷一二で「鬼神方術」異事類として、占卜・怪異現象について、西洋の学説や自己の觀察などをもとに実証的に述べている。

物理相感志 ぶつりそうかんし 物類相感志 ぶつるいそうかんし

物理論 ぶつりろん 一卷。㉟楊泉(未詳)。㊱秦漢諸子の説を集めたもの。㊲『平津館叢書』甲集。

物類相感志 ぶつるいそうかんし ㊳蘇軾(一〇三六一—一〇一一年)北宋の詩人・文学者。字は子瞻、号は東坡。㊴物と物とが相感じて変化する例をあげるとともに、その変化の利用方法を記したもの。㊵『說郛』二二、『物類相感志』(明治二二年)

筆のすざび ぶでのすざび 四卷四冊。㊶菅茶山(一七四八—一八二七年)江戸中・後期の儒学者・詩人。名は晋帥、字は礼卿、茶山は号。㊷『菅茶山翁筆のすざび』、『茶山翁筆のすざび』。㊸文化二(一八一四)年稿。㊹安政四(一八五七)年。㊺和漢の奇事・異聞・史談・俗談・人物談など、多方面にわたる話を集録したもの。全二六一条から成る。㊻『日本隨筆全集』一七、『日本隨筆大成』新版一期(旧版一期二)、『百家説林』正編上、『有朋堂文庫』名家隨筆集下。

風土記 ふどき ㊼地誌。奈良時代の初め、元明天皇の和銅六(七一三)年に、①国・郡・郷の名によい字をつけよ、②郡内の物産品目を列挙せよ、③地味の肥沃程度を記せ、④山川原野の名の由来を記せ、⑤土地の伝承を記せ、という官命によって、六〇余カ国がそれぞれ筆録編纂して中央に報告した国別の地誌。現伝本は常陸・播磨・出雲・豊後・肥前のわずか五カ国で、そのうち『出雲国風土記』のみが完本である。㊽『岩波文庫』、『日本古典全集』、『日本古典文学大系』二、『標註 古風土記』(明治三二年)

武備志 ぶびし 二四〇卷。㊾芳元儀(未詳)明末期の軍学者。字は止生。㊿兵書。古来の諸書から武備に関する事実・

論説を編集し、戦陣図や地図を加えて戦略・軍資などを論じたもの。兵訣解・職略考・練練制・軍資乗・占度載の五門に分類している。

夫木集 ぶぼくしゅう→夫木和歌抄 ぶぼくわかしょう

夫木和歌抄 ぶぼくわかしょう 三六巻・目錄一卷三七冊。

〔藤原長清(未詳)〕。〔夫木集〕、『夫木抄』、『夫木和歌集』。

〔元応二(一三二〇)年ころ。〕〔寛文五(一六六五)年。〕〔私撰歌集。〕『万葉集』以降の和歌のうちから、さまざまな撰にもれた約一七三五首を歌題によつて分類したもの。散逸した古集

の歌を見るための重要な文献となった。〔註〕校註国歌大系「二

一一二二、『夫木和歌抄』(国書刊行会)

文海披沙 ぶんかいひしょう 八巻。〔註〕謝肇淛(未詳)明の

詩人・随筆家。〔註〕随筆。

文会筆録 ぶんかいひつろく 二〇巻。〔註〕山崎闇斎(一六一

八)八二年江戸前期の儒学者・神道家。名は何のち嘉、字

は敬義。別号は垂加。〔註〕天和三(一六八三)年。〔註〕小学、

『近思録』その他、四書五経などについて朱子の注の要領を述

べたもの。〔註〕山崎闇斎全集「上」下垂加草全集。

文獻通考 ぶんけんつこう 三四八巻。馬端臨(一二五四

一?)年南宋末・元初の儒者。字は貴与、号は竹州。〔註〕杜佑

の『通典』により、さらにこれを広めて四門とし、南宋の寧

宗までの事跡を述べたもの。〔註〕『国学基本叢書』。

文言(伝) ぶんげん(でん)→易経 えききょう

文字 ぶんし 二巻。〔註〕辛鉞(未詳)。〔註〕通玄真経。〔註〕老

子』を敷衍したもので虚無自然を宗旨とする。編目は道原・精誠・九守・符言・道徳・上徳・微明・自然・下徳・上仁・上義・上礼の一二編から成る。後人の偽作とされる。

文章軌範 ぶんししょうきはん 七巻。〔註〕編・謝枋得(一二二

六一八九年)南宋末の政治家。字は君直、号は壘山。〔註〕科挙

受験者のために、模範文例として唐宋の名家の文を中心に一

五家六九編を集めたもの。日本では作文練習の教科書として

用いられた。〔註〕『新釈漢文大系』一七一―一八。

文鈔夢志 ぶんししょうむし 未詳。

焚椒録 ぶんしゅうろく 〔註〕王鼎(未詳)遼の人。

文藻行潦 ぶんそうこうろう 七巻三冊。〔註〕山本北山(一七

五二)一八二二年)江戸中・後期の儒学者。名は信有、字は

天禧、別号は孝経楼主人など。〔註〕安永八(一七七九)年序。〔註〕

天明二(一七八二)年。〔註〕文章上の佳句を配列して作文の資料

としたもの。〔註〕国立国会図書館。

文中子 ぶんちゅうし 一〇巻。〔註〕王通(五八四―六一七年)

隋の学者。字は仲淹。文中子と呼ばれる。〔註〕中説。〔註〕王

通の子、福郊・福時が父の言を虚飾して成したものといわれ

る。〔註〕『六子全書』一〇、『百子全書』六。

文明起源論 ぶんめいきげんろん ラボック(Lubbock, Sir

J., 1st Baron Avebury. 一八三四―一九一三年)イギリスの銀

行家・著述家。〔註〕風俗・技芸・宗教・道徳・法律など文明の

起源について述べている。〔原書〕The Origin of civilization and the primitive condition of man, 1870.

分類故事要語 ぶんるいこじようこ 一〇巻・付録一卷一
〇冊。㊦平住専庵(未詳)江戸中期の医者・儒学者。名は周
道、字は専安、別号は静斎・橘墩など。㊦版正徳四(一七一
四)年。㊦読書中に得た古人の言葉を分類整理したもの。㊦
哲学堂文庫。

〔八〕

平氏太子伝 へいししたいしでん→聖徳太子伝暦 しょう
とくたいしでんりやく

平児代答 へいじだいとう 一冊。㊦山崎美成(一七九六—
一八五六年)江戸後期の雑学者。字は久卿、号は北峰・好問
堂・三養居。㊦文政三(一八二〇)年自序。㊦天狗についての
聞き書き。㊦哲学堂文庫(写本。文政三年)

平治物語 へいじものがたり 三巻。㊦未詳。㊦『平治記』。

㊦未詳(三世紀前半ころに古態本が成立)。㊦平治の乱(一
一五九年)に取材した軍記物語。㊦『日本古典文学大系』三二。
兵術文稿 へいじゆつぶんこう 未詳。

秉燭譚 へいしよくだん 五巻。㊦伊藤東涯(一六七〇—
一七八年)江戸中期の儒学者。名は長胤・源蔵、別号は健健

齋。㊦宝暦一三(一七六三年)。㊦父仁齋の旧話を編集し、新
しいものを加えて、およそ一九一則の雑考をなしたもの。㊦

『日本随筆大成』新版二期一(旧版一期六)

秉燭或問珍 へいしよくわくもんちん 六巻六冊。㊦鷹見爽
鳩(一六九〇—一七三五年)江戸中期の儒学者・藩士。姓は

高見とも。はじめ石川・児島氏。名は正長、字は子方、別号
は不求斎。㊦『天地或問珍』。㊦版家永七(一七一〇)年。㊦
雷・風・月・虹・雪・光物・雨・谷音・地震・潮・竜宮・狐
火・高山煙立・鬼門・鬼神・轆轤首・夢・仙人・人相・狐・
天狗・瘡・釜鳴り・産婦鬼について述べたもの。㊦哲学堂
文庫。

秉穂録 へいすいろく 初編二冊・二編二冊。㊦岡田新川
(一七三七—一九九年)江戸中期の儒学者。名は宜生、字は挺
之、別号は暢園・杉斎など。㊦初編寛政七(一七九五)年、二
編同一(一七九九)年。㊦随筆。和漢古今の群書を引用し
て、史実・制度・故実・訓詁・民俗・奇談・俗諺などさまざ
まなごとについて比較考証し、見解を述べたもの。㊦『日本
随筆大成』新版二期一〇(旧版二期一〇)、『文豹一斑』明治二
五年)

關邪小言 へきじやしょうげん 四巻四冊。㊦大橋訥庵(一
八一六—一六二年)江戸後期の儒学者。名は正順、字は周道、
別号は曲洲・承天など。㊦嘉永五(一八五二年)自序。㊦安政
四(一八五七年)。㊦宋学の理氣説を根拠として、西洋の學術
を批判したもの。㊦『大橋訥庵先生全集』上、『明治文化全集』
「思想編」、「校訂 關邪小言」(昭和一三年)

弁頭密二教論 べんけんみつにきょうろん 二巻。㊦空海
(七七四—一八三五年)平安前期の僧。真言宗の開祖。㊦頭密
二教論、「二教論」。㊦弘仁六(八一五)年ころ。㊦頭教と密
教とを並べてその深淺・優劣を論じたもの。頭密二教を並べ

て比較批判するところから、横の教判、横判教といわれる。

④弘法大師全集」一、『大正新脩大藏經』七七(二四二七)

変態心理 へんたいしんり ④日本精神医学会発行の月刊雜

誌。第一号は大正六(一九一七)年一〇月一〇日発行。

弁断鬼神二教合璧論 べんだんきしんにきようがつべきろ

ん 五卷五冊。⑤日勇(?)一七六〇年)江戸中期の日蓮宗の

僧。字は存道。⑥『弁断鬼神 二教合璧論』。⑦(寛政宝曆四(一

七五四)年。⑧儒仏二教同源論。儒と仏とはその心源を同じ

くするものであるから儒仏一元であるが、その教説のあとに

執着すれば千差万別で、その本質は把握できないとする。⑨

『日本思想闘諍史料』五。

弁弃道書 べんべんどうしょ 二卷二冊。⑩佐々木高成(未

詳)江戸中期の神道家。はじめ児島氏。別名は常静、号は常

静翁。⑪(寛政元文二(一七三七)年。⑫获生徂徠の『弁道』の神道

批判に対する批判の書。神道の遠く深い由来やその根柢のあ

ることを説いている。⑬『神道叢書』、『大日本文庫』「垂加神

道」下、『日本思想闘諍史料』三。

宝永神異記 ほうえいしんいき ↓伊勢太神宮統神異記

いせだいじんぐうぞくしんいき

報心影響録 ほうおうようこうろく 二卷二冊。⑭(日達(一

六七四—一七四七年)江戸中期の日蓮宗の学僧。字は智鳩・

運智、号は了義院。⑮(寛政寛保二(一七四二)年。⑯卷上「安祿

山、その子のために殺さる」など六一条、卷下「晋の阮瞻無鬼論をとる」人、死して化して異類となる」など五三条から成る。⑰哲学堂文庫。

法苑珠林 ほうおんじゆりん 一〇〇巻。⑱(道世?)一六八

三年)隋・唐代の僧。⑲『法苑珠林伝』。⑳唐の総章元(六六

八)年。㉑(仏教事典。仏教百般にわたる事項を、中国の思想

や文化をふまえて一〇〇編に分け、さらに六六八部の項目に

細分して概説し、多くの諸経論からの引用には典拠を明記し

ている。また、「感応録」が付され、僧俗の奇瑞・靈驗譚が例

示されている。㉒『大正新脩大藏經』五三(一一二二)

方角即考 ほうがくそつこう 一冊。㉓(松浦星洲(未詳)江

戸後期の易占家。名は国祐、字は子徳、別号は風水園・応機

庵主・泉隣。㉔『和漢正説 方角即考』。㉕(文化四(一八〇

七)年。㉖(方角の吉凶を判断する相法書。㉗『方角即考』(和

漢正説九星方位、明治一九年)

方角重法記 ほうがくちようほうき 一冊。㉘未詳。㉙(方角

の吉凶を判断する占卜書。

方鑿必携 ほうかんひつけい 一冊。㉚(編・尾島碩聞。磯川

堂、明治二(一八七八)年、和二八丁。㉛(占卜。改正版明

治三二年、四二丁)

方鑿弁説 ほうかんべんせつ 一冊。㉜(松浦琴鶴(未詳)江戸

後期の易占家。名は純逸、別号は観濤閣。㉝(神殺撰要 方

鑿弁説。小林米造刊、明治一七(一八八四)年、和三八丁。

㉞(占卜。

伯耆風土記 ほうきふんどき 未詳。

法言 ほうげん 一三卷。㊦揚雄(前五三―後一八八)前漢末の学者。字は子雲。㊧「揚子法言」。㊨道家の言をかりて儒の道を説き、また、性善悪混交説を唱えて孟子・荀子の調和を試みている。『論語』にならって作られたもの。

保元物語 ほうげんものがたり 三卷。㊦未詳。㊧「保元記」。『保元合戦物語』、『保元合戦記』。㊨未詳。㊩軍記物語。保元の乱の発生した原因・経過、および白河殿の合戦後の敗者たちの動向などを、和漢混交文で叙述したものの。源為朝など敗者の側に焦点をあてて物語が描き出されている。㊪「古典研究会叢書」、『陽明叢書』、『複製日本古典文学館』。㊫「岩波文庫」、『新註国文学叢書』、『伝承文学資料集』、『日本古典文学大系』三二、『未刊国文資料』。

法事讃 ほうじさん→転経行道願往生浄土法事讃 せんぎようぎようどうがんおうじようじようどほうじさん

北条九代記 ほうじようくだいき 一二卷一二冊。㊦浅井了意(一六一二ころ―九一年)江戸前期の僧・仮名草子作者。了意は法号、別号は瓢水子・松雲など。㊧「鎌倉九代記」、『鎌倉北条九代記』。㊨延宝三(一六七五)年。㊩伝記。㊪『校註国文叢書』二五、『統国民文庫』、『有朋堂文庫』、『鎌倉

北条九代記(明治一七年)

北条盛衰記 ほうじようせいすいき 七卷七冊。㊦江西逸志

子(未詳)。㊧「小田原北条記」。㊨寛文一三(一六七三年)。㊩

伝記。改題本に『北条五代実記』がある。㊪「哲学堂文庫」。

牟子理惑論 ぼうしりわくろん 一卷。㊦牟融(未詳)後漢の

人。本名は牟子理惑。㊧「牟子」。㊨清の孫星衍が『弘明集』から摘出して一卷とし、儒仏道三教の異同を論じて、仏教の優れていることを示したものの。三教交渉史上からも、中国人の仏教理解という点からも、重要なものとされている。㊩「大正新脩大藏経」五二(二二〇二)『弘明集』卷二、『百子全書』。

蓬生庵随筆 ほうせいあんずいひつ 二卷。㊦立野春節(未詳)江戸前期の儒学者。春節は名、号は蓬生庵。㊩「国書解題」に「蓬生庵随筆附録」として、上巻「蜀山人壁書」から「神罪」まで二三項、下巻「浪士知耻死から」旅僧歌を残して自水葬「まで一五項、「文章見るべきもの多し」とある。『国書総目録』にも『蓬生庵随筆』という書名のは記載がない。

茅窓漫録 ぼうそうまろく 三卷三冊。㊦茅原虚斎(一七四一―一八四〇年)江戸後期の儒学者・医者。名は定・元常(玄常・玄定、字は叔同、別号は長南・茅窓。㊨文政一二(一八二九年)自序。㊩天保四(一八三三年)。㊪「駅路鈴」仏法僧鳥「朱子学四書由来」「三貨由来」など四三項を考証した仮名文の随筆。㊫「日本経済叢書」二九、『日本経済大典』二九、『日本随筆全集』七、『日本随筆大成』新版二期二二(旧版一期一一)、『百家説林』正編上。

宝蔵論 ほうぞうろん 一卷。㊦未詳。㊧「晋僧肇法師宝蔵論」。㊨老子の思想によりながら般若の空を論じたもの。老荘の学を用いて仏教へ導こうとして作られたもので、唐代の偽作といわれ、僧肇の作つたものではない。㊩「大正新脩大

蔵経「四五二八五七」

報知新聞 ほうちしんぶん 日刊。東京、報知社(のち報知新聞社)。明治二七(一八九四)年二月二六日、「郵便報知新聞」(明治五(一八七二)年六月一日創刊)を改題・追号し、昭和一七(一九四二)年八月五日、「読売新聞」に吸収合併されて「読売報知」と改題した。戦後、夕刊紙の『新報知』となり昭和二年一月一日、朝刊スポーツ紙として紙名を継続した。

抱朴子 ほうぼくし 内編二〇巻・外編五〇巻。⑤葛洪(二八四—三六四年)晋の道士。字は稚川、号は抱朴子。⑥建武元(三二七)年。⑦内編は神仙・仙薬・養生・延年など不老不死を得るための方術について記し、外編は儒家思想をもととして、政治・社会批判をおこなっている。一般には内編を指して「抱朴子」といい、神仙思想を体系化した道教の基本的な書。⑧『四部叢刊』、『叢書集成初編』。⑨『中国古典文学大系』八。

法林輯要 ほうりんしゅうよう 四巻四冊。⑩懷玉道温(一六三九—一七〇七年)江戸前期の黄檗宗の僧。懷玉は道号。号は志源主人。⑪『観宝永元(一七〇四)年。⑫卷一「無常」から「債負」まで八項、卷二「瞋恚」から「受道」まで九項、卷三「誠俗」から「坐禅」まで八項、卷四「閻魔王」から「極楽世界」まで九項の全三四項から成る。⑬『哲学堂文庫』。

保嬰論 ほえいろん 『保嬰撮要』二〇巻のことか。⑭『薛鎧(せうがい)未詳明の人。⑮小児の諸種の病状と原因・治療について述

べたもの。

補漢志 ほかんし→補漢兵志 ほかんへいし

補漢兵志 ほかんへいし 一卷。⑯『錢文字(未詳)』。⑰『漢書』中の兵制にかかわる言をとって一編とし、論断を付したものを。→漢書。

簠簋 ほき→簠簋内伝金烏玉兎集 ほきないでんきんうぎよくとしゅう

簠簋内伝金烏玉兎集 ほきないでんきんうぎよくとしゅう 五巻。⑱『安倍晴明(九二一—一〇〇五年)平安中期の陰陽家。

⑲『簠簋』、『簠簋内伝』、『簠簋内伝金烏玉兎集宣明曆経』、『三国相伝陰陽輯簠簋内伝金烏玉兎集』、『三国相伝宣明曆経註』、『金烏玉兎集』。⑲慶長一七(一六一二)年古活字版。

⑳占いの秘儀を伝えたもの。㉑『統群書類従』三二上(九〇六)北越奇談 ほくえつきだん 六巻六冊。㉒『橘』崑崙(一七六一?—?)年。名は茂世、字は伯桂、崑崙は号/画・葛飾北

斎(二七六〇—一八四九年)江戸後期の浮世絵師。⑳文化六(一八〇九)年序。㉑文化八(一八一)年。㉒北越の奇事・怪談などを集めたもの。卷一「竜蛇ノ奇」、卷二「七奇ノ弁」、卷三「玉石」、卷四「怪談」、卷五「怪談」、卷六「人物」。㉓『北越奇談』(昭和二十四年)

北越七奇考 ほくえつきちきこう 二巻一冊。㉔『三宅瓶斎(みやけびんさい)』(二八〇—一六〇)年江戸後期の藩士。名は安齋、字は徳卿、瓶斎は号。㉕『安政五(一八五八)年序、同六年跋。㉖内上編は

「然土・然水・沸井・火井・塩井・風穴・土用泉」の土地に関

する七奇、下編は「蓑虫・鎌鼬・神楽岳神楽・未時瀑布・申時僧影・胴鳴・冬雷」の風気に関する七奇、和漢の書を引用して論じている。㊦哲学堂文庫。

北越雪譜 ほくえつせつぶ 初編三卷・二編四卷七冊。㊦鈴木牧之(一七七〇—一八四二年)江戸後期の文人。名は儀三治、俳名は秋月庵牧之/画・岩瀬京水。㊦『越後雪譜』。㊦初編天保六(一八三五)年序、二編同一(一八四〇)年序。㊦初編天保八年、二編同一二年。㊦越後の風俗・人情を、雪を舞台に描いたもの。越後の人物・奇談・怪異なども記している。㊦『北越雪譜』(昭和四三年)、『北越雪譜』(昭和四四年)。

㊦『岩波文庫』、『日本庶民生活史料集成』九。

北山抄 ほくざんしょう 一〇卷一〇冊。㊦藤原公任(九六六—一〇四一年)平安時代の公家・歌人・漢詩人。四条大納言と称す。㊦一條天皇以後の儀式を漢文で記した有職書。㊦『新訂増補 故実叢書』三一、『丹鶴叢書』六。

北山録 ほくざんろく 一〇卷。㊦新清・未詳 唐代の僧。㊦『北山参玄語録』。㊦九世紀初めころ。㊦問答形式により、儒道二教と仏教とを比較し、結局は仏教に帰すべきであることを説いたもの。㊦『大正新脩大藏経』五二(二二—二一三)。

墨子 ほくし 一五卷。㊦墨翟(未詳)前五世紀後半の墨家の開祖。翟は名。㊦墨翟とその学派の著作を集大成したものの兼愛・節用・非攻・尚賢などの思想を中心とする。㊦『新釈漢文大系』五〇—五一、『全釈漢文大系』一八一—一九。

墨色指南 ほくしよくしなん→墨色早指南 すみいろは

やしなん
墨色小筭 ほくしよくしやうせん→墨色小筭 すみいろ
しょうせん

墨色伝 ほくしよくでん→墨色伝 すみいろでん
ト筭早考 ほくぜいそうこう 一冊。㊦平沢随貞(未詳)江戸中期の医者・占卜家。随貞は名。㊦文化一〇(一八一三)年。㊦占卜。㊦『ト筭早考』(明治二六年)
ト筭増補盲筭 ほくぜいざうほうもうきやう 二卷一冊。㊦平沢随貞(未詳)江戸中期の医者・占卜家。随貞は名。㊦宝暦三(一七五三)年序。㊦明和七(一七七〇)年。㊦占卜。㊦『東北大学狩野文庫』。

北窓瓊談 ほくそうさだん 二編八卷八冊。㊦橘南谿(一七五三—一八〇五年)江戸中・後期の医者。名は春暉、字は惠風、別号は梅華仙史・梅仙。㊦文政八(一八二五年)。㊦人物・鳥獣草木・地理など、日常見聞するものを雅俗にかかわらず記したもの。絵入り。㊦『杏林叢書』五、『日本随筆全集』四、『日本随筆大成』新版二期一五(旧版二期八)、『有朋堂文庫』。

牧笛類叢 ほくてきるいそう 八卷八冊。㊦抱嶺館(未詳)。㊦『牧笛類聚』。㊦明和四(一七六七)年序。㊦古今の雑談を理非・虚実にかかわらず見聞のままを記したもの。㊦哲学堂文庫(写本)

穆天子伝 ほくてんしでん 六卷。㊦未詳。㊦中国古代の小説。西周の穆王の西方旅行および姜の盛姫の葬事を記してい

る。西晋の武帝の咸寧五(二七九年)に汲郡(河南省汲県)の戦国時代の魏の襄王前二九九年迄の墓から発掘された竹の札に書かれた竹書の一つ。荀勗(?—二八九年)らが原本を校訂して六巻とし、郭璞(二七六—三三四年)が注を施したものが伝えられている。⑤『古今逸史』一三、『五朝小説』一、『四部叢刊』四六八、『説郭』一一三、『百子全書』六五、『竜威秘書』六。

北堂書鈔 ほくどうしよしよ 一六〇巻。⑥編・虞世南

(五五八—六三八年)唐初の書家・詩人・政治家。字は伯施。

⑦類書。帝王・后妃・政術・刑法・芸文・武功・儀飾・舟・車・酒食・天・歳時・地などに分類して抄録した名言などを集めている。

北米雑誌 ほくべいざっし 未詳。

北夢瑣言 ほくぼうさげん 現存二〇巻。⑧孫光憲(?—九

六八年)北宋の人。⑨晩唐・五代の間の政治上の史実や当時の社会・風俗・人情、また晩唐の詩人の逸事などを記している。⑩『雅雨堂十種』一七—二〇、『説郭』四六、『稗海』一一—一二。

卜法類書 ほくほうるいしよ 一冊。⑪未詳。⑫天明四(一七八四)年。⑬占卜。⑭国立国会図書館(写本)

北門新報 ほくもんしんぼう 日刊。札幌、北門新報社。明

治二四(一八九二年)四月二日創刊。明治三四(一九〇二年)九月三日、『北海道毎日新聞』(明治二〇(一八八七年)年一〇月一日、『北海新聞』を改題)、『北海時事』(明治三二(一八九八)

年一月一日創刊)と合併して『北海タイムス』と改題した。

⑯時事。おもな関係者—金子元三郎・中江兆民。

北陸新報 ほくりくしんぼう 日刊。金沢、北溟社。明治二〇(一八八七年)六月四日、『加越能新聞』(明治一六(一八八

三年)六月二日、『石川新聞』を改題を改題・追号し、明治二八年二月まで継続した。⑰時事。

法華經 ほけきょう→妙法蓮華經 みょうほうれんげき

よう

法華經持驗記 ほけきょうじげんき→歴朝法華持驗記

れきちょうほけじげんき

菩薩地持經 ほさつじじきょう 一〇巻。⑱曇無讖(タルマ

ラクシャ、三八五—四三三年)中国南北朝時代の訳経僧。⑲『菩薩地持』、『地持論』、『菩薩地經』、『菩薩戒經』。⑳大乘菩薩の修行法を詳説したもの。㉑『大正新脩大藏經』三〇(一五八—)

菩提心經 ほだいしんぎきょう→仏説莊嚴菩提心經 ぶ

つせつしやうこんほだいしんぎきょう

牡丹灯記 ぼたんとうき 未詳。

北海新聞 ほっかいしんぶん 日刊。函館、北海新聞社。明

治二八(一八九五年)一月創刊。明治四四(一九一一年)五月二日、『北海新報』と改題、大正五(一九一六年)一〇月二日、『北海新聞』に復題した。大正一〇年ころまで存続した。

法界或問止啼銭 ほっかいわくもんしていせん 三巻三冊。

⑳大珍影(一七四八—一八三〇年)江戸中・後期の曹洞宗の

僧。大珍は道号。(㉔)『文化一四(二八一七)年』。(㉕)竜拈寺豊橋市の僧である著者が、老若男女のために説いた法語。(㉖)『曹洞宗全書』「注解」三。

法句経 ほつつききょう 二巻。(㉗)法救(タルマトラータ、未詳)。(㉘)支謙(未詳)三國時代の呉の訳経家／竺将焰(未詳)。

④紀元前三世紀ころ。(㉙)三九品から成り、うち二六品はパリー語の「タンマパダ」に、他の一三品は「ウターナ・ヴァルガ」に相当箇所がある。基本的な仏教教理を説いたもの。(㉚)『大正新脩大藏經』四(二二〇)

法句譬喻経 ほつくひゆききょう 四巻。(㉛)法救(タルマトラータ、未詳)。(㉜)法炬(未詳)西晋末の僧／法立(未詳)。(㉝)

『法句本末記』、『法喻』。(㉞)紀元前後ころ。(㉟)法句(タンマパタ)とその説かれた由来を語る譬喻物語から成り、全三九品に対して六八話が収められている。(㊱)『大正新脩大藏經』四(二二一)。(㊲)『国訳一切経』本縁部一。

法華玄義 ほつげげんぎ→妙法蓮華経玄義 みようほうれんげききょうげんぎ

法華宗御願絵鈔 ほつげしゅうみくじえしきょう 一冊。(㊳)『日行(未詳)』。(㊴)『文化一四(二八一七)年』。(㊵)占卜。(㊶)『哲学堂文庫』

法華靈験伝 ほつけれいげんでん 二巻。(㊷)了円(未詳)。(㊸)

『法華経靈験伝』。(㊹)唐の慧詳の『弘贊法華伝』を中心に、その他の書から、法華経伝持に関する靈験一〇七例を抄録したものの。(㊺)『卍字統藏経』二・乙・七・四。

北国巡杖記 ほつこくじゆんじきょうき 五巻五冊。(㊻)北葦

(未詳)江戸後期の俳人。小寺氏、別号は鳥翠台など。(㊼)『奇談 北国巡杖記』、『北国奇談巡杖記』。(㊽)『文化一四(二八一七)年』。(㊾)加賀・越中・能登・越後・佐渡・若狭・越前の北

国地方を踏査し、名勝・旧跡をはじめ、見聞した怪奇の伝説・故事などを、図をかかげ、俳句などを付して記したものの。(㊿)『日本随筆大成』新版二期一八(旧版二期九)

発心集 ほつしんしゅう 八巻八冊。(㊽)鴨長明(一一一五

三?—一二二六年)鎌倉前期の歌人。「ながあきら」とも読む。

①『鴨長明発心集』、『長明発心集』。(㊿)不詳。(㊽)慶安四(一六五一)年。(㊾)発心・遁世・往生の説話を中心とした仏教説話集。(㊿)『改定 史籍集覧』二三、『校註鴨長明全集』、『大日本仏教全書』九一(鈴木財団)

法相義 ほつそうぎ 未詳。

法曹至要抄 ほつそうしきょうしきょう 三巻三冊。(㊿)坂上明

期(一一三八—一二二〇年)平安末・鎌倉前期の明法家。著者については、明法家坂上氏の編によるものともされる。(㊿)『法曹至要抄』。(㊽)『平安時代末期』(寛文二二(一六六二)年)。(㊾)律令格式の重要事項一四カ条をかかげ、それを一七七項目に分け、そのおののについて律令格式の条文・注釈書を引用して、要語の注解および編者の見解を付したものの。(㊿)『群書類従』「律令」、『日本経済大典』一、『日本古代法典』。

本行経 ほんぎきょうきょう→仏本行経 ぶつほんぎきょう

きょう

本郷怪談実録 ほんごうかいだんじつろく 二巻二冊。⑥未詳。⑦怪談。⑧哲学堂文庫(写本)

本生心地観経 ほんじょうしんじかんぎょう → 大乘本生心地観経 だいじょうほんじょうしんじかんぎょう

本草 ほんぞう → 本草綱目 ほんぞうこうもく

本草綱目 ほんぞうこうもく 五二巻・付図二巻。⑨李時珍(一五一八—九三年)中国明の医者。字は東璧、号は瀟湖山人。⑩万曆六(一五七八)年。⑪万曆二四(一五九六)年。⑫藥物書。多くの文献を引用して、藥物一八八二種を一六部(綱)に分類し、さらに各部を六〇類(目)に分けて、各藥物の積名・集解・正誤・修治・気味・主治・発明・附方を説明している。付図二巻は子の季建元の手になる。⑬新注校定 国

訳本草綱目(一五巻、鈴木真海訳、昭和四八—五二年)

本草綱目啓蒙 ほんぞうこうもくけいもう 四八巻。⑭小野蘭山(一七二九—一八一〇年)江戸中・後期の本草学者。名は職博/編・小野職孝(?—一八五二年)江戸後期の本草学者/岡村春益。⑮享和三(一八〇三)年。⑯本草。蘭山の講義の筆記を孫の職孝が整理し刊行したもの。⑰日本古典全集三期。

本草拾遺 ほんぞうしゅうい 未詳。

本草図経 ほんぞうずけい 二二巻。⑱蘇頌(一〇二〇—一〇一一年)宋の官吏。⑲各地の薬物を図示・説明したもの。

本朝医談 ほんちよういだん 一冊。⑲奈須恒徳(一七七四—一八四二年)江戸後期の医者。字は土常、号は柳村、恒徳

は名。⑳文政五(一八二二)年。㉑医学。㉒杏林叢書一。本朝因縁諸国古寺談 ほんちよういんねんしよこくこじだん 五巻五冊。㉓未詳。㉔諸国古寺譚。㉕宝曆一(一七六一)年。㉖天王寺・西大寺・東大寺・延暦寺・善光寺・長谷寺・広隆寺・東福寺など、旧寺の因縁物語。絵入り。㉗哲学堂文庫。

本朝怪談故事 ほんちようかいだんこじ 四巻四冊。㉘厚誉(未詳)江戸中期の僧。号は春鶯廓玄。㉙和漢合類 本朝怪談故事。㉚正徳元(一七一二年)。㉛同六(一七二六)年。

㉜伊勢参宮での奇異な話の聞き書きに著者の見解を加えたもの。十八神の好悪愛嫌話、諸神の霊能話、御神体の異色のもの、神事・祭礼の異色のものなど、全九六話から成る。㉝

『本朝怪談故事』(昭和五三年)

本朝奇跡談 ほんちようきせきだん 三巻。㉞植村政勝(一六九五—一七七七年)江戸中期の本草家。名は政勝・正勝、号は新甫/画・春斎英笑。㉟諸州名所難所寄書。㊱安永三(一七七四年)年。㊲卷上、大和から尾張まで九カ国、卷中、伊豆から飛騨まで一三カ国、卷下、越中から丹後まで五カ国、それに『諸国山中風俗』を載せ、各国の奇談について記している。絵入り。㊳哲学堂文庫。

本朝高僧伝 ほんちようこうそうでん 七五巻・総目一卷三二冊。㊴出元師範(一六二六—一七二〇年)江戸前期の臨済宗の僧。別号は独師。㊵元禄一五(一七〇二年)自序、宝永四(一七〇七)年跋。㊶日本への仏教渡来から一〇〇〇余年にわ

たり出世された諸先徳一六六二人の行状・行履を網羅的に記したものだ。ただし、一向宗(真宗)と日蓮宗は除外している。

⑧『大日本仏教全書』六三(鈴木財団)、『大日本文庫』。

本朝語園 ほんちようごえん 一〇巻一二冊。⑧孤山居士(未詳)。⑨宝永三(一七〇六)年。⑩日本の故事を収集・類別して解説したもの。巻七に占相、巻八に神祇・託宣、巻九に飛仙について記している。

本朝国語 ほんちようこくご 五巻五冊。⑧矢島曾甫(未詳)。⑨宝曆一(一七六一)年自序。⑩宝暦一(一七六一)年。⑪諸国遊歴中の見聞隨筆。⑫哲学堂文庫。

本朝故事因縁集 ほんちようこじいんねんしゅう 五巻五冊。⑧未詳。⑨元禄二(一六八九)年。⑩『医聖堂叢書』。

本朝諸国風土記 ほんちようしよこくふどき ⑧敬順(一七六一—一八三二年)江戸中・後期の真宗の僧。大浄と称し、号は十方庵・厭離斎・嘯月庵、茶人として宗賢・宗知、以風と号す。⑨地誌。⑩国立国会図書館(二四巻一冊)

本朝新因縁集 ほんちようしんいんねんしゅう 未詳。本朝神社考 ほんちようじんじやこう 六巻六冊。⑧林羅山(一五八三—一六五七年)江戸前期の儒学者。名は信勝、字

は子信、剃髪して道春。⑨『神社考』。⑩未詳。⑪神仏混交ではない本来の神社の相を、神儒合一の立場から明らかにしよう、全国の主要な神社の祭神・由来・信仰・靈験などを考証したもの。上巻は二二社、中巻は名のある諸社、下巻は靈異・方術(俗信仰)について考証している。⑫『改造文庫』、

『国民思想叢書』神道篇、『大日本風教叢書』七、『日本思想闘争史料』一、『日本精神文献叢書』七—八。

本朝世事談綺 ほんちようせじだんき 五巻五冊。⑧菊岡

沾涼(二六八〇—一七四七年)江戸中期の著述家・俳人。名は光行、別号は南仙・独南斎など。⑨『近代世事談』、『世事談』。⑩享保一九(一七三四年)。⑪衣服・飲食・生植・器用・態芸・歳時・文房・人事・雑事の九門に分け、民間で常用される種々の事物・事柄や名称の起源を説明したもの。⑫『温知叢書』三、『日本随筆大成』新版二期一(旧版二期六)

本朝搜神記 ほんちようそうじんき ↓ 扶桑怪談弁述鈔 ふうそうかいだんべんじゆつしやう

本朝俗諺志 ほんちようぞくげんし 五巻五冊。⑧菊岡沾涼(二六八〇—一七四七年)江戸中期の著述家・俳人。名は

光行、別号は南仙・独南斎など。⑨延享三(一七四六)年跋。⑩同四年。⑪諸国の見聞・雑事を収集したもの。巻一「武州玉川水」から巻五「京中御門御神」まで、全一三七条から成る。絵入り。⑫哲学堂文庫。

本朝人相考 ほんちようにんそうこう 三巻三冊。⑧郭西翁(未詳)。編・仙掌斎(未詳)。⑨安永二(一七七三年)。⑩人相の書。⑫哲学堂文庫。

本朝年代記 ほんちようねんだいき 七巻・首二巻一〇冊。⑧編・田登仙(未詳)。⑨『新編分類 本朝年代記』、『新編分類本朝年代記』。⑩貞享元(二六八四年)。⑪年代記。⑫哲学堂文庫。

学堂文庫。

本朝法華驗記 ほんちょうほつげげんき→大日本国法華經驗記 だいにほんこくほげきょうげんき

本朝俚諺 ほんちょうりげん 九卷五冊。㊦井沢蟠竜(二六

六八一七三〇年)江戸中期の神道家。名は長秀、別号は蟠竜子・享斎。㊦正徳五(一七一五年)。㊦俗間の諺や故事を、一五七〇個集めて説明したものを。㊦哲学堂文庫。

本朝列仙伝 ほんちょうれつせんてん 四卷四冊。㊦田中玄

順(未詳)。『本邦列仙伝』。㊦貞享三(一六八六年)。㊦役小角・武内宿禰・浦島子・山背大兄王・法道仙人・久米仙人などの伝。絵入り。㊦哲学堂文庫(四卷一冊)

本能の解明 ほんのうのかいめい ㊦カウチ(未詳)

本病論 ほんびょうろん 未詳。

本邦名医類案 ほんぽうめいいるいあん 五卷五冊。㊦

下津寿泉(未詳)江戸中期の医者。寿泉・春抱と称す。㊦宝永六(一七〇九年)。㊦医学。㊦京都大学図書館。

本命的殺即鑑 ほんみょうてきさつそつかん 一冊。㊦松

浦琴鶴(未詳)江戸後期の易占家。名は純逸、別号は観濤閣。

㊦天保六(一八三五年)。㊦占卜。㊦哲学堂文庫。

梵網經 ぼんもうきょう 二卷。㊦鳩摩羅什(クマラージー

ヴァ、三四四一四一三年)東晋代の僧・大訳経家。㊦梵網經盧舍那仏説菩薩心地戒品第十、『菩薩戒経』、『梵網菩薩戒

経』。㊦上巻に菩薩の向上心を「四十二」として説き、下巻に「十重四十人輕戒」を説いている。「菩薩戒」(仏性の開発)を説く根本經典とされるが、五世紀中国劉宋代に成立した偽經

とみられている。㊦『大正新脩大藏経』二四(二四八四)。「国訳一切経」律部一。

翻訳名義集 ほんやくみやうぎしゅう 七卷。㊦法雲(一〇

八八一五八八年)南宋の僧。㊦紹興一三(一一四三年)。㊦梵漢字典。諸仏典中の梵名音写語を採取し、六四編に類別してその字義を解説したもの。㊦『大正新脩大藏経』五四(二一

三一)

[ま]

毎季評論雑誌 まいきびょうろんざっし 未詳。

毎日新聞 まいにちしんぶん 日刊。東京、毎日新聞社。明

治一九(一八八六年)五月一日、『東京横浜毎日新聞』(明治一二(一八七九年)一月一日、『横浜毎日新聞』を改題・追号)を改題・追号した。明治三九(一九〇六年)七月一日、『東京毎日新聞』と改題・追号した。昭和一一(一九四〇年)一月三〇日、『帝都毎日新聞』に吸収されて廃刊した。㊦時事。

おもな関係者：沼間守一・島田三郎。

毎夕新聞 まいゆうしんぶん 日刊。東京、毎夕新聞社。明

治三二(一八九八年)三月創刊。『千代田日報』と合併して『千代田毎日』と改題、さらに明治三四(一九〇二年)一月一日、『毎夕新聞』と改題した。明治四〇(一九〇七年)、東京毎夕

新聞』と改題・追号した。㊦時事。

マインド "Mind: a quarterly review of psychology and philosophy." ㊦思想誌。

摩訶般若波羅蜜經 まかはんにやはらみつきょう 二七卷。

⑧鳩摩羅什(クマラージヴァ、三四四—四一三年)東晋代の僧・大訳経家。⑨『大品般若経』、『大品』。⑩般若空觀を説いた初期の大乗経典。九〇品から成っている。⑪大正新脩大蔵経八(二二三)。⑫『国訳一切経』経部二二三。

まじない三百ヶ条 まじないさんびゃっかじょう 一冊。

⑬未詳。⑭『役行者御秘法まじない三百ヶ條』。大館利一刊、明治二五(一八九二)年。

魔術 まじゆつ ⑮編・渋江保編。博文館、明治二六(一八九三年)、二冊(上一五二、下一四九頁)

魔術と催眠術 まじゆつとさいみんじゆつ 一冊。⑯近藤嘉三(未詳)。穎才新誌社、明治二五(一八九二年)、七八頁。

二版『心理応用 魔術と催眠術』(明治二五年、一〇〇頁)

魔睡術 ますいじゆつ 一冊。⑰大沢謙二(未詳)。大沢謙二刊、明治二〇(一八八七年)、五二頁。『中外医事新報』第一五一一—一六二号別刷。

増鏡 ますかがみ 一七卷または一九卷。⑱未詳。⑲『益鏡』、『増鏡』、『真寸鏡』、『源起記』。⑳曆応元(一三三八)年—永和

二(一三七六)年の間。㉑治承四(一一八〇)年の後鳥羽院の降誕から元弘三(一一三三)年の後醍醐天皇の隠岐の島からの還幸まで、一五〇余年間の歴史を公家を中心に叙述した歴史物語。㉒『古典資料類従』。㉓『岩波文庫』、『片仮名本増鏡の研究・本文資料篇』(昭和五一年)、『講談社学術文庫』、『校注古典叢書』、『史籍集覧』、『新訂増補 国史大系』、『日本古典全

書』、『日本古典文学大系』八七、『増鏡通釈』(昭和一三年)

益智編 ますちへん 未詳。

松の落葉 まつのおちば 四卷・目録一卷五冊。⑳藤井高尚

(二七六四—一八四〇年)江戸後期の国学者。号は松斎・松屋。㉑『文政二(一八二九)年序』。㉒隨筆。神祇・和歌・有職・語学・風俗・儒仏に関する考証など、見聞や研究成果を記したもの。全二四条から成る。㉓『日本隨筆全集』一五、『日本隨筆大成』新版二期(二二)旧版二期(一一)、『百家説

林』続編上、『藤井高尚全集』。

松屋外集 まつのやがいしゅう ㉔小山田与清(一七八三—一八四七年)江戸後期の国学者。字は文儒、号は知非斎、松

屋。㉕天保五(一八三四)年。㉖隨筆。㉗『東京大学図書館』。

松屋筆記 まつのやひつき 一二〇卷。㉘小山田与清(一七八三—一八四七年)江戸後期の国学者。字は文儒、号は知非

斎・松屋。㉙文化末年ころから弘化二年ころ(一八一八—一八四五年)までの三〇年間ほどに読んだ書物のなから興味ある記事を摘録し、それに感想や論評を書き加えて集成したものの。㉚『松屋筆記』(三冊、明治四一年)

マハーバーラタ Mahābhārata ㉛四世紀ころ現在の形となる。㉜古代インドの大叙事詩。『パラタ族の戦争を物語る大史詩』の意。一八編、一〇万頌のサンスクリット語の詩句と付録『ハリ・ヴァンシャ』一編の一万六〇〇頌から成る。大史詩の主題をなす物語は五分の一ほどで、宗教・神

話・伝説・風俗・社会制度・法制などに関する事柄や挿話を

豊富に含んでおり、ヒンズー教の聖典の宗教哲学詩「バカヴァット・ギーター」や「ナラ王物語」、「サーヴィトリ物語」は有名である。

摩耶五夢経 まやごむきょう 未詳。

漫画随筆 まんかくずいひつ 二巻二冊。著者 鈴木澹洲(二七

一五—一七七六年)江戸中期の儒学者。名は吉明・嘉章、字は煥卿・子煥、澹洲は号。①『撈海一得』。②『明和八(一七七一年)人名の吉凶・先の字・為人の解など、和漢古今の群籍にわたりその見聞するところを筆記した雑録』。③『随筆文学選集』一一、『日本随筆全集』五、『日本随筆大成』新版一期一三(旧版一期七)

万水一露 まんすいいちろ 未詳。

万年草 まんねんそう 一冊。著者 行願(未詳)江戸中期の真

言宗の僧。号は大進庵・如意庵。④『宝暦一一(一七六一)年序』。⑤『行願の法語や僧俗の人々の問いに対する答えを集めたもの』。⑥『今日ノ果報ハ今日ノ一念ヨリ起事』夢ノ占ヒノ事

「髑髏タ、リヲナス事」など三〇項から成る。⑦『哲学堂文庫』

万病回春 まんびょうかいしゅん → 万病回春抄 まんび

ょうかいしゅんしょう

万病回春抄 まんびょうかいしゅんしょう 三巻三冊。著者

玄洞(未詳)。⑧『慶長一八(一六一三)年古活字版』。⑨『医学』

漫遊記譚 まんゆうきだん → 常陸紀行 ひたちきこう

万葉集 まんようしゅう 二〇巻。著者 編者未詳。⑩『奈良時代

末』。⑪『慶長古活字版』。⑫『天皇から無名の人々の歌まで、時代

的には若干の伝承的な歌を除いて、七世紀前半の舒明天皇の時代から八世紀中葉の淳仁天皇の時代まで約一五〇年間の歌、総計四五〇〇余首を収めた日本最古の和歌集。⑬『貴重

図書影本刊行会』(尼崎本)、『古典文庫』(西本願寺本)、『古筆

名巻集』三、『統扶桑珠宝』、『日本名筆全集』七・二二・二九、

『扶桑珠宝』万葉秘林、『尼崎本万葉集』(昭和一〇年)、『桂本

万葉集』(明治三二年)、『金沢本万葉集』(昭和七年)、『紀州本

万葉集』(昭和一六年)、『岩波文庫』、『国歌大観』、『新註皇

学叢書』八、『日本歌学全書』九—一二、『日本古典全書』、『日

本古典文学大系』四—七、『有朋堂文庫』。

万曆雑書大成 まんれきざつしよたいせい → 万曆雑書大

成 ばんれきざつしよたいせい

(み)

神籤五十占 みくじごじっせん 一冊。著者 白幡義篤(未詳)。

岡田屋嘉七等刊、明治三(一八七〇)年、和二六丁。

水鏡 みづかがみ 三巻三冊。著者 中山忠親(一一三二—一九五

年)平安末・鎌倉前期の公卿。⑭『平安末期か鎌倉初期』。⑮『歴

史物語』。神武天皇から仁明天皇まで、皇円の『扶桑略記』から

の抜粋を仮名書きにし、作者の時代との比較・感慨などを書

き加えて成ったもの。⑯『貴重図書影本刊行会叢書』。⑰『岩

波文庫』、『新訂増補 国史大系』、『有朋堂文庫』。

道の幸 みちのさち 三巻三冊。著者 屋代弘賢(一七五八—一

八四一年)江戸後期の国学者。名は詮虎・詮賢など、号は輪

池。㊦寛政四(一七九二年)。㊦寛政四年一〇月、諸家の古筆などを模写する命を受けて、柴野栗山・住吉広行らとともに上京したときの、往復の道中での見聞を詳細に記したものを。

㊦「存採叢書」。

宮川舎漫筆 みやがわのやまびつ 五卷五冊。㊦宮川政運

(一七九六—?)年)江戸後期・明治前期の随筆家。名は政運・政教・富教、号は慎齋・蓬生廬。㊦安政五(一八五八年)自

序。㊦文久二(一八六二年)。㊦奇聞・珍説を集め、感想を述べたもの。全六三条から成る。㊦「日本随筆全集」一〇、「日本随筆大成」新版一期一六(旧版一期八)

都新聞 みやくしんぶん 日刊。東京、都新聞社。明治二二

(一八八九年)二月一日、『みやこ新聞』(明治二年一月一日、

『今日新聞』を改題・追号)を改題・追号した。昭和一七(一九四二年)一月一日、『国民新聞』と合併し、『東京新聞』を創刊した。㊦時事。おもな関係者―黒岩涙香・田川大吉郎。

宮崎新報 みやざきしんぼう 日刊。宮崎、宮崎新報社。明治二二(一八八八年)二月一日創刊(明治三八(一九〇五年)年

一月二日廃刊)。「日州独立新聞」と合併して廃刊となり、該紙は「日州」さらに「日州新聞」と改題した。

冥加訓 みよがく 五卷五冊。㊦関一葉(一六四四—一

七三〇年)江戸前・中期の儒学者・医者。名は長博、字は載甫、別号は一葉翁・仁堂。㊦㊦享保九(一七二四年)。㊦教訓。㊦「日本教育文庫」訓誡篇」上、「日本道徳叢書」三。

妙術博物筌 みようじゆつはくぶつせん 一九卷・目錄一卷

七冊。㊦安永九(一七八〇)年。㊦叢書。「錦囊万代宝鑑」(五

卷)、「神変仙術錦囊秘卷」(二卷、入江貞庵、「秘事指南車」(三卷、和田潜竜、「秘事思案袋」(三卷、「古今智恵枕」(三

卷、河内玄宅)、「鎮火用心車」(三卷、南極齋)を収録。㊦哲

学堂文庫。

明星抄 みようじょうしやう 二〇冊。㊦三条西実枝(一五

一一—一五七九年)戦国・安土桃山時代の公卿・歌人。㊦源氏物語明星抄」。㊦明暦三(一六五七年)。㊦「源氏物語」の注

釈書。㊦「源氏物語古註釈叢刊」。

明仏論 みようぶつろん 一卷。㊦宗炳(三七五—四四三

年)。㊦「神不滅論」。㊦何承天の神滅論に反論して神不滅論

を弁護し、輪廻応報説の正しさを主張したもの。㊦「大正新

脩大藏経」五二(二〇二)。㊦「国訳一切経」護教部一。

妙法蓮華経 みようほうれんげきやう 八卷。㊦鳩摩羅什

(クマラージワス、三四四—四一三年)東晋代の僧・大訳什

家。㊦「法華経」、「妙法華経」。㊦仏陀の教えの真実とその永

遠の生命を説く大乘経典。二八章から成り、天台宗・日蓮宗

の根本聖典となっている。㊦「大正新脩大藏経」九二(二六二)。

㊦「岩波文庫」、「国訳一切経」法華部、「大乘仏典」四—五中

央公論社)

妙法蓮華経玄義 みようほうれんげきやうげんぎ 二〇巻。

㊦智顛(五三八—五九七年)陳隋代の僧。天台学の大成

者。㊦「法華玄義」、「妙玄」。㊦五九三年。㊦「妙法蓮華経」と

いう経題を解釈するもので、天台の經典解釈法である五重玄義、つまり釈名・弁体・明宗・論用・判教によって「法華經」の経題の意義を明らかにするとともに、經典の内容をも概説したもの。④『大正新脩大藏經』三三(二七六一)

妙薬妙術集 みょうやくみょうじゅつしゅう 一冊。⑤藤本常九(未詳)。⑥増補救民 妙薬妙術集、『抜苦救民集』、『妙薬妙術 宝因蒔』。⑦敍文政六(一八三三)年。⑧薬物。⑨京都大学。

妙楽記 みょうらくき 未詳。

未来記 みらいき → 聖徳太子日本国未来記 しょうとくたいしにほんこくみらいき

明一統志 みんいつとうし → 大明一統志 だいまんいつとうし

民家必用永代大雑書三世相 みんかひつようえいたいお

おざつしよさんぜそう → 永代大雑書三世相 えいたいお

おわざしよさんぜそう

民家分量記 みんかぶんりょうき 五卷五冊。⑩常盤貞尚(未詳)。⑪『百姓分量記』。⑫享保六(一七二二)年。⑬同一(二七二六)年。⑭農民の分限・職分に始まり、五倫五常を農

民生活においていかに実践すべきかを平易に説いたもの。⑮『国民思想叢書』民衆篇、『通俗経済文庫』八、『日本教育文庫』訓誡篇)下、『日本思想大系』五九、『日本精神文献叢書』一六。

民間歳時記 みんかんさいじき 一冊。⑯名古屋玄医(一六

二八一九六年)江戸前期の医者。字は関甫・富潤、号は丹水子・桐溪など。⑰延宝九(一六八二)年。⑱歳時記。⑲哲学堂文庫(写本)

民間備荒録 みんかんびこうろく 二卷二冊。⑳建部清庵(二七二二—八二二)江戸中期の医者。名は由正、字は元策、

清庵は通称。㉑宝暦五(一七五五)年自序。㉒宝暦一〇(一七六〇)年。㉓凶年における救急の方法を記したもの。㉔『仙台叢書』二〇、『日本経済叢書』八、『日本経済大典』一一、『民間備荒録』(昭和十五年)

岷江入楚 みんこうにつそ 五五冊。㉕中院通勝(一五五六

一六一〇年)織豊時代の公卿。㉖『源氏物語岷江入楚』、『源氏注抄』、『源氏物語詮抄』、『濫觴無底抄』。㉗慶長三(一五九八)年。㉘『源氏物語』の注釈書。㉙『源氏物語古注集成』、『国文学註釈叢書』七一〇、『国文学註釈全書』二八一—二〇。

民生切要録 みんせいせつようろく 四卷四冊。㉚編・守株子(未詳)。㉛『元禄五(一六九二)年。㉜日常生活に必要な知識や怪異現象、まじない、占卜、吉凶判断などを記している。㉝哲学堂文庫。

〔む〕

無鬼論 むきろん ㉞傅淇(未詳)宋の人。字は元瞻。

無鬼論弁 むきろんべん ㉞山片蟠桃(二七四八—一八二二

年)江戸後期の学者。名は有躬・芳秀、字は子蘭。㉞山片蟠桃『夢の代』の第一〇—一一の「無鬼」を抜粋したもの。「無鬼」

論は鬼・幽霊・狐狸・稲荷などの迷信的なものをすべて批判し、人格的な神の存在も否定する無神論を展開している。㊦『日本文庫』一二、『日本哲学思想全書』五。→夢の代。

夢溪筆談 むけいひつだん 二六卷・補筆談二卷・統筆談一卷。㊦沈括(一〇三一—九五五年)北宋の政治家・学者。字は存中。

㊦随筆。故事・弁証・楽律・象数・人事・官政・権貴・芸文・書画・伎芸・器用・神奇・異事・謬誤付訛詐・譏諷・雜志・葉議の一七部門に分けて記述している。化石による古代の氣候変化や海陸の変動、凹凸鏡面の光学的性質の解明など、科学史上注目すべき事項もある。㊦『学津討原』一三、『津逮秘書』一五。

夢溪筆談雜誌 むけいひつだんざっし 未詳。

夢中問答 むちゆうもんどう→夢中問答集 むちゆうも

んどうしゅう

夢中問答集 むちゆうもんどうしゅう 三卷三冊。㊦夢窓疎

石(一二七五—一二五一年)鎌倉後期・南北朝時代の臨済宗の僧。夢窓は道号。㊦康永三(一二四四)年。㊦足利尊氏の弟である直義(出家して惠源)の問いに、夢窓疎石が答えた法語を編んだもの。俗信から仏教の正信正智、禅の諸問題など九三項の問答から成っている。

宗長紀行 むねながぎこう 未詳。

無名書 むめいしよ 一冊。㊦川口長孺評。

無量寿経 むりようじゆききょう→仏説無量寿経 ぶつせ

つむりようじゆききょう

(め)

名医類案 めいいるいあん→本邦名医類案 ほんぼうめ

いいるいあん

名家略伝 めいかりやくでん 四卷四冊。㊦山崎美茂(一七

九六—一八五六年)江戸後期の雑学者。字は久卿、号は北峰・好問堂・三養居。㊦『古今名家略伝』。㊦天保一二(一八四一)年自序。㊦同一三年。㊦近世雅俗の人物六九人の略伝。別に未刊の稿本三巻があり、七三人の略伝を収めている。刊本とは九名のみ重複で、文芸方面の人物を多く収めている(『異本名家略伝』)。㊦『日本芸林叢書』八。

罵意経 めいききょう 一卷。㊦安世高(未詳)後漢の訳僧。㊦

『仏説罵意経』。㊦一切善悪の法を説明し、道人の戒めとしたもの。㊦『大正新脩大藏経』一七(七三二)

明教新誌 めいききょうしんし 隔日刊。東京、明教社。㊦明

教社の社主大内青巒が主宰した雑誌。『官准教会新聞』(明治七(一八七四)年二月一日創刊。大教院新聞課、西浜正照編集発行)を改題・追号したもの。大教院廃止とともに第一四八号(明治八年八月七日)から『明教新誌』と改題し、第四六〇三号(明治三四(一九〇一)年二月二八日)で終刊となり、『日出国新聞』に合併された。仏教を中心に宗教界全般にわたる情報収集、広報活動をおこなうとともに、仏教にかかわる時事問題の評論、教理・教学の近代的把握などの啓蒙的役割を担った。明治仏教を考えるうえでの重要な資料である。

明月記 めいげつき ⑧藤原定家(一一六二—一二四一年)

鎌倉前・中期の公卿・歌人。④日記。ごく一部の仮名表記以外は漢文体で記され、中世初頭の世相と宮廷社会の実情を知る上で第一級の史料といわれる。⑧『冷泉家時雨草書』五八。⑨『明月記』(図書刊行会、明治四四年、昭和四八年複製)

明治震災輯録 めいじしんさいしゅうろく 一冊。⑧編・木沢成肅(未詳)／山羽義彦(未詳)。名古屋、金池堂、明治二四(一八九二)年、一七四頁。

名臣言行録 めいしんげんこうろく 前集一〇巻・後集一四巻・続集四巻・別集二六巻・外集一七巻。⑧朱熹(一一三〇—一二〇〇年)南宋の思想家。朱子学を大成。字は元晦・仲晦、号は晦菴・晦翁／李幼武(未詳)宋の人。字は士英。⑧『宋名臣言行録』。⑨宋の名臣の言行を記した。前集・後集を朱熹、続集・別集・外集を李幼武が著した。

鳴道集説 めいどうしゅうせつ 一巻。⑧李屏山(未詳)金代の人。名は純甫、字は之純、屏山は号。⑨宋の周濂溪・程明道・程伊川・張横渠・朱熹・呂東萊など諸儒の説をあげて、毎条下に自己の意見を述べ、末に自作の文などを付記している。仏家の立場から儒老を論じたもの。

名物六帖 めいぶつりくじょう 名物六帖 めいぶつろくじょう めいぶつろくじょう 三〇冊・補遺一冊。⑧伊藤東涯(一六七〇—一七三六年)江戸中期の儒学者。名は長胤、字は源(元)蔵、別号は慥慥齋。⑨正徳四(一七一四)年自序。

名物六帖 めいぶつろくじょう 三〇冊・補遺一冊。⑧伊藤東涯(一六七〇—一七三六年)江戸中期の儒学者。名は長胤、字は源(元)蔵、別号は慥慥齋。⑨正徳四(一七一四)年自序。

⑨白居易の「白孔六帖」に擬して作られた分類語彙辞書。全六帖を十三箋に分類して、箋をさらに門に分け、関係語彙を集めている。漢字の語彙をあげ、その横に片仮名で和訳を記し、下に漢籍の出典を示している。⑨『唐話辞書類集』一一、『名物六帖』(朋名書店、昭和四四年)

明六雜誌 めいろくざつし 明治初期の啓蒙的な総合雑誌。創刊第一号(明治七(一八七四)年二月)―終刊第四三号(明治八(一八七五)年一月)。森有礼が首唱して、旧幕臣系の洋学者、福沢諭吉・西村茂樹・西周・津田真道・中村敬宇・加藤弘之らの賛成を得て結成された明六社の機関誌。政治・経済・外交・社会・宗教・歴史・教育・自然科学など、近代思想の啓蒙に大きな役割を果たした。⑨『明六雜誌』(全三巻、立休社、昭和五一年)。⑨『岩波文庫』。

明和神異記 めいわしんいき 一冊。⑧未詳。⑨「おかげまわり明和神異記」、「御蔭參明和神異記」。⑨明和八(一七七一)年。⑨神異・靈驗について記したもの。⑨『哲学堂文庫』

明和統後神異記 めいわぞくごしんいき 一冊。⑧藤原重全(一七四五—一八二三年)江戸中・後期の神職・書肆。重全は名。⑨『統後神異記』、『伊勢明和統後神異記』。⑨明和九(一七七二)年。⑨明和八年における伊勢神宮の神異・靈応について記したもの。⑨『大神宮叢書』(神宮參拜記大成)。

盲鉄炮 めくらでっぽう 二冊。⑧未詳。⑨怪異。⑨哲学堂文庫(写本)

盲鉄炮 めくらでっぽう 二冊。⑧未詳。⑨怪異。⑨哲学堂文庫(写本)

蒙求 もうぎゆう 三卷。①李瀚(未詳)唐代の人。②未詳。

③太古から南北朝期までの古人の有名な言行・事跡を、記憶しやすいうように、四字句の韻文で類似の事柄を一对として示している。五九六句から成り、児童に歴史の故事を記憶させる目的で作られたもの。④『新釈漢文大系』五八一—五九。

孟子 もうし 七編。①孟軻(前三七二?—前二八九?)中国戦国時代の思想家。名は軻、字は子輿・子車または子居。②前二八〇年ころ。③梁恵王・公孫丑・滕文公・離婁・万章・告子・尽心の七編から成り、性善説にもとづく仁義をととなえ、王道を実現するにあつては楊朱・墨翟の説を排撃している。④『新釈漢文大系』四、『全釈漢文大系』二。

毛詩伝義 もうしでんぎ 未詳。

孟津抄 もうしんしょう 五四卷。①九条植通(一五〇七—九四年)戦国・織豊時代の公卿・学者。②『九禅抄』、『源氏物語孟津抄』。③天正三(一五七五)年。④『源氏物語』の注釈書。⑤『源氏物語古注集成』。

物覚秘伝 ものおぼえのひでん 二編二冊。①青木(未詳)／校・藤逸章(未詳)。②前編は明和八(一七七二)年・後編は同九年。③物忘れしないために、身体の一部と結びつけて覚えるなどの方法を述べたもの。④『雑芸叢書』二。

守武千句 もりたけせんく 一冊。①荒木田守武(一四七三—一五四九年)戦国時代の連歌・俳諧作者。②『独吟千句』、

『飛梅千句』、『俳諧之連歌独吟千句』。③天文九(一五四〇)年。④慶安五(一六五二)年。⑤俳諧句集。この句集によって俳諧の形式(俳諧式目)が確立し、俳諧と連歌と同価値のものと認めて、俳諧発達の素地をなしたといわれる。⑥荒木田守武集、『続群書類従』七輯下、『日本俳書大系』貞門俳諧集、『俳諧文庫』芭蕉以前俳諧集、『俳書叢刊』三期。唐土訓蒙図彙 もろこしきんもうざい→唐土訓蒙図彙 どうとくせんもうざい

文殊師利菩薩及諸仙所説吉凶時日善惡宿曜經 もんじゆしりほさつきぎゆうしよせんしよせつきつきょうじにちぜんあくすくようきよう 二卷。①未詳。②不空(アモガヴァ)ジュラ、七〇五—七七四年)唐代の密教訳経僧。③『文殊諸仏説吉凶時日経』、『宿曜経』。④唐の乾元二(七五九)年。⑤七曜・十二宮・二十七(二十八)宿の関係や、誕生日によって生涯の運命や吉凶を占察する方法を説いたもの。⑥『大正新脩大藏経』二(一—二九九)

文選 もんぜん 三〇卷。①昭明太子(五〇一—一五三一年)梁の武帝の長子。名は蕭統、昭明は諡。②五三〇年ころ。③周代より梁代(前五世紀—後六世紀)までの約一〇〇〇年間の詩・賦・文章八〇〇余編を集めた一大詞華集。文体別、時代順に類集しているが、詩が四四三首、賦が五六編を占めている。④『和刻本 文選』汲古書院、昭和五〇年。⑤『新釈漢文大系』一四—一五、七九—八〇、八二、『全釈漢文大系』二六—三二。

二六—三二。

文徳実録 もんとくじつろく→日本文徳天皇実録 に
ほんもんとくてんのうじつろく

〔や〕

野翁徒然日記 やおうつれづれにつき 一〇巻五冊。〔著〕末

詳。④不知火・陰火・殺生石・妖怪・狐・奇瑞・山童・狸・怪異・天狗などのほか、富士山・塙檢校和学所・山東京伝・無理心中などの話を含む一―二項から成る雜記。〔藏〕哲学堂文庫(写本)

夜光珠 やこうのたま 三巻四冊。〔著〕原省庵(未詳)江戸中期

の医者。別号は若一子。④俗説正誤 夜光璧、『撰生俚言解寿域小西陽 夜光璧』。④享保一三(一七二八年)。④食物の毒性と公衆衛生・養生を説いたもの。上巻「酒後に茶を飲む説」など三二条、中巻「蒸菓子に柏葉を敷く説」など三二条、下巻「産後三日めに鯛を用いる説」など三三条から成る。

④『日本衛生文庫』六(復刻版三)

安岡の抄 やすおかのしょう 未詳。

夜窓鬼談 やそうきだん ④編・石川鴻齋(一八三三―一九

一八年)明治時代の詩文家。字は君華、号は芝山外史など。吾妻健三郎刊、明治二二(一八八九)年・二七(一八九四年)和二冊。④哭鬼「笑鬼」「貧乏神」「風伯」「鬼兒」「羅漢」「河童」「鬼神論」など、奇談を四五項にわたり記したものを。給入り。八十能隈手 やそのくまで 四巻四冊。④矢野玄道(一八二三―一八七七年)幕末・明治前期の国学者。号は子清・天放。④

明治五(一八七二年)成稿。④平田篤胤の『伊吹吹呂志』と同じく、日本建国創業、国体の尊嚴、そして歌道を説いている。門人の校合筆記により成ったもの。④『新註皇学叢書』二〇。

夜談隨筆 やだんずいひつ 六巻五冊。④林義端(？)一七

一年)江戸前・中期の書肆・浮世草子作者。義端は名、字は九成、号は文会堂。④元禄九(一六九六年)。④「玉箒子」の改題本。古今の見聞・奇談を集録したもの。

夜譚隨録 やたんずいろく 四巻。④和邦額(閑齋)清の人。

④隨筆。④筆記小説大観」一。

破柳骨 やぶれこり 六巻六冊。④編・游竜館玩玉(未詳)。

④卷一、怪異・殺生石・神代文字など三〇項、卷二、化猫・鼠小僧など九項、卷三、友禪・春画など五六項、卷四、朝鮮・八百屋お七など四項、卷五―卷六、「逸人集」で物徂徠など五九項の全一五八項から成る雜話集。④哲学堂文庫(写本)野峯名徳伝 やほうめいとくでん 二巻二冊。④叔本(未詳)。④貞享四(一六八七年)自序。④高野山の高僧六八人とほか六人を加えた七四名の伝記。④『大日本仏教全書』六八

(鈴木財団)山形新聞 やまがたしんぶん 日刊。山形、山形自由新聞

社。明治三六(一九〇三年)七月一日、『山形自由新聞』明治二四(一八九一年)七月一日、『山形大同新聞』を改題・追号を改題・追号した。明治二(一八七八年)一月五日創刊の『山形新聞』から種々変遷して復題し現在にいたる。④時事。おもな関係者―服部敬吉・服部敬雄。

山形日報 やまがたにっぽう 日刊。山形、山形日報社。明治三三(一八九〇)年六月創刊。大正九(一九二〇)年九月、

『日刊山形』と改題した。(内)時事。

大和怪異記 やまとかいいき 七巻七冊。(著)未詳。(別)出所付 大和怪異記、『古今怪異記』。(編)宝永六(一七〇九)年。

(内)卷一「日本武尊山神を殺し給ふ事」から巻七「怨霊蛙となりてあだをかへす事」まで一〇六カ条、日本古来の怪異談を集録したもので、その材料の出典を明示している。(編)哲学堂文庫。

大和事始 やまとことはじめ 六巻・付録一卷三冊。(著)貝原好古(一六六四—一七〇〇)年)江戸前期の儒学者。字は敏夫、

号は耻軒、好古は名、「よしひさ」とも読む。(別)『和事始』。(編)天和三(一六八三)年序。(編)元禄一〇(一六九七)年。(内)辞書。(著)『益軒全集』一、『続国民文庫』。

大和三教論 やまとさんきょうろん 前編四巻・後編三巻七冊。(著)武田琴亭(未詳)江戸中期の儒学者。名は大、字は有文・仲天。(編)前編は天明六(一七八六)年・後編は宝暦一(一七六二)年序。(編)寛政二(一七九〇)年。(内)『旧事大成経』の

思想を継承し、神儒仏の三教を折衷して三教一致論を説いたもの。(編)哲学堂文庫(前編四巻四冊)

やまと新聞 やまとしんぶん 日刊。東京、やまと新聞社。

明治一九(一八八六)年一〇月七日創刊。明治三三(一九〇〇)年から明治三七(一九〇四)年一二月九日まで『日出国新聞』と表記している。昭和六(一九三二)年一月夕刊紙となり、昭和

一九年四月三〇日まで刊行されている。(内)時事。

大和新聞 やまとしんぶん 日刊、奈良、大和新聞社。明治二二(一八八八)年四月一日、『養徳新聞』として創刊し、明治

二四年三月に『大和新聞』と改題した。奈良県政に関するニュースを報道する広報紙。大正一四(一九二五)年に廃刊となった。

大倭万国物記原 やまとのくにばんぶつきげん 未詳。

大和本草 やまとほんぞう 一六巻・付録二巻・諸品図三巻一〇冊。(著)貝原益軒(一六三〇—一七二四年)江戸前期の儒学者・本草家・教育思想家。名は篤信、字は子誠、別号は損軒。(別)『大和本草綱目』、『大倭本草』。(編)宝永六(一七〇九)年。(内)本草。(著)『益軒全集』六、『大和本草』(昭和七年)

大和名所記 やまとめいしよき 二〇巻一五冊。(著)林宗甫(一六三三—一九四?年)江戸前期の俳人。(別)『和州旧蹟幽考』。(編)延宝九(一六八一)年自序。(編)天和二(一六八二)年。(内)地誌。大和各郡別に名所旧跡の現状と由緒沿革を説き、古歌を引いて、参考文献の典拠を明記している。大和全域にわたる

画期的な文芸的地誌といわれ、のちの名所図会などの母体となった。(著)『続々群書類従』八。

山梨日日新聞 やまなしにちにちしんぶん 日刊。甲府、

又新社。明治一四(一八八一)年一月四日、『甲府日日新聞』(明治九(一八七六)年一月三日、『甲府新聞』を改題・追号)を改題・追号して現在にいたる。起源は明治五(一八七二)年七月、甲府の書店温古堂の内藤伝右衛門が創刊した『峡中新

聞」。(内)時事。

山伏便蒙 やまぶしべんもう→修験道山伏便蒙 しゆげんどうやまぶしべんもう

闇の曙 やみのあけぼの 二卷二冊。㊶新井白蛾(一七一五

—九二年)江戸中期の儒学者・易断家。名は祐登、字は謙吉、別号は古易館。㊷寛政元(一七八九)年序。(内)隨筆。世人を

惑わすものとして家相・人相・墨色・字画の占い・金神・神

仏の祟・劍相・日取星転・つき物・呪禁・不成就日・辻占・

死靈生霊などをあげ、そのいわれのないことを実例で示し、

世の奇談・怪説を排斥したもの。新井白石の『鬼神論』を、迷

信を説く書としてあげている。㊸『日本隨筆大成』新版二期二

二(旧版二期一)、『白蛾全書』二。

(ゆ)

唯一神道名法要集 ゆいいつしんとうみょうほうようしゅう

一冊。㊹吉田兼俱(一四三五—一五一一年)戦国時代の神

道家。本姓は卜部。㊺『神道名法要集』、『名法要集』。(成)室町

末期。㊻明暦元(一六五五)年。(内)吉田神道の根本經典の一つ

で、唯一神道の名法を問答体で要約したもの。㊼『国民精神

文化文獻』三。(註)『統群書類従』三輯下、『日本思想大系』一九

「中世神道論」、『日本哲学全書』四、『吉田叢書』二。

唯識大意 ゆいしきたいい→二卷鈔 にかんしょう

唯識論 ゆいしきろん 一卷。㊽世親(ヴァスバンドウ、三

二〇?—四〇〇?年)インドの仏教思想家。㊾『般若流支(ブラ

ジュニヤールチ、未詳)北魏代の訳経僧。㊿『大乘唯識論』、

『唯識無境論』、『唯識無境界論』。(成)五世紀ころ。㊽三界唯識

心外無境(心の表象のほかにはいかなる対象も存在しないとい

うこと)を説いたもの。㊾『大正新脩大藏經』三二(一五八八)

維摩詰所説經 ゆいまきつしよせつきょう 三卷。㊿鳩摩

羅什(クマールージーヴァ、三四四—四一三年)東晋代の僧・

大訳経家。㊽『維摩詰經』、『不可思議解脱經』、『維摩詰』。(成)

紀元前後—三〇〇年ころ。(内)般若皆空の思想により、大乘菩

薩の実践道を賞揚し、他方、淨土教の趣意による在家信者の

宗教的徳目を明らかにしている。㊾『大正新脩大藏經』一四

(四七五)。(成)『国訳一切経』經集部六。

維摩經 ゆいまきょう→維摩詰所説經 ゆいまきつしよ

せつきょう

幽怪録 ゆうかいりく 未詳。

輶軒小録 ゆうけんしょうりく 一冊。㊿伊藤東涯(一六七

〇—一七三六年)江戸中期の儒学者。名は長胤、字は源(元

蔵、別号は慥慥齋。㊽未詳。(内)隨筆。幼いころ聞いた奇異・

珍怪な話を書き留め、それに自ら見聞した事柄を書き集めて

記したもので、古碑・古文書・草木・禽獸・化石・石炭・石

油・鉱山・不知火など多方面におよんでいる。㊾『隨筆文学

選集』七、『日本隨筆全集』一六、『日本隨筆大成』新版二期二

四(旧版二期一二)、『百家説林』正編上、『三十幅』三。

勇士物語 ゆうしものがたり 五卷五冊。㊽未詳。㊿『一言

集』、『勇士一言集』、『近世 勇士物語』。(成)元禄一六(一七

〇三二年。(内)雜史。(蔵)国立国会図書館。

遊仙窟 ゆうせんくつ 一卷。(蔵)張鷟(ちやうさく)六六〇―七三二年)

唐の小説家。字は文成、号は浮休子。(蔵)未詳。(内)伝奇小説。作者が河源に於いて神仙の窟に迷い込み、五嫂・十娘という仙女に会って宴楽歓語し、詩句をもって相對し、ついに十娘と結ばれるという話。妓楼妓館の遊楽を美化したものである。中国では滅びて日本にのみ伝わり、珍重された。(蔵)『岩波文庫』、『中国古典文学全集』六朝唐宋小説集(のち『中国古典文学大系』二四)、『東洋文庫』(『幽明録・遊仙窟他』)、『遊仙窟全講』(昭和四二年)

幽討余録 ゆうとうよろく 二卷二冊。(蔵)曾我景章(そうが)未詳。

(蔵)嘉永五(一八五二年)自序。(蔵)慶応元(一八六五年)。(蔵)史籍集覽『史料叢書』(抄)

有斐斎劄記 ゆうひさいさつき 四卷一冊。(蔵)皆川淇園(みながきいん)一七三四―一八〇七年)江戸後期の儒学者。名は愿、字は伯恭、別号は有斐斎・呑海子。(内)歴史的なこと、文学的なこと、医学・薬品のことなど、見聞したことを記した。(蔵)

内閣文庫(写本)

幽明録 ゆうめいろく (蔵)劉義慶(りゅうぎけい)四〇三―四四四年)六朝時代・宋の文学者。(内)怪異。原本は散逸し、魯迅の『古小説鈎沈』に二六〇余則が収録されている。(蔵)『古小説鈎沈』、『説郭』一一七、『重較説郭』、『琳琅秘室叢書』三集、『類説』。

西陽雜俎 ゆうようざつそ 前集二〇卷・続集一〇卷。(蔵)段成式(だんせいし)一八六三年)晚唐の学者・文学者。字は柯古。(内)前集

九一〇条、続集三七八条から成る。唐代の変異や唐人の逸話を中心に、古来からの故事・伝奇・風俗・動植物・鉱物など多種の事項を記した。(蔵)『学津討原』二六、『四部叢刊』四六九―四七二、『津逮秘書』九、『電威秘書』二五、『和刻本漢籍隨筆集』六。(蔵)『東洋文庫』(五冊)

瑜伽師地論 ゆがしじろん 一〇〇巻。(蔵)漢訳系では弥勒(みろく)『マイトレーヤ、未詳』、チベット伝は無著(アサンガ、未詳)。(蔵)玄奘(げんじやう)六〇二―六六四年)唐代の大翻訳家。(蔵)三〇〇―三五〇年ころ。(内)瑜伽行派の根本論書の一つ。瑜伽行者の境・行・果を明らかにし、唯識中道の理に悟入すべきことを示した。また、三―四世紀ころのインドの小乗・大乘仏教などの研究をも網羅している。(蔵)『大正新脩大藏經』三〇(二五七九)。(蔵)『国訳一切經』瑜伽部一―六、『国訳大藏經』論部六一九。

瑜伽論 ゆがろん→瑜伽師地論 ゆがしじろん

愈愚隨筆 ゆぐずいひつ 一二卷二冊。(蔵)伊藤玄節(いとうげんせつ)一六八二年)江戸前期の儒学者。名は先勝、別号は有隣斎。(蔵)寛文二(一六七二年)自序。(蔵)延宝元(一六七三年)。(内)天文・地理・人倫などに分類し、さらに細分して古書を抄録した。(蔵)哲学堂文庫。

夢合長寿宝 ゆめあわせちやうじゆだから 一冊。(蔵)金山山人(みやま)未詳)。(蔵)『夢の説』。(蔵)嘉永四(一八五一年)自序。(内)夢をとく、吉凶を占う。「天地の部」「人倫の部」「神積の部」「器財の部」「生植の部」「気形の部」に夢の種類を分けて説いている。

⑧哲学堂文庫。
夢書 ゆめしよ 未詳。

夢の代 ゆめのしろ 一二冊。⑨山片蟠桃やまがたばんとう二七四八一—八

二二年)江戸後期の学者。名は有躬・芳秀、字は子蘭。⑩享和二(一八〇二年)自序。⑪天文・地理・歴史・制度・経済・経論・雑書・異端・無魂・雑論等に分類して、中井竹

山・中井履軒から聞いたものを、子孫の教戒のために書き残すとしている。地動説の採用・迷信の排撃・鬼神(靈魂)の否定・神代史の否定など、科学的・合理的な思考を展開している。

⑫「日本経済叢書」二五、「日本経済大典」三七。

夢はんじ ゆめはんじ 一冊。⑬未詳。⑭未詳。⑮占卜。さまざまな夢の内容について吉凶を判じたもの。「天はれると見れば官位に上るなり」「地うごくとみれば吉事なり」「髪の色白さも黒さも長命なり」「足にはく物を失うとみれば心に迷いあり」「車をみれば大吉なり」「鯉みれば妻のはらむ事あり」「仏を拜するとみれば吉なり」「山野に遊ぶとみれば大吉なり」

⑯哲学堂文庫。

[よ]

桜陰腐談 よういんふだん→桜陰腐談 おういんふだん

妖怪学講義緒言 ようかいがくこうぎしよげん 一冊。⑰

井上円了いのうえまげんりょう(一八五八一—一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育者。号は甫水。不思議庵主人と称す。東京、哲学館、明治二六(一八九三年)八月二四日、四三頁。⑱妖怪学

の目的について述べたもの。なお、『妖怪学講義』の「再版につき一言を題す」の一部と「緒言」がその全文にあたる。

妖怪新百話 ようかいしんひゃくわ 未詳。

妖怪叢書 ようかいそうしよ 四編四冊。⑲井上円了いのうえまげんりょう(一八五八一—一九一九年)明治・大正期の哲学者・教育者。号は甫水。不思議庵主人と称す。⑳叢書名。第一編「哲学うらなひ」(明治三四(一九〇二年)二月二九日)、第二編「改良新案の夢」(明治三七年一月一九日)、第三編「天狗論」(明治三六年二月二九日)、第四編「迷信解」(明治三七年九月一〇日)。大正五(一九一六年)一月、丙午出版社から全四編を合本し『妖怪叢書』と題して再刊された。また昭和五八(一九八三年)一月三〇日、国書刊行会発行の『新編妖怪叢書』に第一・三・四編が復刻された。

妖怪通信 ようかいつうしん 未詳。

妖怪門勝光伝 ようかいもんしょうこうでん 一冊。㉑並木定恒(未詳)。㉒文化二四(一一七)年。㉓天狗・狐・猫などの変化、疫病神・怪火・雷・地震・牛・馬、さらに人魂など、さまざまな怪異について記したものの。㉔「医聖堂叢書」。

謡言 ようげん 未詳。

楊子太玄経 ようしたいげんききょう→太玄経 たいげんききょう

揚子法言 ようしほうげん→法言 ほうげん

養生訓 ようじょうくん 八巻・付録一卷四冊。㉕貝原益軒かいばらえきげん(一六三〇—一七一四年)江戸前期の儒学者・本草家・教育思想

思想家。名は篤信、字は子誠、別号は損軒。㉑『貝原養生訓』。

㉒正徳三(一七一三)年。㉓総論・飲食・五官・二便・浩浴・慎病・用薬・養老の八門に分けて、養生に関して述べた通俗書。㉔『岩波文庫』、『益軒全集』三、『日本教育文庫』衛生及遊戯編、『日本哲学思想全集』一六、『有朋堂文庫』『益軒十訓』

下・益軒先生養生訓、『益軒文庫』第二編、隆文館、明治四三(一九一〇)年、二九三頁。

養生主論 ようじょうしゅろん 二卷二冊。㉕松本遊齋未詳。㉖天保三(一八三二)年。㉗保養編と食性編に分けて養生の道を述べたもの。㉘哲学堂文庫。

養生囊 ようじょうぶくろ 二卷二冊。㉙小川頭道(一七三七—一八一六年)江戸中・後期の医者。㉚安永二(一七七三)年序。㉛俗間の用薬・療病のことを論述し、あわせて医の良否・巧拙などを評論している。㉜『日本衛生文庫』一。㉝哲学堂文庫(安永二年、付『小児養生伝』)

養生弁 ようじょうべん 前編三卷・後編三卷六冊。㉞水野沢齋(未詳)。㉟前編天保一三(一八四二)年、後編嘉永四(一八五二)年序。㊱医学。養生法について記したもの。㊲『日本衛生文庫』三—四(復刻版二)

養生物語 ようじょうものがたり— 雖知苦庵養生物語 すいちくあんようじょうものがたり

擁書漫筆 ようしよまんびつ 四卷五冊。㊳小山田与清(一七八三—一八四七年)江戸後期の国学者。字は文儒、号は知非齋・松屋/画・高島千春、源成祺。㊴文化一三(一八一六)

年序。㊵同一四年。㊶師友の著作、知友の詩歌・略伝、古書・俗習・俗語など、雑多な考証九二項を集めた随筆。㊷『日本随筆全集』四、『日本随筆大成』新版一期二(旧版一期六)

湧幢小品 ようどうしょうひん 三二卷。㊸朱国楨(?!—一六三二年)明末期の宰相。字は文寧、諡は文肅。㊹見聞を雑記・考証した随筆集。

妖婦録 ようふうろく 未詳。ヨーロッパ正理教史 よおろつぱせいりきょうし 未詳。ヨーロッパ正理教史 よおろつぱせいりきょうし 未詳。

吉野拾遺 よしのしゅうい 二卷または三卷。㊺未詳。㊻『芳野拾遺物語』。㊼室町時代。㊽貞享三(一六八六)年。㊾南朝の逸事・雑話、発心遁世・恋愛・怪異・復讐などの物語。㊿『群書類従』雑、『校註国文叢書』一八、『校註日本文学大系』一八、『国史叢書』、『国文大観』四、『新釈日本文学叢書』二輯六、『百万塔』。

吉水実録 よしみずじつろく 一四卷・目録一卷一五冊。㊿珂然(一六六九—一七四五年)江戸中期の浄土宗の僧。字は寒叟、号は真阿。㊽元禄一〇(一六九七年)。㊾源空およびその門下の伝記を『史記』の体裁にならって記したもの。卷一—卷三が源空の伝記となっている。㊿日比谷図書館加賀文庫。

余冬序録 よとうじょろく 未詳。

読売新聞 よみうりしんぶん 隔日刊(のち日刊)。東京、日就社(のち読売新聞社)。明治七(一八七四年)年一月二日創刊。明治八(一八七五年)二月三〇日まで『官許読売新聞』。

刊。明治八(一八七五年)二月三〇日まで『官許読売新聞』。

昭和一七(一九四二)年八月五日、『報知新聞』を吸収合併して『読売報知』と改題し、昭和二二(一九四六)年五月一日、『読売新聞』に復題した。(内)時事。おもな関係者―子安峻・本野盛亨・柴田昌吉。

万朝報 よろずちようほう 日刊。東京、朝報社(のち万朝報社)。明治二五(一八九二)年二月一日創刊。明治二六年六月六日、『絵入自由新聞』を合併した。昭和二五(一九四〇)年一〇月一日、『東京毎夕新聞』に合併された。(内)時事。おもな関係者―黒岩涙香。

(り)

礼記 らいき 四九編。(未詳)。(別)『小戴礼記』、『小戴記』。

(内)五経の一。中国戦国末期から前漢中期(前一世紀初め)までの、礼に関する諸説を集めたもの。(内)『新釈漢文大系』二七一

二九、『全釈漢文大系』二二一四。

雷震記 らいしんき→震雷記 しんらいき

洛書 らくしよ→河図洛書 かとらくしよ

羅山文集 らざんぶんしゅう 七五巻。(著)林羅山(二五八三

一六五七年)江戸前期の儒学者。名は信勝、字は子信、剃髪して道春。(内)賦・隨筆など千七百数十編を収め、詩集を合

して六〇冊として刊行した。

藍田詩文集 らんでんしぶんしゅう 一卷。(著)谷口藍田(一八二一―一九〇二)年)江戸後期・明治期の儒学者。名は中秋、字は大明、別号は介石。韓中秋と称す。(内)詩文集。

藍田文集 らんでんぶんしゅう→藍田詩文集 らんでんしぶんしゅう

(り)

利運談 りうんだん 四巻四冊。(著)八隅景山(未詳)江戸後期

の医者。名は中立、別号は立翁・蘆庵。(内)文化一三二一八

一六)年。(内)さまざまな好運について記したもの。巻一は利

運の大意・利運の基・鯉・良葉など二八項、巻二は「王臣之

利運」「武將之利運」で二七項、巻三は「僧徒之利運」「靈仏之

利運」「移香之利運」で一六項の全七三項から成る。(著)哲学堂

文庫。

履園叢語 りえんそうご 未詳。

理学類編 りがくゐいへん 八巻。(著)張九韶(未詳)。(内)天

地・天文・地理・鬼神・人物・性命・異端の七類に分けて、

周敦頤・程顥・程頤・張載・邵雍・朱熹の六家の言を主

とし、荀子以下五三家の言をもつて補い、最後に自己の言を

付して説を立てている。

六橋紀聞 りくききょうきぶん 一〇巻。(著)広瀬淡窓(一七八

二一―一八五六年)江戸後期の儒学者。字は子基、別号は遠思

楼主人・青溪。(著)峇陽/編・広瀬林外。(内)広瀬淡窓の経史詩文

などについての談話を林外が筆録したもので、巻一―巻二が

『灯下紀聞』、巻四以下が『六橋紀聞』となっている。(内)淡窓

全集」上。

陸宣公奏議 りくせんこうそうぎ 二二巻または一二巻。◎

陸贄(りくじ)七五四―一八〇五年唐中期の官僚。字は敬輿。④二二巻本は奏草・奏議・制誥を合収し、一二巻本は奏草と奏議を収めている。政治に関する書の必読書といわれる。

六韜 りくとう 六巻。◎呂望(未詳)。④兵法書。文韜・武韜・竜韜・虎韜・豹韜・犬韜の六編から成る。後世の偽作とされる。

俚言集覽 りげんしゅうらん 二六冊。◎太田全斎(一七五九―一八二九年)江戸後期の儒学者。名は方、字は叔亀、全斎は号。④俗語・俗諺を集めた辞書。全体をアイウエオの五

部に分け、五十音図の横の各段ごとに順次排列した特殊なもの。石川雅望の『雅言集覽』に対して作ったもので、江戸時代の口語研究に重要とされている。◎増補 俚言集覽『明治三二―三三年』

理斎随筆 りさいずいひつ 六巻。◎志賀理斎(一七六二―一八四〇年)江戸後期の儒学者・狂歌作者。名は忍、別号は

天鷄山人・我楽多老人など。◎『筆のまにまに』、『筆随意』。◎文政六(一八二三年)序。◎天保四(一八三三年)年。④歴史上の人物の逸事、文学・風俗・医療など見聞したものを通俗的に書いたもの。◎『随筆大観』二、『昭和版 帝国文庫』『名家漫筆集』、『続帝国文庫』『名家漫筆集』、『日本随筆全集』二、『日本随筆大成』新版三期一(旧版三期一)

理趣経 りしゆききょう ↓大楽金剛不空真実三摩耶経

だいらくこんこうふくうしんじつさんまききょう

梨窓随筆 りそうずいひつ 二巻二冊。◎惠空(一六四三―九一年)江戸前期の天台宗の僧。◎天保二(一八四一年)年。

◎随筆。巻一は地獄目前にあり・瑞夢など一〇項、巻二は鬼門・蛇を夢む・琵琶法師など二〇項の全三〇項から成る。絵入り。◎哲学堂文庫。

六経 りつがい ④詩・書・礼・楽・易・春秋の六つの経書。

津書 りつしよ ④『史記』八書の一。↓史記。

律相感通伝 りつそうかんつうでん 一巻。◎道宣(五九六―一六七七年)唐初の僧。南山大師。◎感通伝』、『律感通伝』

『律宗感通伝』。◎唐の乾封二(六六七七年)。④律に関することなどを天人との問答体で記したものだ。ただし、律より寺誌に関する記述が多い。◎『大正新脩大藏経』四五(一八九八)

律歴史 りつれきし ④史志の一。一朝の楽律および曆法の因革を記したもの。『史記』の「律書」と「歴書」を『漢書』で合して『律歴史』としたのにはじまる。↓漢書。

竜威秘書 りゆういひしよ 一〇集。◎編・馬俊良(未詳)。④叢書の名。一七七種を収めている。

琉球記 りゅうきゅうき →琉球状 りゅうきゅうじょう

琉球状 りゅうきゅうじょう 一冊。◎屋代弘賢(一七五八―一八四一年)江戸後期の国学者。名は詮賢・弘賢、号は輪池。◎寛成九(二七九七年)。◎天保三(一八三二年)。④地誌。◎静嘉堂文庫。

琉球神道 りゅうきゅうしんとう →琉球神道記 りゅう

きゅうしんとうき

琉球神道記 りゅうきゅうしんとうき 五巻。⑤良定(一

五五二—一六三九年)安土桃山・江戸前期の浄土宗の僧。字は袋中、号は弁蓮社・入観。⑥慶長一三(一六〇八年)。⑦慶安元(一六四八年)。⑧巻四までは仏教に対する見方・考え方

およびその学殖を述べ、巻五で琉球滞在中に見聞した琉球神道について述べている。⑨『琉球神道記』(昭和九年)。⑩『琉球神道記』(昭和一三年・昭和一八年)

琉球談 りゅうきゅうばなし 一冊。⑪森島中良(一七五

六一—一八〇八年)江戸中・後期の蘭学者・戯作者。字は虞臣、号は桂林、戯号狂号は森羅万象など、森島中良は本姓、のち中原中良とも称す。⑫寛政二(一七九〇)年跋。⑬琉球島の風俗・物産などを詳記したもの。⑭哲学堂文庫。

劉向新序 りゅうきょうしんじょ→新序 しんじょ

竜宮船 りゅうぐうせん 四巻四冊。⑮張朱鱗(未詳)。⑯『近代奇事論竜宮船』。⑰宝暦四(一七五四年)年。⑱滑稽本。

⑲東北大学附属図書館狩野文庫。

隆興仏教編年通論 りゅうこうぶつきょうへんねんつうろん

隆興編年通論 りゅうこうへんねんつうろん 二八巻ある

いは二九巻。⑳祖瑒(未詳)。㉑『編年通論』、『隆興釈(仏)教編年通論』。㉒宋の隆興二(一一六四年)内後漢明帝の代に仏教が伝来してから、およそ九〇〇年間の中国における仏教上の事跡を編年的に記したもの。㉓『卍字統蔵経』二・乙・三・三一—四。

聊齋志異 りようさいしい 一六巻。㉔蒲松齡(一六四〇—

一七一五年)清朝初期の文人。㉕乾隆三二(一七六六年)内狐・幽霊・神仙・異人や動植物にまつわる話など、当時、民間に流传していた怪異妖変に関する物語を集めたもの。長・短編あわせて四三一編から成っている。なお、一九六二年に中華書局から出版された会校本は全一二巻で、四九一編を収めている。㉖『角川文庫』、『中国古典文学大系』。

柳斎筆記 りゅうさいひつき 二巻一冊。㉗和氣行蔵(未詳)。㉘文化二(一八〇五年)内随筆。㉙国立国会図書館。

竜舒浄土文 りゅうじよじょうどもん→竜舒増広浄土文 りゅうじよじょうどもん 二

巻。㉚王日休(未詳)。㉛『浄土文』、『竜舒浄土文』。㉜南宋の紹興三〇(一一六〇)年。㉝諸経論および諸人の伝記のうちから、浄土教に関する内容を抜粋したもの。㉞『大正新脩大蔵経』四七(一九七〇)

楞伽阿跋多羅宝経 りょうがあばたらほうきょう 四巻。

㉟求那跋陀羅(クナパドゥラ、三九四—四六八年)劉宋代の僧。㊱『楞伽経』、『楞伽阿跋経』。㊲四〇〇年ころ。㊳大乘経典。二無我(人無我・法無我)を説き、禪を愚夫所禪・觀察義禪・攀縁如禪・如来禪の四種類に分割して説いている。㊴

『大正新脩大蔵経』一六(六七〇)

楞伽経 りょうがきょう→楞伽阿跋多羅宝経 りょうがあばたらほうきょう

楞嚴經 りようごんきょう→大仏頂如来密因修証了義

諸菩薩万行首楞嚴經 だいぶつちようによらいみつちん
しゅうしやうりようぎしよぼさつまんぎやうしゆりようごん
きょう

梁書 りようしよ 五六卷。姚思廉よしれん(五五七―六三七年)初唐

の学者。本名は簡。④唐の貞観一〇(六三六)年。⑤正史の
一。南朝梁の武帝の天監元(五〇二)年から敬帝の太平二(五
五七)年までの、梁朝五六年間の記録で本紀六、列伝五〇か
ら成り、志表はない。

梁書四祖紀 りようしよしよそき 未詳。

遼東新報 りようとうしんぼう 日刊。満州、遼東新報社。

明治三八(一九〇五)年一〇月二五日創刊。昭和二(一九二七)

年一月、『満州日日新聞』(明治四〇年一月三日創刊)と合

併して『満州日報』と改題し、昭和一〇(一九三五年)八月、

『満州日日新聞』に復題した。④時事。満州最初の邦字紙。

令義解 りようのぎげ 一〇巻。⑤清原夏野はらの(七八二―八三

七年)平安前期の官僚/その他著。⑥天長一〇(八三三)年。

翌年施行。⑦養老令の公的注釈書。条文解釈の疑義に対し、

淳和天皇の勅をうけた清原夏野ら二二人が編纂し、施行後、

公権の規範力が付与された。⑧増補改訂『国史大系』。

兩部神道口決鈔 りようぶしんとうくけつしやう 六巻六

冊。⑨源慶安(一六四八―一七二九年)江戸中期の歌人。号

は任佗。⑩『改正兩部神道口決鈔』。⑪正徳六(七一六)年自

序。⑫享保四(一七一九)年。⑬江戸時代における兩部神道

書。空海が記したという『兩部神道二図』を、神仏習合の立場
から注釈したもの。⑭哲学堂文庫。

旅行用心集 りよこうようじんしゆう 一冊。⑮八隅景山やまきげざん

(未詳)江戸後期の医者。名は中立、別号は立翁・蘆庵。⑯
文化七(八一〇)年。⑰旅の心得とその注意や不事にあつた
ときの対応などを、絵入りで詳細に記したものの。⑱『生活の
古典双書』三、『日本衛生文庫』五。

呂氏春秋 りよししゆんじゆう 二六巻。⑲呂不韋ふゐ(?―前

二二五年)秦の丞相。⑳『呂覽』。㉑呂不韋が多くての賓客に命

じて、天地万物・古今のことを集録させたもの。先秦諸思想

を網羅している。㉒『国訳漢文大成』。

林子全書 りんしぜんしよ 未詳。

臨州県志 りんしゆうけんし 未詳。

麟書 りんしよ ⑳汪若海(未詳)宋の人。

霖宵茗談 りんしやうめいだん 二巻二冊。㉓竹田出雲たけでいずも(初

代、?―一七四七年)江戸中期の浄瑠璃作家・大坂竹本座の

座元。俳号は千前・奚疑。㉔『碯石ノ釈迦』から、刃鄙ノ貞

婦)まで、五四条の怪事・怪異を記したものの。㉕哲学堂文庫

(写本)

[る]

類聚国史 るいじゆうこくし 二〇〇巻・目錄二巻・帝王系

図三巻。㉖菅原道真(八四五一―九〇三年)平安前・中期の公

卿。㉗文化一三(一八一六)年。㉘六国史(日本書紀)、『続日

本紀、「日本後紀」、「続日本後紀」、「文徳実録」、「日本三代実録」の編年の記事を事項によって分類し、検索しやすくしたもの。㊟『尊経閣叢刊』巻一六五・一七一・一七七・一七九。㊞『新訂増補 国史大系』。

類聚名物考

るいじゆめいぶつこう 三四二巻・標題一八巻

目録一卷二五五冊。㊟山岡浚明(二七二六—一八〇年)江戸中期の国学者。号は梅橋散人・壺簪楼主人、剃髪して明阿、狂名は大蔵千文。㊞安永九(一七八〇)年。㊟天文・神祇・身体・政事・故事など三五部に類別し、和漢の事物の名義を説明したもの。㊟『類聚名物考』(明治三六—三八年)

類書纂要

るいしよさんよう ↓ 古今類書纂要 ここんる

いしよさんよう

(れ)

蠡海集

れいかいしゆう 一卷。㊟王達(未詳)明の人。㊟天文・地理・人身・庶物・曆数・氣候・鬼神・事義の八類に分けてそれらを論じたもの。㊟『哲学堂文庫』(正保二—一六四五)年、京都)

麗気記

れいきき 一八巻。㊟未詳。㊟『天地麗気記』。㊞鎌倉時代後期。㊞寛文二(一六七二)年。㊟古人に仮託して作られた両部神道書。伊勢内外宮の降臨より、鎮座およびその伝統について密教的説明を加えて、両部神道を組織的に述べたもの。㊟『麗気記』(昭和九年)。㊟『統群書類従』三上、「弘法大師全集」五。

麗気府録 れいきふろく 一冊。㊟未詳。㊟『天地麗気府録』。㊟神道。

靈憲

れいけん 一卷。㊟張衡(七八—一三九年)後漢代の学者・詩人。字は平子。㊟天文や地理に関する書。『後漢書』天文志、「芸文類聚」などに引用される。

靈験奇応記

れいげんきおうき 三巻三冊。㊟万歳楼袖彦(未詳)江戸後期の人。万歳楼袖彦は号、別号は茶吞斎/画・北川周月。㊟『奇応記』、「四国霊場奇応記」、「奇応丸」。㊞文政八(一八二五)年。㊟四国八十八カ所の札所にまつわる霊験談や奇話を聞きたずね、札所の順番に記したもの。㊟哲学堂文庫。

靈魂問答

れいこんもんとう 一冊。㊟寛基(一一三三—一二一七年)鎌倉前期の真言宗の僧。字は円性。㊞天和三(一六八三)年。㊟靈魂・成仏・引導などについて問答体で記した。㊟『哲学堂文庫』。

靈獸奇譚

れいじゆうきたん ㊟磯部武者五郎(未詳)、学友館、明治二六(一八九三)年、六六頁。

靈獸雜記

れいじゆうざつき 三巻三冊。㊟薦廼舎主人(未詳)。㊟和漢の諸書から狐に関する話を抜き出し、二八三項に分けて記したもの。㊟『医聖堂叢書』。㊟『未刊稀覯書叢刊』一輯(壬生書院、昭和十四年)

靈枢

れいすう ↓ 黄帝内经靈枢 こうていないけいれいすう

靈枢陰陽繫

れいすういんようけい 未詳。

靈枢經 れいすうきよう ↓ 黄帝内经靈枢 こうていない

けいれいすう

嶺南異物志 れいなんいぶつし 未詳。

嶺南溪洞 れいなんけいどう 未詳。

嶺南雜記 れいなんざつき 未詳。

嶺表録異 れいひょうろくい 三卷。㊦劉恂(未詳)。㊧嶺表録、

「嶺表記」、

「嶺表異録」、

「嶺表録異記」、

「嶺南録異」表録、

㊨図によって粵東(広東省)の物産・風土を述べたもの。

玲瓏隨筆 れいろうずいひつ 四卷四冊。㊩沢庵(一五七三

—一六四五年)江戸前期の臨濟宗の僧。法諱は宗彰。沢庵は

道号。㊪「沢庵和尚玲瓏隨筆」、

「沢庵雜録」。㊫安政六一八

五九年。㊬仏教・儒教および老荘の言をとり、人の利害得

失に切実な事柄について述べている。㊭「高僧名著全集一、

「校訂箋註禪門法語全集」七、「国文東方仏教叢書」一、「玲瓏

隨筆・不動智神妙録」上田屋書店、明治三三(一九〇〇)年、

一三八・一八頁。

曆講釈 れきこうしゃく 一冊。㊮未詳。㊯「日用重宝 曆

講釈」、「本朝年中行事」、「曆講釈年中行事」。㊰曆・年中行

事。㊱哲学堂文庫。

曆日診解 れきじつげんかい 一冊。㊲柳精子(未詳)。㊳

「立表測景曆日診解」、

「立表測景 曆日診解」。㊴寛政元

(一七八九)年。㊵曆。㊶哲学堂文庫。

曆日講釈 れきじつこうしゃく 一冊。㊷劉卜子(未詳)。㊸

「曆略註」。㊹文政一三(一八三〇)年。㊺占卜。㊻哲学堂文

庫。

歴朝法華持驗記 れきちょうほけじけんき 二卷。㊼周克

復(未詳)清代の僧。㊽「法華経持驗記」、「法華持驗記」。㊾順

治一六(一六五九)年。㊿およそ一三五〇年間における受持・

解説・読誦・書写・供養などの靈験を記録したもの。僧俗ま

じて二二四項から成っている。㊿「卍字統蔵経」二・乙・

七・五。㊽哲学堂文庫(三卷三冊、和刻本、天和三(一六八

三年)

列子 れつし 八卷。㊿列禦寇(未詳)中国戦国時代の人。禦

寇は名、列子と称される。㊿天瑞・黄帝・周穆王・仲尼・湯

問・力命・楊朱・説符の八編八卷から成る。『老子』の思想を

敷衍したもので、清虚無為といい、多く寓話をもってそれを

表現している。㊿「新釈漢文大系」二二。

列仙伝 れつせんでん 二卷。㊿劉向(前七七(七九)前

六(八)前漢末の思想家。字は子政。㊿未詳。㊿古来の仙人

七〇人(または七三〇)の伝記を集めたもの。㊿「漢魏叢書」、

「全釈漢文大系」三三。㊿「中国古典文学大系」八。

簾中抄 れんちゆうしやう 二卷二冊。㊿藤原資隆(未詳)。

㊿「雲上聞録」。㊿嘉応元(一一六九—七二)年の間。

㊿事典。宮廷中心の年中行事、天皇や官人などの人名・職

名、有職故実・歴史・文芸などを記したものの。㊿「古辞書叢

刊」。㊿「改定 史籍集覽」二二。

蓮如上人御文 れんにょしようにんおふみ 五帖八〇通。

㊿蓮如(一四一五—九九九)室町・戦国時代の浄土真宗の僧。

本願寺八世。諱は兼寿、号は信証院。㉑「御文」、㉒「御文章」。㉓天文六(一五三七)年。㉔真宗の要義をだれにでもわかるよう平易に明快に説いたもの。「五帖御文」あるいは「帖内御文」というのは、寛正二(一四六一)―九八(一四九八)年にかけて、蓮如が門徒に書き与えた書簡形式の法語二五二通(現存のうち、文明三(一四七二)年から明応七年、すなわち蓮如五七歳から八四歳にかけての五八通と、年代不明の二二通の計八〇通を五帖に編集したものである。編者は九世実如(一四五八―一五二五年)といわれる。この「五帖御文」のほかに「夏御文」四通、「御俗姓御文」があり、これらを「帖外御文」という。㉕「大正新脩大藏經」八三(二六六八)、「蓮如上人御文全集」、「蓮如上人遺文」。

(ろ)

聾啞統計誌 ろうあとうけいし 未詳。
老嫗茶話 ろうおうちやわ 二〇巻二〇冊。著松風庵寒流(未詳)。㉖寛保二(一七四二)年。㉗雜記。㉘「統帝国文庫」
「近世奇談全集」。
撈海一得 ろうかいいつとく→漫画随筆 まんかくずい
ひつ
弄花抄 ろうかしよう 未詳。
瑯嬛記 ろうかんき→瑯嬛記 ろうけんき
瑯嬛記 ろうけんき 三巻。著伊士珍(未詳)。㉙根拠のない話が多いという。

老子 ろうし ㉚老子(未詳)春秋戦国時代の哲学者。名は耳、字は伯陽、諡は聃。㉛「老子道德経」、「道德経」。㉜前二〇年ころ。㉝上下二編五〇〇余字、八一章から成る。無為自然、虚無の常道などを説く。㉞「新釈漢文大系」七、「全釈漢文大系」一五。

老子経 ろうしきょう→老子 ろうし
老子述義 ろうしじゆつぎ 未詳。

六齋精進功德経記 ろくさいしやうじんくどくきやうき
二巻二冊。著道恵(未詳)。㉟「六齋精進経説」、「仏説六齋精進功德経記」。㊱延宝九(一六八二)年序。㊲哲学堂文庫。

狼彙録 ろうちろく 著三宅尚斎(一六六一―一七四二年)江戸中期の儒学者。名は重固、字は実操、別号は高尚・天山。㊳宝永六(一七〇九)年自序。㊴「祭祀卜筮詳説・占法・理気説・天命説など」理義を論じたもの。㊵「道学協会雑誌」。版
本は「甘雨亭叢書」三。

録内啓蒙 ろくないけいもう 三六巻三六冊。著日講(一六二六―一七八年)江戸前期の日蓮宗の僧。不受不施講門派の派祖。㊶「祖書録内啓蒙」。㊷元禄八(一六九五)年。㊸元禄一五(一七〇二)年。㊹日蓮遺文の録内御書一四五抄について注釈したもの。㊺「日蓮宗全書」。

魯語 ろご ㊻「国語」の編名。→国語。
六橋紀聞 ろつきやうきぶん→六橋紀聞 りくきやうき
ぶん

論語 ろんご 一〇巻。著孔子(前五五二―前四七九年)春秋

時代の人、儒教の祖師。姓は孔、名は丘、字は仲尼。○前四五〇年ころ。○孔子や孔子の門弟の言行を記した。○二〇編から成り、孔子の言行・人格を知る基本的文献。孔子の直弟子たちの記録にもとづき、孫弟子たちが編纂したものと考えられる。○『新釈漢文大系』一、『全釈漢文大系』一。

論衡 ろんこう 三〇巻。○王充(二七—一〇一?)年。後漢の思想家。○原本は八五編あつたが、今は第四四招致編を欠き八四編。衡は物の軽重をはかる器のことで、事物の軽重すなわち、あらゆる思想・学説の是非を論じたもの。項目に逢遇・累害・骨相・怪奇・語増・儒増・問孔・刺孟・論死・死偽・紀妖・訂鬼・卜筮・祭意などがあり、当時の社会の俗なものや迷信などの不合理なものに対する批判精神に貫かれている。○『百子全書』、『漢魏叢書』、『四部叢刊』、『新釈漢文大系』六八—六九・九四。

論語徴 ろんごちやう 一〇巻一〇冊。○荻生徂徠(一六六六—一七二八年)江戸中期の儒学者。名は双松、字は茂卿、徂徠は号、別号は護園、本姓の物部氏をとって物徂徠・物茂卿とも称す。○『版元文二』(一七三七年)。○『論語』の解釈書。

○『日本名家四書註釈全書』論語部五。

論理学 ろんりがく ○塚原政次(一八七二—一九四六年)児童心理学者。東京、哲学館、二六二頁(哲学館第一三学年度高等学科講義録)

〔わ〕

和漢印尽 わかんいんづくし 三巻三冊。○未詳。○『群印宝鑑』。○『版元』(一六五九)年序。○印章。○国立国会図書館蔵。

和漢怪談評林 わかんかいだんひょうりん 一冊。○萩原勝繁(未詳)。○怪異。「百物語乃由来」、「雪女と云事」、「張叔高木魂之事」、「狄仁傑雷をたすくる事」、「結紛天女に逢事」、「宋処宗鶴詞通ケ事」、「魏元忠家妖怪怪有事」の七条から成る。他に「二十四孝評判」と「神道評判」が合綴されている。○『哲学堂文庫(写本)』

和漢合璧夜話 わかんがっぺきやわ 四冊。○上野徳昌(未詳)。○『古今和漢合璧夜話』。○宝暦九(一七五九)年。○和漢の類似の話を、和漢の順に交互に三六話載せたもの。○『哲学堂文庫(四巻二冊)』

和漢故事文選 わかんこじもんぜん 八巻八冊。○編・部遊燕(未詳)江戸中期の人。○『和漢群玉故事』、『和漢故事』、『和漢 故事文選』。○正徳五(一七一五)年。○和漢の故事を編集したもの。○『哲学堂文庫(八巻七冊)』

和漢事始 わかんことはじめ 一三巻六冊。○貝原好古(一六六四—一七〇〇年)江戸前期の儒学者。字は敏夫、号は耻軒、好古は名、「よしひさ」とも読む。○『倭漢事始』。○『版元』(一六九七)年序。○事典。『中華事始』と『大和事始』とをあわせて一部としたもの。天・地・人・動植物に分けて、

事物の起源を平易に説いたもの。⑤『益軒全集』一。

和漢雑笈或門 わかんざつきゅうわくもん→和漢珍書考

わかんちんしよこう

和漢三才図会 わかんさんさいぜえ 一〇五巻・首一卷・

目一卷八一冊。⑥寺島良安〔未詳〕江戸中期の医者。字は尚

順、号は杏林堂。⑦『和漢三才図会略』、『和漢三才図絵』、

『倭漢三才図会』。⑧正徳二(一七一二年)年自序・同五年跋。⑨

文政七(一八二四年)年。⑩明の『三才図会』にならったもので、

和漢にわたる図解百科事典。天部・人部・地部の大分類のも

と一〇五部門に分けて、各項に図解・漢名・和名・唐音など

をあげ、諸書の説を引いて簡潔な説明をしている。⑪『和漢

三才図会』(明治三九、昭和四、同四五年)、『倭漢三才図会

(一一一六、昭和五四―五五年)』。⑫『倭漢三才図会』(明治一

七―二二、同三五年)、『日本庶民生活史料集成』二八―二九。

⑬『東洋文庫』。

和漢太平広記 わかんたいへいこうき 三巻三冊。⑭藤井

懶斎(一六二六―一七〇七年)江戸前期の儒学者・医者。名は

臧。⑮『閑際筆記』和漢太平広記。⑯天明三(一七八三年)

序。⑰『閑際筆記』の改題本。→閑際筆記。

和漢珍書考 わかんちんしよこう 一冊。⑱鶴飼石斎(一六

一五―一六四年)江戸前期の儒学者。名は信之・信興、字は子

直、別号は心耕斎。⑲『水戸史館珍書考』、『和漢雑笈或問』、

『和漢珍書考或問』、『珍書考』。⑳元禄自序。㉑和漢書史上の

事実を問答し、その根拠をあげて説明したもの。全七九項か

ら成る。⑳『文豹一斑』(明治二五年)

和漢年代記集成 わかんねんだいきしゅうせい→掌中和

漢年代記集成 しょうちゅうわかんねんだいきしゅうせい

和漢名数 わかんめいすう 一冊。㉒貝原益軒(一六三〇―

一七一四年)江戸前期の儒学者・本草家・教育思想家。名は

篤信、字は子誠、別号は損軒。㉓『延宝六(一六七〇)年。⑳

数詞語彙集。天文から弘家まで一五項に分類し、各項に数

の和漢の単語を配して、簡単に注記し、または自説を述べ

ている。㉔『益軒全集』二。

和漢洋開化年代記 わかんようかいかねんだいき 未詳。

和漢曆原考 わかんれきげんこう 一冊。㉕石井光致未

詳。㉖文政二(一八二九)年自序。㉗同一年。㉘和漢の

曆原を考究したもの。㉙『哲学草文庫』。

篋纏輪 わくかせわ 三冊。㉚編・千梅(一七六九年)江

戸中期の俳人。姓名は田中知義、別号は亜靖・白翁など。㉛

『宝暦三(一七五三年)』。㉜従来おこなわれてきた季寄の類中

の、難解の季題五〇〇余項を四季月順にあげて考証・解説し

たもの。㉝『親和女子大学研究論叢』八一―一三(昭和五〇年六

月―昭和五五年二月)

篋絨輪 わくじゅうわ→篋纏輪 わくかせわ

或問止啼銭 わくもんししていせん→法界或問止啼銭

ほっかいわくもんししていせん

或問珍 わくもんちん→秉燭或問珍 へいしよくわくも

んちん

和訓栞 わくんのしおり 前編四五卷三四冊・中編三〇卷三

〇冊・後編一八卷一八冊。㊦谷川士清(一七〇九—一七六六)江

戸中期の国学者。名は昇、字は公介、号は淡齋、医名は養順

など。㊧倭訓栞。㊨前編卷一—卷一三安永六(一七七七)

年、卷一四—卷二八文化二(一八〇五)年、卷二九—卷四五文

政一三(一八三〇)年、中編文久二(一八六二)年。㊩辞書。雅

語・俗語を五十音順にかかげ、簡単な説明をしたもの。㊪

『増補語林 倭訓栞』前・中編 明治三二年、『和訓栞』明

治三二年)

和語連珠集 わこれんじゆしゆう 五卷五冊。㊫静栄(未詳)

江戸前期の人。別号は拳扇堂。㊬和語連珠。㊭宝永元

(一七〇四)年。㊮『統日本紀』五雜組『淮南子』『說苑』など多

くの書物から、勸善懲惡や滑稽な話などを二五八話ほど拾い

集めたもの。㊯哲学堂文庫。

和爾雅 わじが 八卷九冊。㊰貝原好古(一六六四—一七〇

〇年)江戸前期の儒学者。字は敏夫、号は耻軒、好古は名、

「よしひさ」とも読む。㊱元禄元(一六八八)年。㊲元禄七(一

六九四)年。㊳中国の『爾雅』にもとづいて、「天文」から「言

語」まで二四門に分け、和漢の群書によつて事物の名義・性

質を考証している。㊴『益軒全集』七。

和州旧跡幽考 わしゆうききゆうせきゆうこう ↓ 大和名所

記 やまとめいしよき

和俗童子訓 わぞくどうじくん 五卷五冊。㊵貝原益軒(一

六三〇—一七一四年)江戸前期の儒学者・本草家・教育思想

家。名は篤信、字は子誠、別号は損軒。㊶『童子訓』。㊷宝

永七(一七一〇)年。㊸教育の必要と方法を述べたもので、総

論上下・年に随う教法・読書法・手習法・女子を教える法か

ら成る。教育思想を体系的に論述している。㊹『益軒全集』

三、『教の園』上、『日本教育文庫』字校篇、『有朋堂文庫』益

軒十訓、『童子訓』(明治二六年)

倭名抄 わみようしゆう ↓ 和名類聚抄 わみようるいじ

ゆしゆう

和名抄 わみようしゆう ↓ 和名類聚抄 わみようるいじ

ゆしゆう

和名類聚抄 わみようるいじゆしゆう 一〇卷または二〇

卷。㊺源順(九一一—九八三年)平安中期の官人・学

者・歌人。㊻『倭名類聚抄』、『和名抄』、『順和名』。㊼承平五

(九三五)年以前。㊽享和元(一八〇一)年。㊾日本初の分類体

百科辞典。漢語の名詞を意味によつて分類配列して、その意

味を漢文で示し、典拠を注して、さらに漢字の発音を示し、

その和名・和訓を万葉仮名で表記している。㊿『古典保存会

二期(真福寺本)、『天理図書館善本叢書』(高山寺本)、『日本

古典全集』(古活字本)、『諸本集成倭名類聚抄』(本文篇・索引

篇)